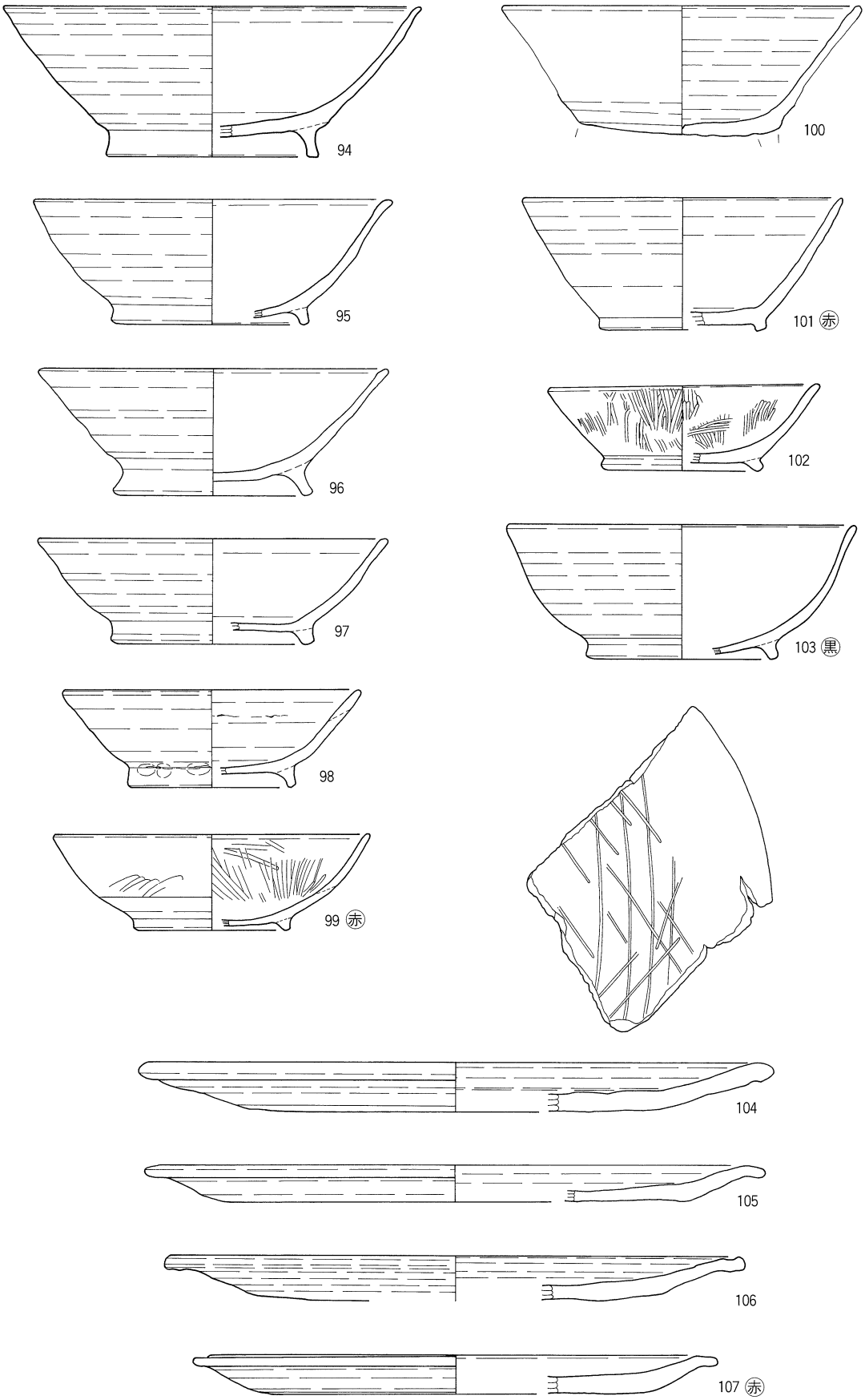
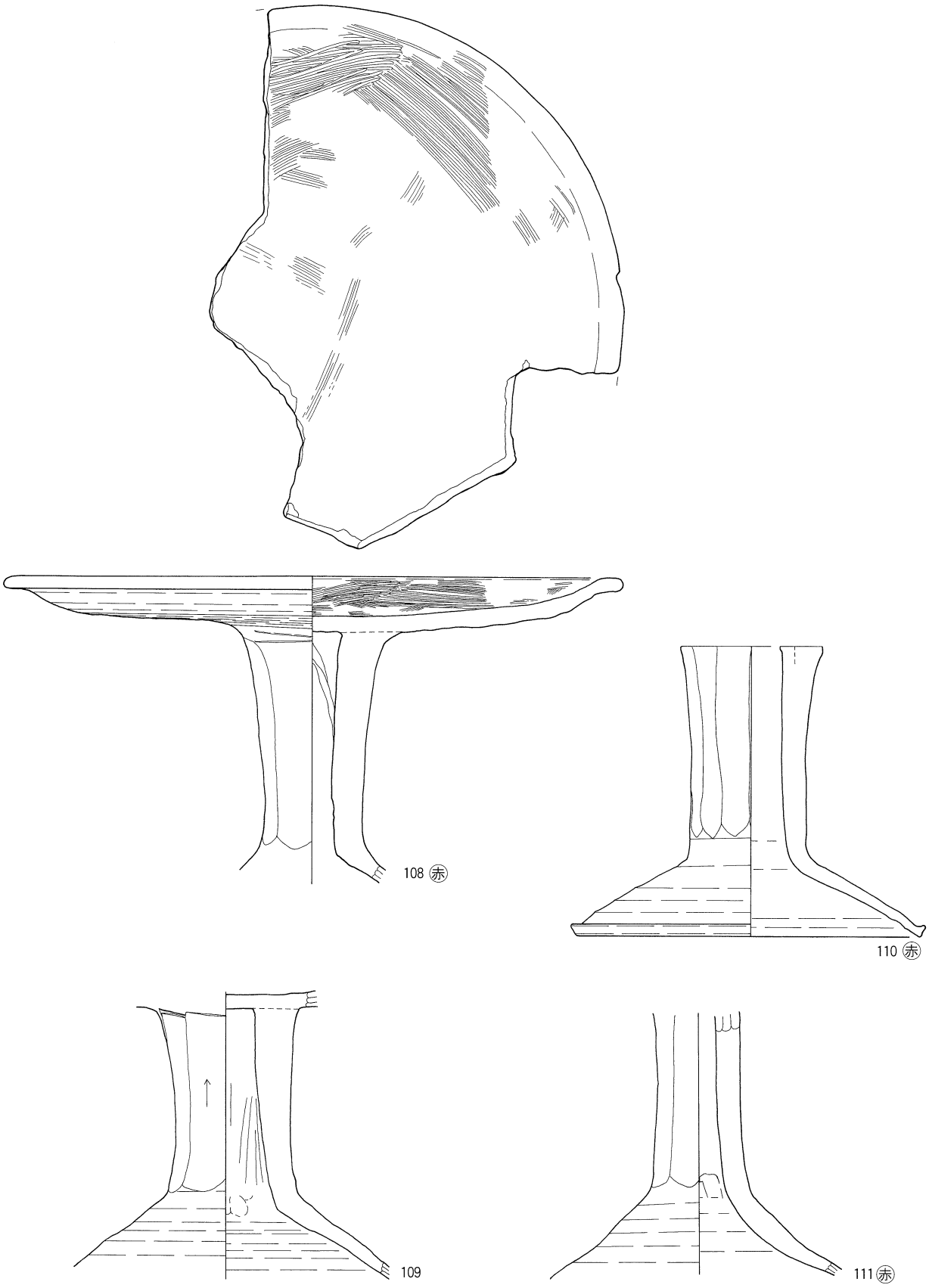
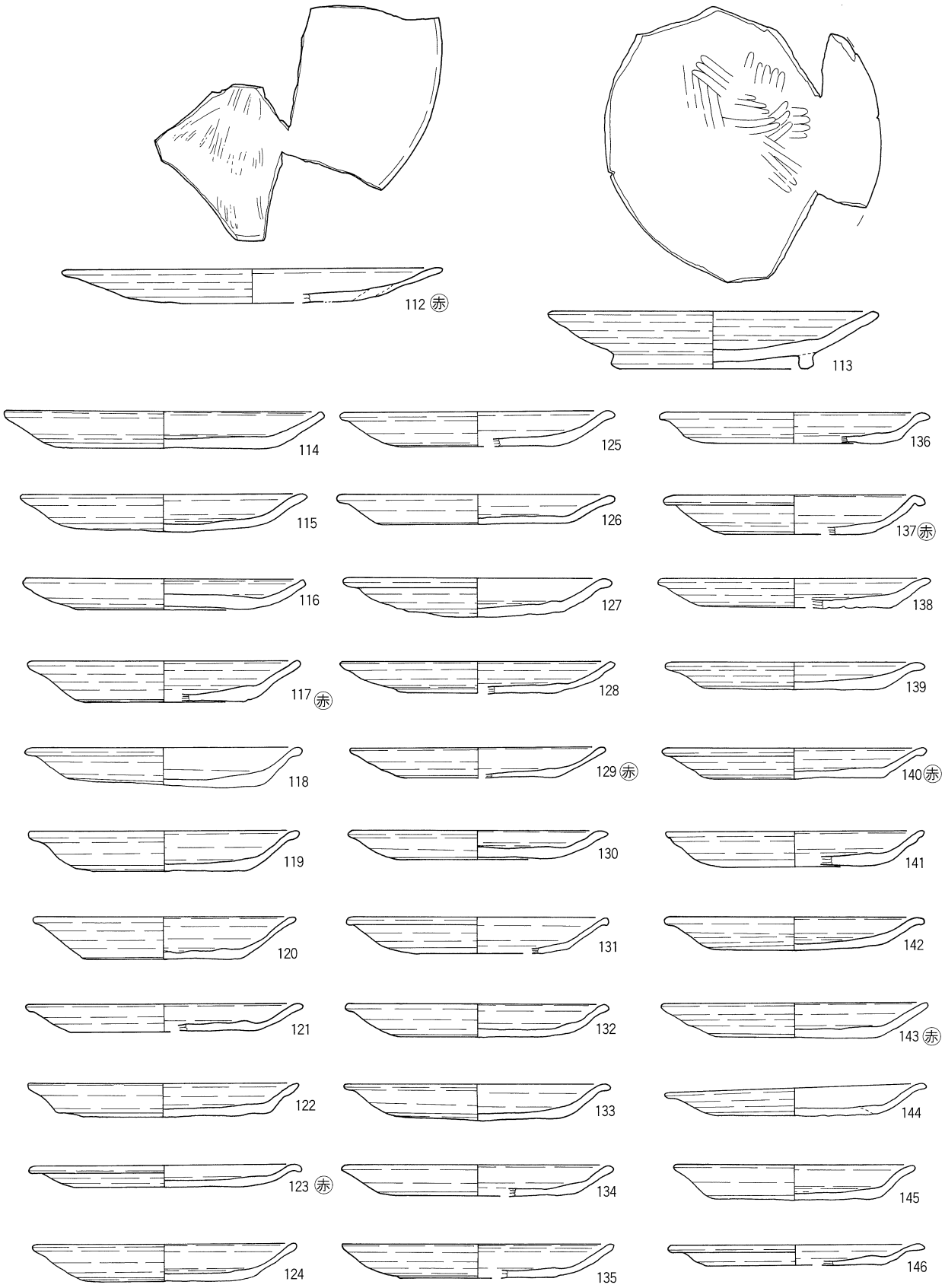


第863図　SD3029 出土遺物（8）

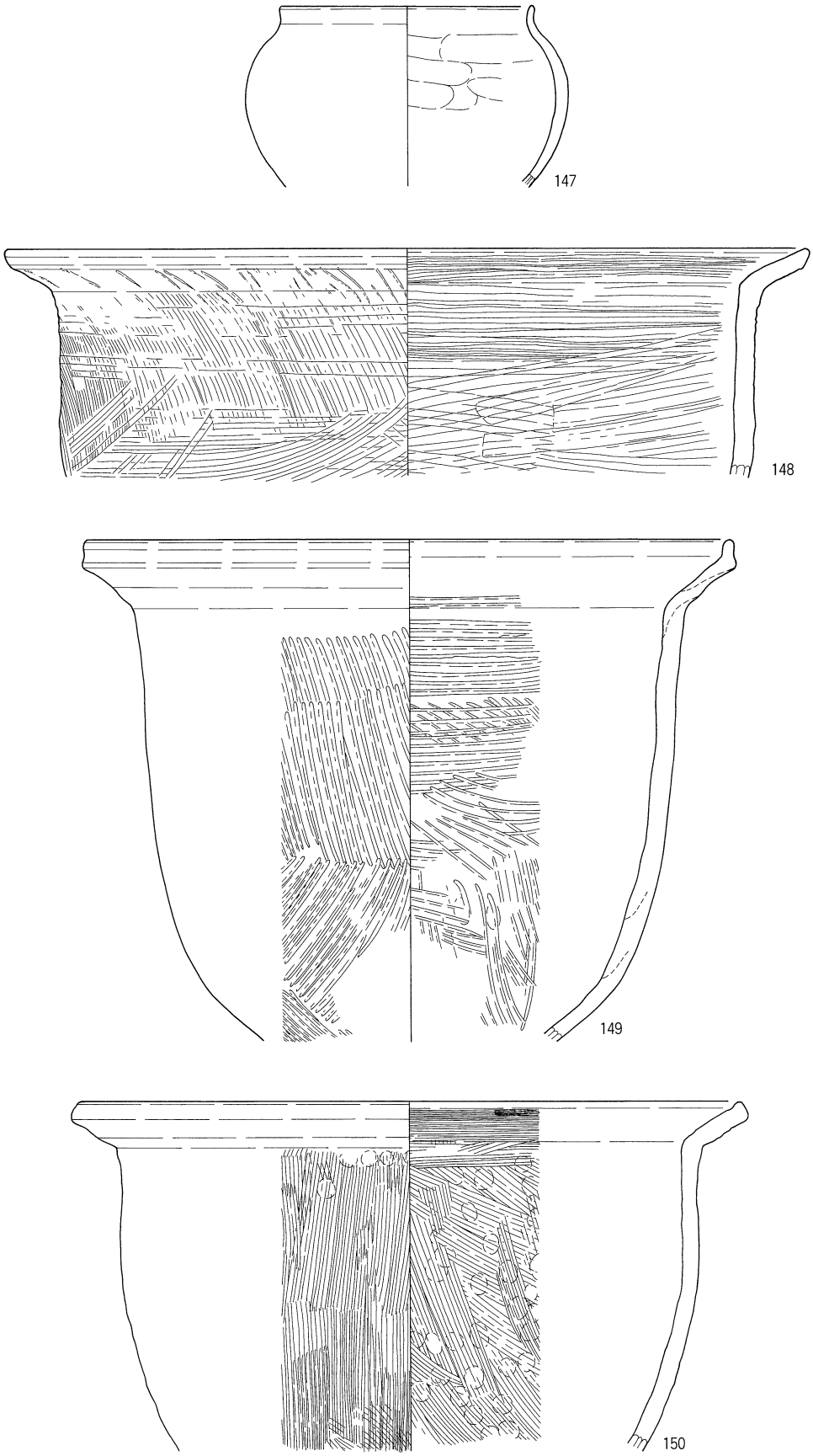
0　10cm



第864図　SD3029 出土遺物（9）

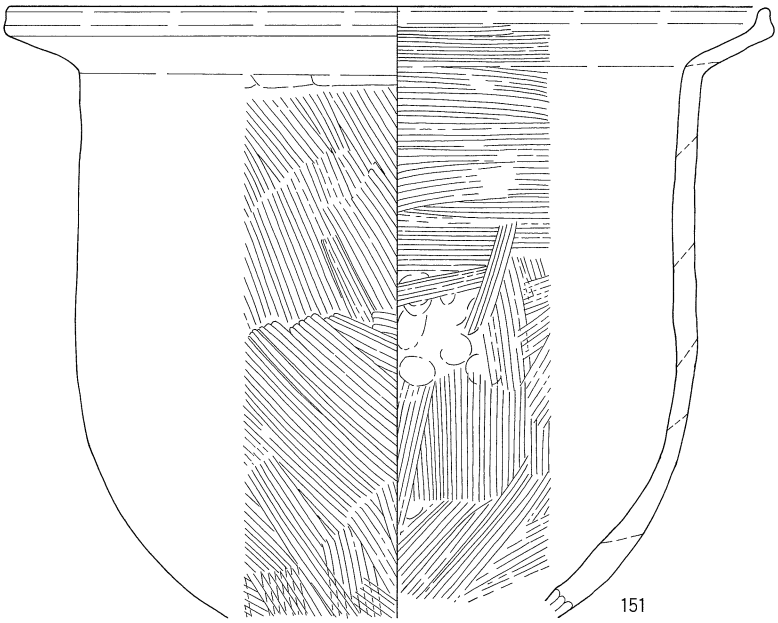


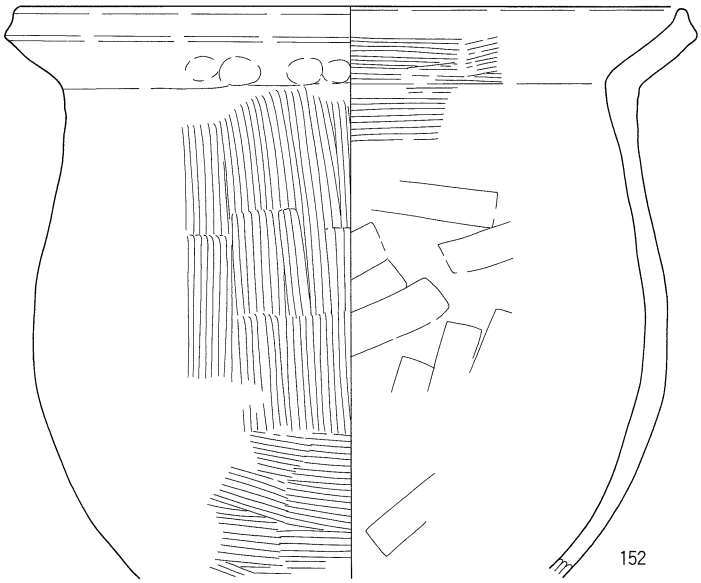
第865図　SD3029 出土遺物（10）

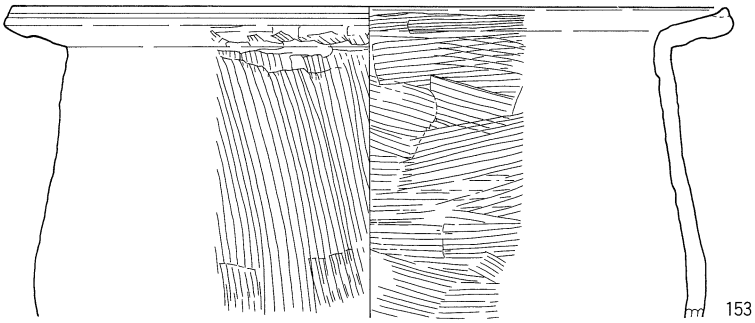


第866図　SD3029 出土遺物（11）

0　10cm

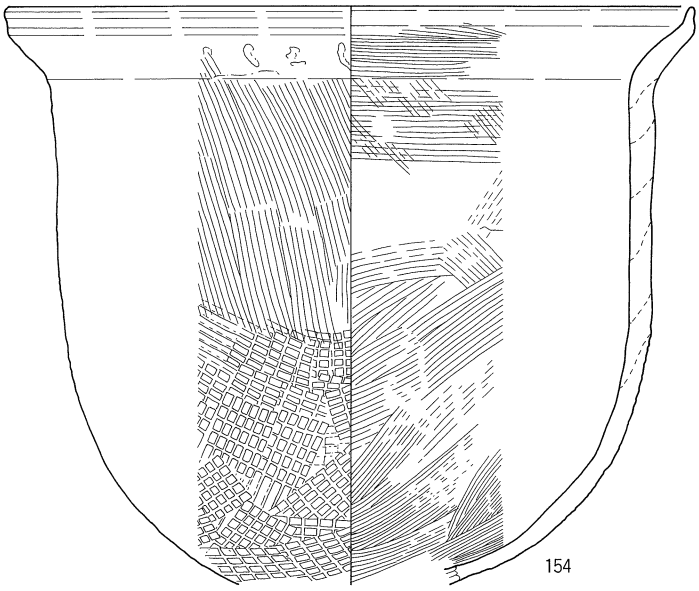


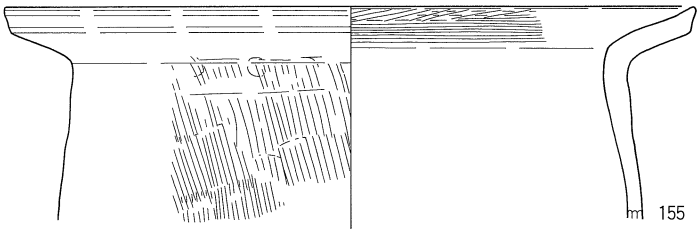


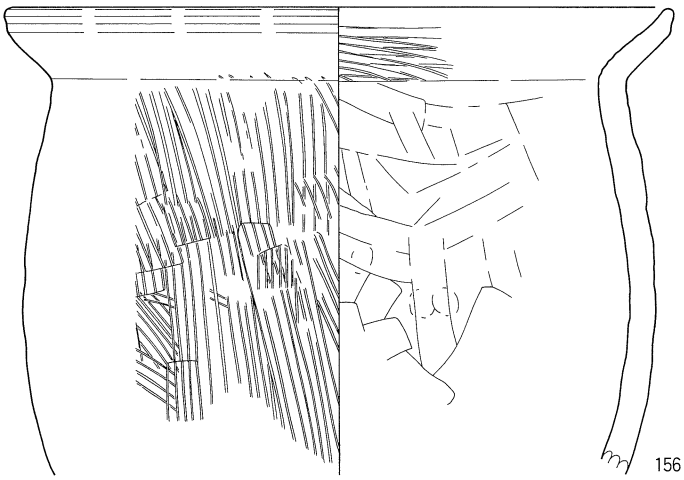


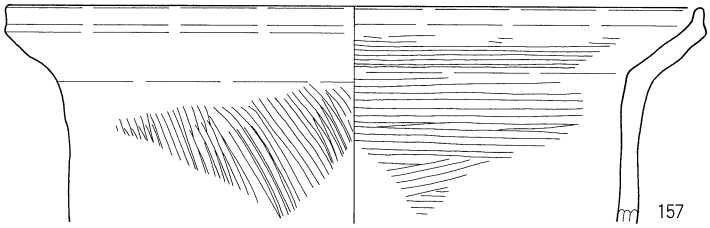
0　10cm

第867図　SD3029 出土遺物（12）

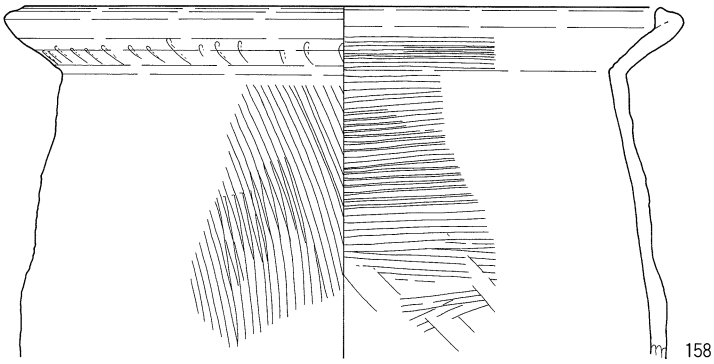


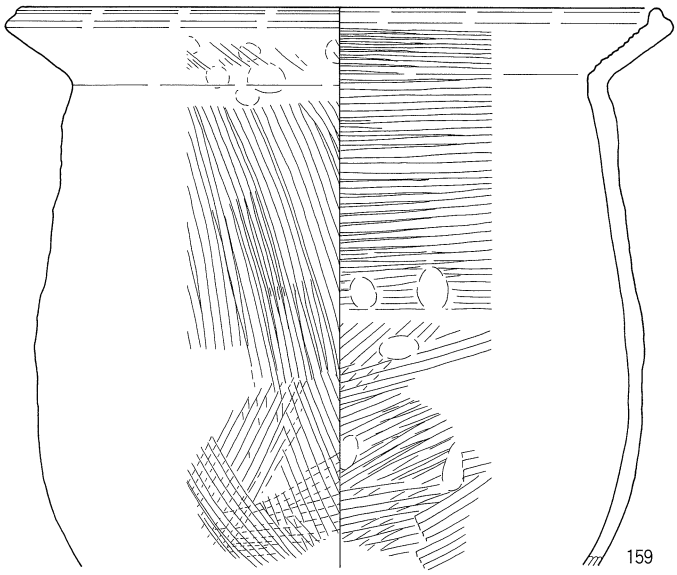


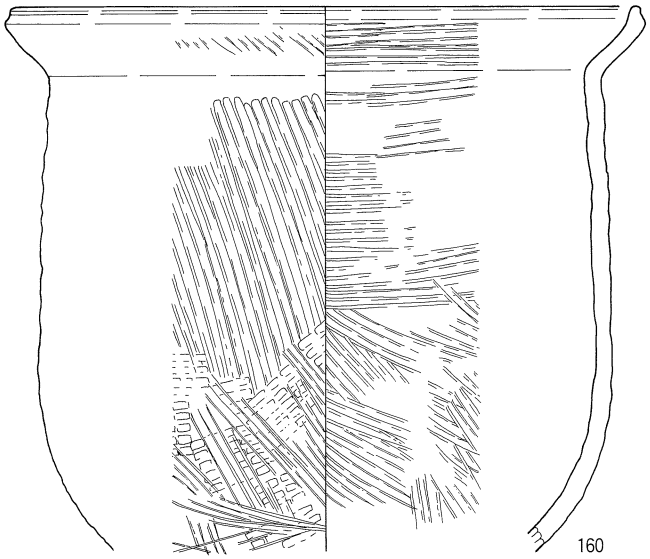


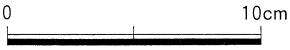


第868図　SD3029 出土遺物（13）

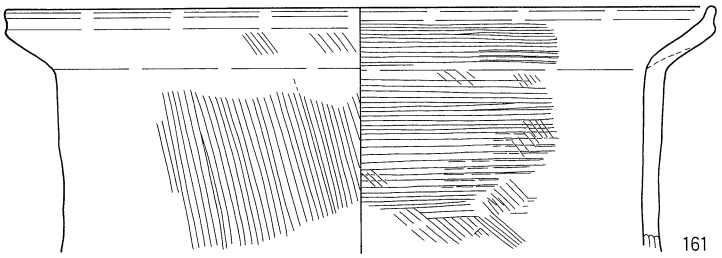


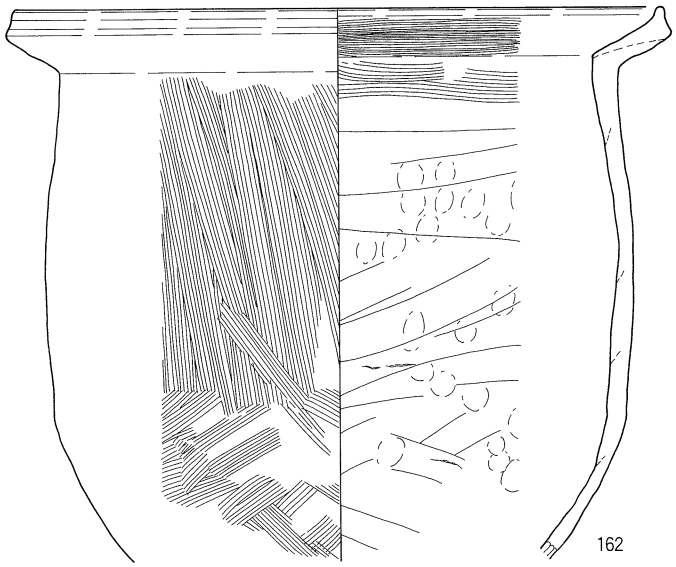


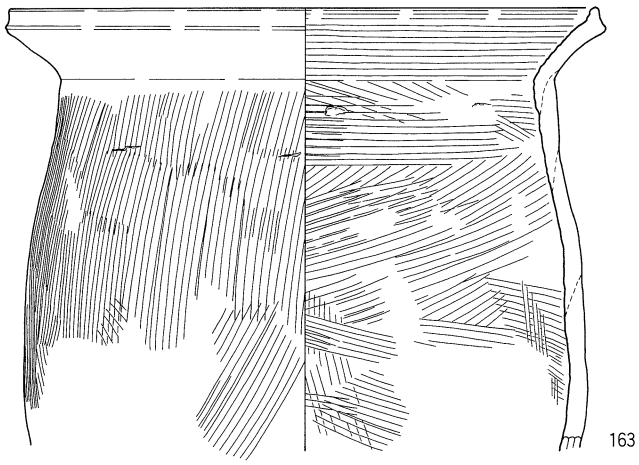


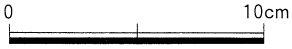


第869図　SD3029 出土遺物（14）

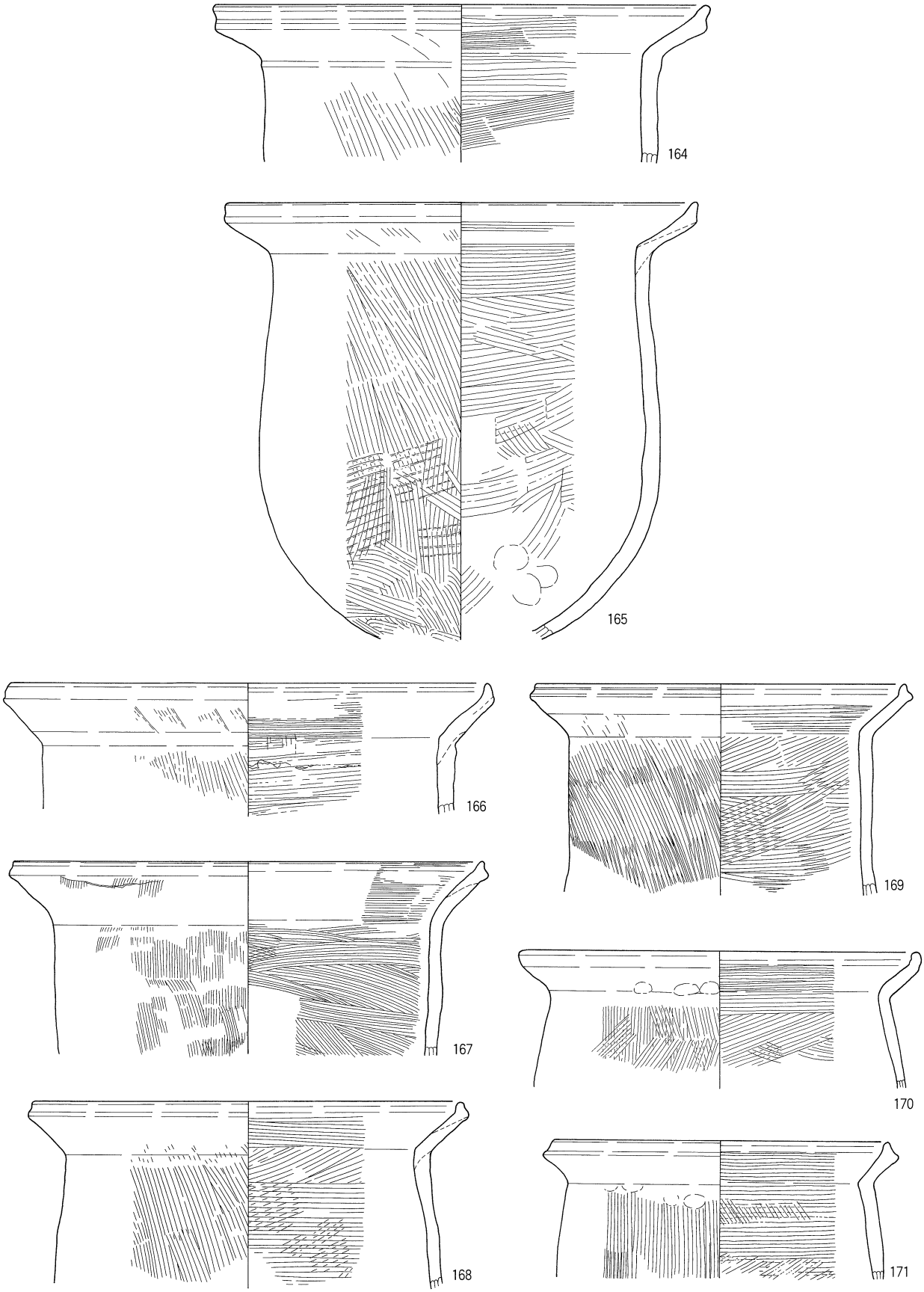






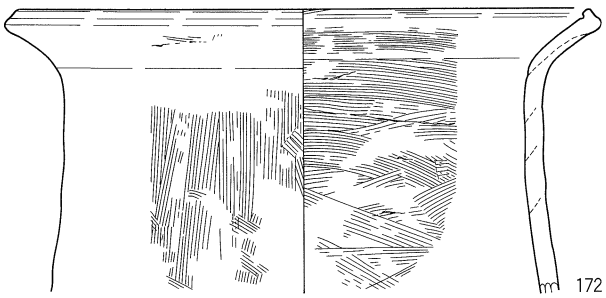


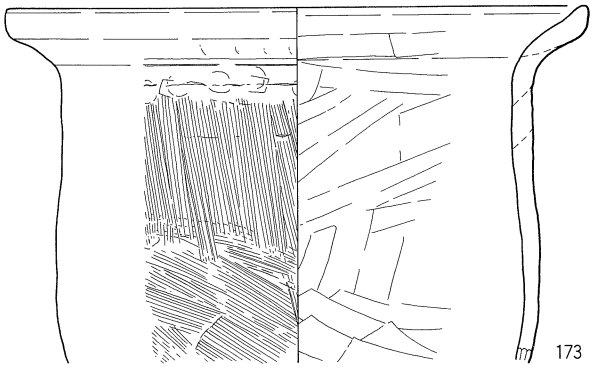
第870図　SD3029 出土遺物（15）

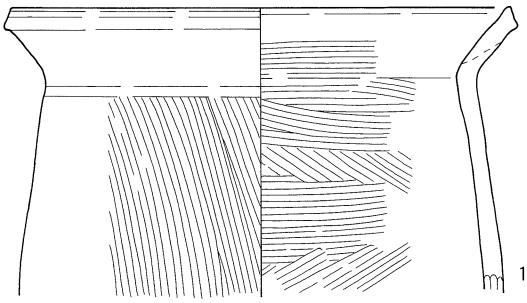


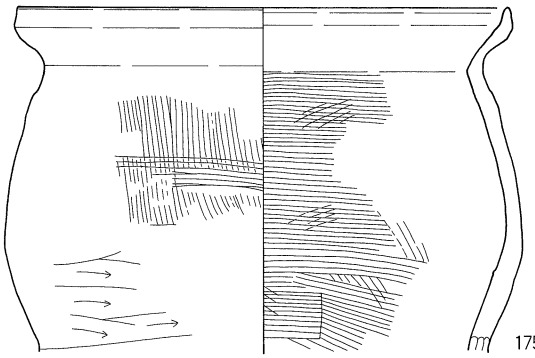
第871図　SD3029 出土遺物（16）

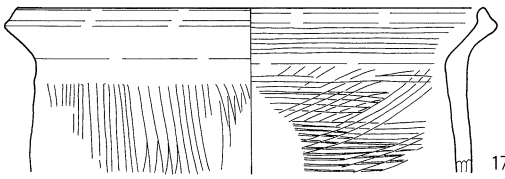
0　10cm

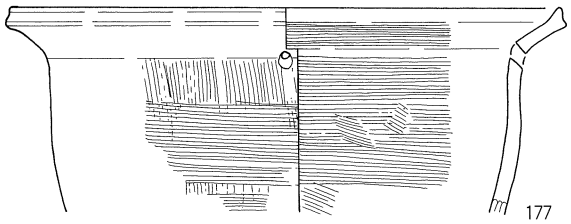


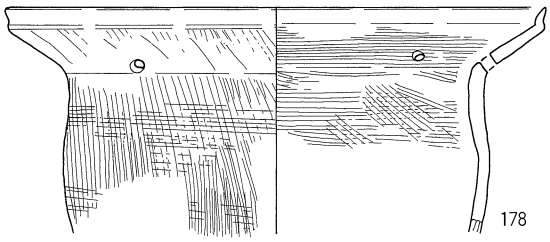


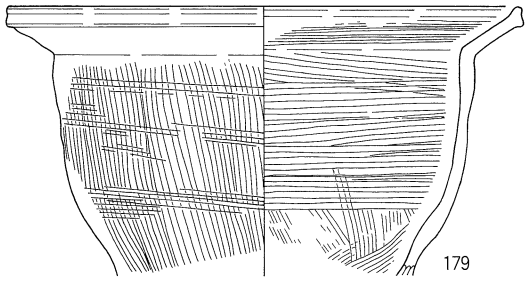


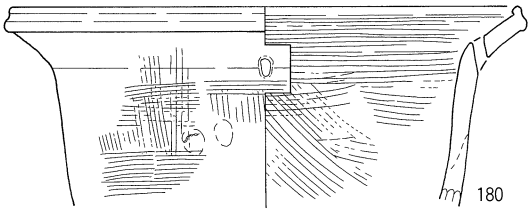


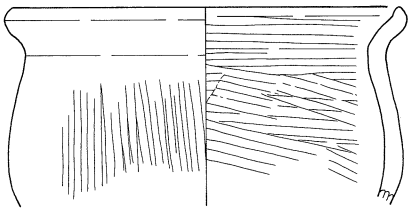


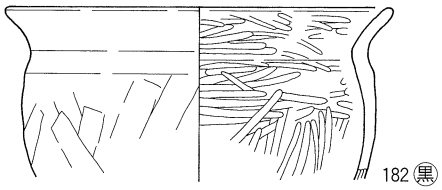




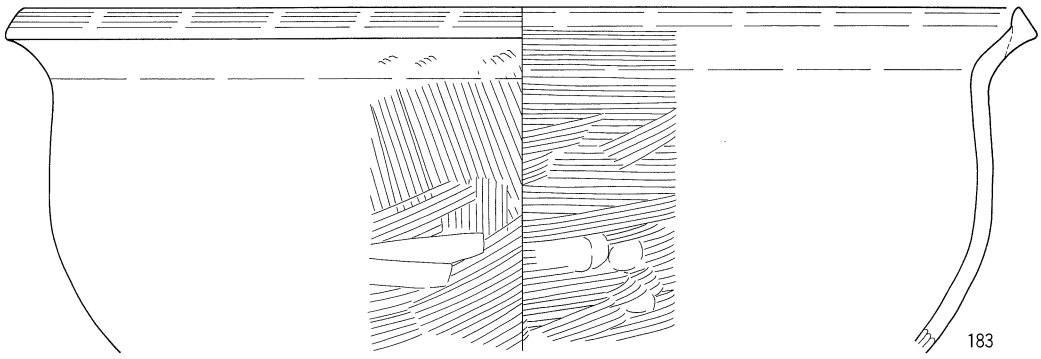


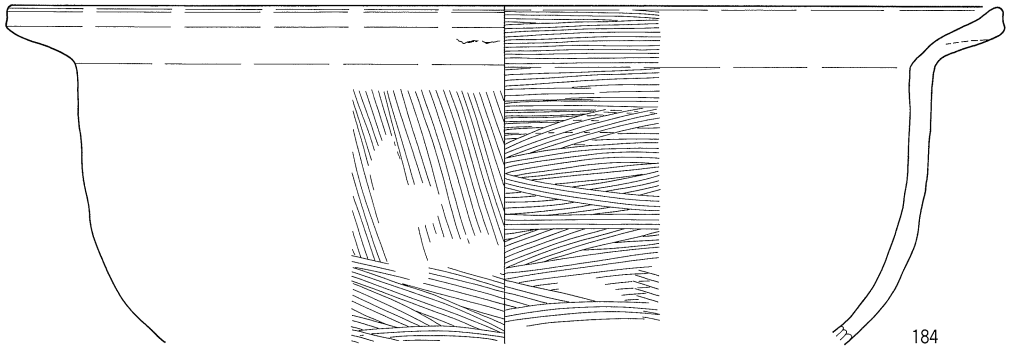


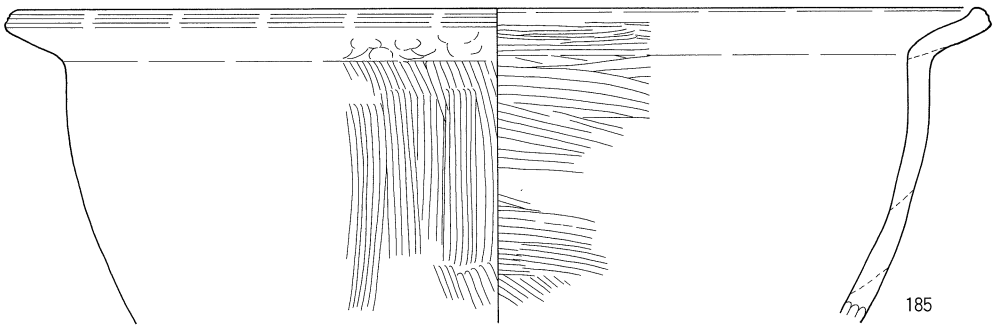


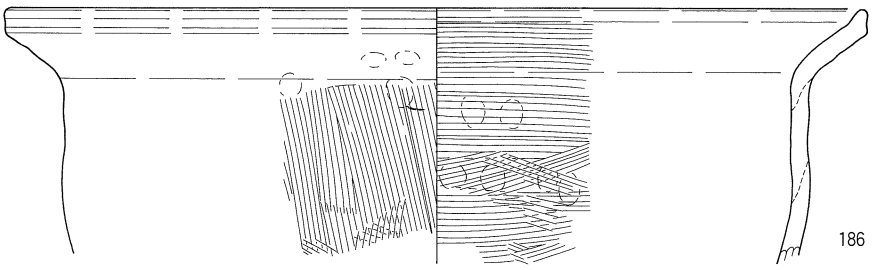


第872図　SD3029 出土遺物（17）

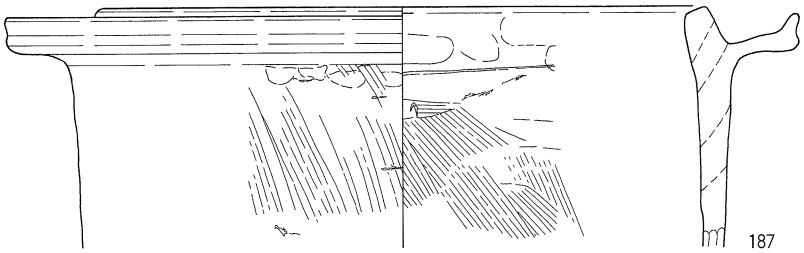


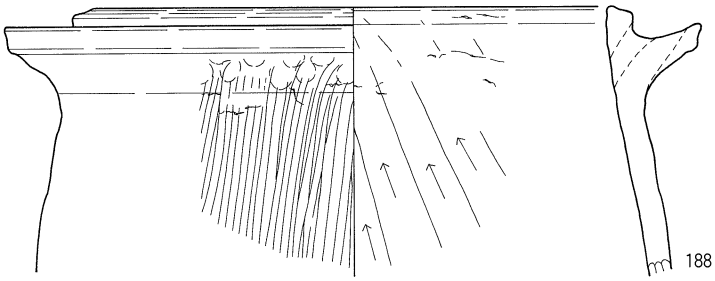


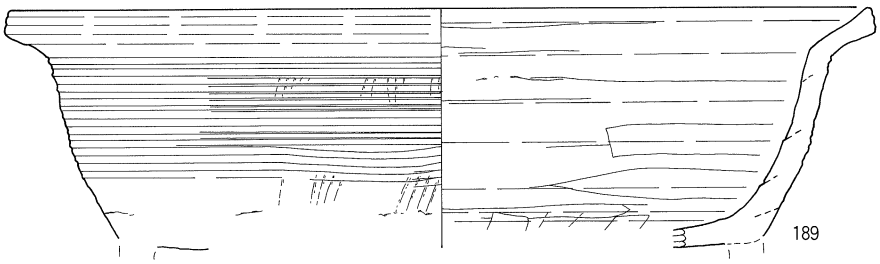


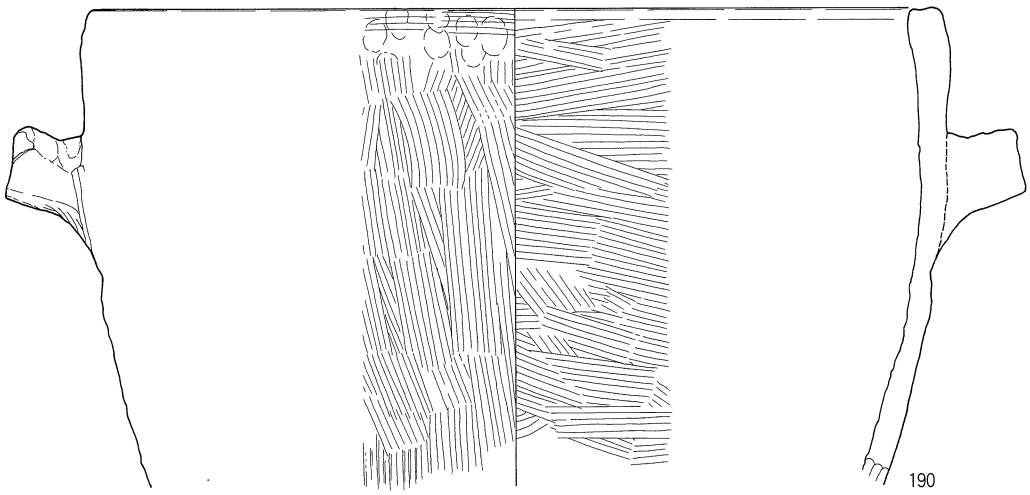


第873図　SD3029 出土遺物（18）

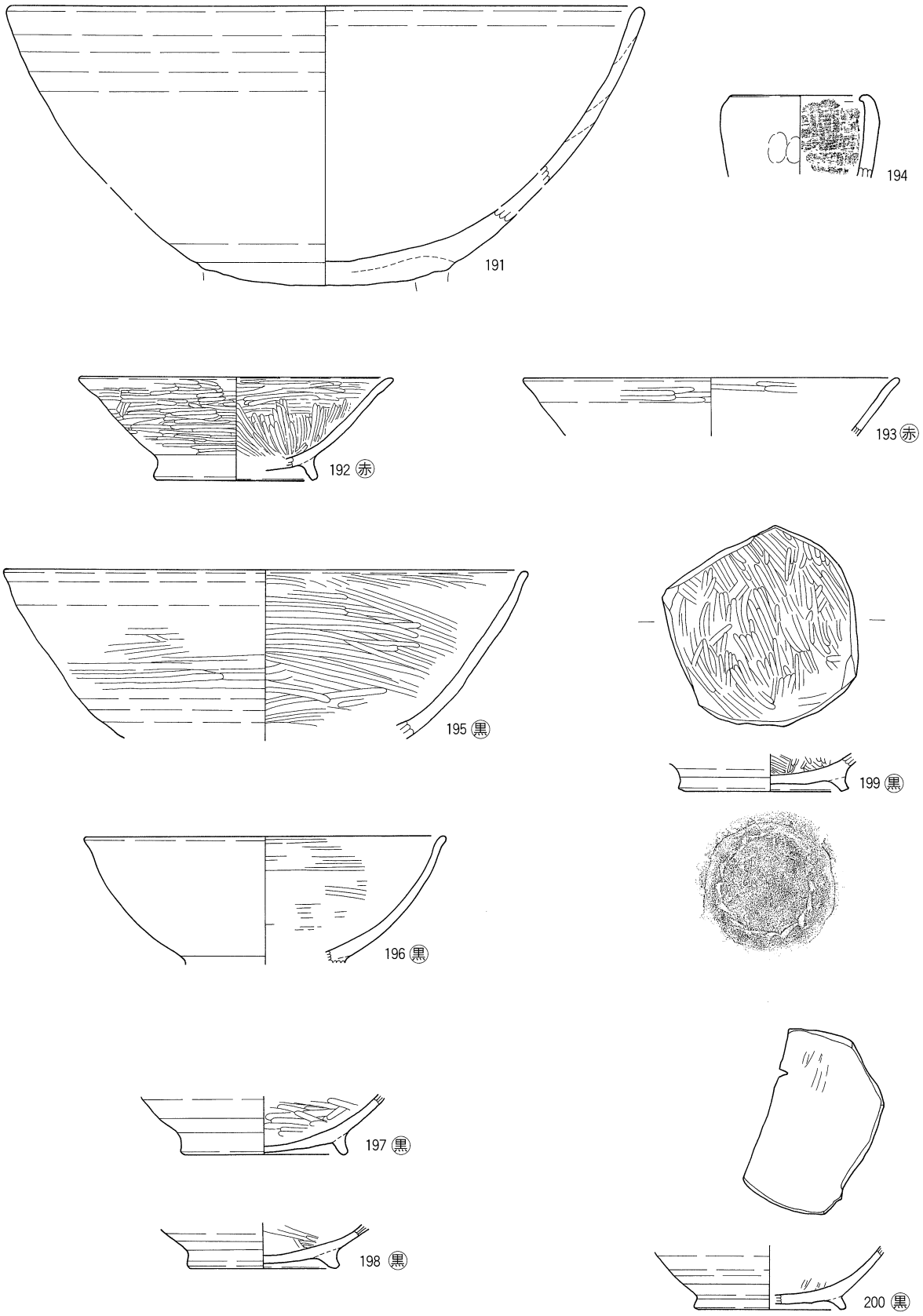




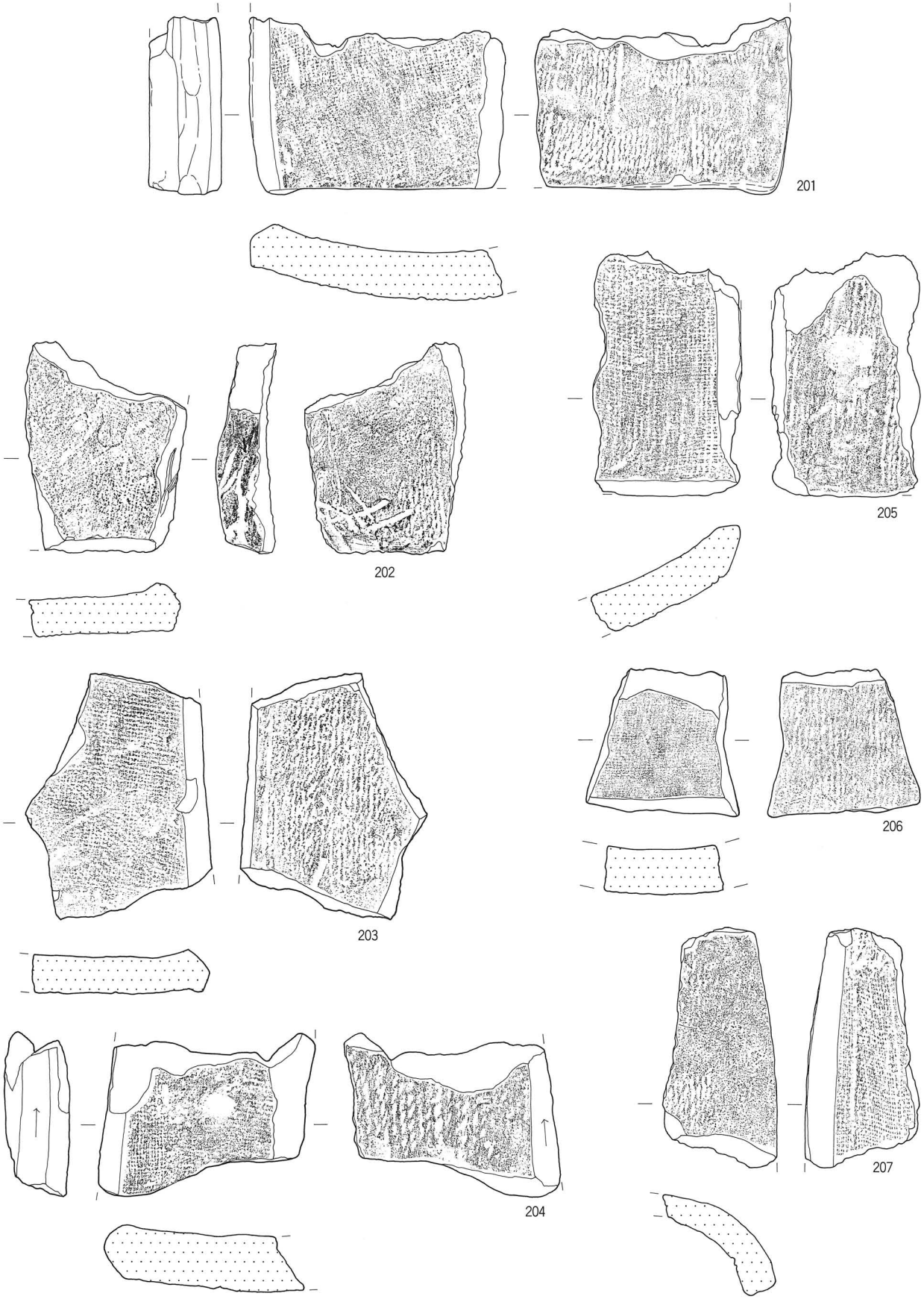




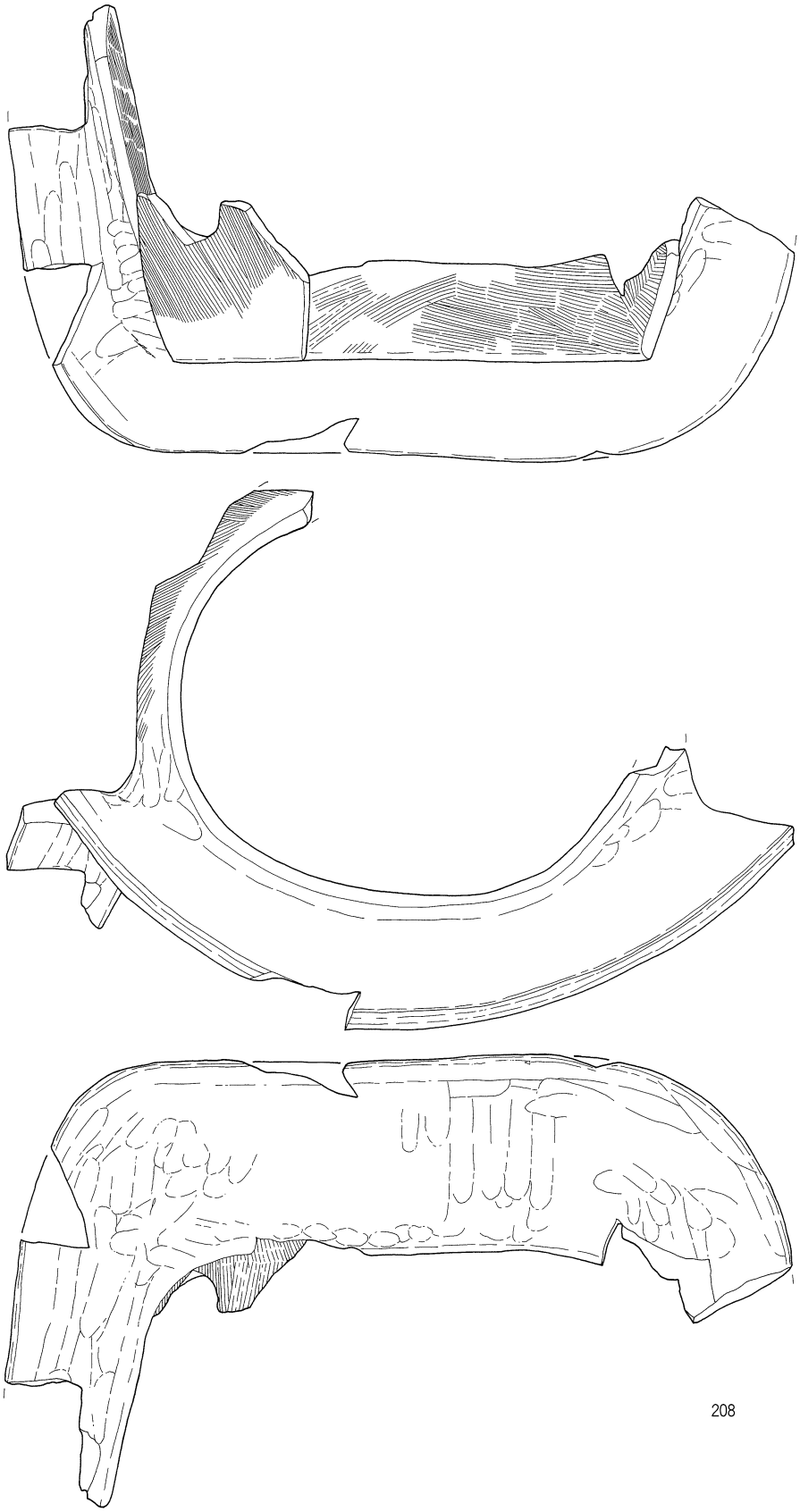
第874図　SD3029 出土遺物（19）



第875図　SD3029 出土遺物（20）

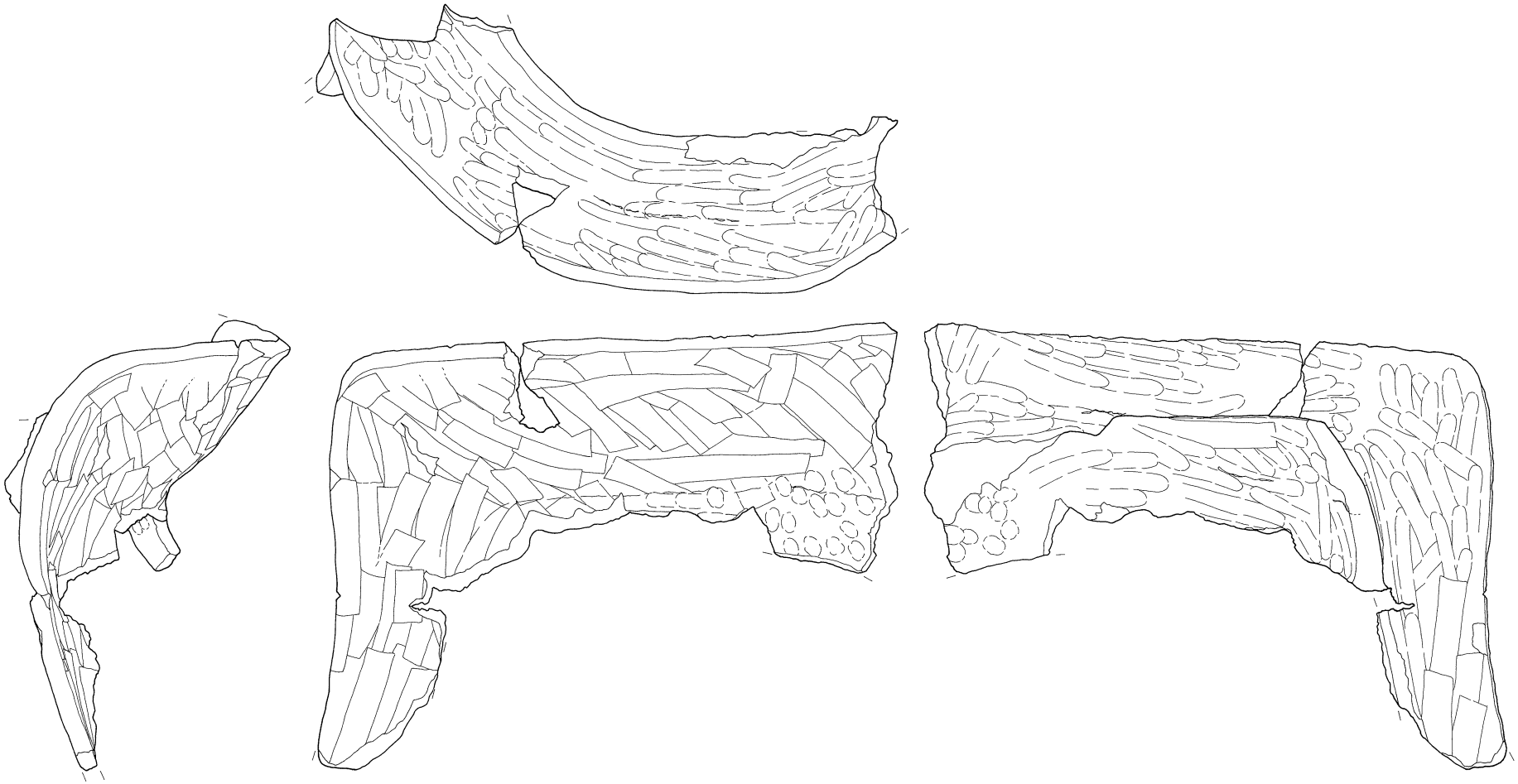


第876図　SD3029 出土遺物（21）

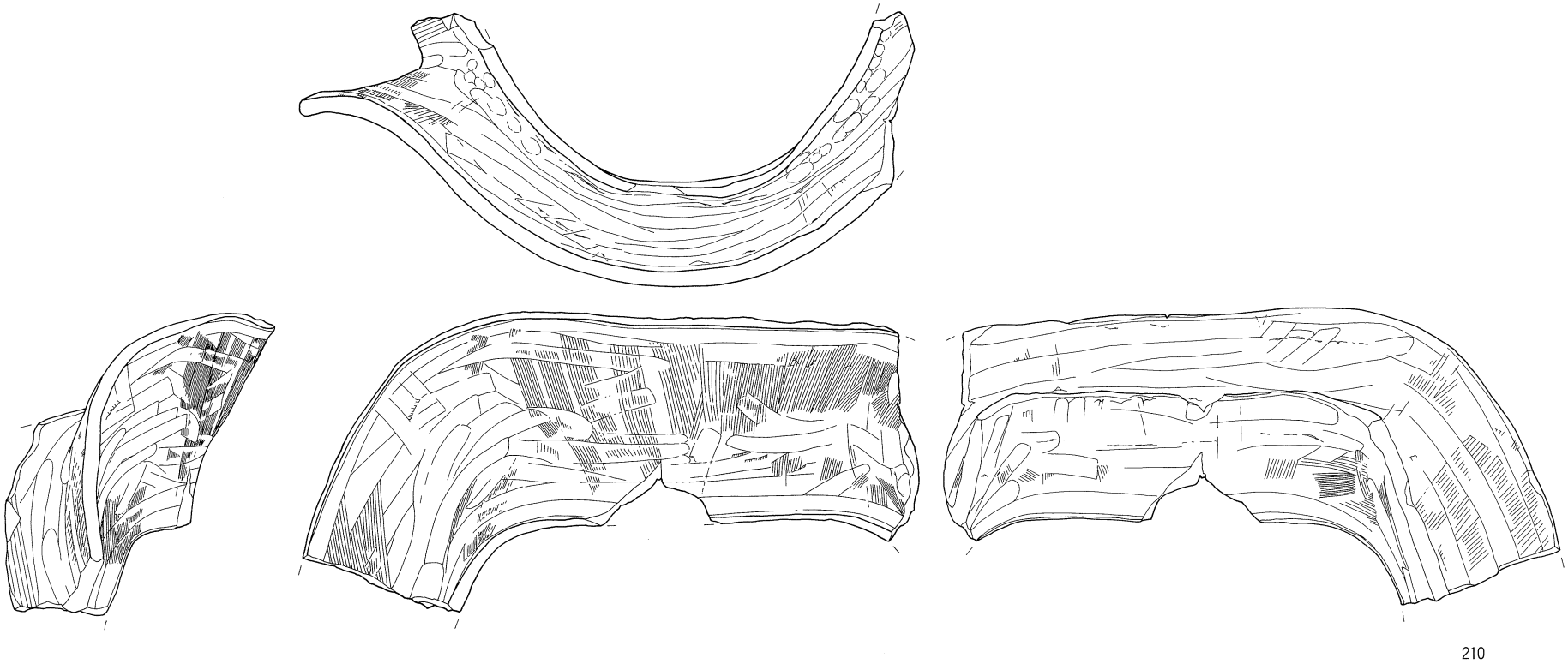


第877図　SD3029 出土遺物（22）

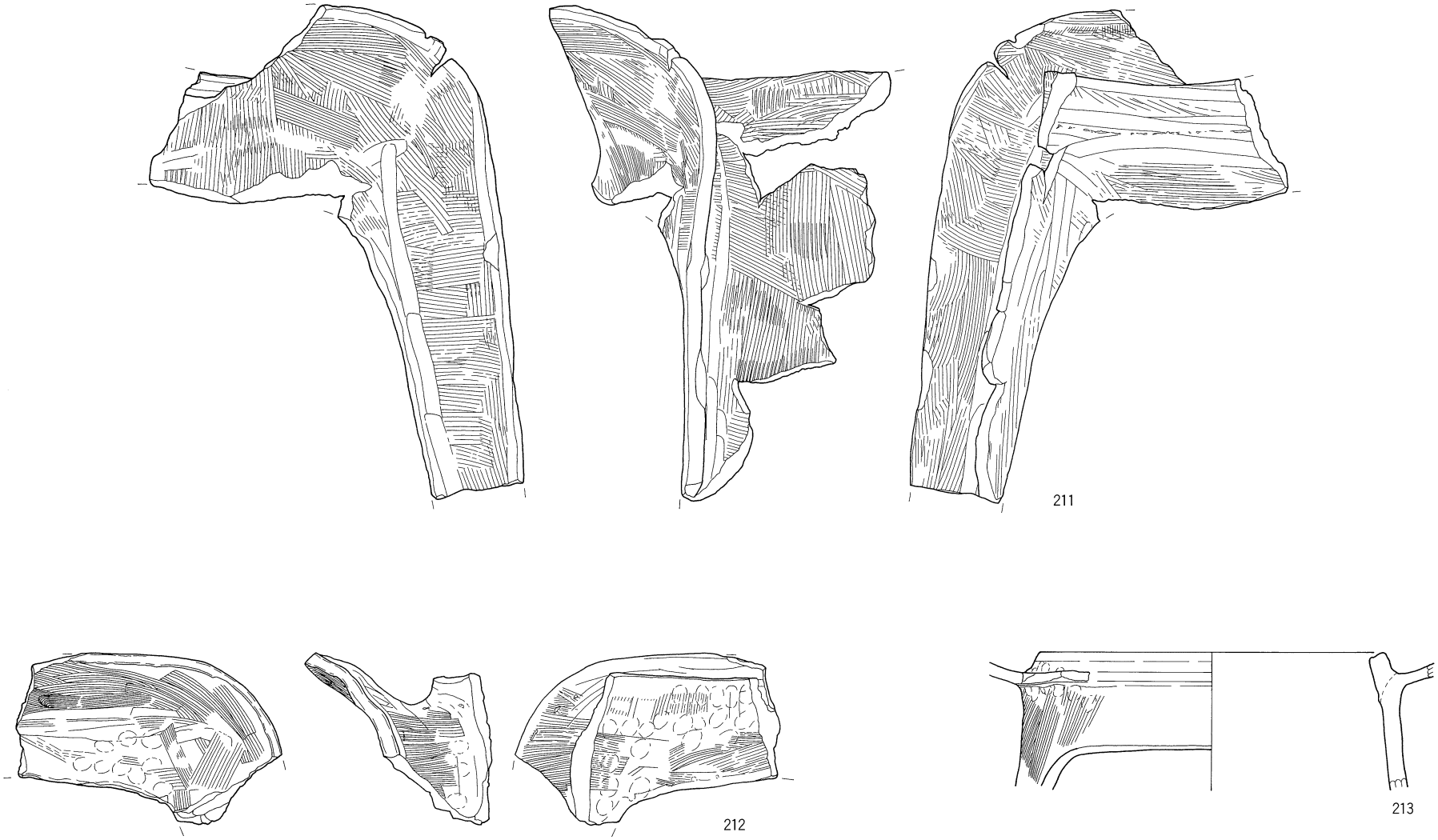
0　10cm



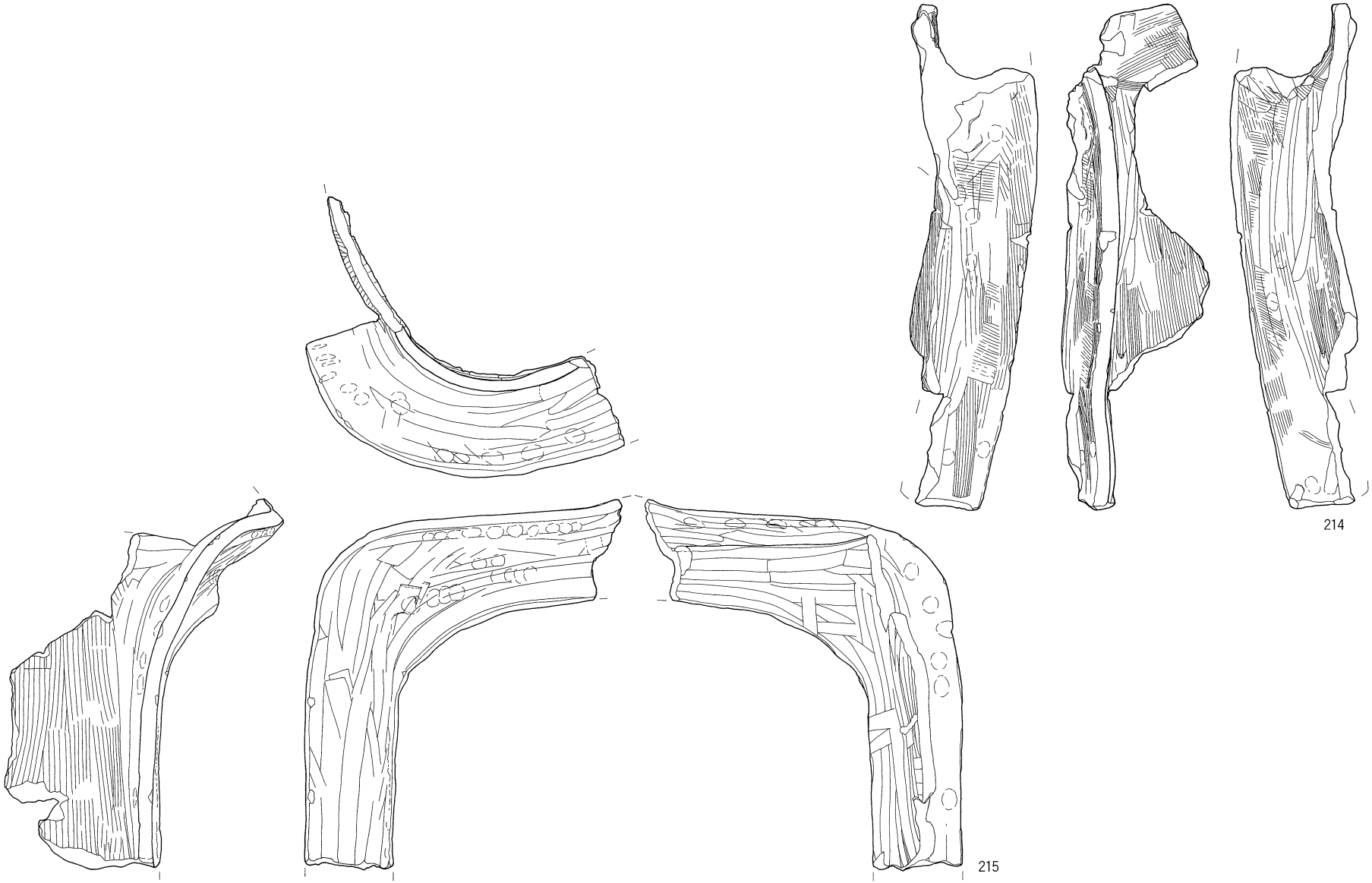
第878図　SD3029 出土遺物（23）



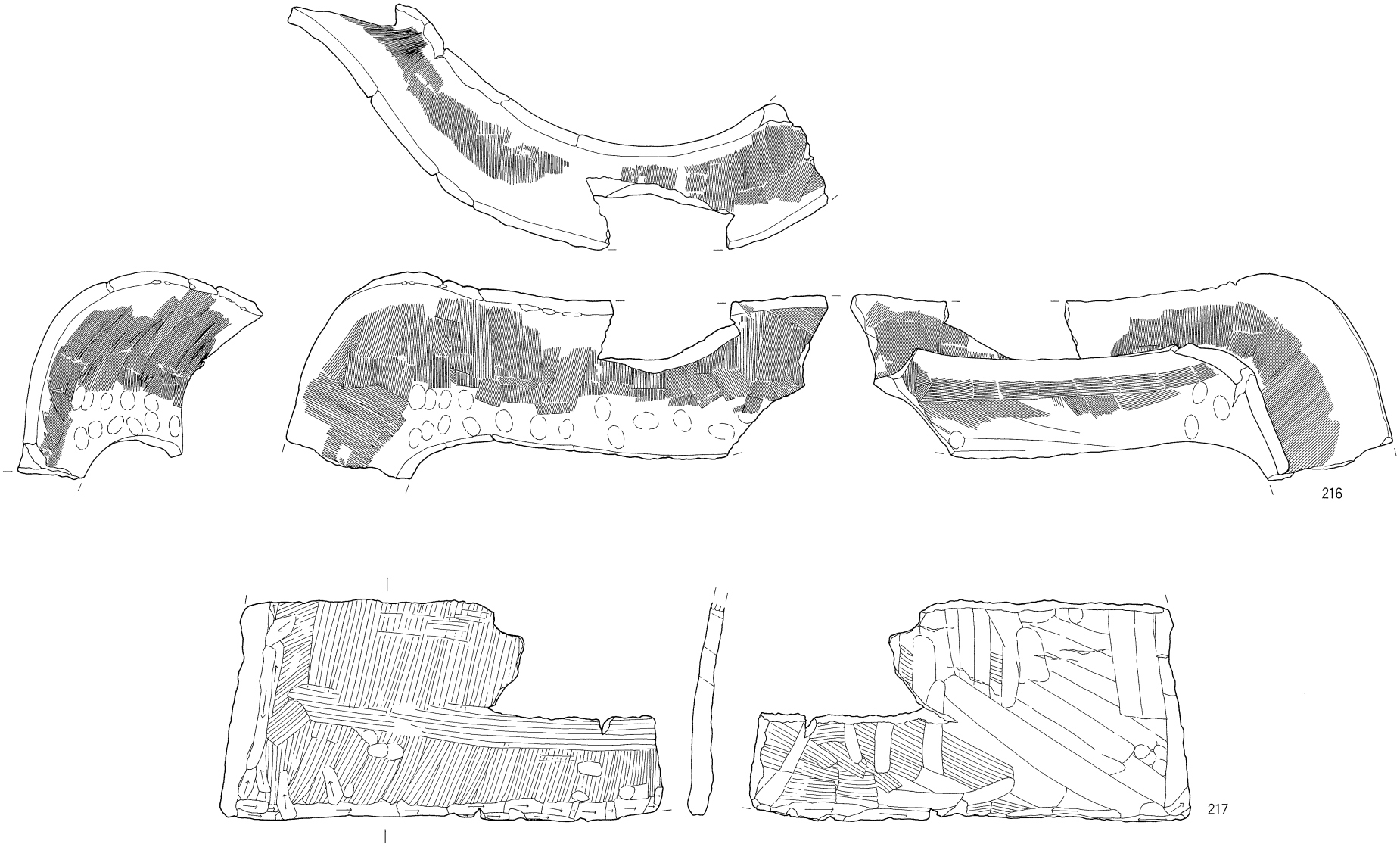
第879図　SD3029 出土遺物（24）



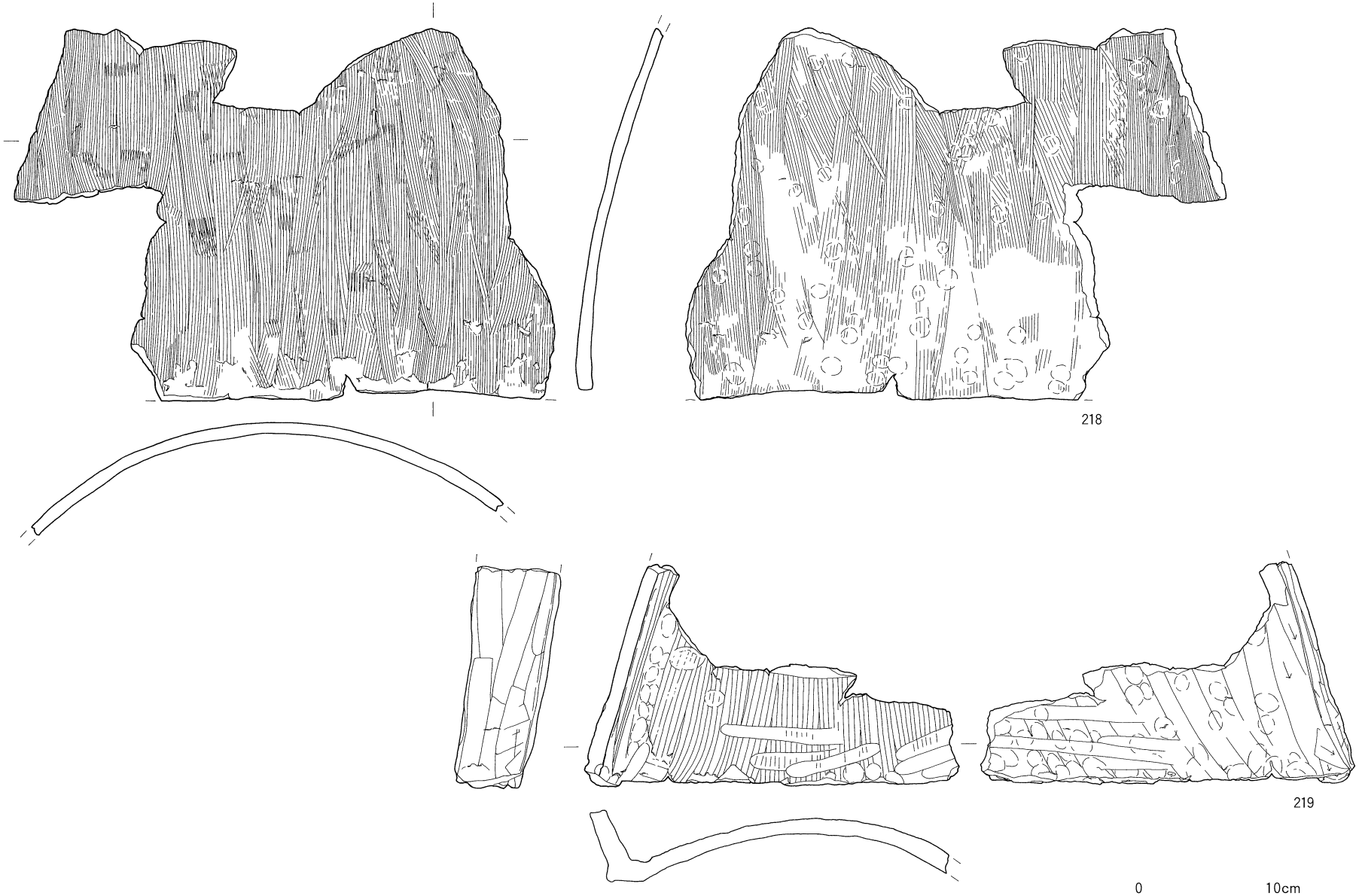
第880図　SD3029 出土遺物（25）



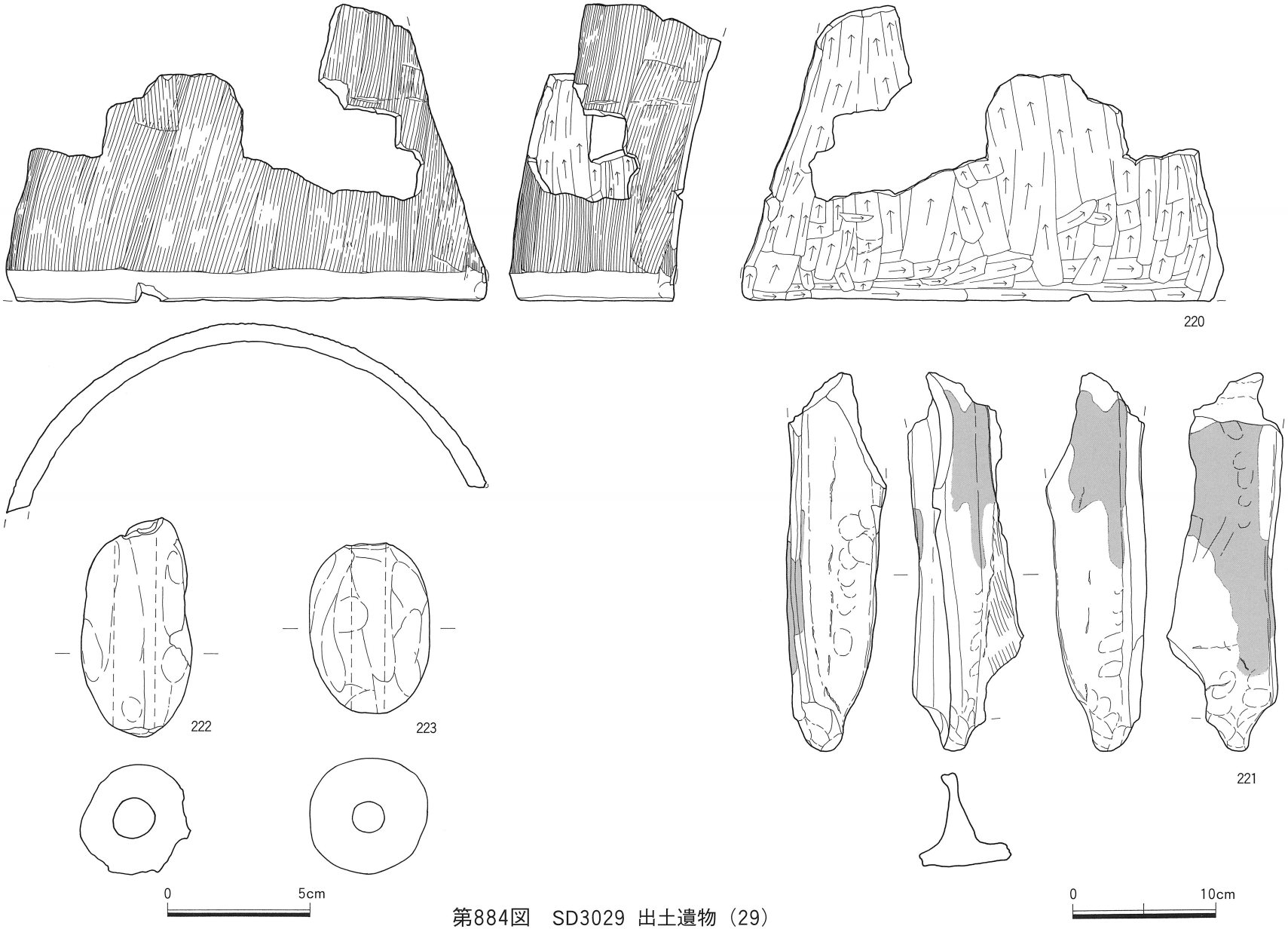
第881図　SD3029 出土遺物（26）



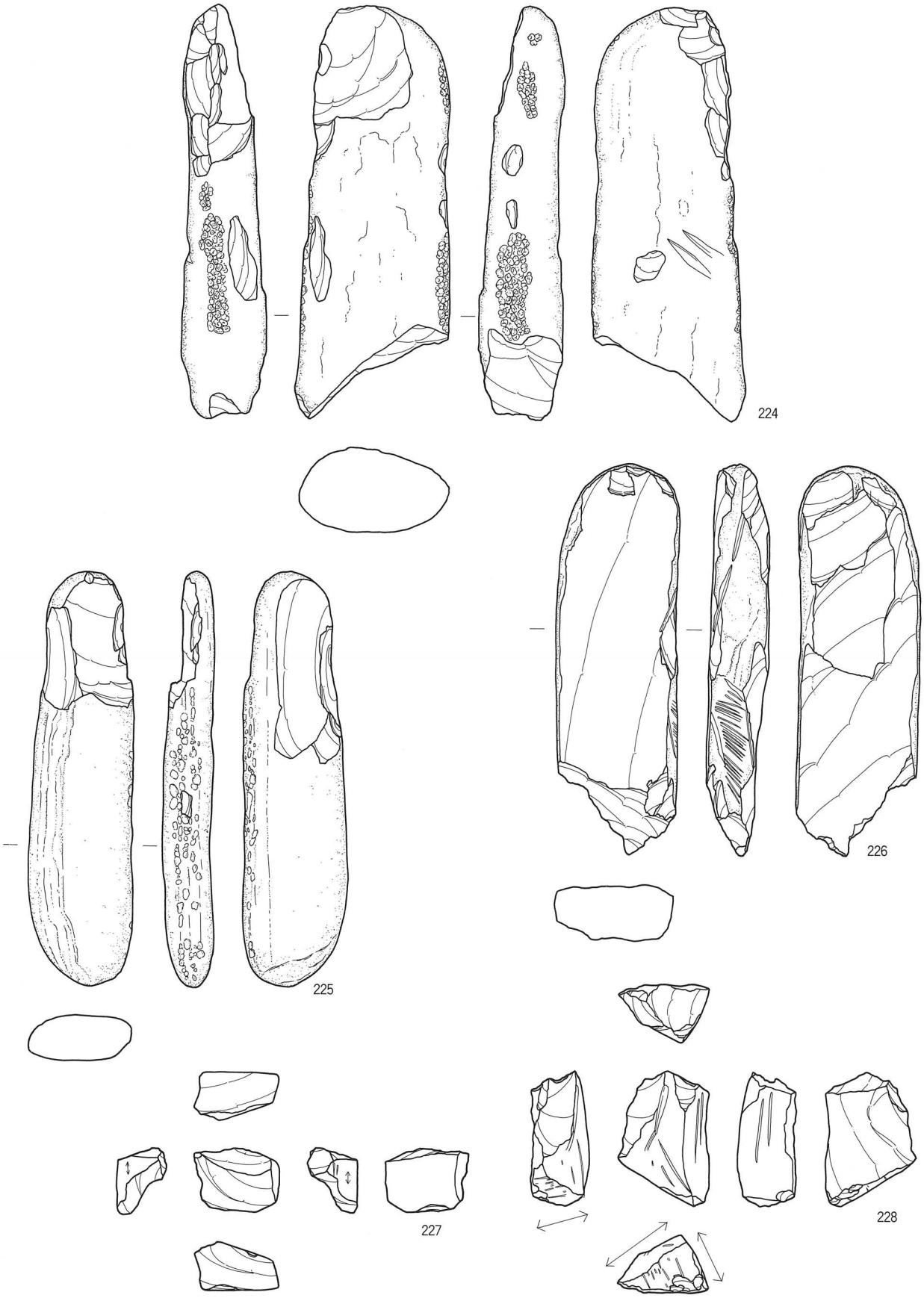
第882図　SD3029 出土遺物（27）



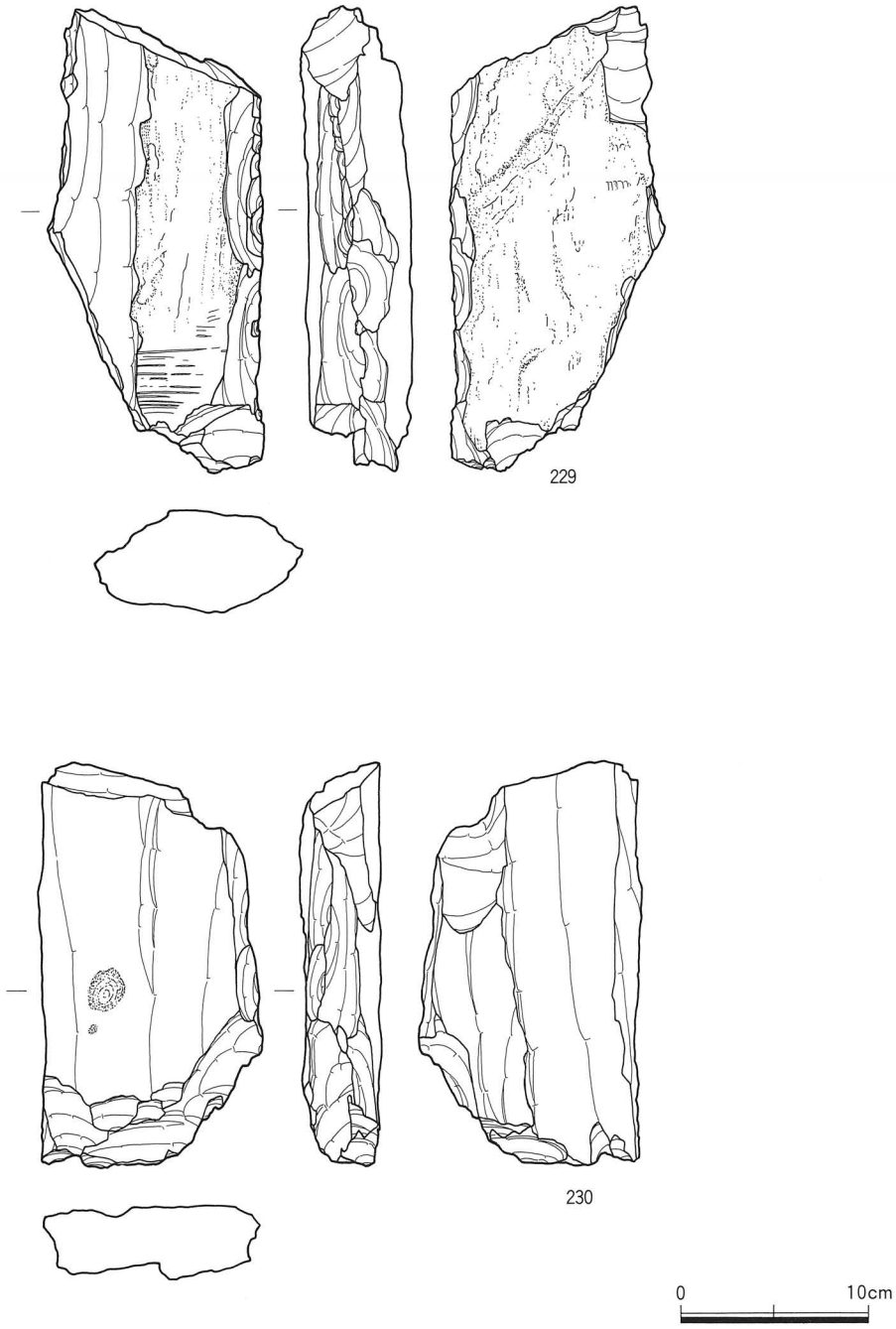
第883図　SD3029 出土遺物（28）



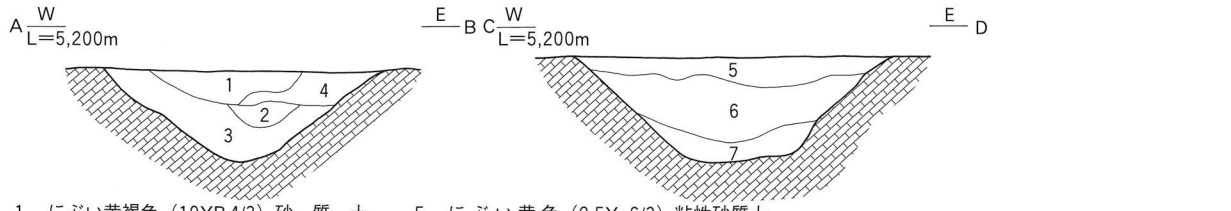
第884図　SD3029 出土遺物（29）



第885図　SD3029 出土遺物（30）

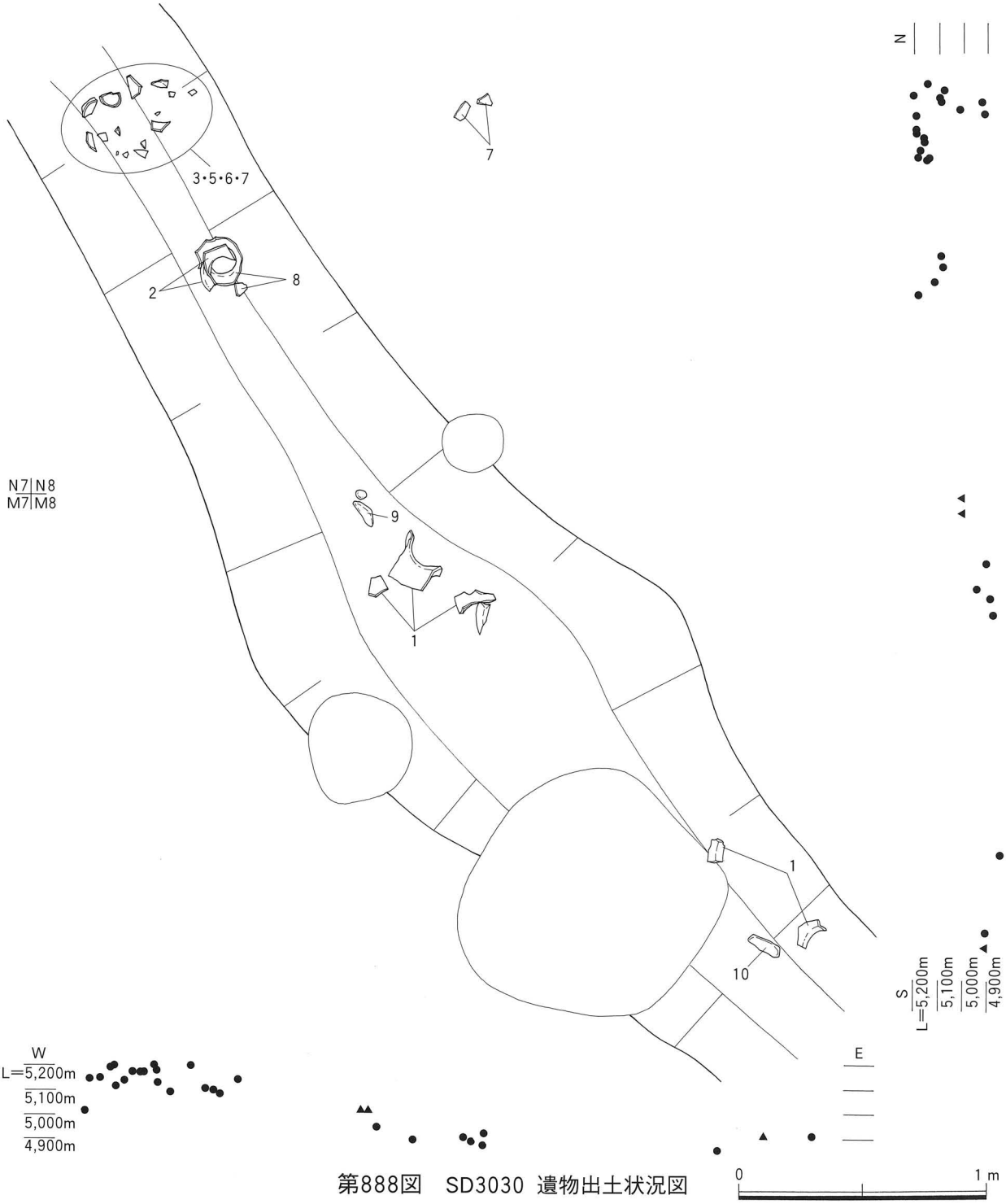


第886図　SD3029 出土遺物（31）

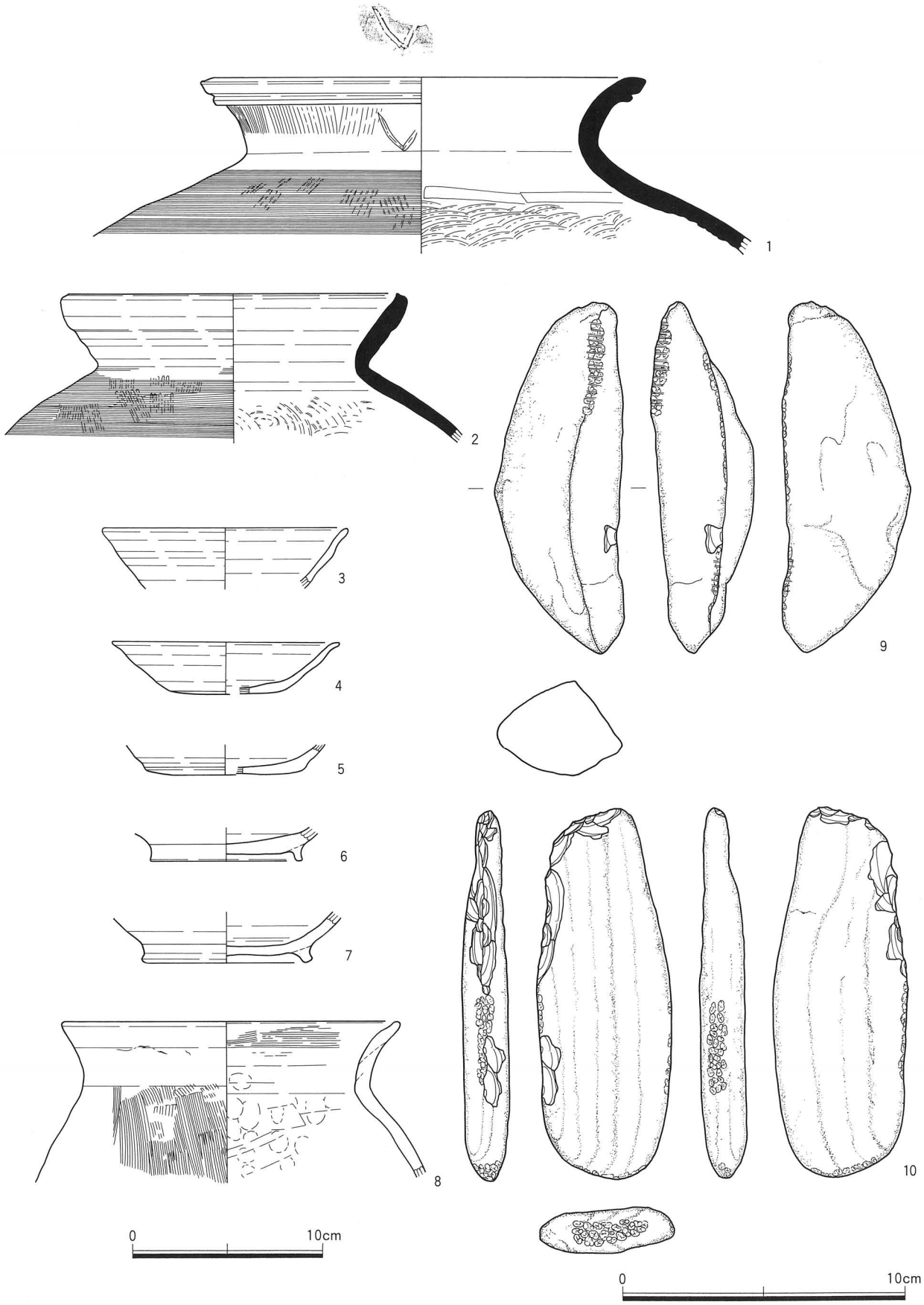


1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）砂　質　土
2　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘性砂質土
3　にぶい黄褐色（10YR 5/4）砂　質　土
4　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粘性砂質土
5　にぶい黄色（2.5Y 6/3）粘性砂質土
6　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘　質　土
7　明黄褐色（10YR 6/6）粘性砂質土

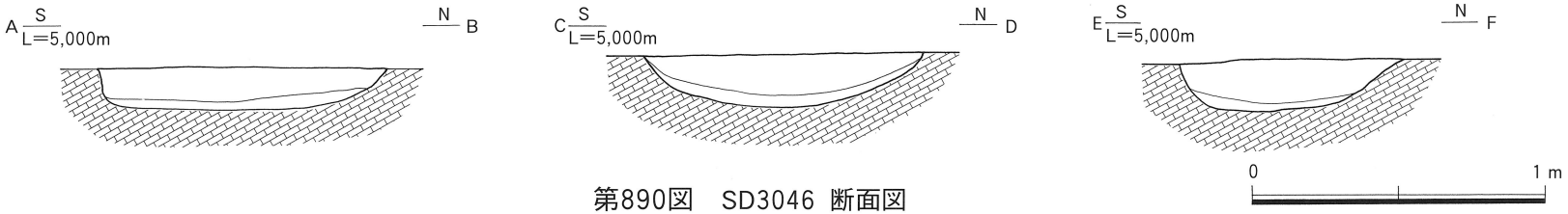
第887図　SD3030 断面図



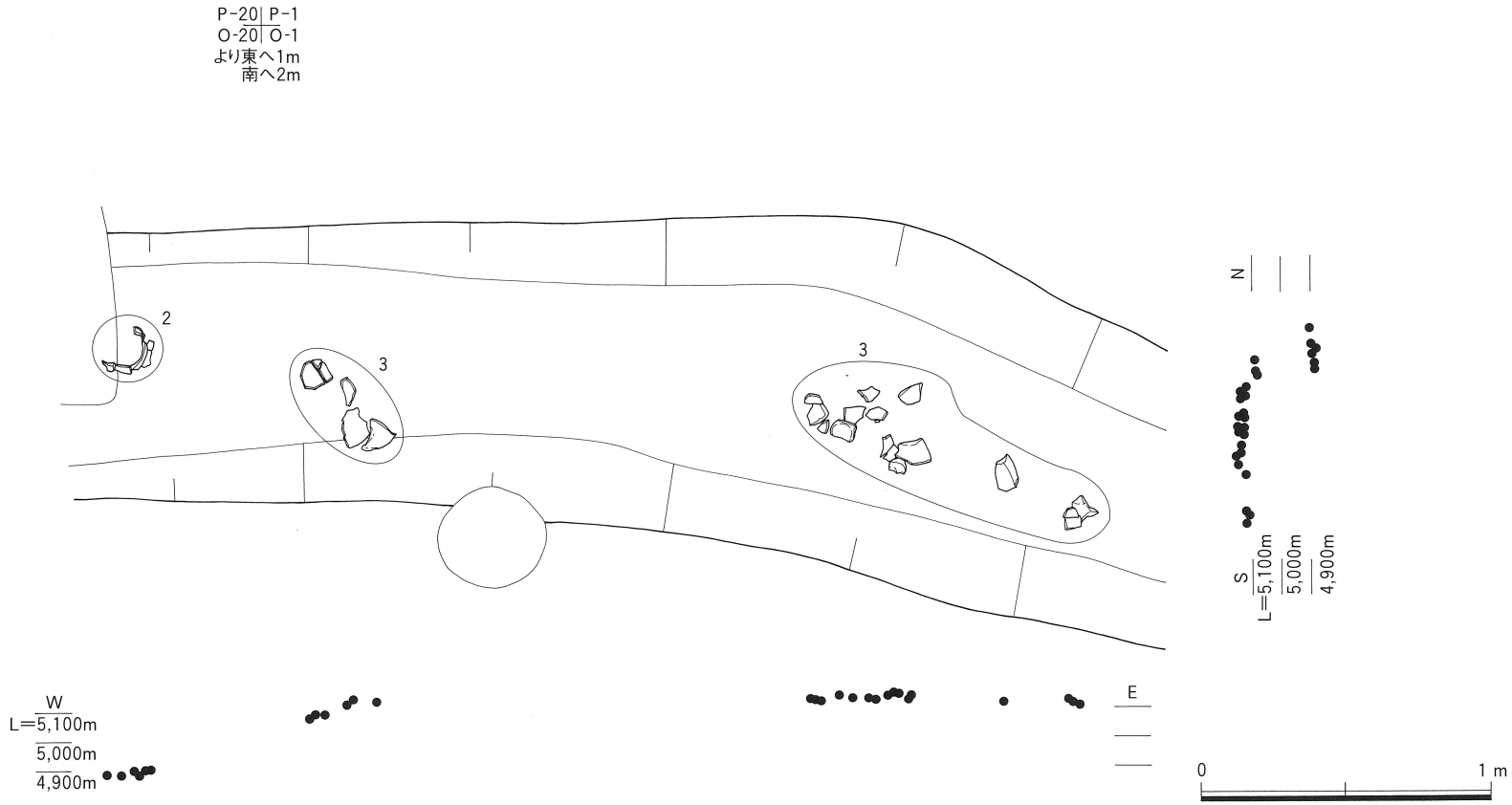
第888図　SD3030 遺物出土状況図



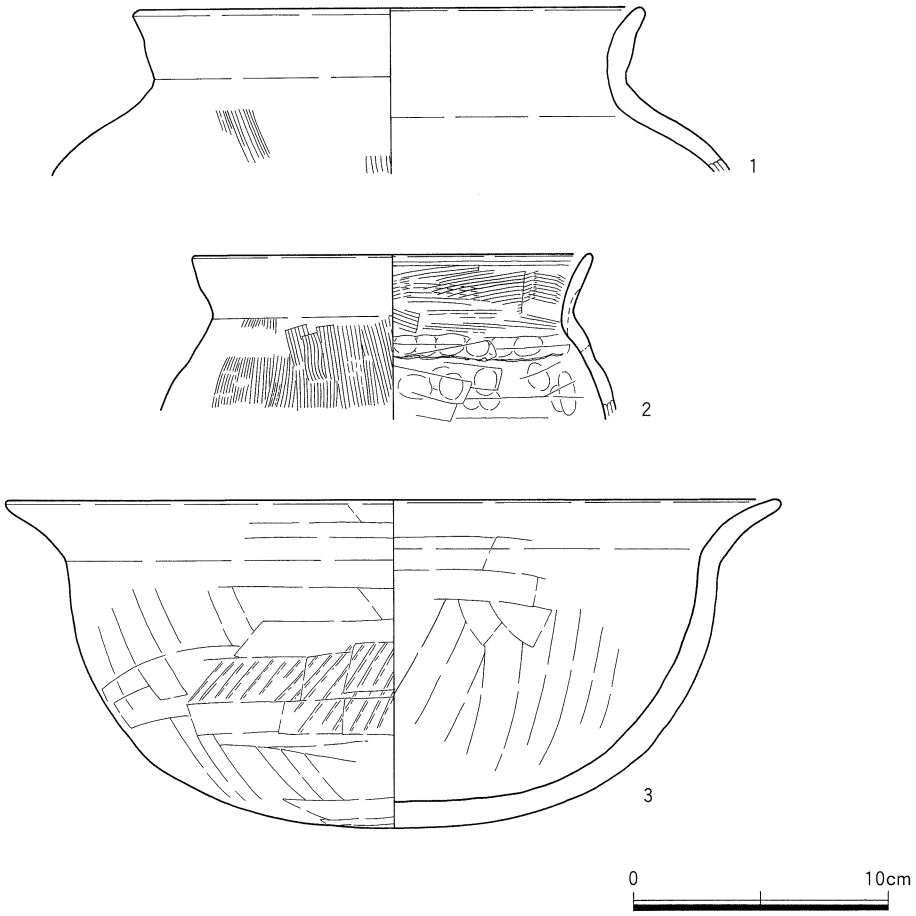
第889図　SD3030 出土遺物



第890図　SD3046 断面図



第891図　SD3046 遺物出土状況図



第892図　SD3046 出土遺物

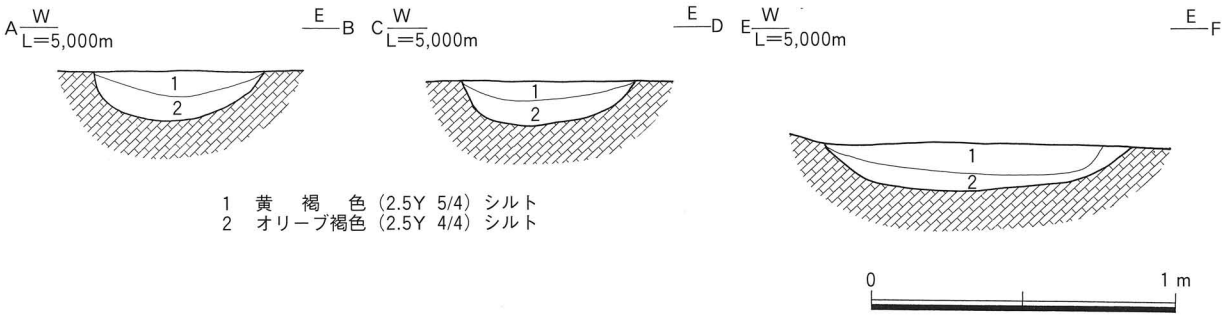
193は土師器の椀である。103は黒色土器の椀である。104～112は土師器の高杯である。113～146は土師器の皿である。147は土師器の壺である。148～181・183～186は土師器の甕である。182は黒色土器の壺である。187・188は土師器の羽釜である。189は土師器の盤である。190は土師器の甑である。191は土師器の鉢である。192・193は土師器の椀である。194は製塩土器である。195～200は黒色土器の椀である。201～206は平瓦である。207は丸瓦である。208～221は竈である。222、223は土錘である。224～226は砂質片岩の敲石である。227～229は砥石である。230は結晶片岩の凹石である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

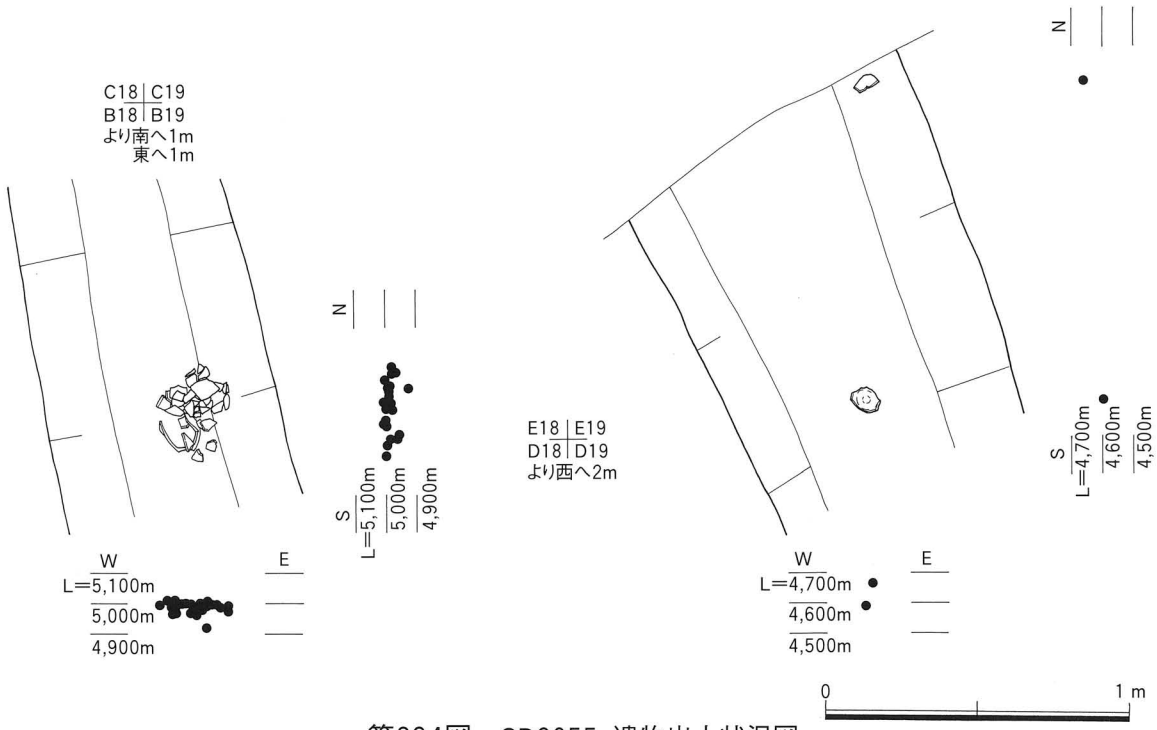
30号溝（SD3030）（第887～889図）

検出場所　1998年調査７区

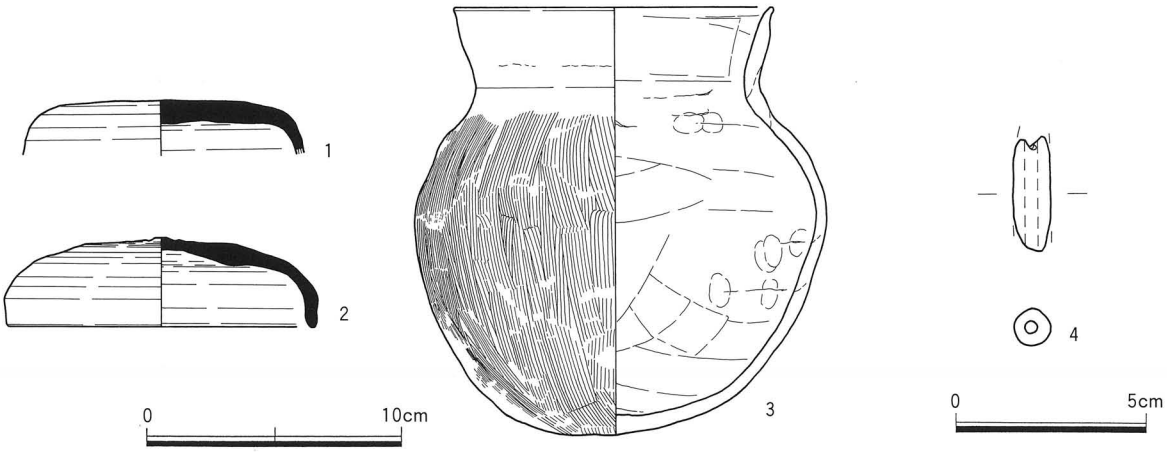
形態・規模　南東から北西方向に延びており、残存する延長距離は10.80m、幅は1.30m、深さは0.32mを測る。断面形状は逆台形を呈する。



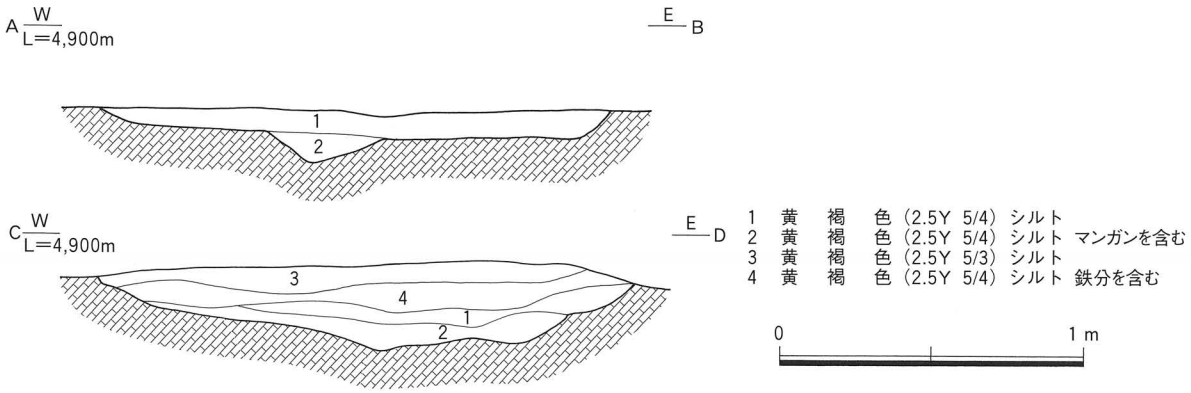
第893図　SD3055 断面図



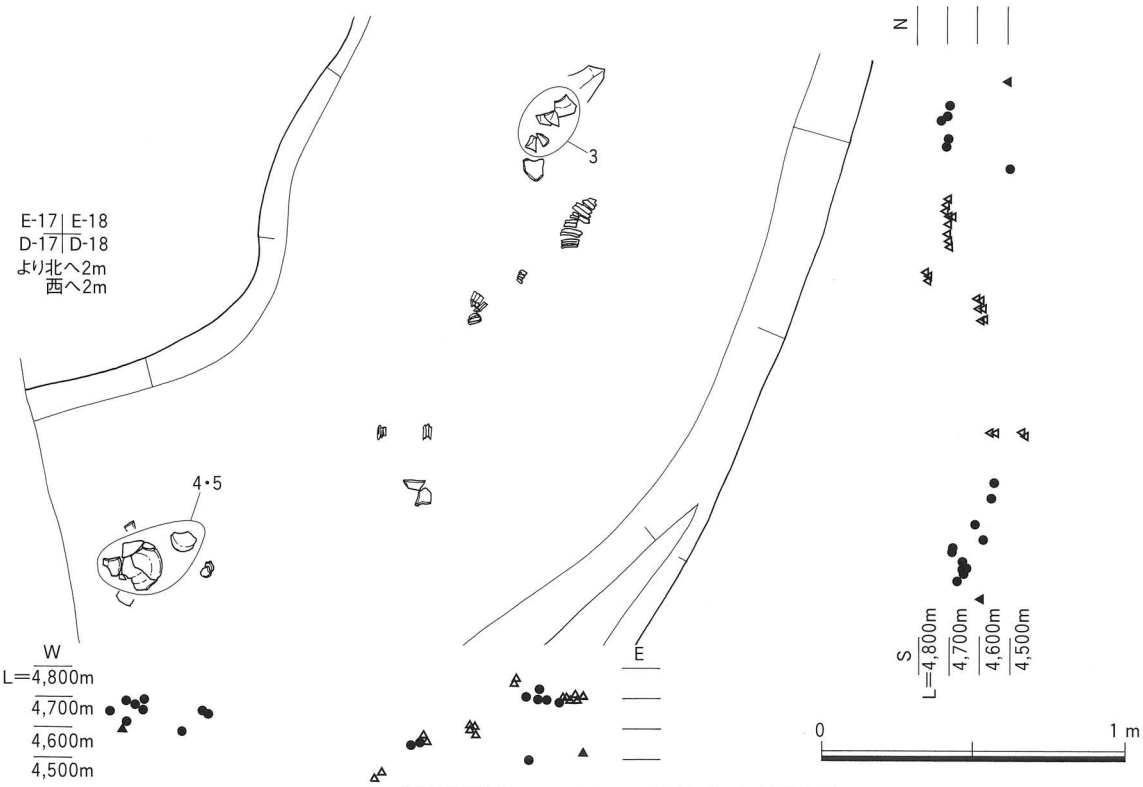
第894図　SD3055 遺物出土状況図



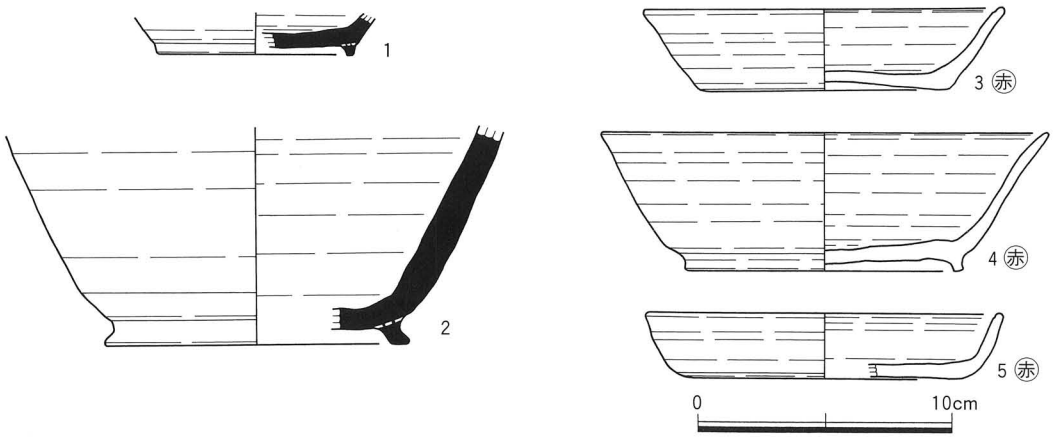
第895図　SD3055 出土遺物



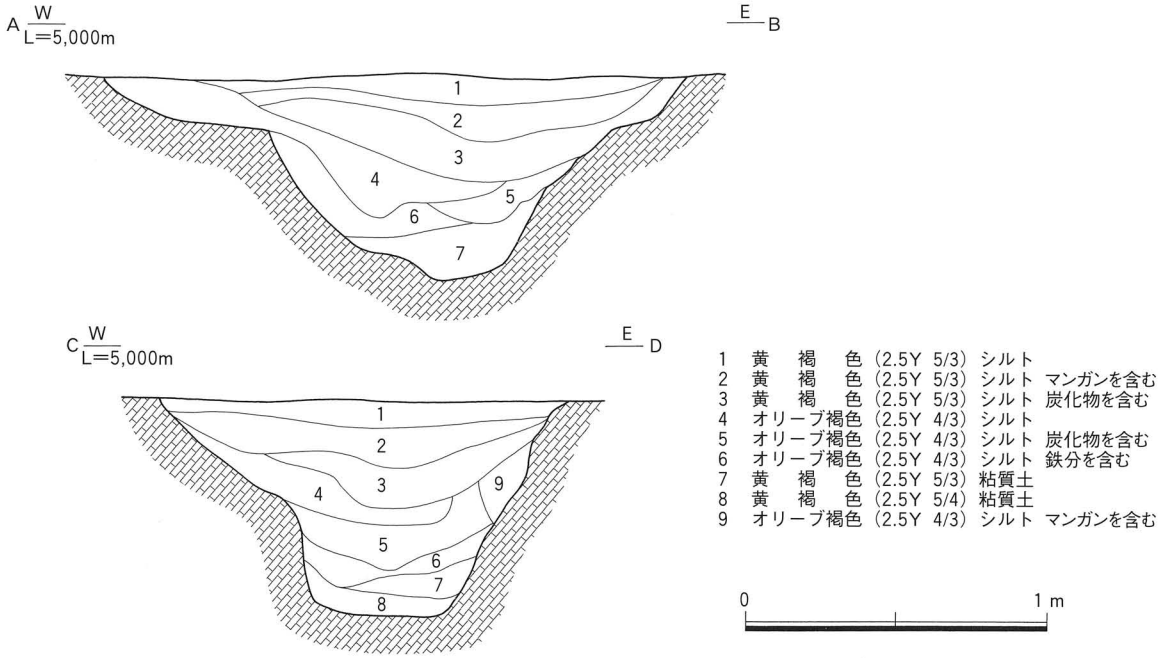
第896図　SD3056 断面図



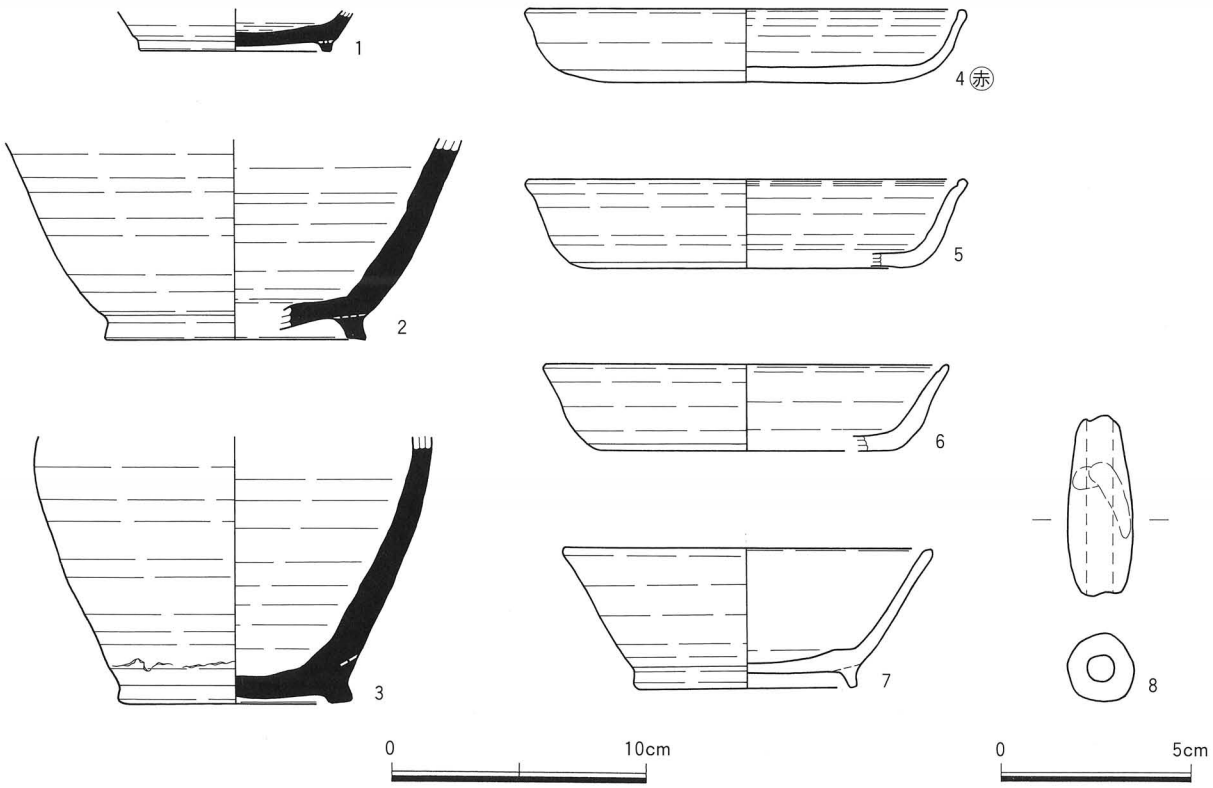
第897図　SD3056 遺物出土状況図



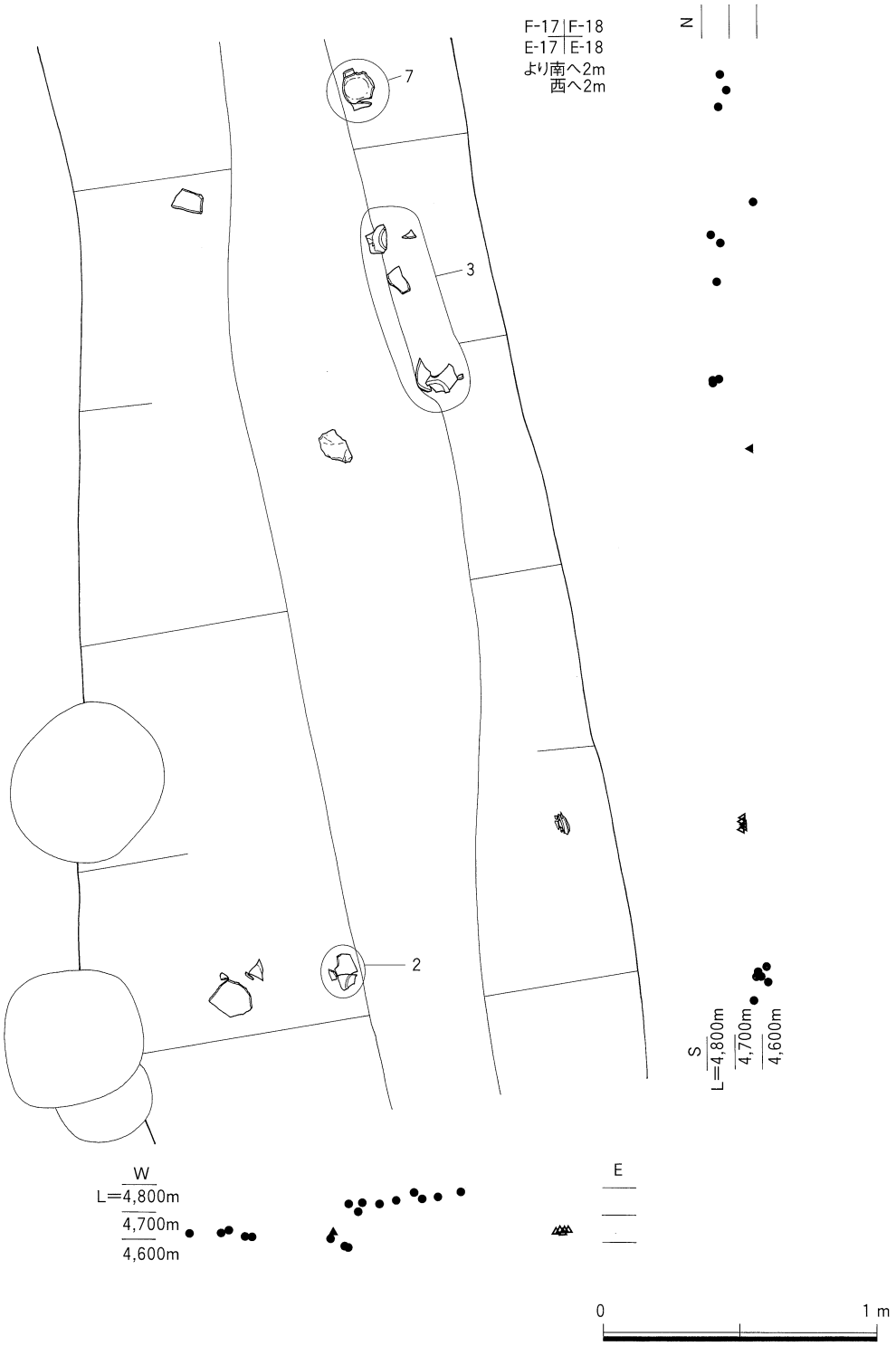
第898図　SD3056 出土遺物



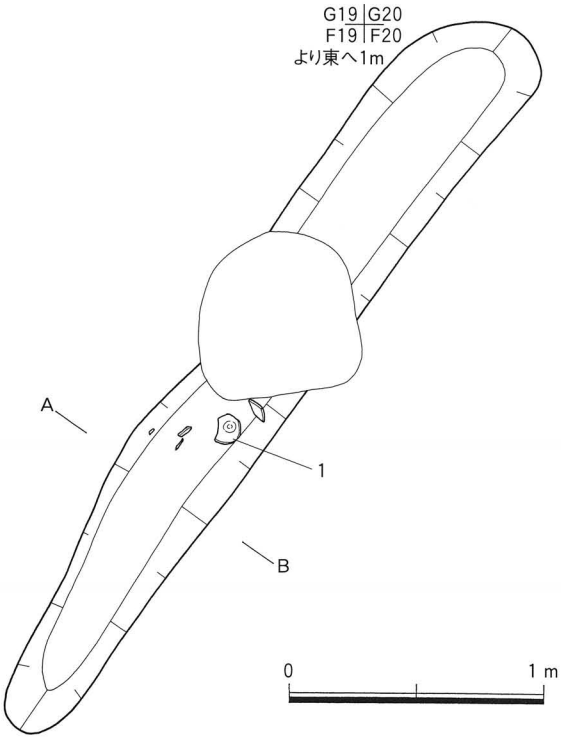
第899図　SD3057 断面図



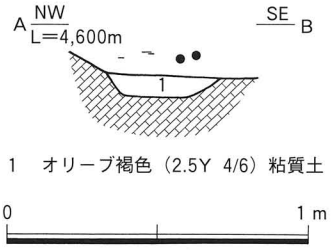
第900図　SD3057 出土遺物



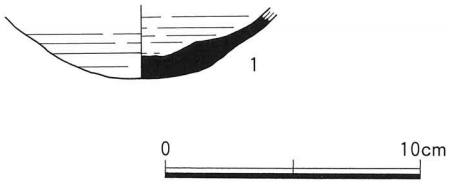
第901図　SD3057 遺物出土状況図



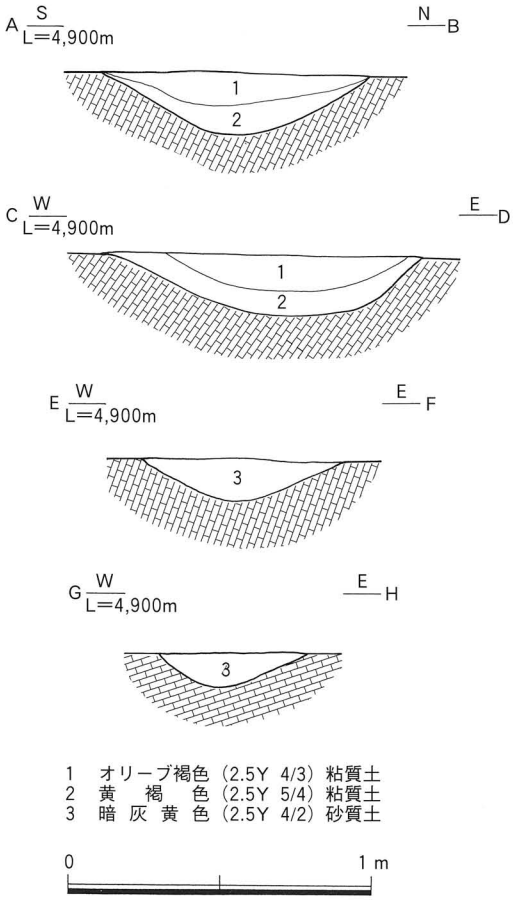
第903図　SD3059 遺物出土状況図



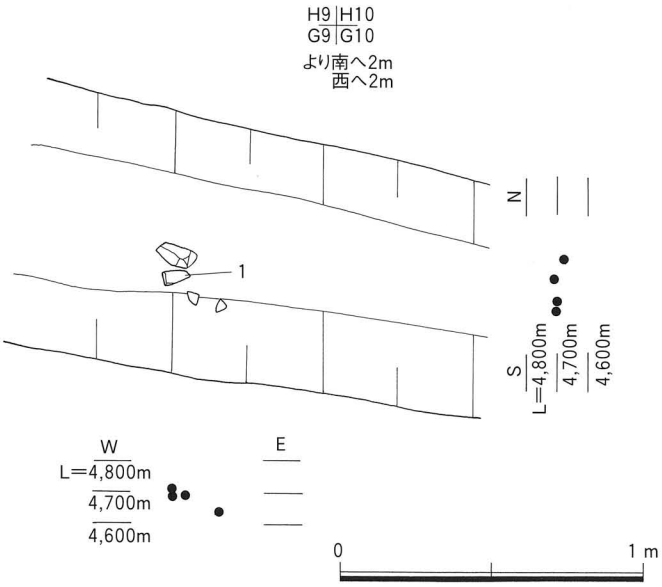
第902図　SD3059 断面図



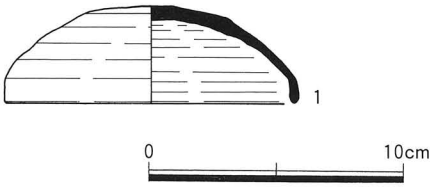
第904図　SD3059 出土遺物



第905図　SD3073 断面図



第906図　SD3073 遺物出土状況図



第907図　SD3073 出土遺物

土層　７層に分層される。
遺物出土状況　Loc.G１・βⅢ・M８・N８グリッドを中心として遺物が出土している。
出土遺物　１・２は須恵器の甕である。１は外面頸部にヘラ記号を持つ。３～７は土師器の杯である。８は土師器の甕である。９・10は敲石である。
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

46号溝（SD3046）（第890～892図）
検出場所　2003年調査３－１区
形態・規模　東西方向に延びており、残存する延長距離は14.25m、幅は1.20m、深さは0.18mを測る。断面形状は皿状を呈する。
土層　２層に分層される。
遺物出土状況　Loc.G１・βⅢ・O１グリッドを中心として遺物が出土している。
出土遺物　１、２は土師器の甕である。３は土師器の鍋である。
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

55号溝（SD3055）（第893～895図）
検出場所　2003年調査３－１区
形態・規模　南北方向に延びており、残存する延長距離は17.10m、幅は1.00m、深さは0.19mを測る。断面形状は皿状を呈する。
土層　２層に分層される。
遺物出土状況　Loc.G１・βⅡ・B19・E18グリッドを中心に遺物が出土している。
出土遺物　１・２は須恵器の杯蓋である。３は土師器の甕である。４は土錘である。
時期　出土した遺物から古墳時代後期（６世紀第４四半期・TK43並行期）と考えられる。

56号溝（SD3056）（第896～898図）
検出場所　2003区調査３－１区
形態・規模　南北方向に延びており、残存する延長距離は6.90m、幅は2.40m、深さは0.28mを測る。断面形状は皿状を呈する。
土層　４層に分層される。
遺物出土状況　Loc.G１・βⅡ・E17グリッドを中心に獣骨や土器が出土している。
出土遺物　１は須恵器の杯である。２は須恵器の壺である。３・４は土師器の杯である。５は土師器の皿である。
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

57号溝（SD3057）（第899～901図）
検出場所　2003年調査３－２区
形態・規模　南北方向に延びており、残存する延長距離は8.25m、幅は2.00m、深さは0.70mを測る。断面形状は二段形を呈する。

土層　9層に分層される。

遺物出土状況　Loc.G 1 ・βⅡ・E17グリッドを中心に遺物が出土している。

出土遺物　1は須恵器の杯である。2・3は須恵器の壺である。4は土師器の皿である。5～7は土師器の杯である。8は土錘である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

59号溝（SD3059）（第902～904図）

検出場所　1999年調査5区

形態・規模　南西から北東に向かって延びており、残存する延長距離は2.40m、幅は0.43m、深さは0.07mを測る。断面形状は皿状を呈する。

土層　1層である。

遺物出土状況　Loc.G 1 ・βⅡ・F20グリッドを中心に遺物が出土している。

出土遺物　1は須恵器の杯身である。

時期　出土した遺物から古墳時代以降と考えられる。

73号溝（SD3073）（第905～907図）

検出場所　1999年調査5区

形態・規模　南東から北西に向かって延びており、残存する延長距離は15.15m、幅は1.00m、深さは0.20mを測る。

土層　3層に分層される。

遺物出土状況　Loc.G 1 ・βⅢ・G 9 グリッドを中心に遺物が出土している。

出土遺物　1は須恵器の杯蓋である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

74号溝（SD3074）（第908～912図）

検出場所　1998年調査9区・2003年調査4－1・4－2区

形態・規模　東西方向を向いており、残存する延長距離は58.20m、幅は1.25m、深さは0.46mを測る。断面の形状はU字形や逆台形状を呈する。

土層　11層に分層される。

遺物出土状況　まとまって出土した地点は少なく、各遺物が個々に点在するように出土している。

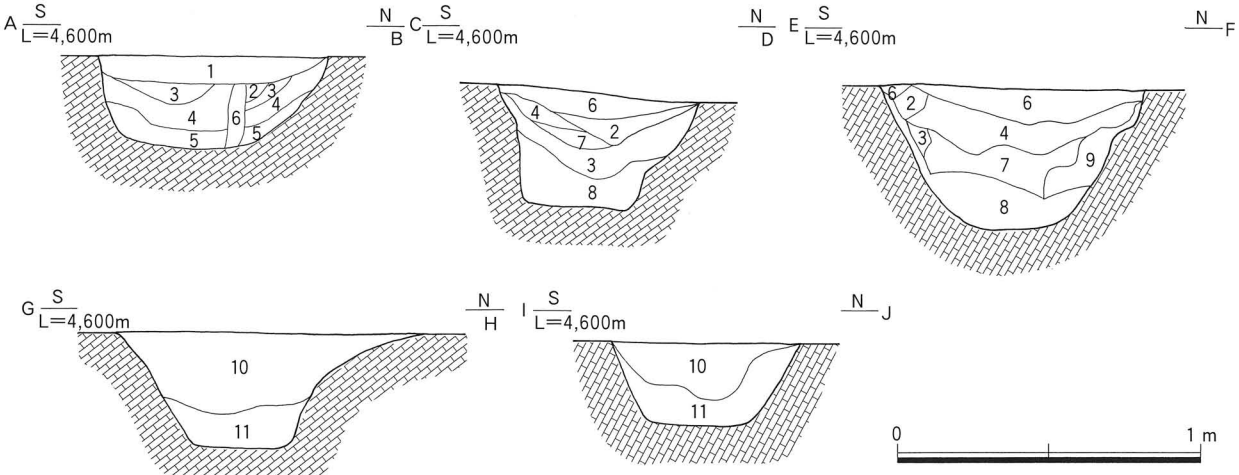
出土遺物　1は須恵器の瓹である。2は須恵器の甕である。3・4は土師器の甕である。5は土師器の椀である。6は砂質片岩の砥石である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期と考えられる。

79号溝（SD3079）（第913～915図）

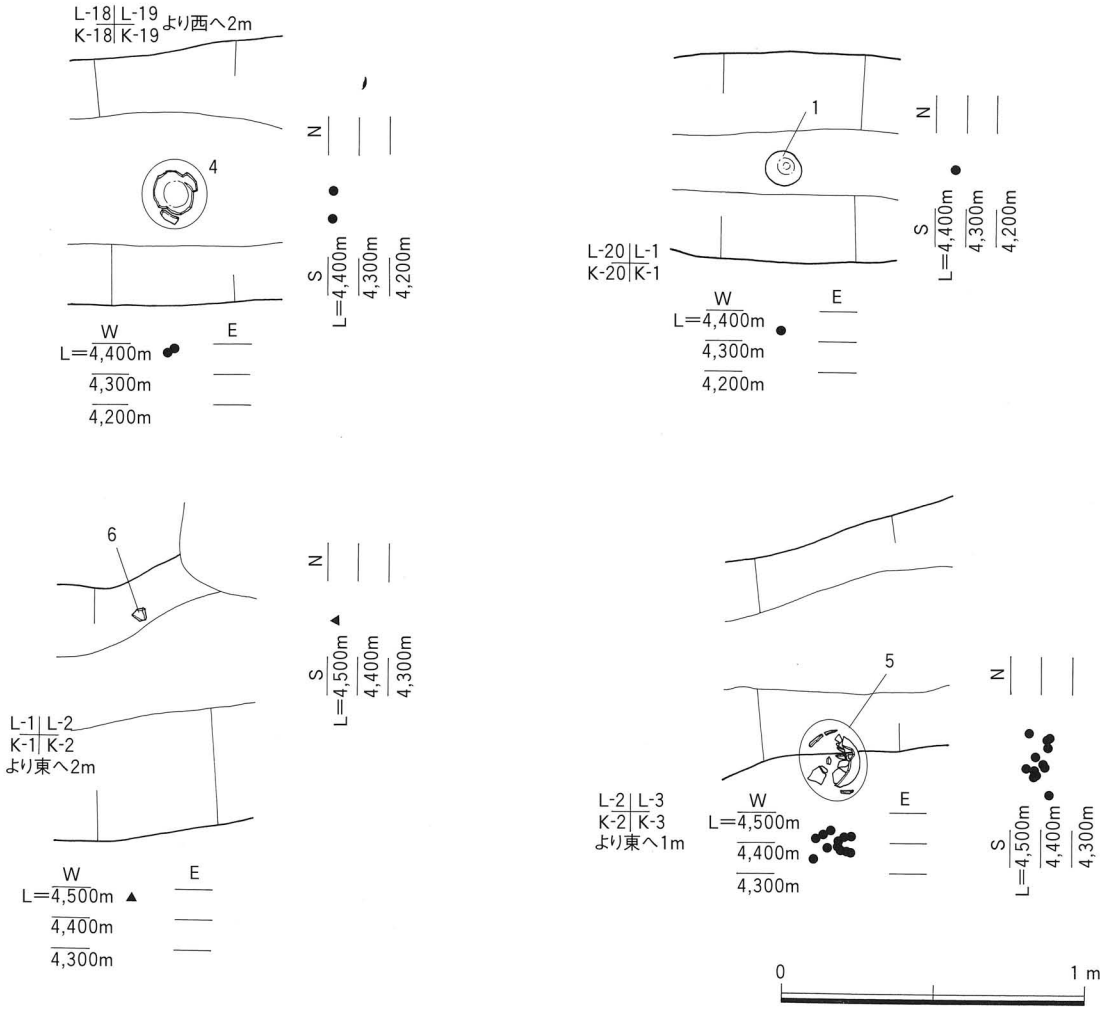
検出場所　2003年調査4－1区・4－4区・2006年調査2区

形態・規模　南北方向に向いており、途中の4－4区からは北東にやや向きを変えていると考えられる。残存する延長距離は101.10m、幅は3.50m、深さは0.45mを測る。断面の形状は二段形や逆台形状

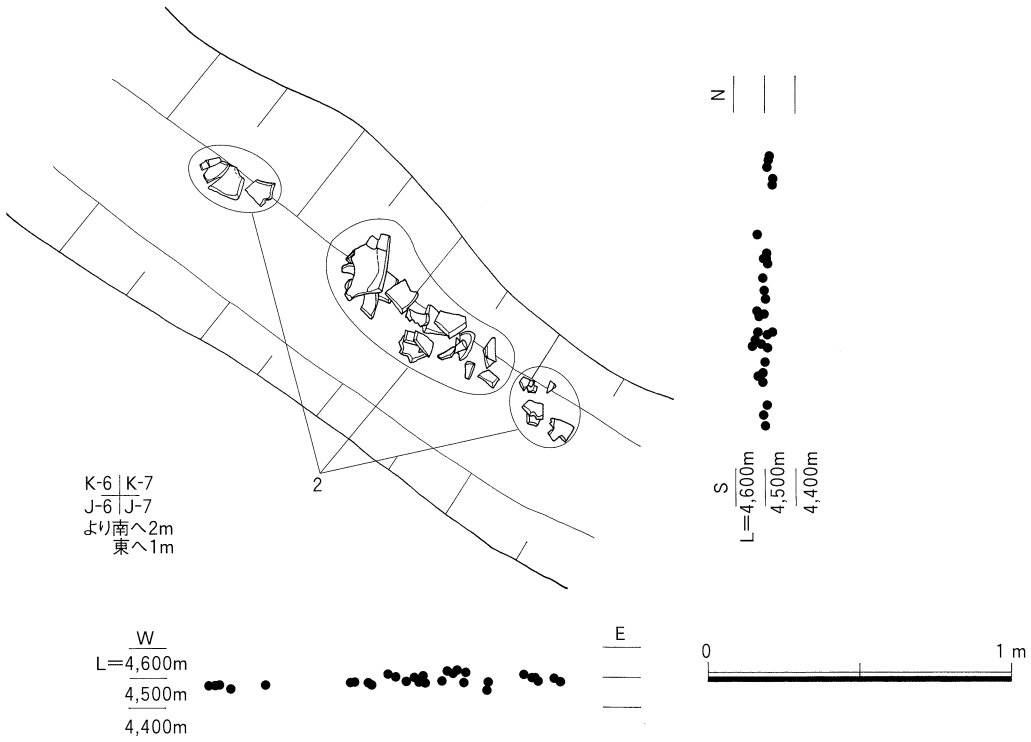


1　黄　褐　色（2.5Y 5/3）シルト
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
3　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト
4　褐　　色（2.5Y 4/4）シルト
5　褐　　色（2.5Y 4/4）シルト 暗灰黄色（2.5Y 5/2）シルトを含む
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト 暗灰黄色（2.5Y 5/2）シルトを含む
7　褐　　色（2.5Y 4/4）シルト 鉄分・マンガンを含む
8　黄　褐　色（2.5Y 5/4）シルト 鉄分を含む
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト マンガンを含む
10　にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘質土
11　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土

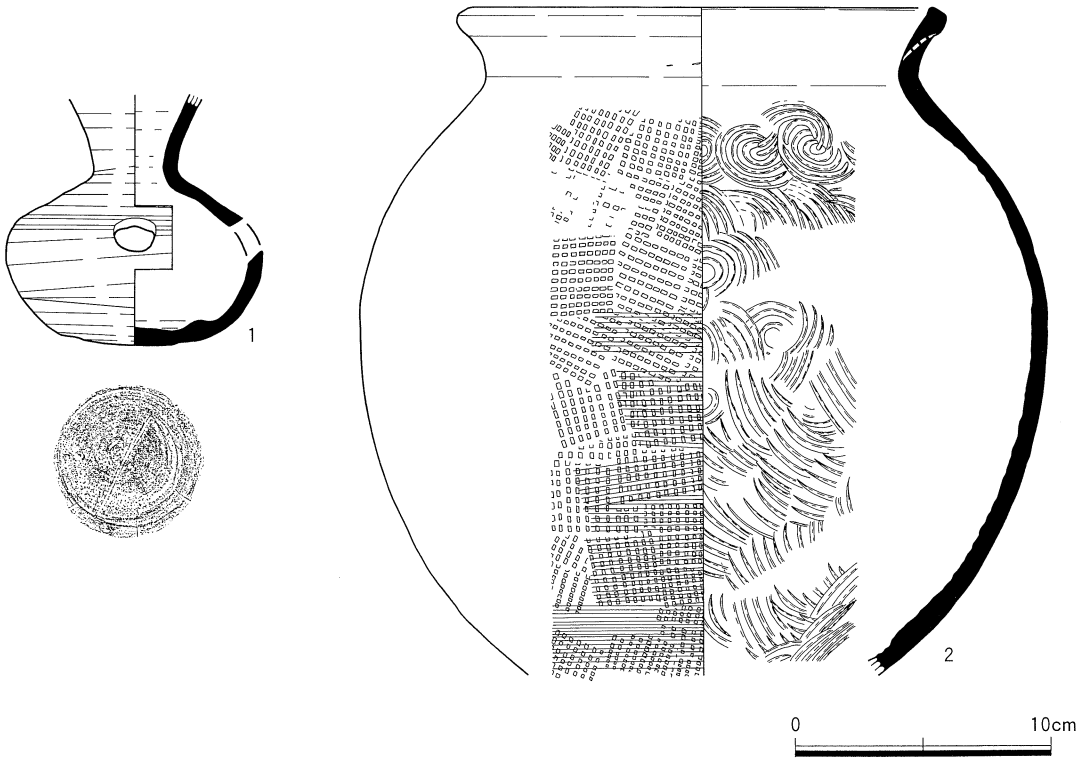
第908図　SD3074 断面図



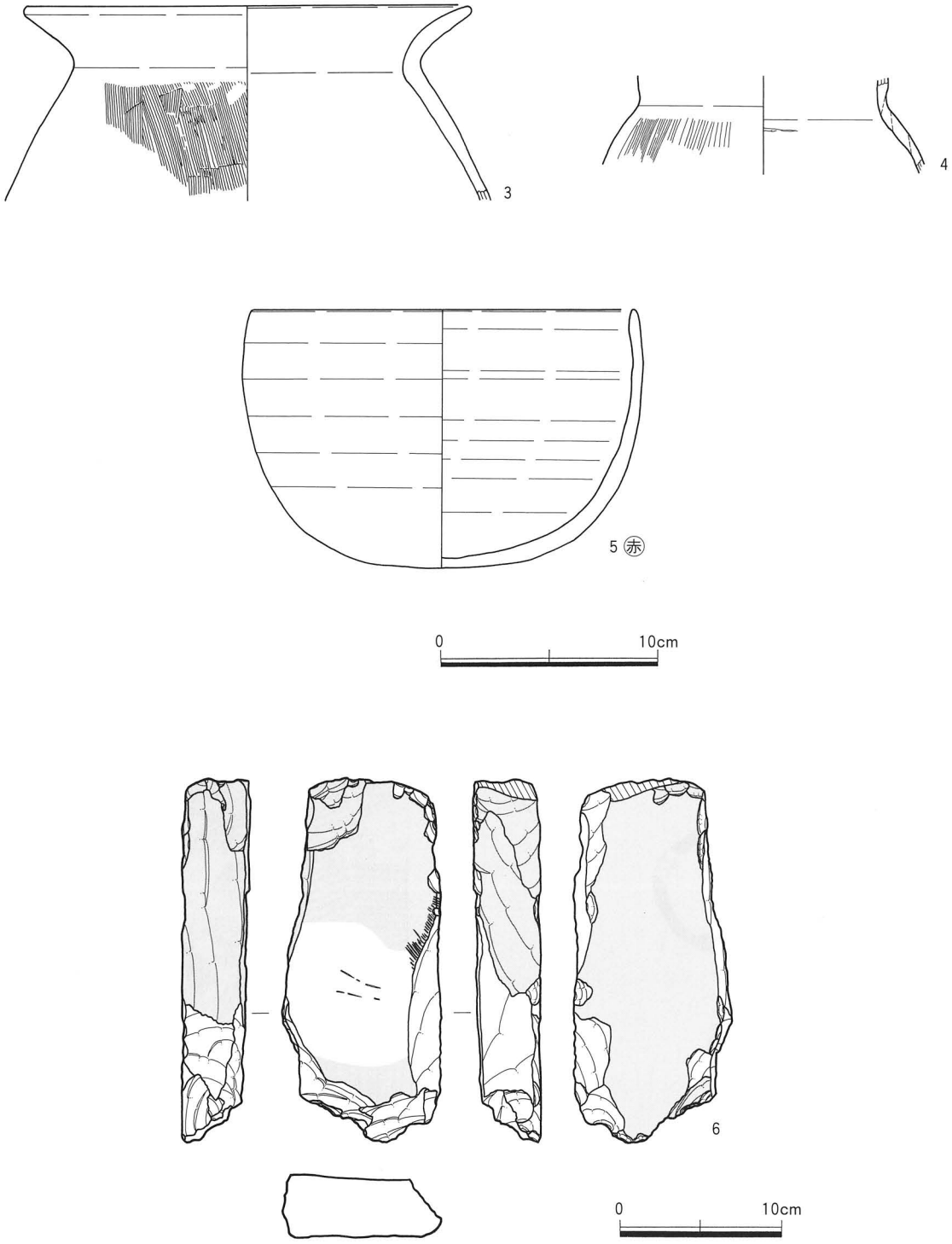
第909図　SD3074 遺物出土状況図（1）



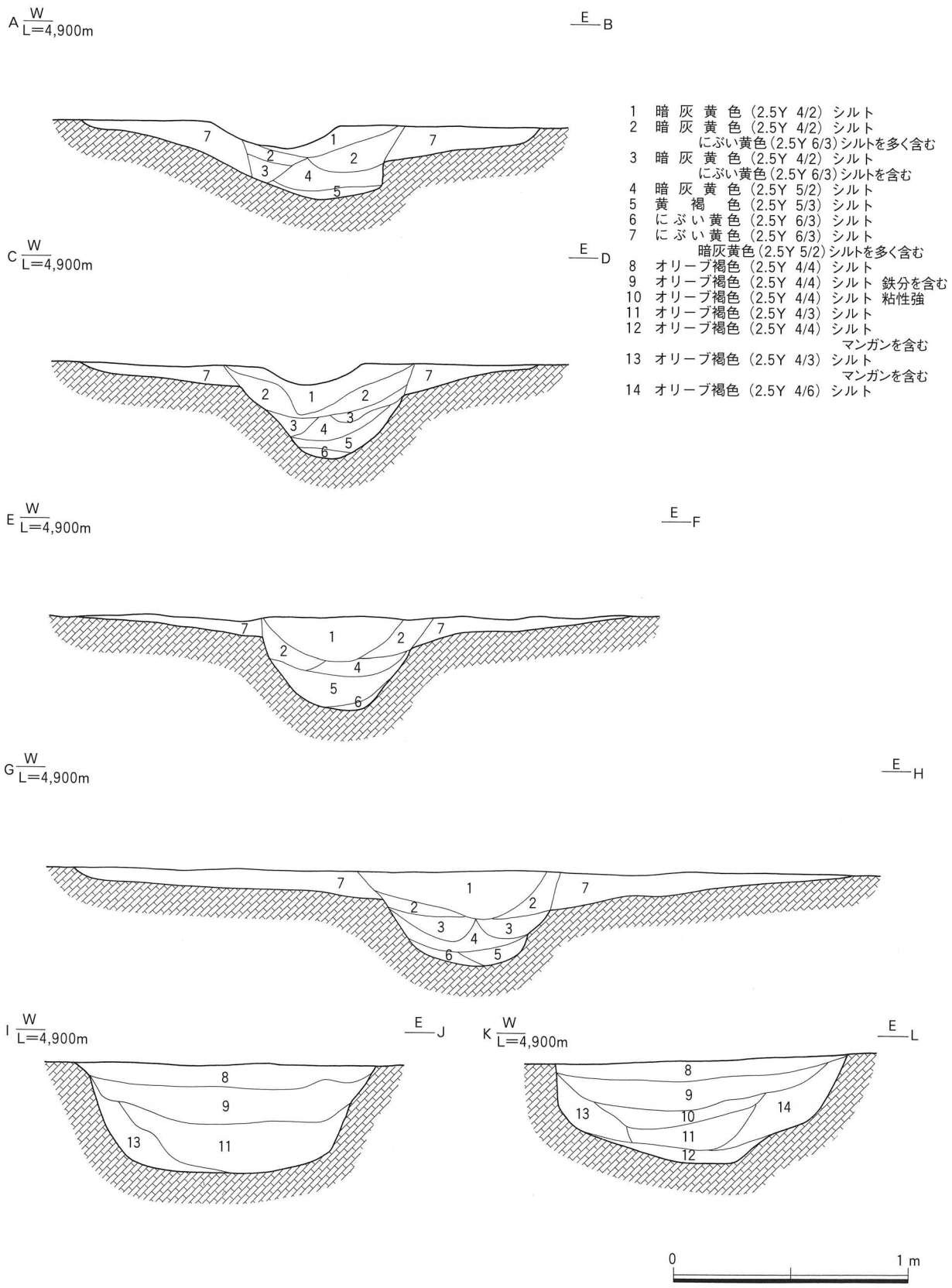
第910図　SD3074 遺物出土状況図（2）



第911図　SD3074 出土遺物（1）

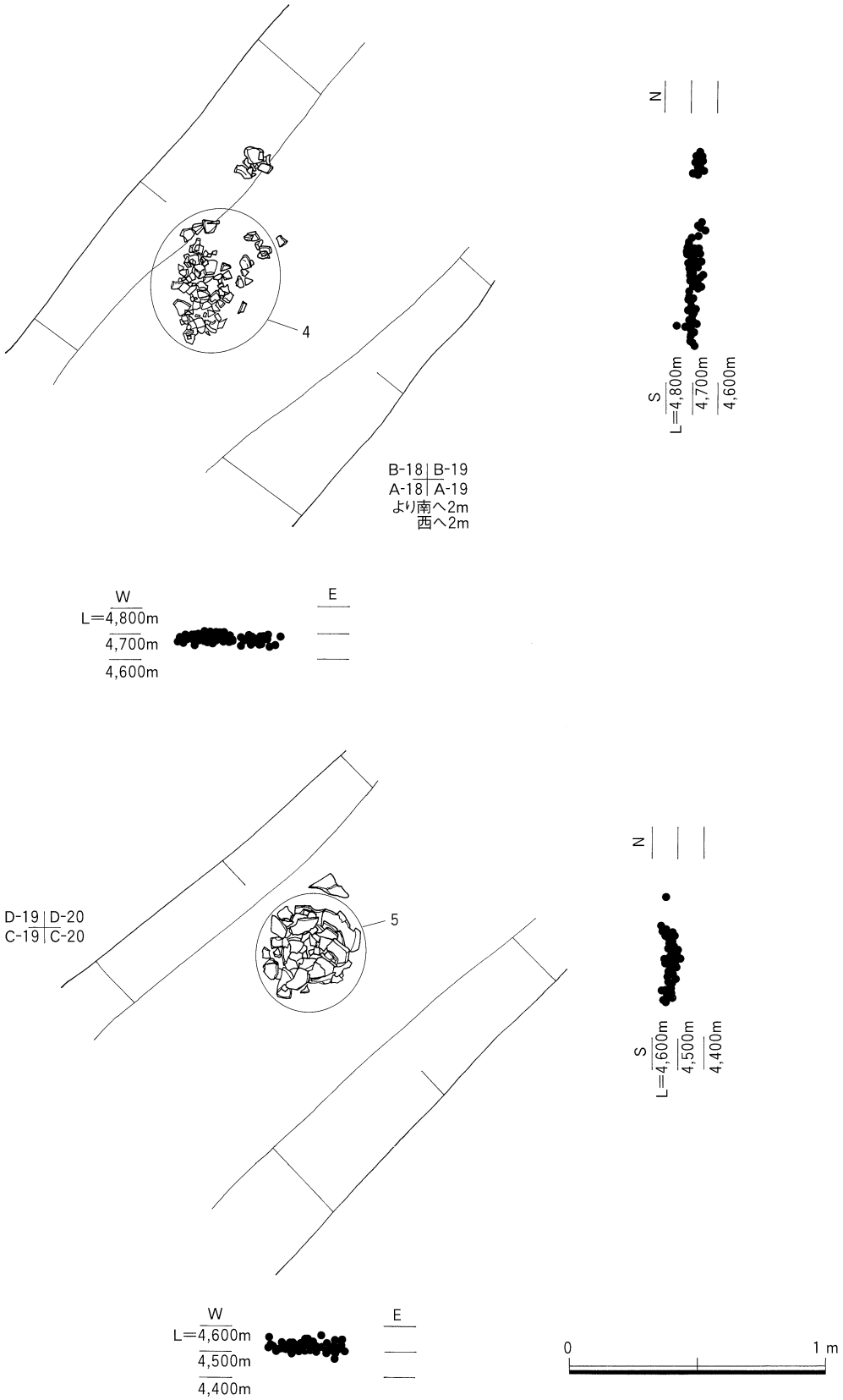


第912図　SD3074 出土遺物（2）

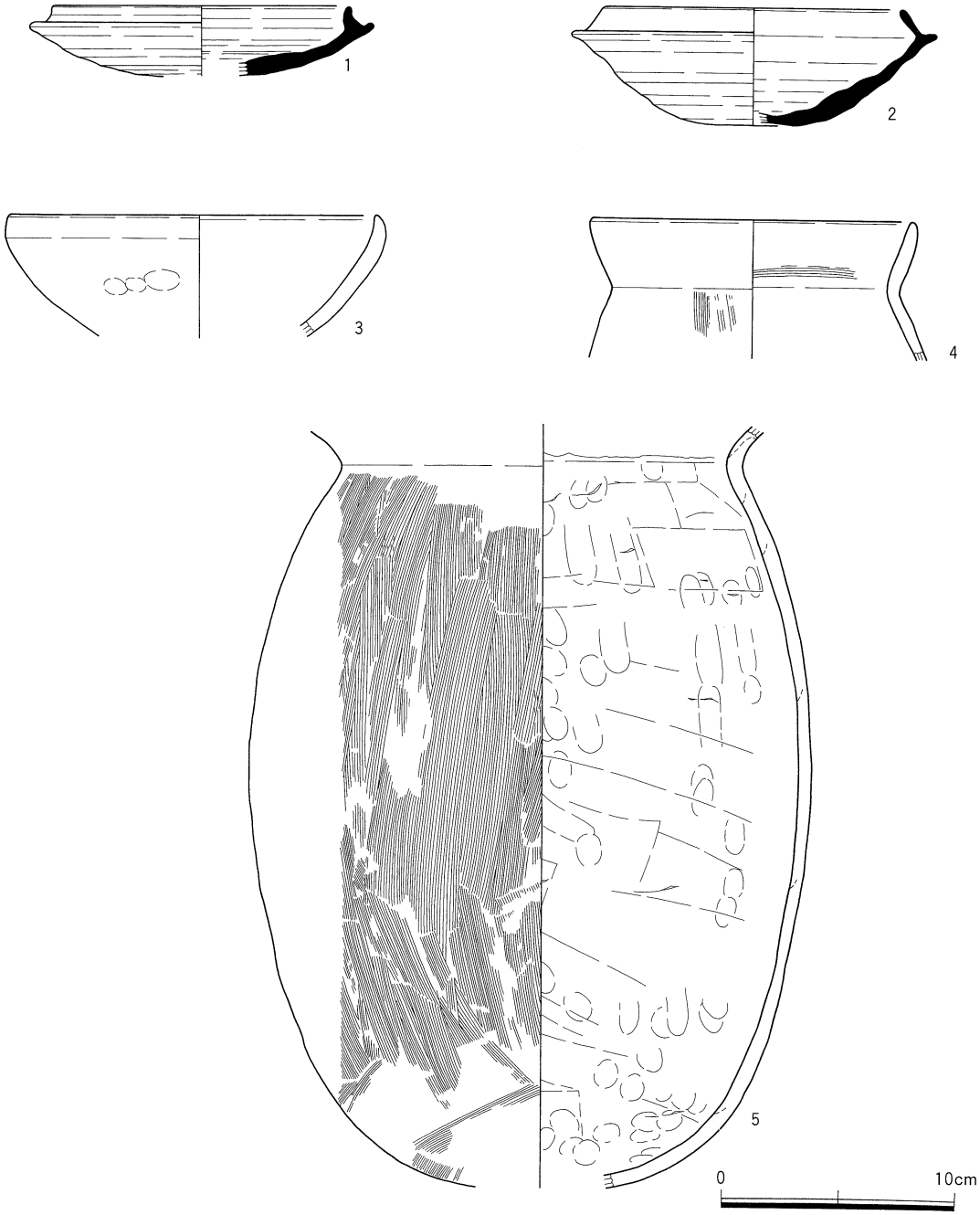


1　暗 灰 黄 色（2.5Y 4/2）シルト
2　暗 灰 黄 色（2.5Y 4/2）シルト
　　にぶい黄色（2.5Y 6/3）シルトを多く含む
3　暗 灰 黄 色（2.5Y 4/2）シルト
　　にぶい黄色（2.5Y 6/3）シルトを含む
4　暗 灰 黄 色（2.5Y 5/2）シルト
5　黄 褐 色（2.5Y 5/3）シルト
6　にぶい黄色（2.5Y 6/3）シルト
7　にぶい黄色（2.5Y 6/3）シルト
　　暗灰黄色（2.5Y 5/2）シルトを多く含む
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト 鉄分を含む
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト 粘性強
11　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
12　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）シルト
　　マンガンを含む
13　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト
　　マンガンを含む
14　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）シルト

第913図　SD3079 断面図



第914図　SD3079 遺物出土状況図



第915図　SD3079 出土遺物

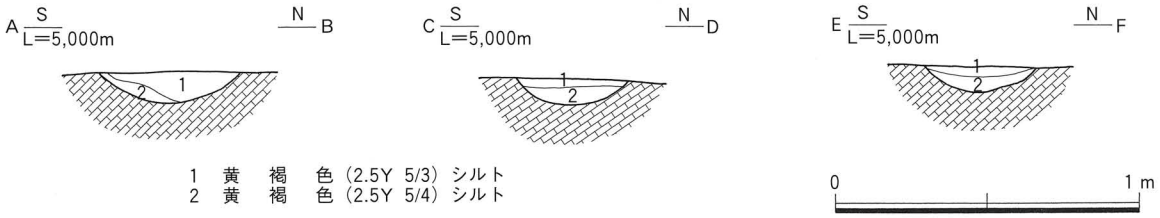
を呈している。

土層　14層に分層される。

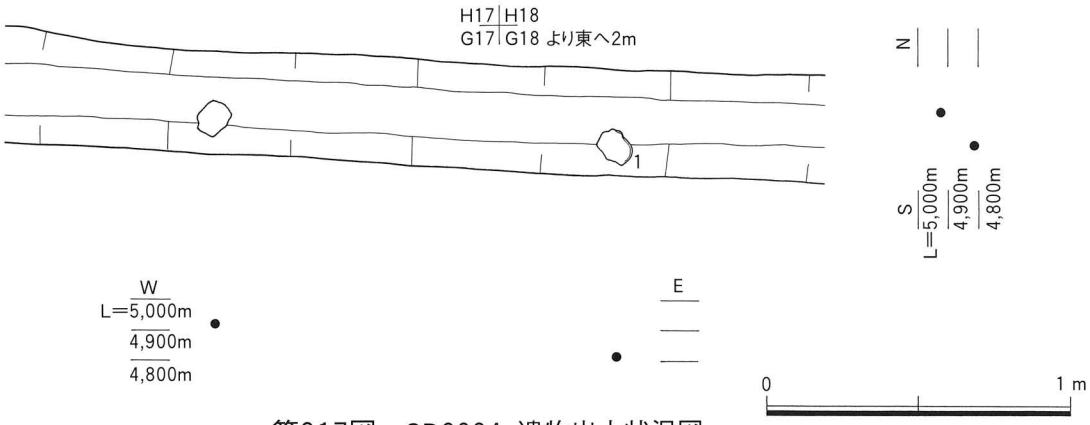
遺物出土状況　Loc.G 1・εⅡ・A18およびC20グリッドからまとまって出土している。

出土遺物　1・2は須恵器の杯身である。3は土師器の杯である。4・5は土師器の甕である。

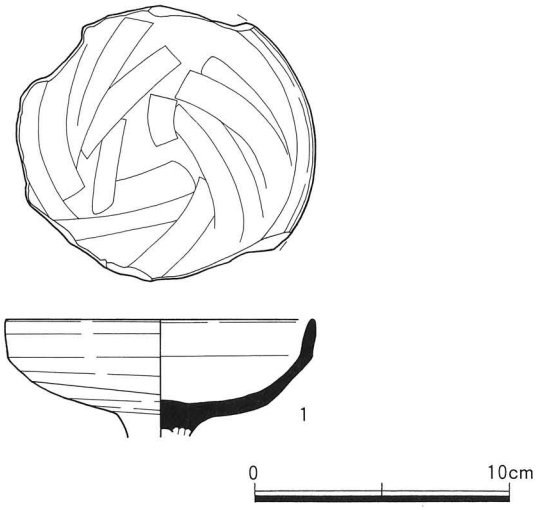
時期　出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。



第916図　SD3084 断面図



第917図　SD3084 遺物出土状況図



第918図　SD3084 出土遺物

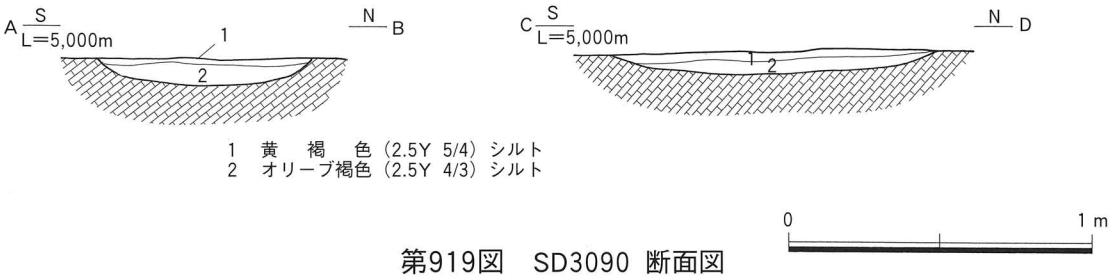
84号溝（SD3084）（第916～918図）

検出場所　2003年調査４－３区

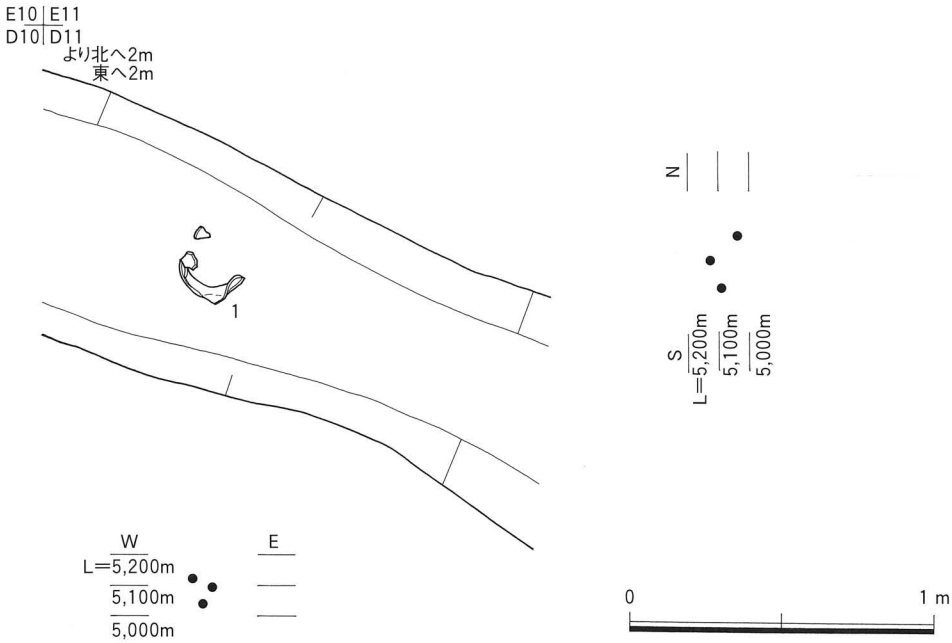
形態・規模　東西方向に向いており、残存する延長距離は21.30m、幅は0.55m、深さは0.10mを測る。

土層　２層に分層される。

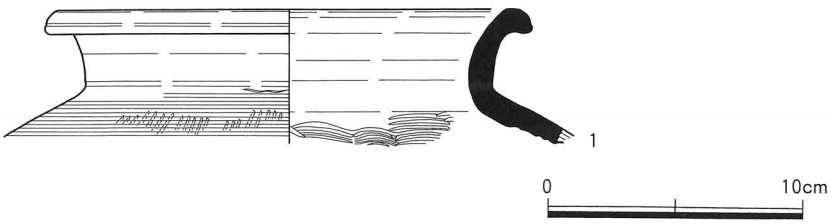
遺物出土状況　Loc.G１・εⅡ・G18グリッドから遺物が出土している。



第919図　SD3090 断面図



第920図　SD3090 遺物出土状況図



第921図　SD3090 出土遺物

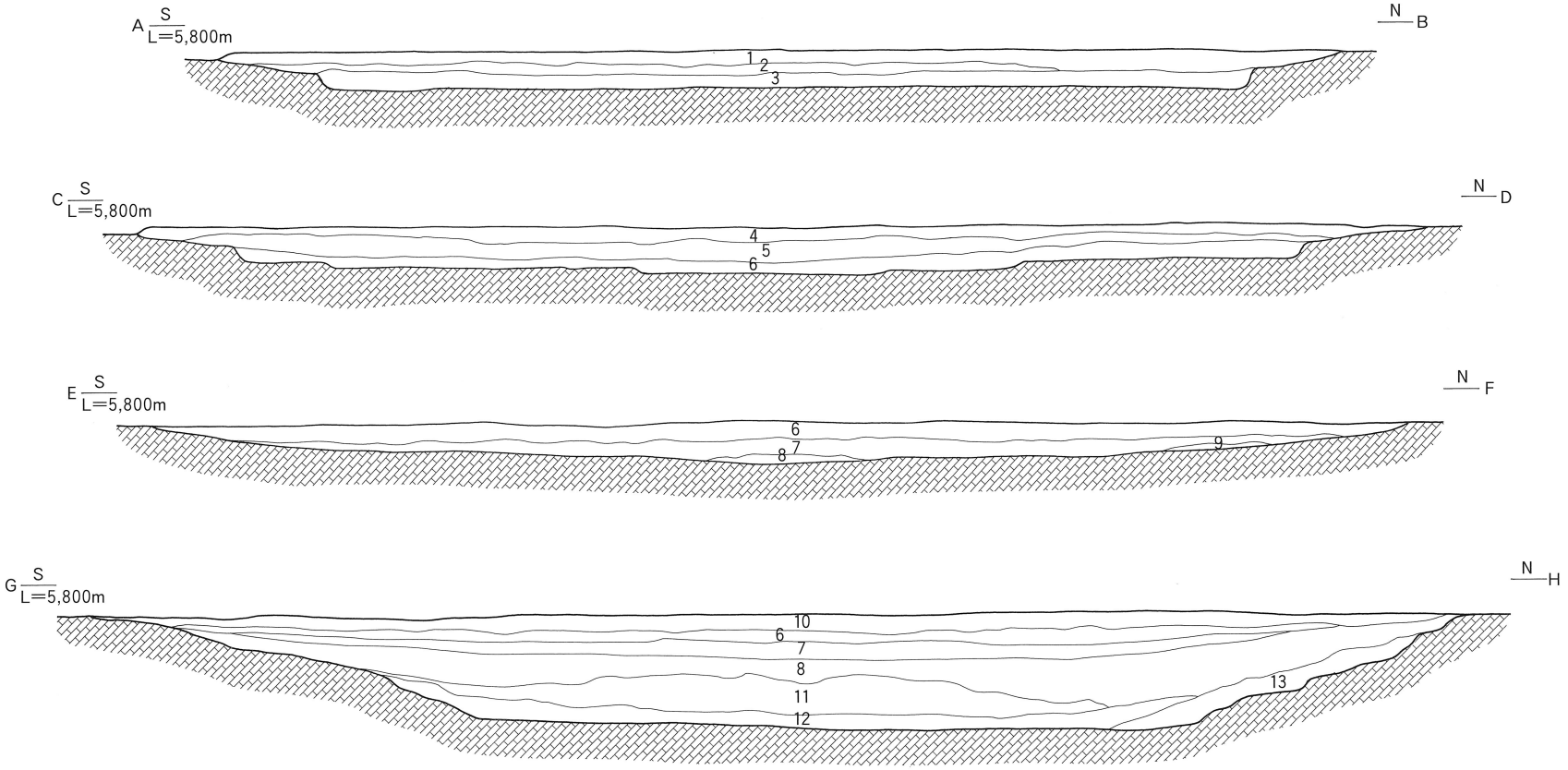
出土遺物　1は須恵器の高杯である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期以後と考えられる。

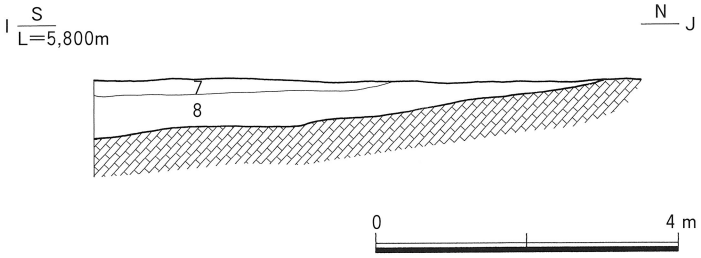
90号溝（SD3090）（第919～921図）

検出場所　2003年調査３－３区

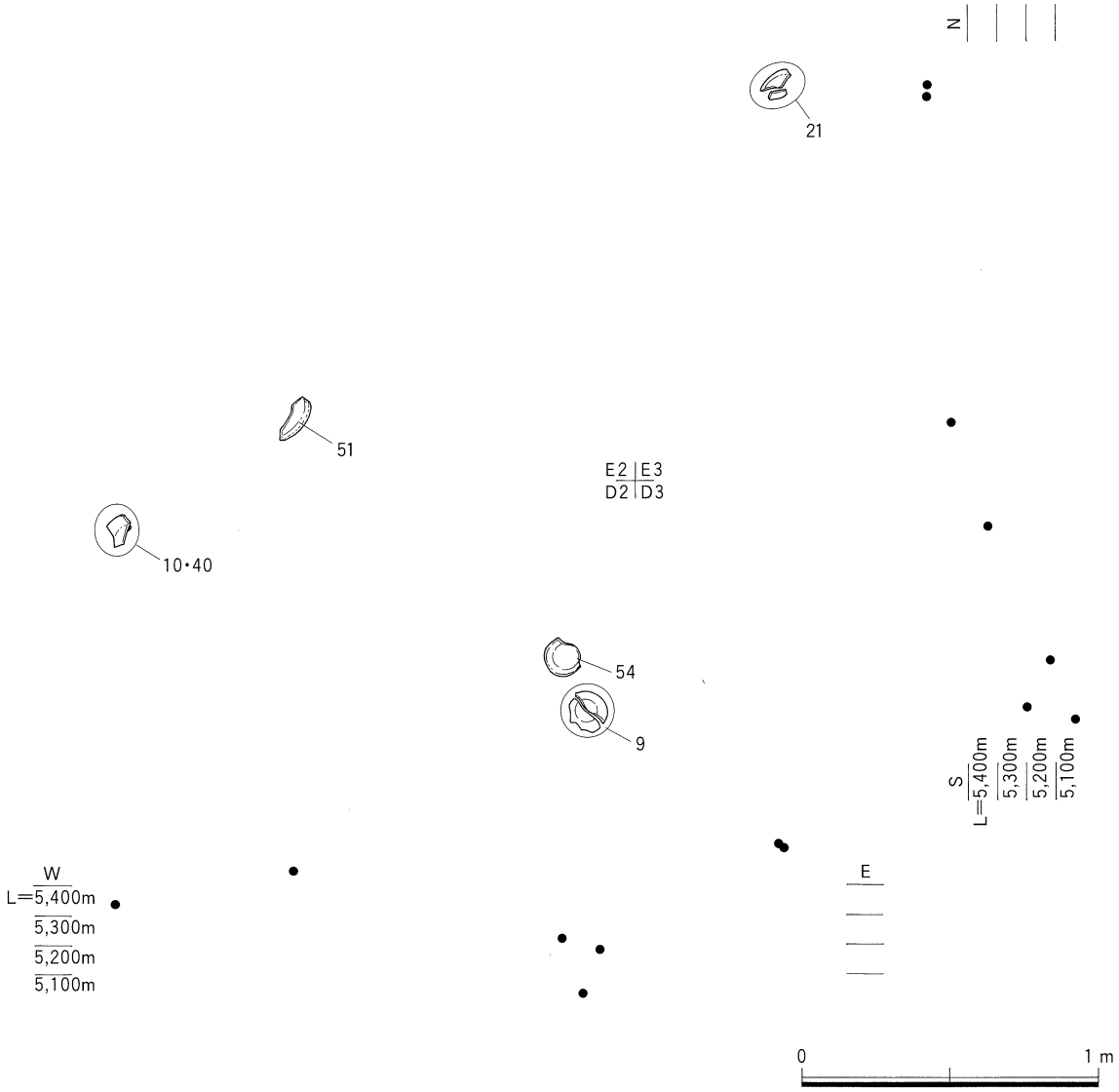
形態・規模　南東から北西方向を向いており、残存する延長距離は3.90m、幅は1.00m、深さは0.09mを測る。断面形状は浅い皿状である。



1　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘質土
2　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粘質土
3　黄　褐　色（2.5Y 5/4）粘質土
4　黄　褐　色（2.5Y 5/3）粘性砂質土
5　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土
6　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）砂質土
7　暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）砂質土
8　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土　マンガン含む
9　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土　粘性あり
10　オリーブ褐色（2.5Y 4/4）砂質土
11　暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細砂まじりの砂質土
12　オリーブ褐色（2.5Y 4/6）粘性砂質土　しまりあり
13　オリーブ褐色（2.5Y 4/3）砂質土　粘性弱　しまり弱



第922図　SR3001 断面図



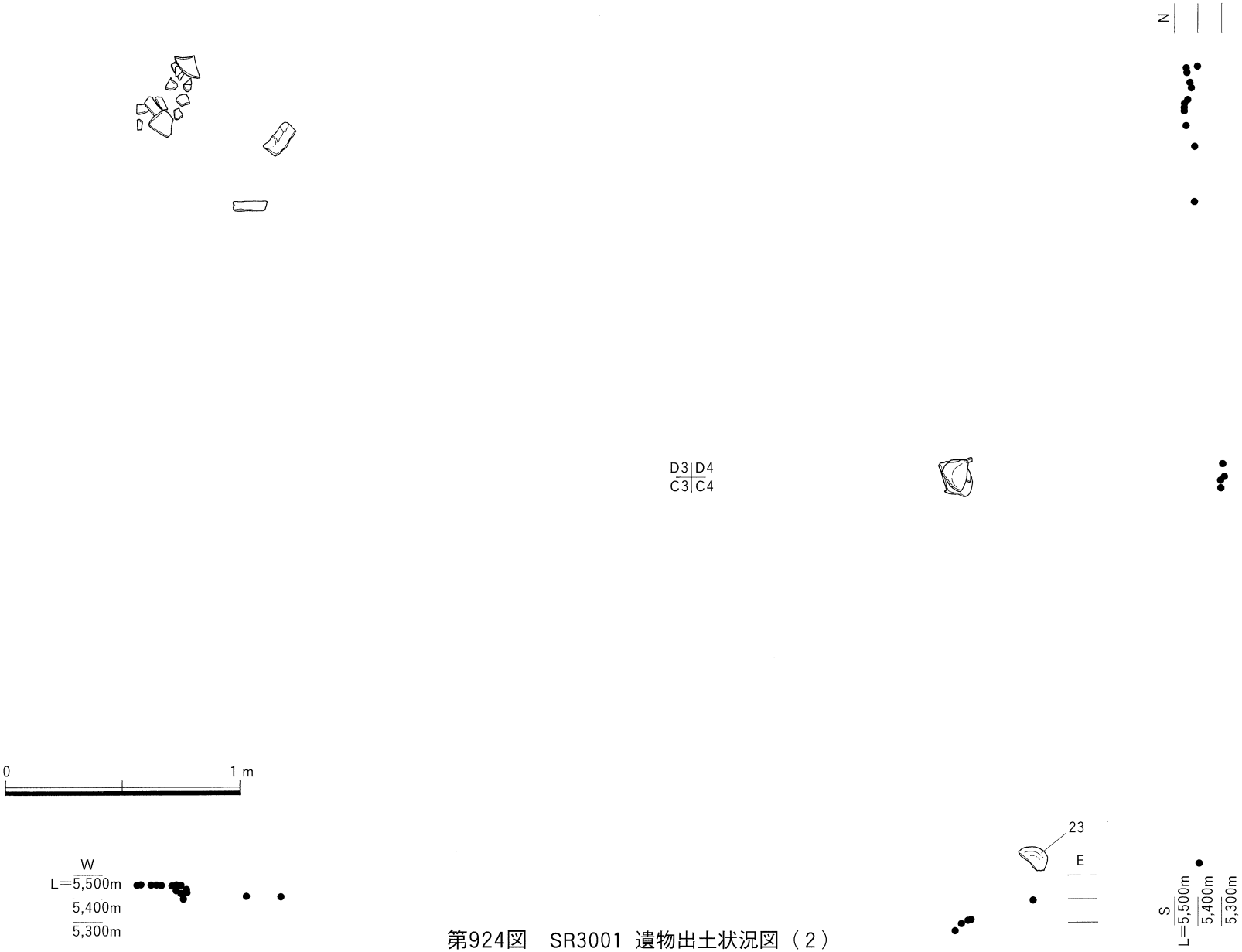
第923図　SR3001 遺物出土状況図（1）

土層　2層に分層される。

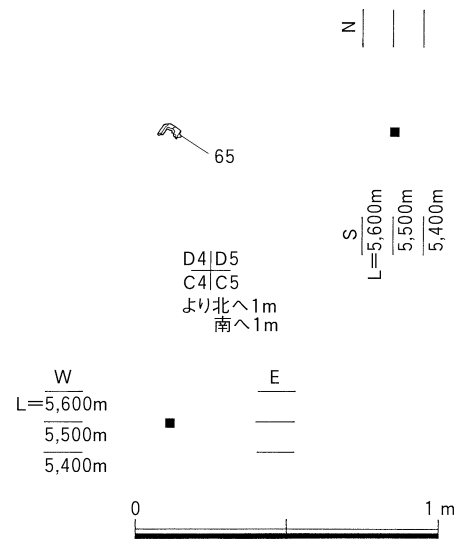
遺物出土状況　Loc.G 1 ・γII ・E11グリッドから遺物が出土している。

出土遺物　1は須恵器の甕である。

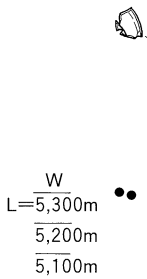
時期　出土した遺物から平安時代以降と考えられる。



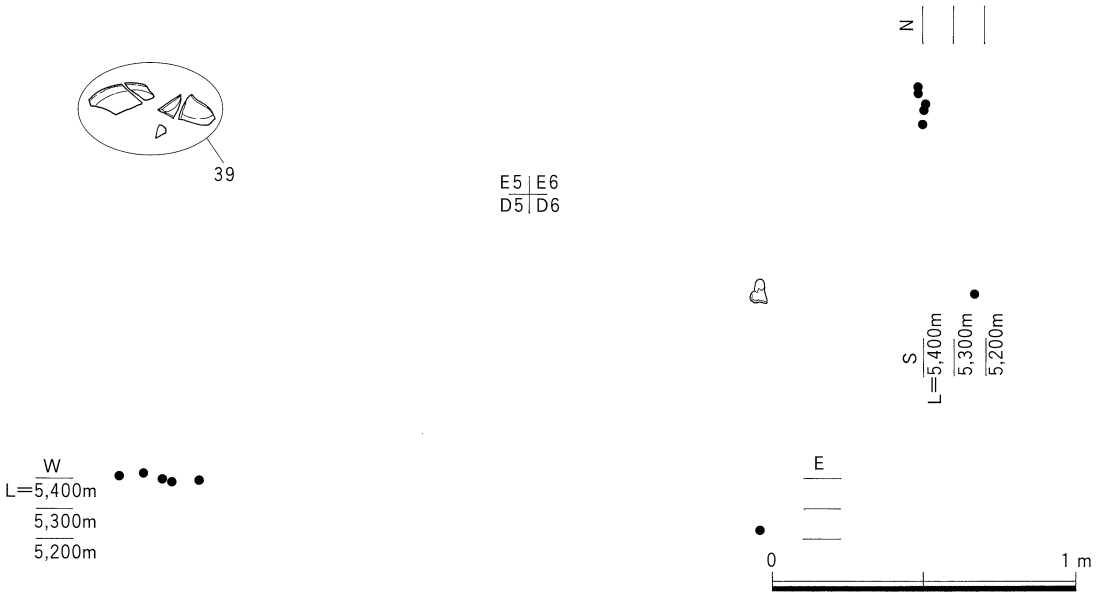
第924図　SR3001 遺物出土状況図（2）



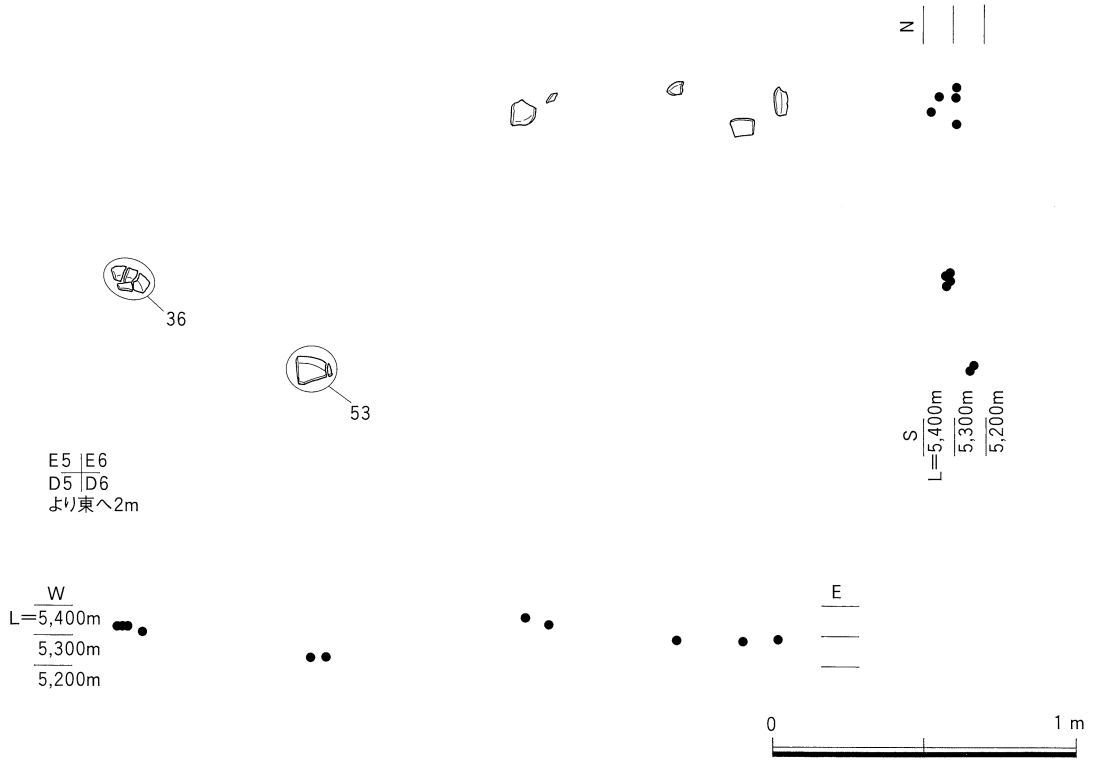
第925図　SR3001 遺物出土状況図（3）



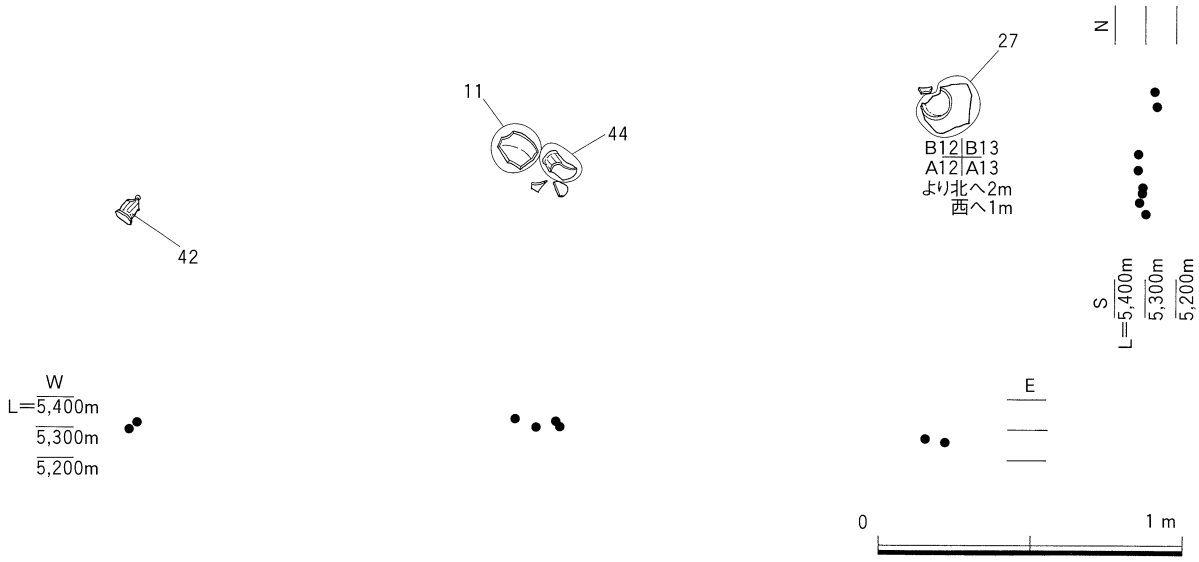
第926図　SR3001 遺物出土状況図（4）



第927図　SR3001 遺物出土状況図（5）



第928図　SR3001 遺物出土状況図（6）



第929図　SR3001 遺物出土状況図（７）

⑨　自然流路

１号自然流路（SR3001）（第922～938図）

検出場所　1998年調査６区・1999年調査４区

形態・規模　東西方向に向いており、残存する延長距離は74.40m、幅は22.70m、深さは0.84mを測る。

土層　13層に分層される。

遺物出土状況　遺物の分布状況は散漫で、小規模なまとまりが点在していた。

出土遺物　１～６は須恵器の蓋である。７～16は須恵器の杯である。17は須恵器の高杯である。18～21は須恵器の皿である。22～29は須恵器の壺である。30は須恵器の甕である。31～38は土師器の杯である。39～46は土師器の高杯である。47～55は土師器の皿である。56は土師器の壺である。57、58は土師器の甕である。59は土師器の甑である。60は甕か甑の把手部分。61・62は竈である。63は土錘である。64は泥質片岩の敲石である。65は用途不明の鉄器である。66は鉄製の鎌である。67は鉄鏃である。68・69は釘である。70は土師器の皿に文字が刻書されたものである。「井上郷」「川人」などが読める。71～75は土師器の内外面に刻書が施されたものである。

時期　出土した遺物から奈良～平安時代と考えられる。

⑩　土器溜まり

土器溜まり No.１（第939・940図）

検出場所　1998年調査６区・Loc.G１・αⅢ・P15グリッド

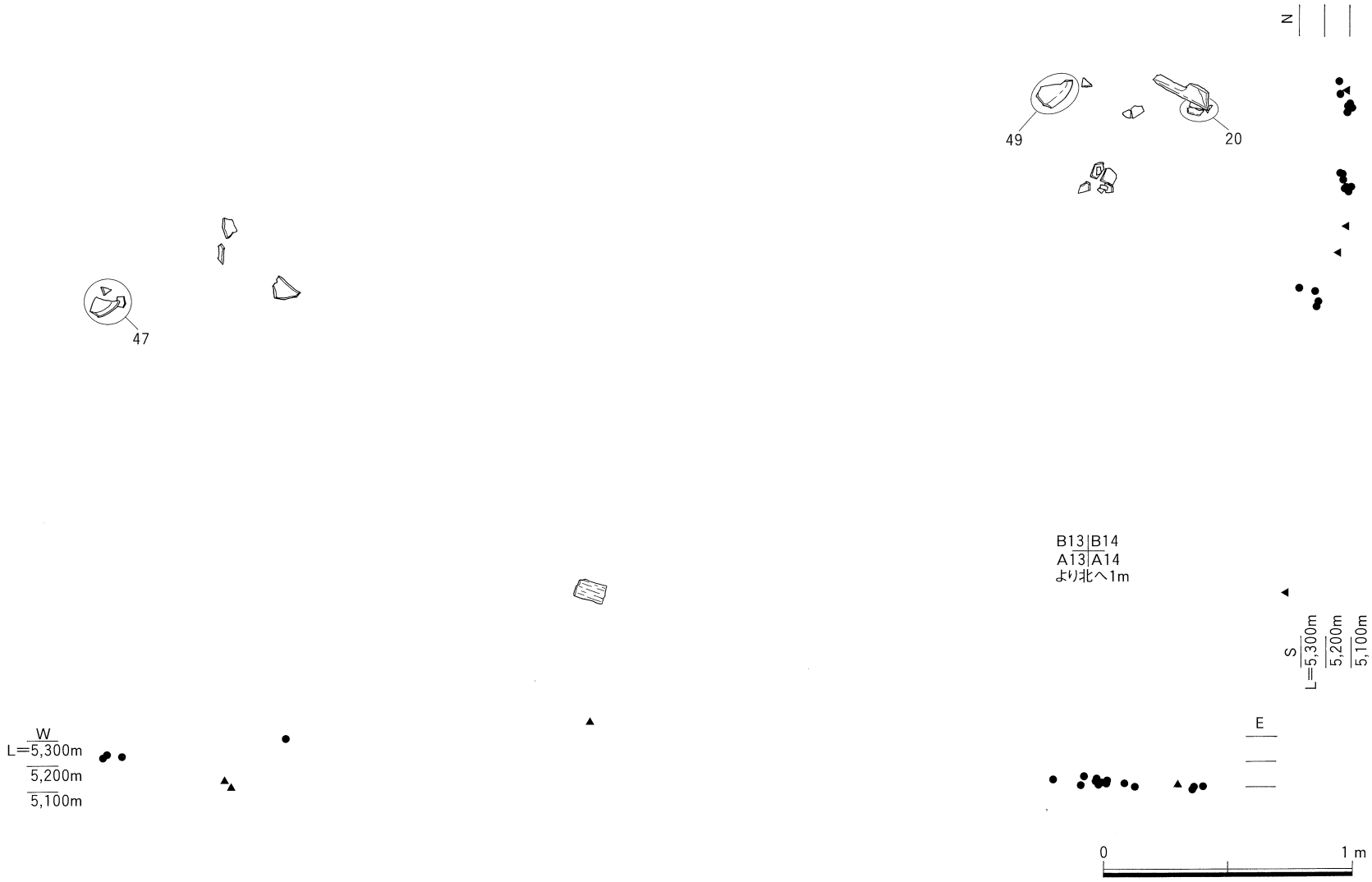
規模・遺物出土状況　約１m四方に拡がる小規模な土器溜まりである。

出土遺物　１は須恵器の壺である。

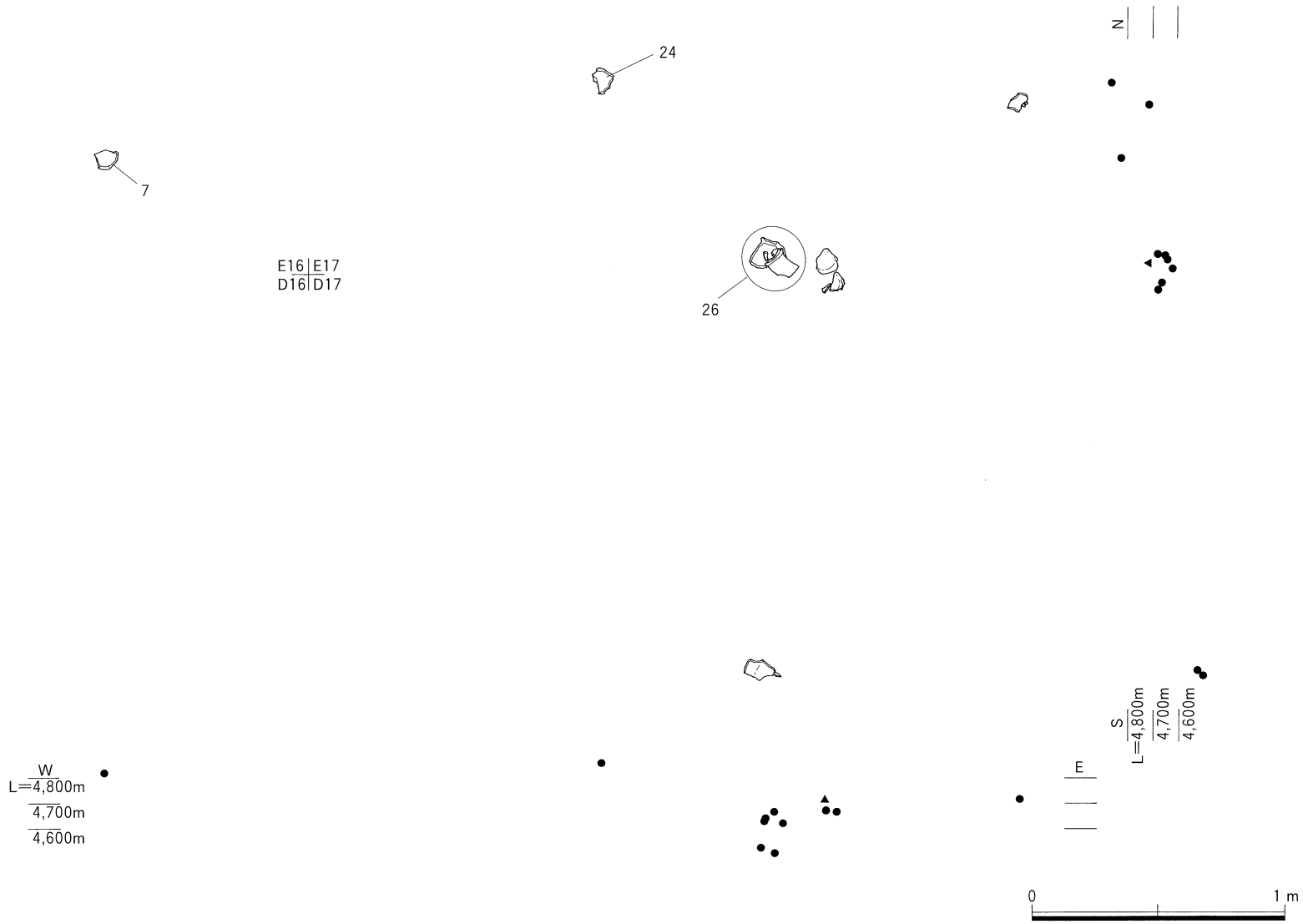
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No.２（第941・942図）

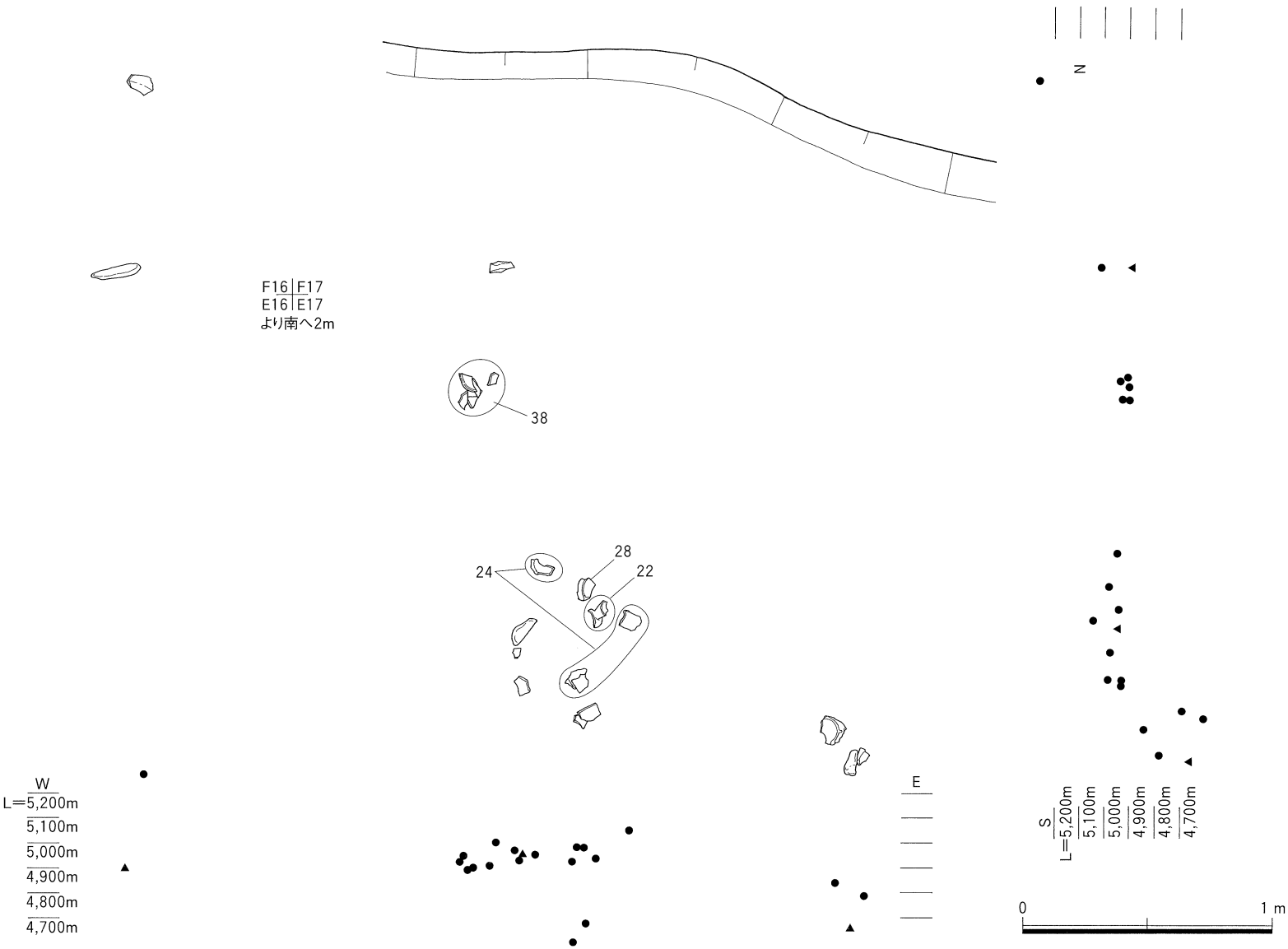
検出場所　1998年調査６区・Loc.G１・αⅢ・S10・11・T10・11グリッド



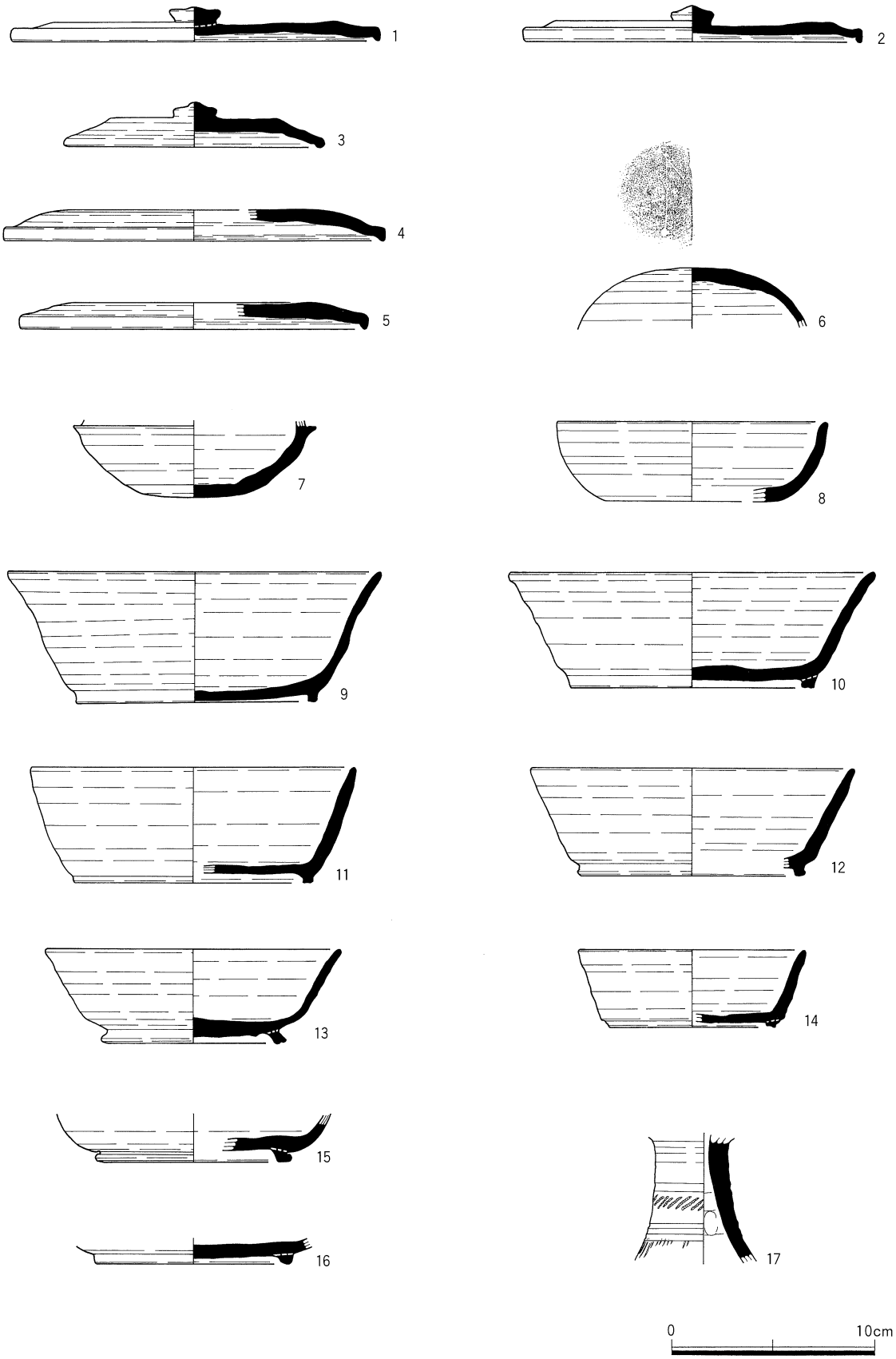
第930図　SR3001 遺物出土状況図（8）



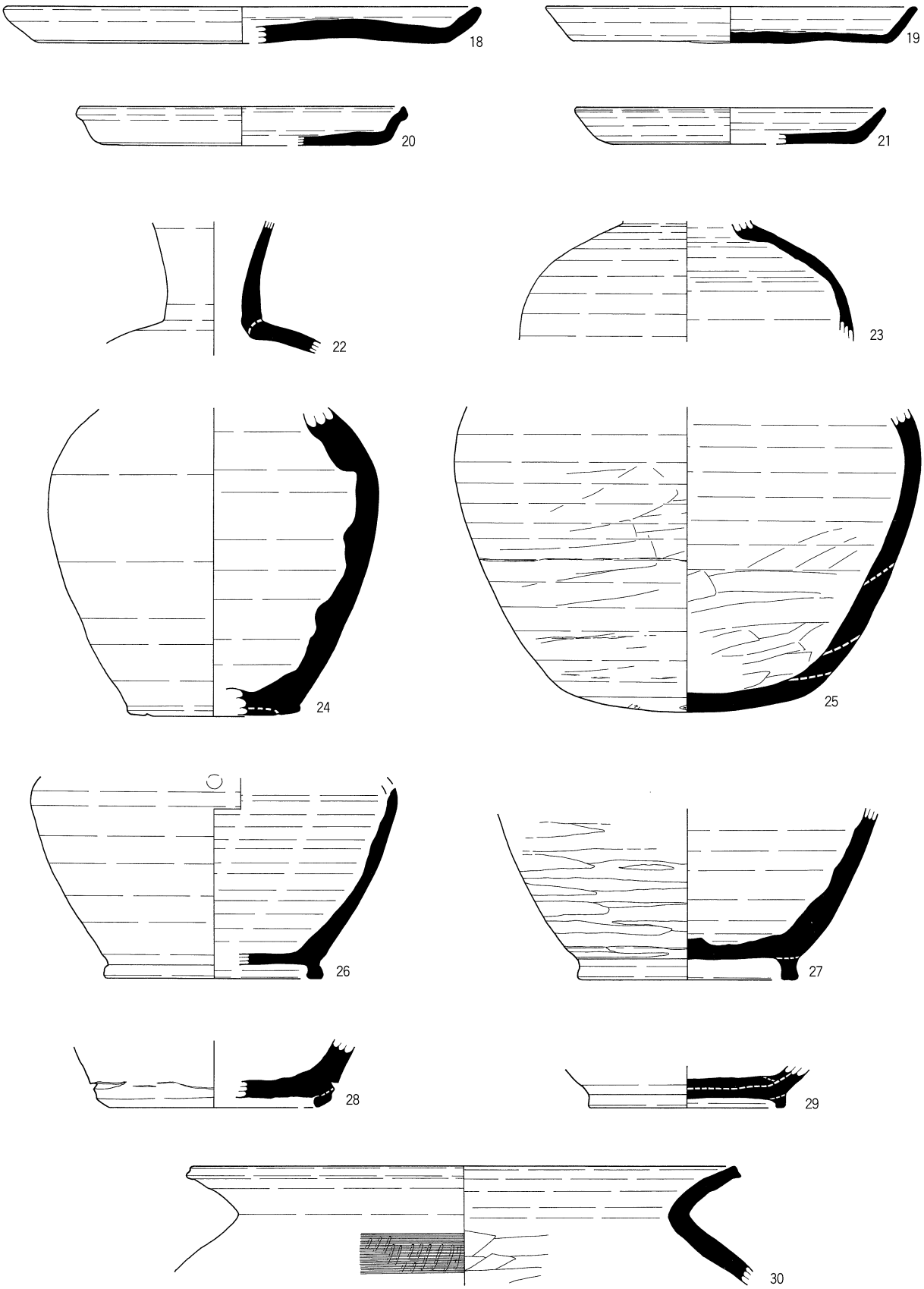
第931図　SR3001 遺物出土状況図（9）



第932図　SR3001 遺物出土状況図（10）

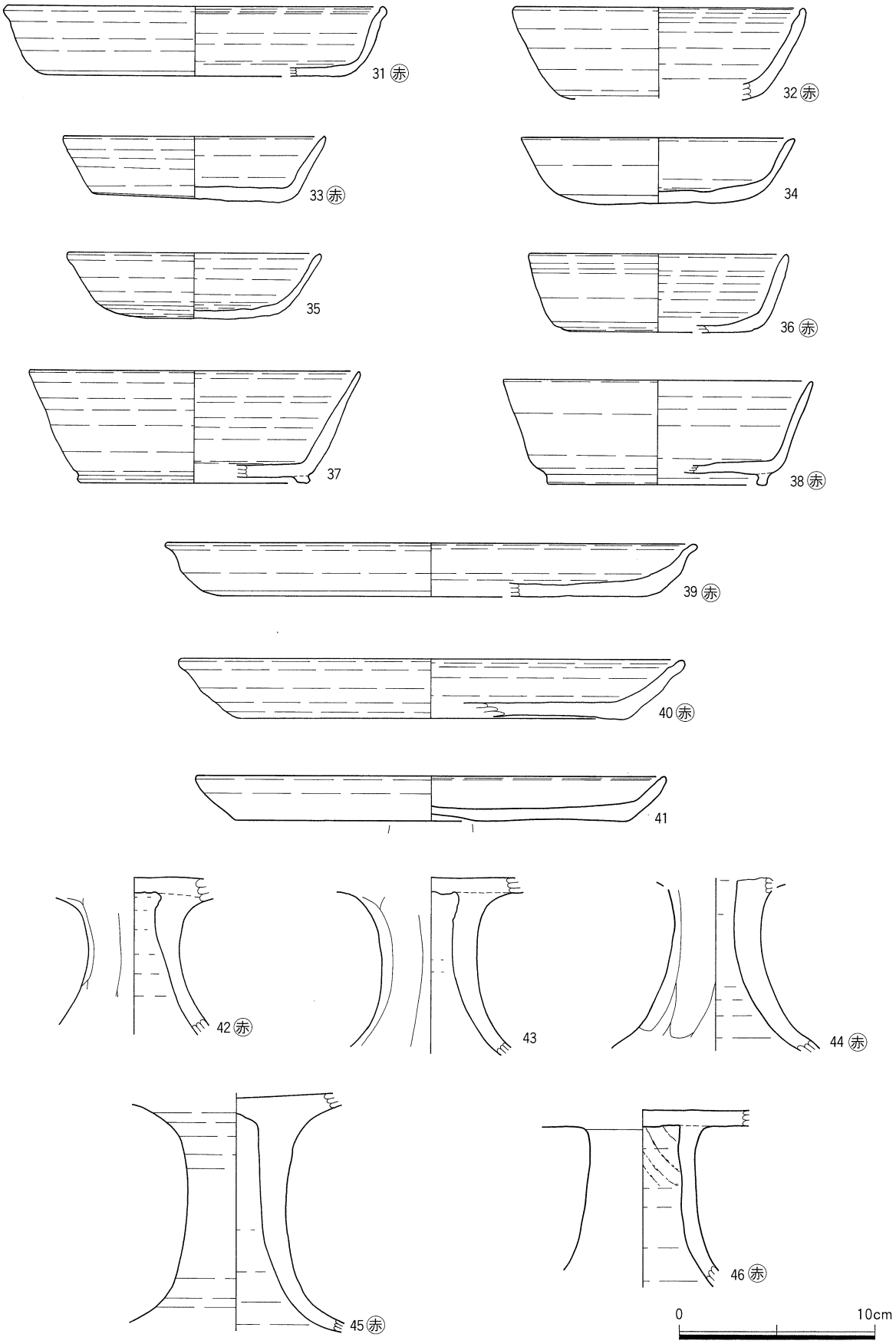


第933図　SR3001 出土遺物（1）

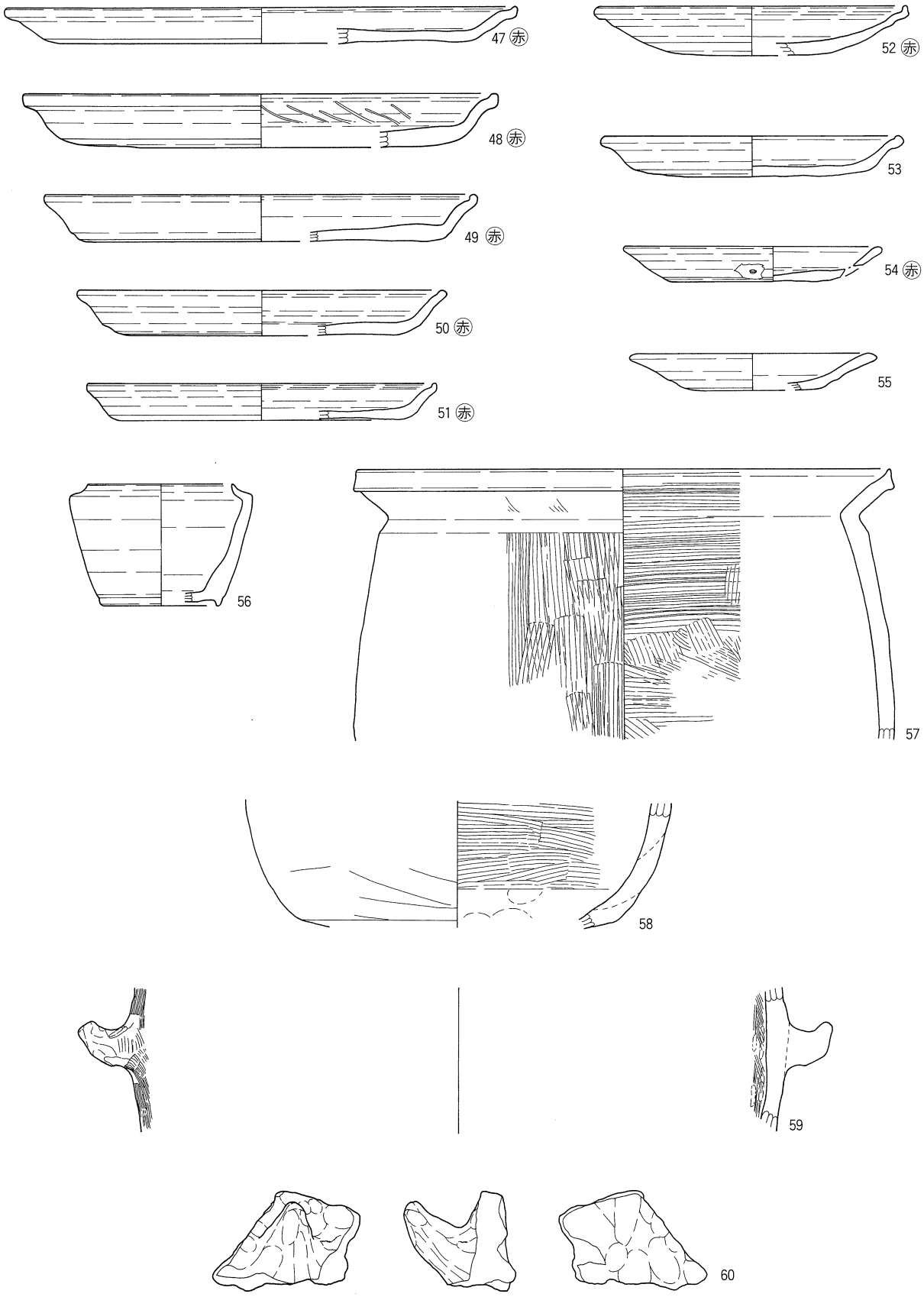


第934図　SR3001 出土遺物（2）

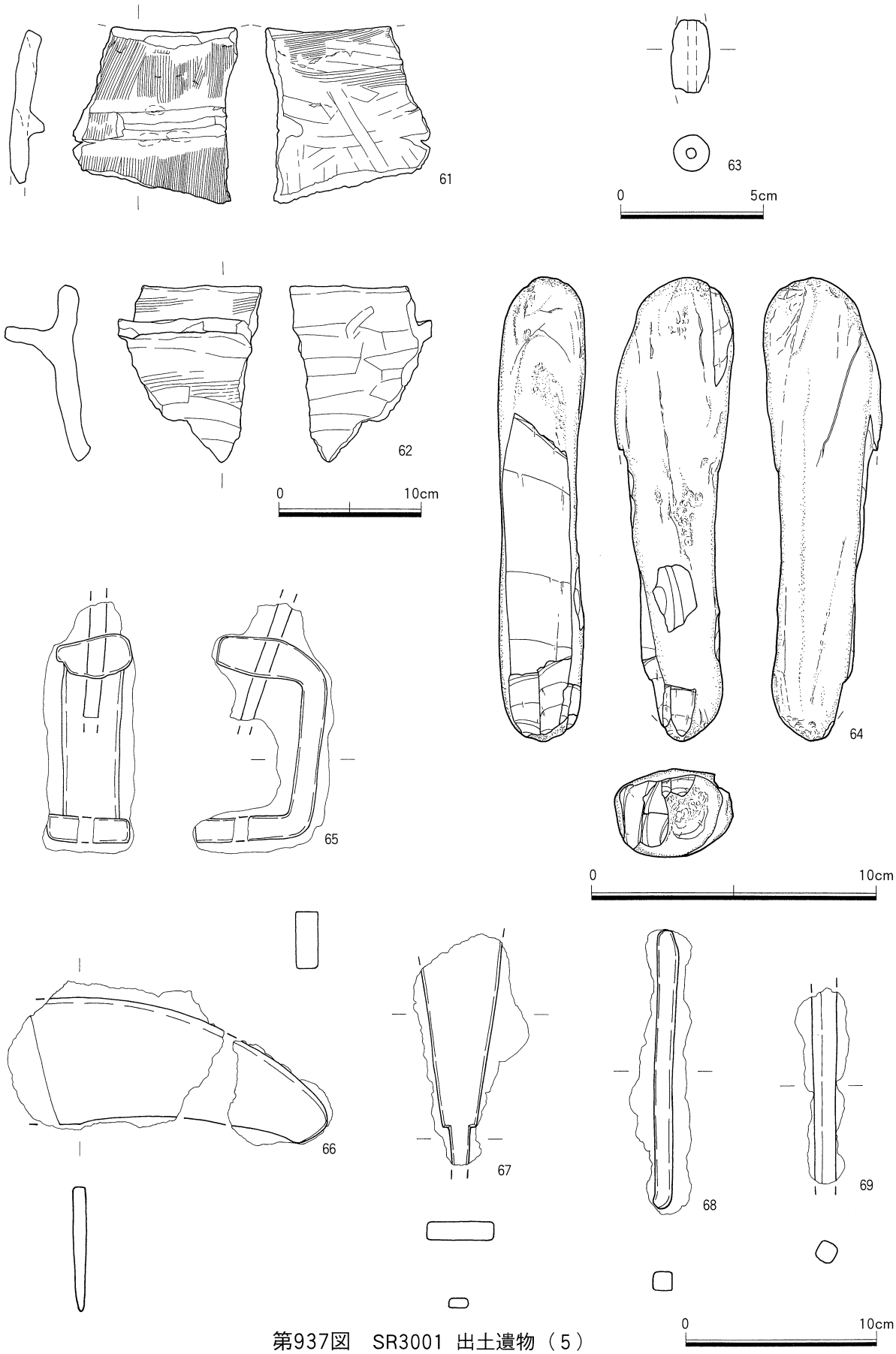
0　10cm



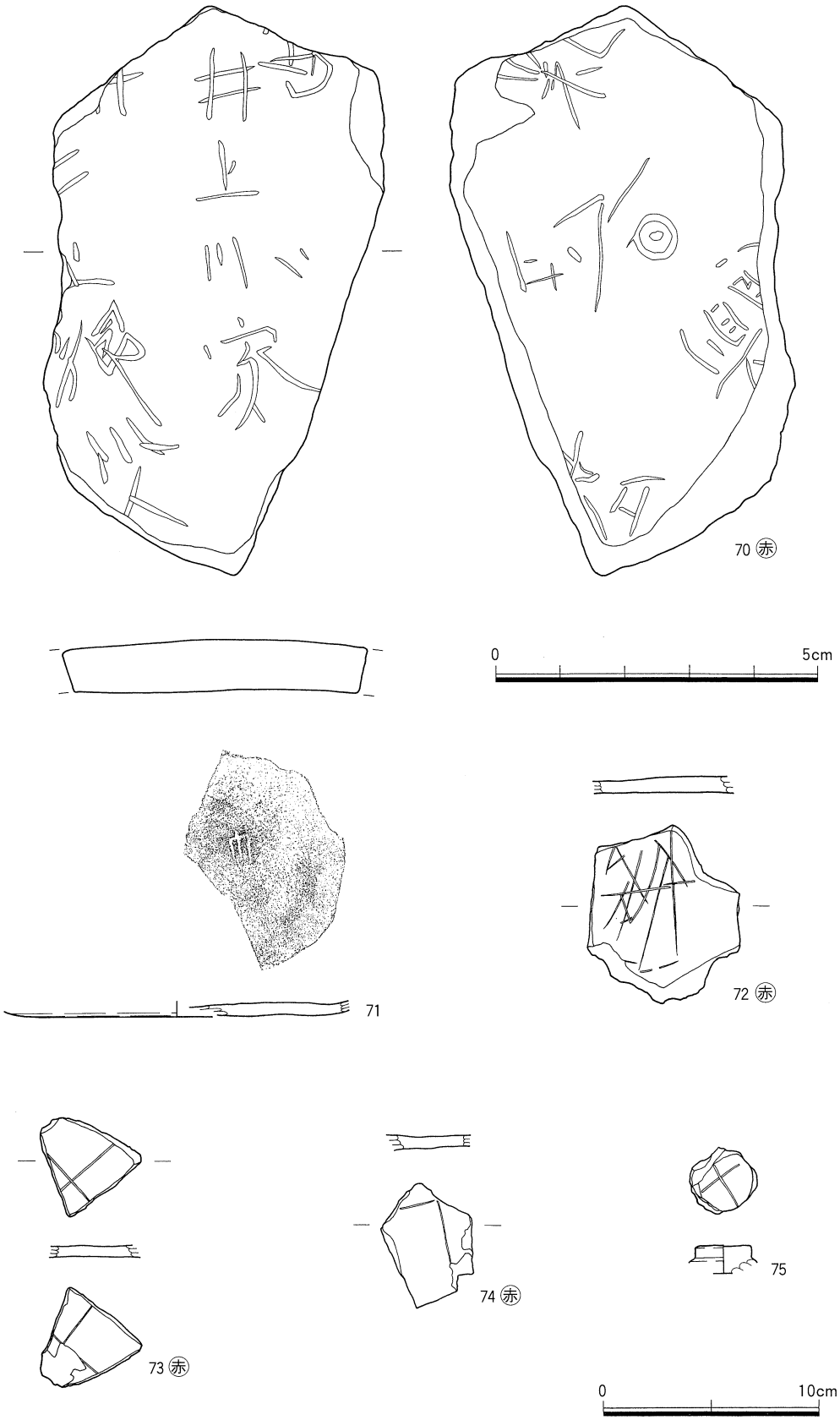
第935図　SR3001 出土遺物（3）



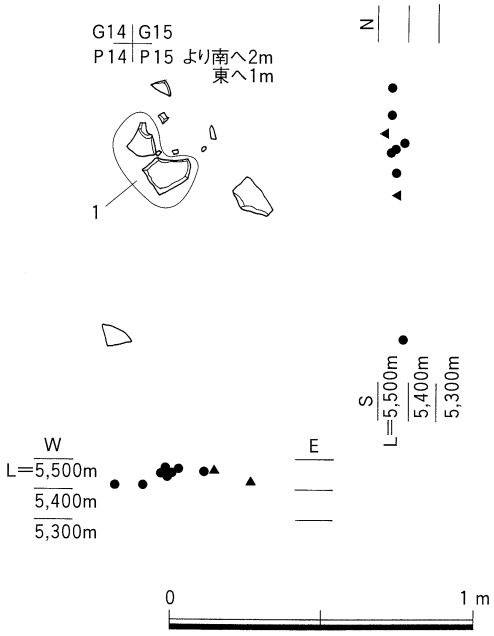
第936図　SR3001 出土遺物（4）



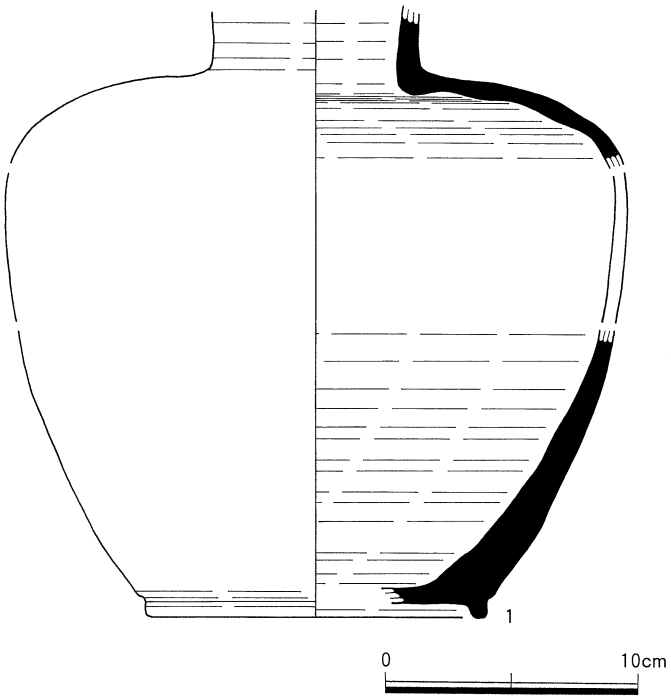
第937図　SR3001 出土遺物（5）



第938図　SR3001 出土遺物（6）



第939図　土器溜まりNo.1 平断面図



第940図　土器溜まりNo.1 出土遺物

規模・遺物出土状況　南北約１m、東西約２mの範囲に拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１は須恵器の杯蓋である。２は須恵器の杯身である。３は土師器の杯である。４は土師器の甕である。

時期　出土した遺物から古墳時代後期初頭（６世紀第１四半期・TK47並行期）と考えられる。

土器溜まり No. 3（第943～945図）

検出場所　1998年調査６区・Loc.G１・αⅢ・T14・15・βⅢ・A13・14・15グリッド

規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約６mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１・２は須恵器の蓋である。３は須恵器の壺である。４・５は土師器の杯である。６は土師器の高杯である。７は鉄製の鎌である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 4（第946・947図）

検出場所　1998年調査５－２区・Loc.G１・βⅢ・E16・17・F16・17グリッド

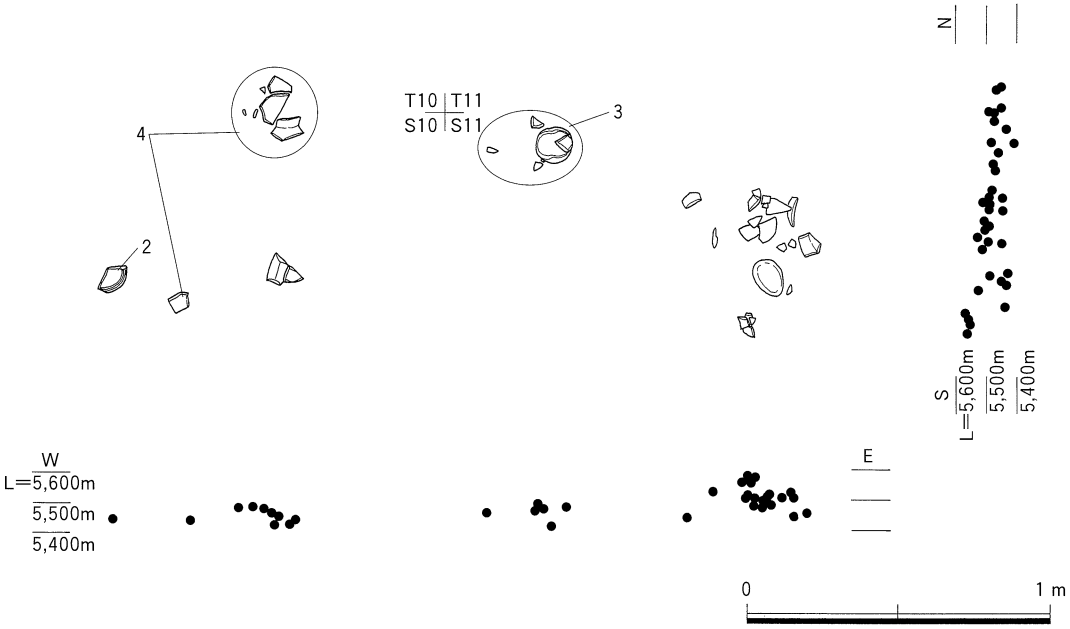
規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約１mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１は須恵器の甕である。２・３は平瓦である。４は鉄釘である。

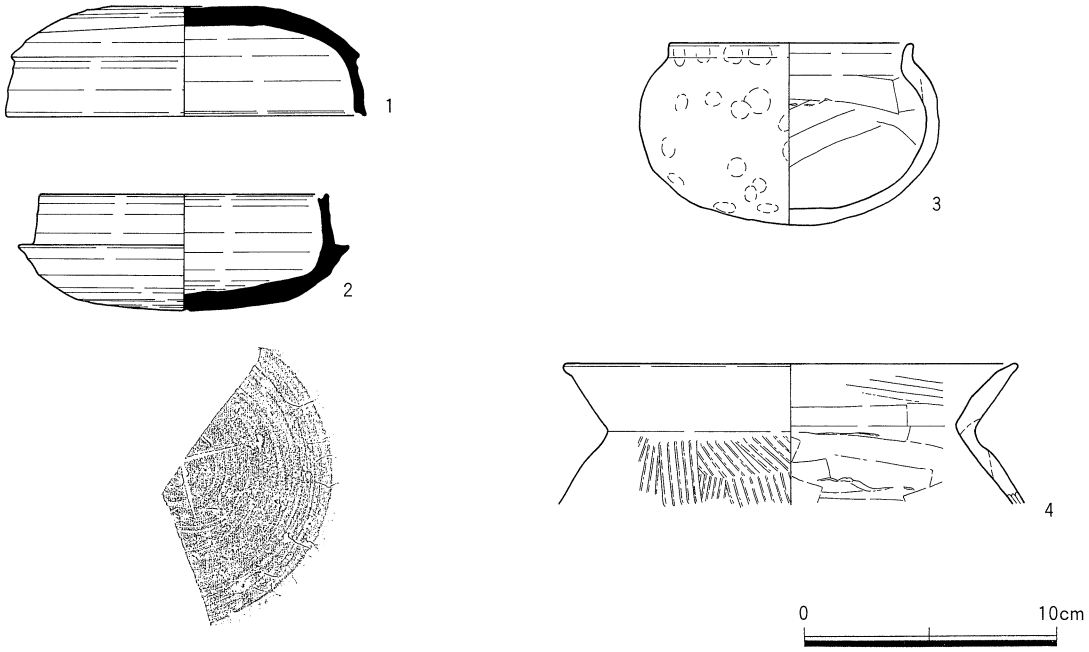
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 5（第948・949図）

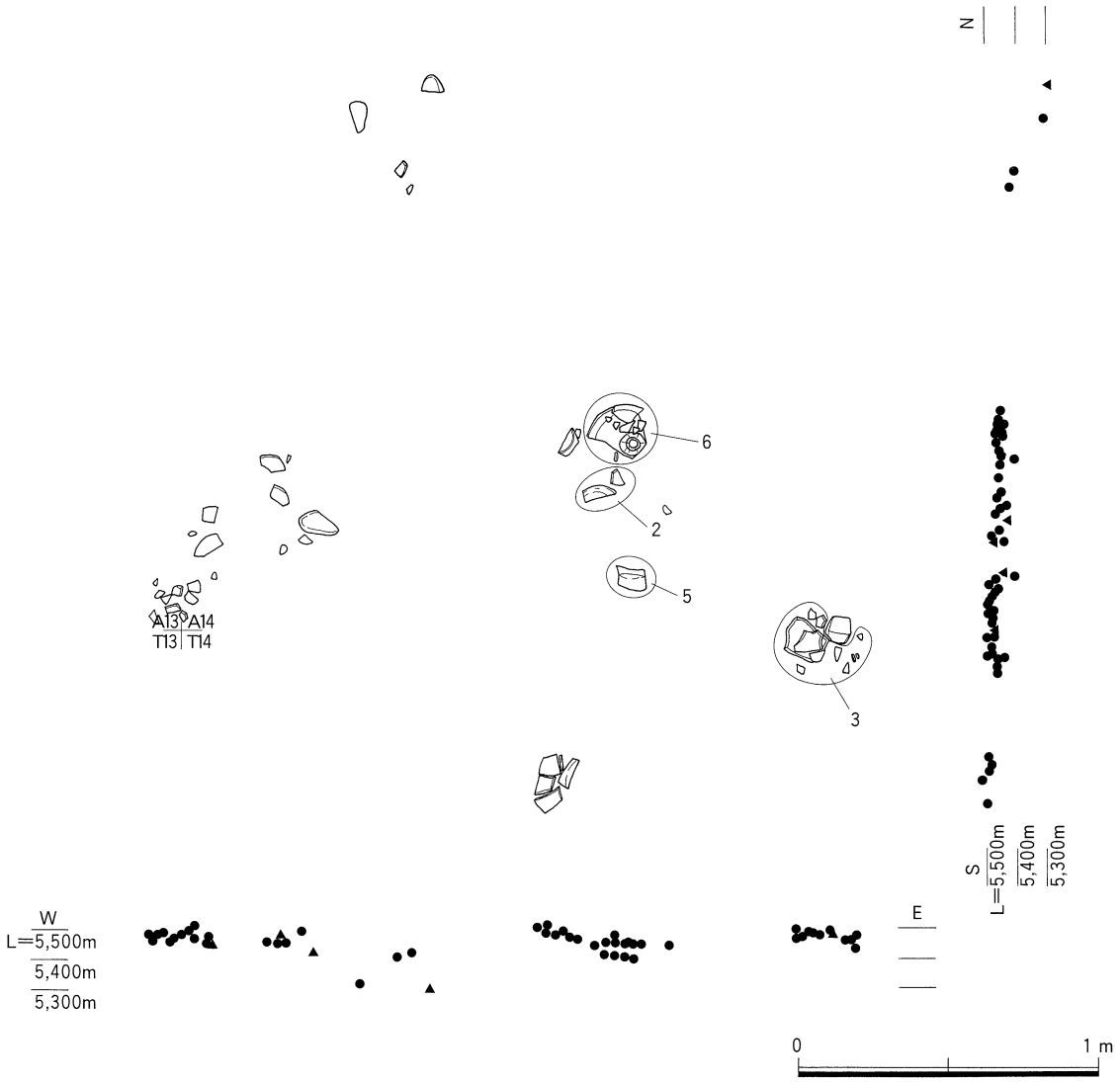
検出場所　1998年調査５－２区・Loc.G１・βⅢ・E17・18グリッド



第941図　土器溜まりNo.2 平断面図



第942図　土器溜まりNo.2 出土遺物



第943図　土器溜まりNo.3 平断面図（1）

規模・遺物出土状況　南北約1.5m、東西約２mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１は須恵器の杯。２は土錘である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

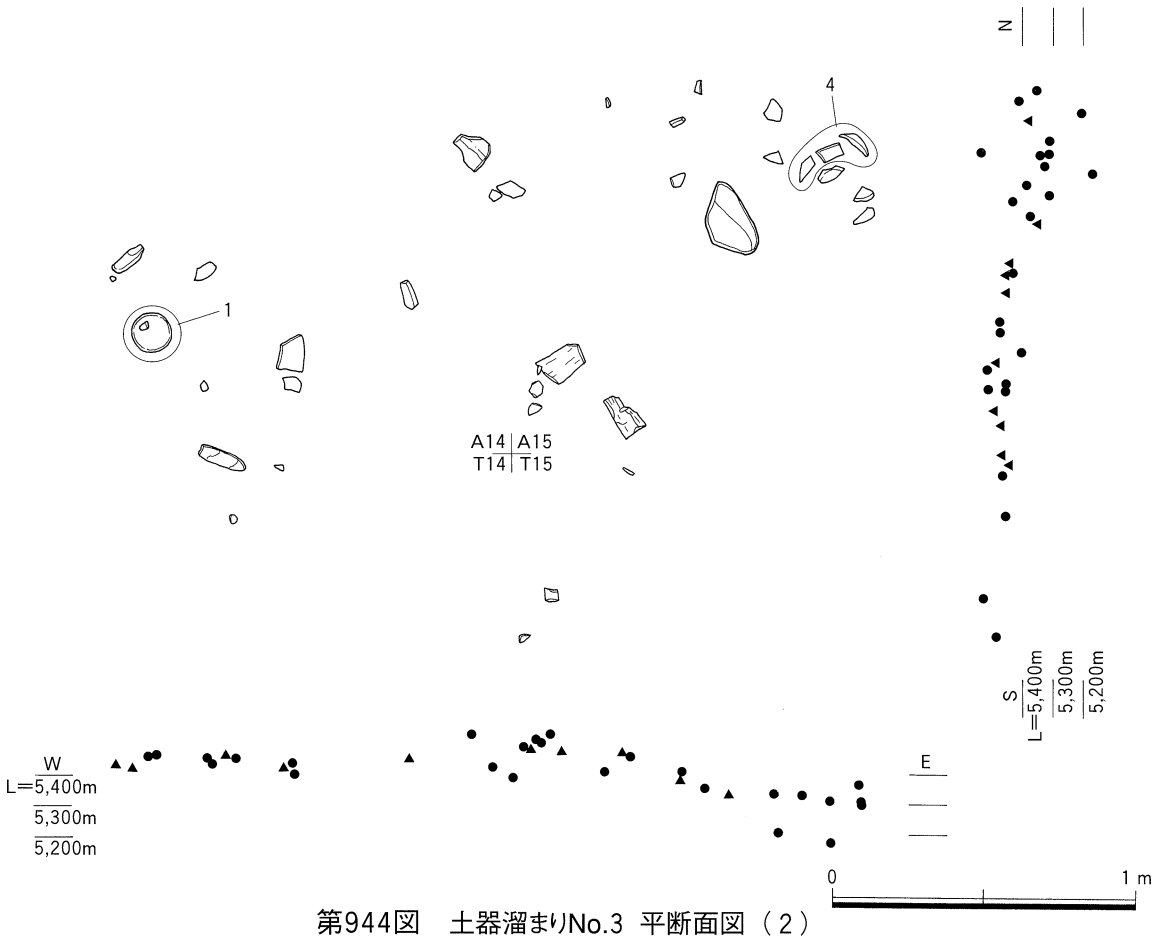
土器溜まり No. 6（第950～952図）

検出場所　2003年調査２－２区・Loc.G１・βⅢ・I４・J４グリッド

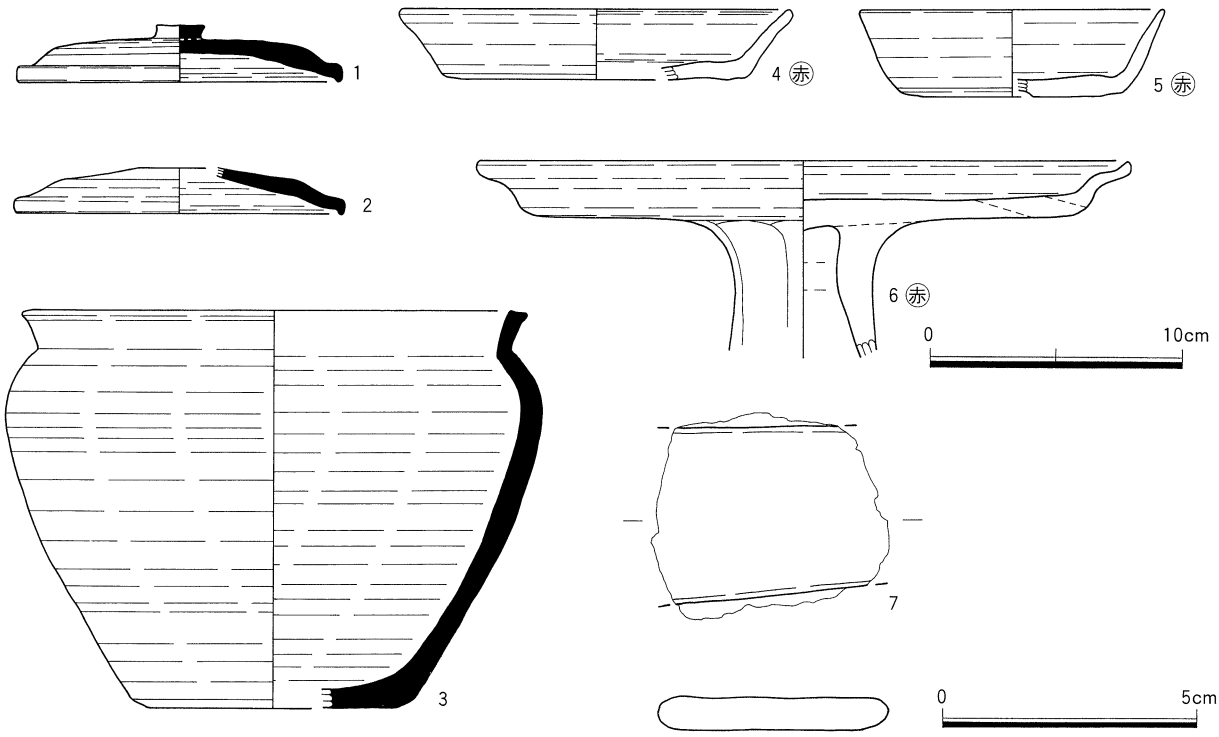
規模・遺物出土状況　南北約４m、東西約３mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１・２は須恵器の杯蓋である。３・４は須恵器の杯身である。５～10は土師器の杯である。11は土師器の高杯である。12～16は土師器の甕である。17は土師器の甑である。18は砂岩の敲石である。表面が受熱により赤化している。19は棒状の鉄器である。

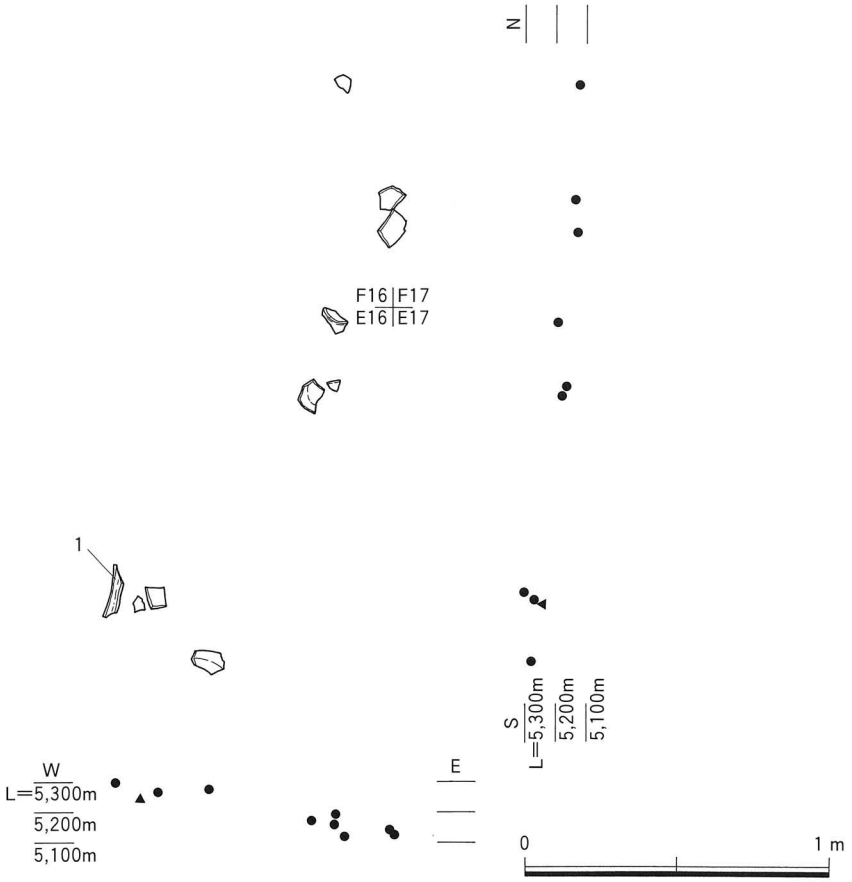
時期　出土した遺物から古墳時代後期初頭（６世紀第１四半期・TK47並行期）と考えられる。



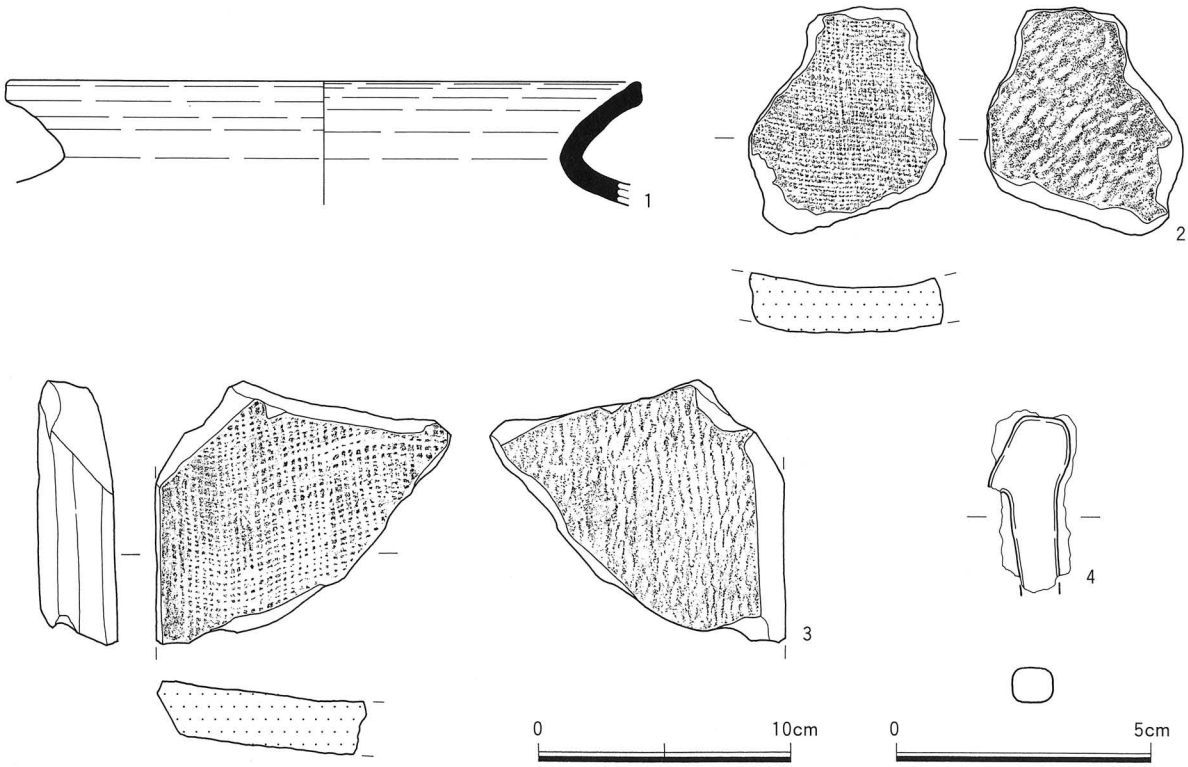
第944図　土器溜まりNo.3 平断面図（2）



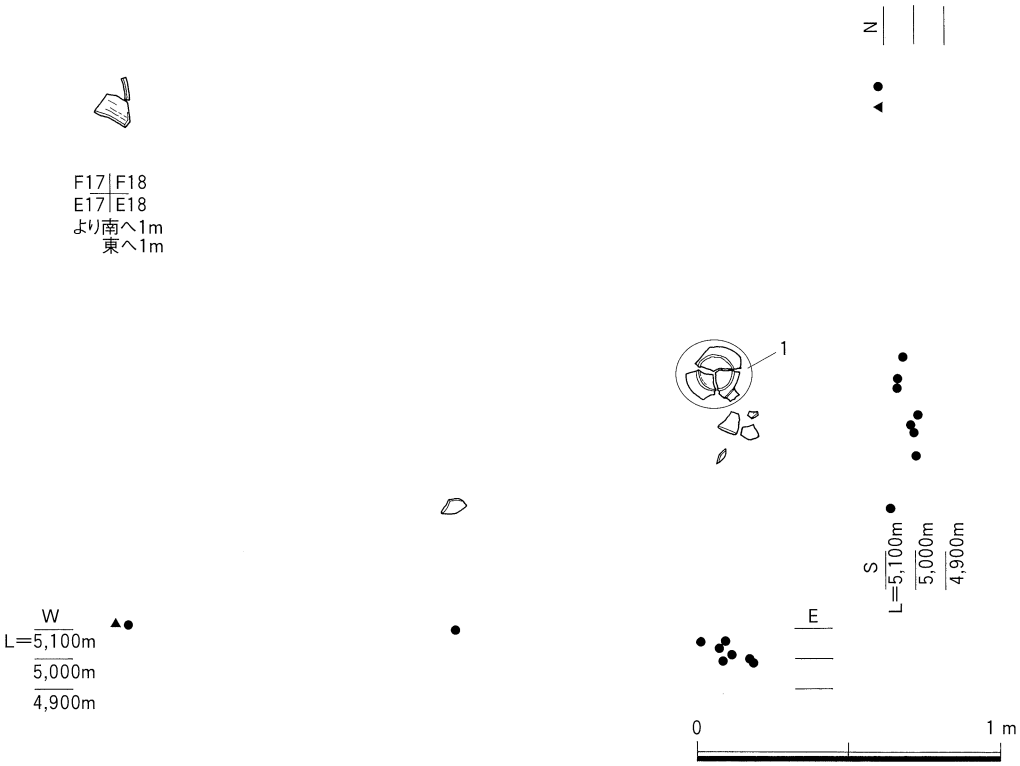
第945図　土器溜まりNo.3 出土遺物



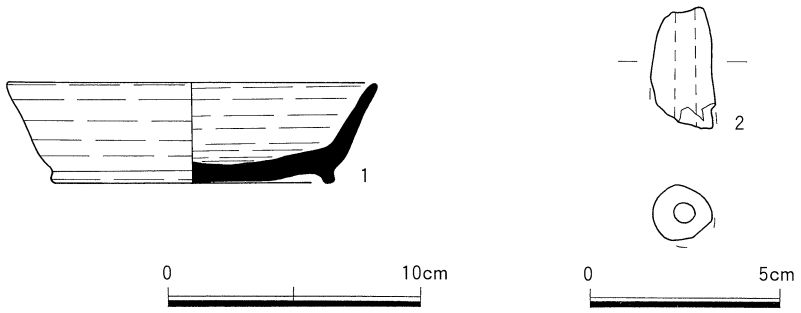
第946図　土器溜まりNo.4　平断面図



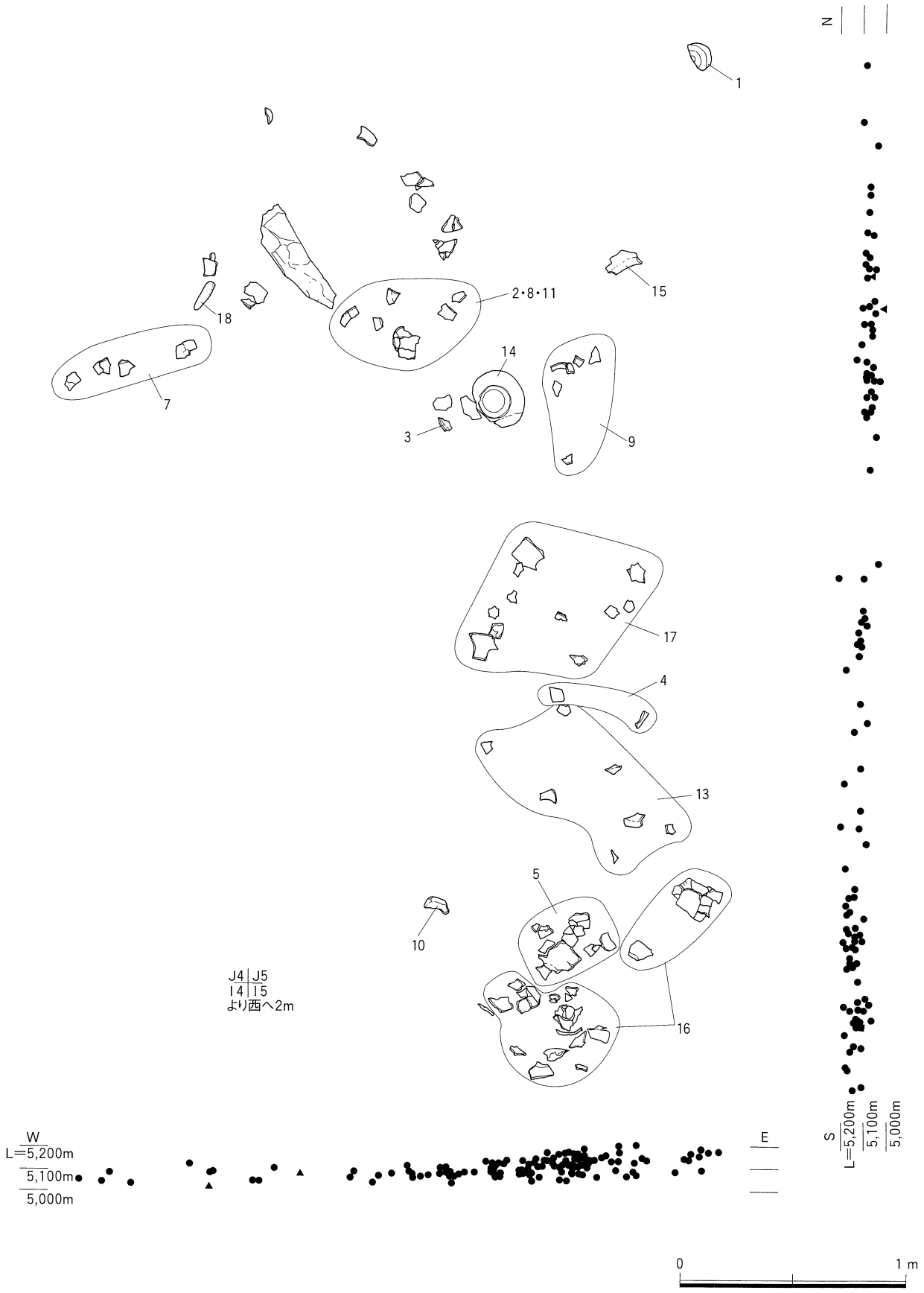
第947図　土器溜まりNo.4　出土遺物



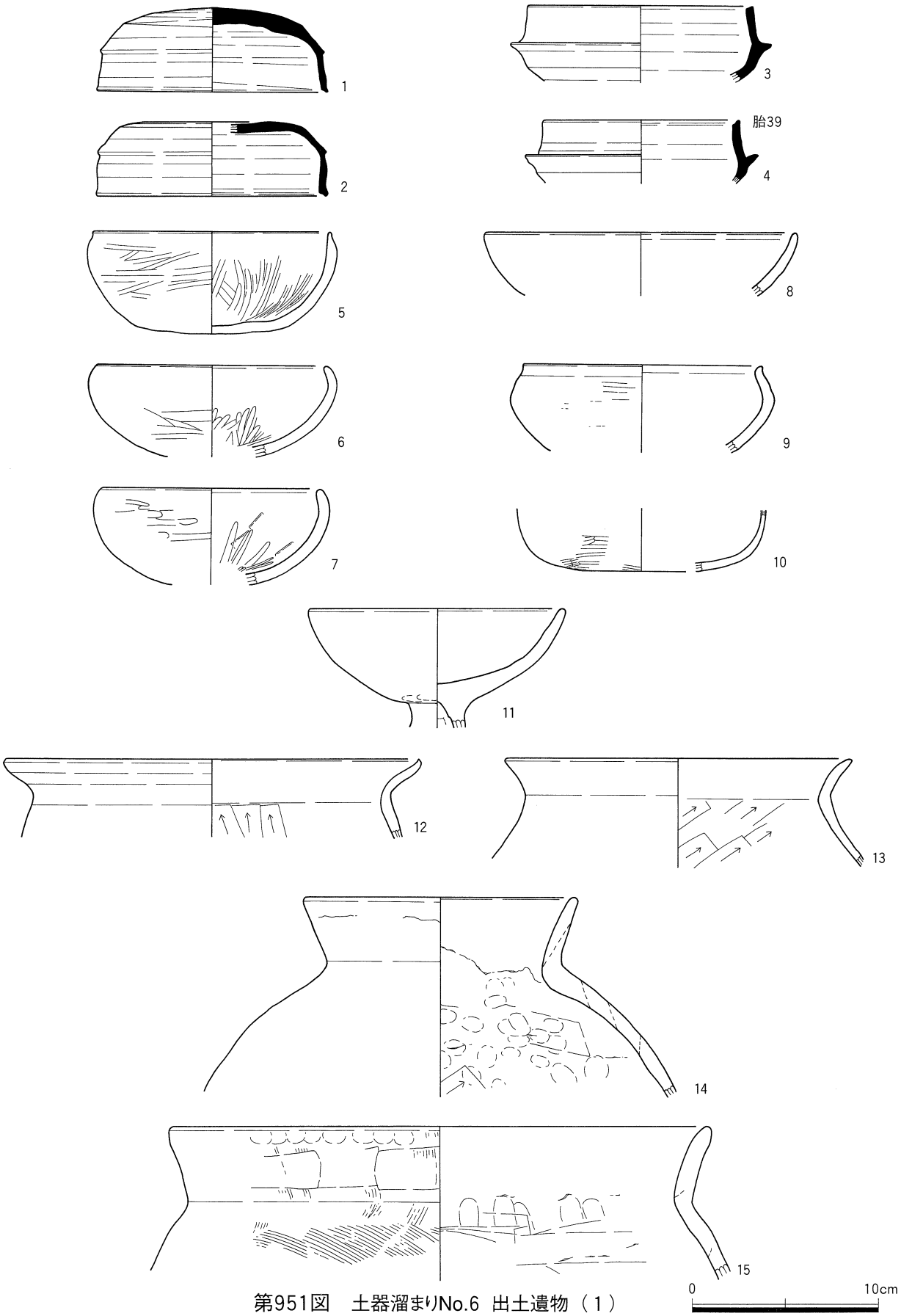
第948図　土器溜まりNo.5 平断面図



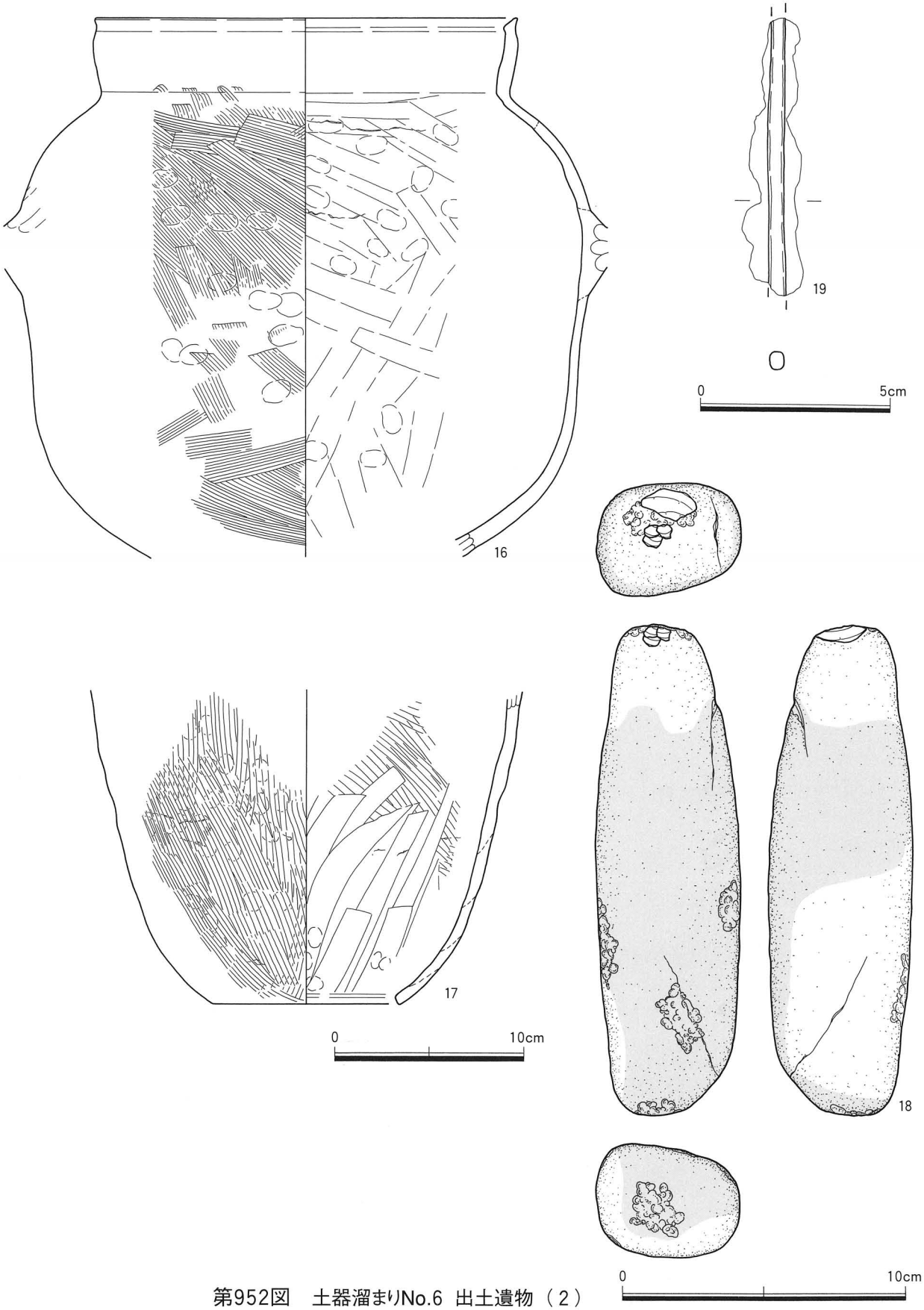
第949図　土器溜まりNo.5 出土遺物



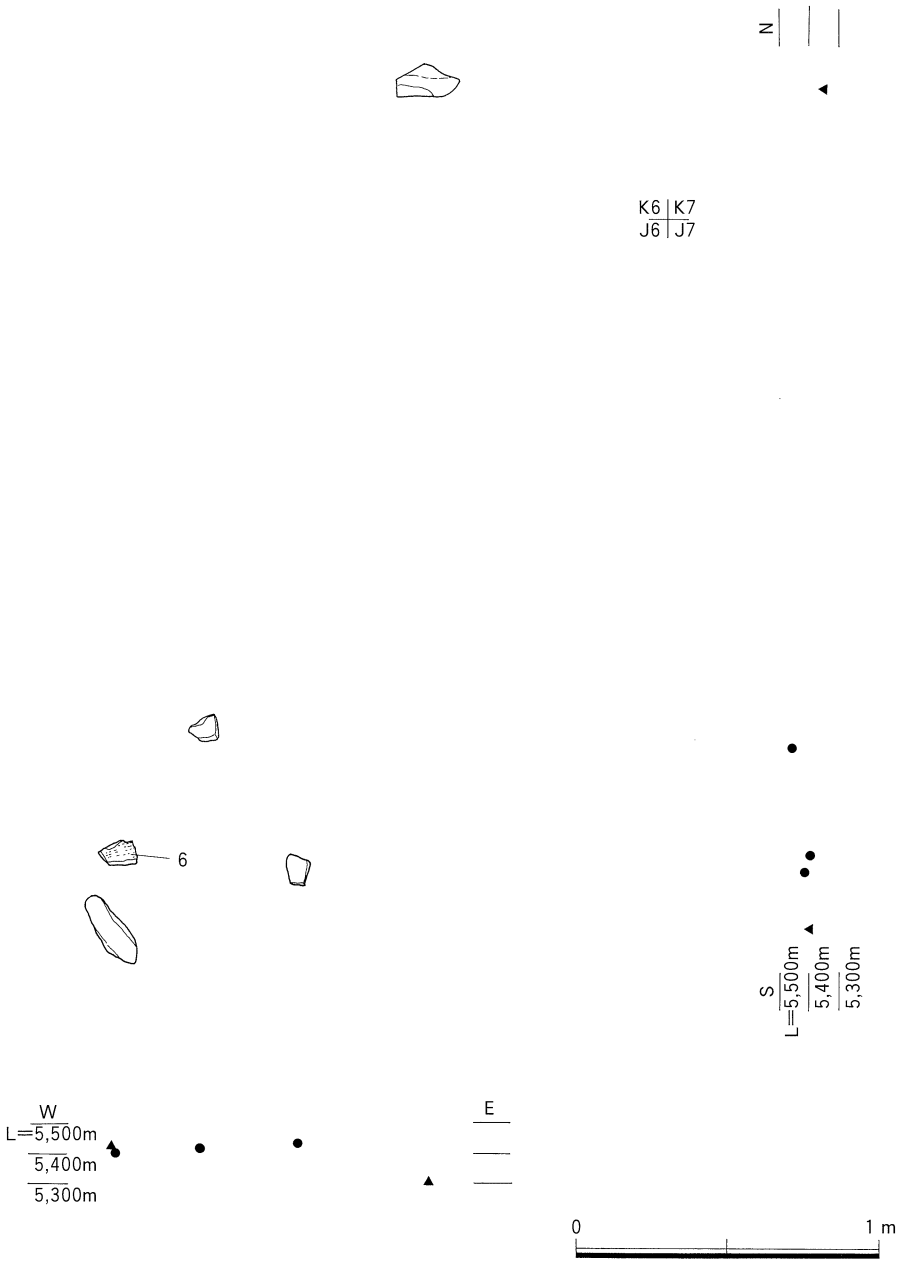
第950図　土器溜まりNo.6 平断面図



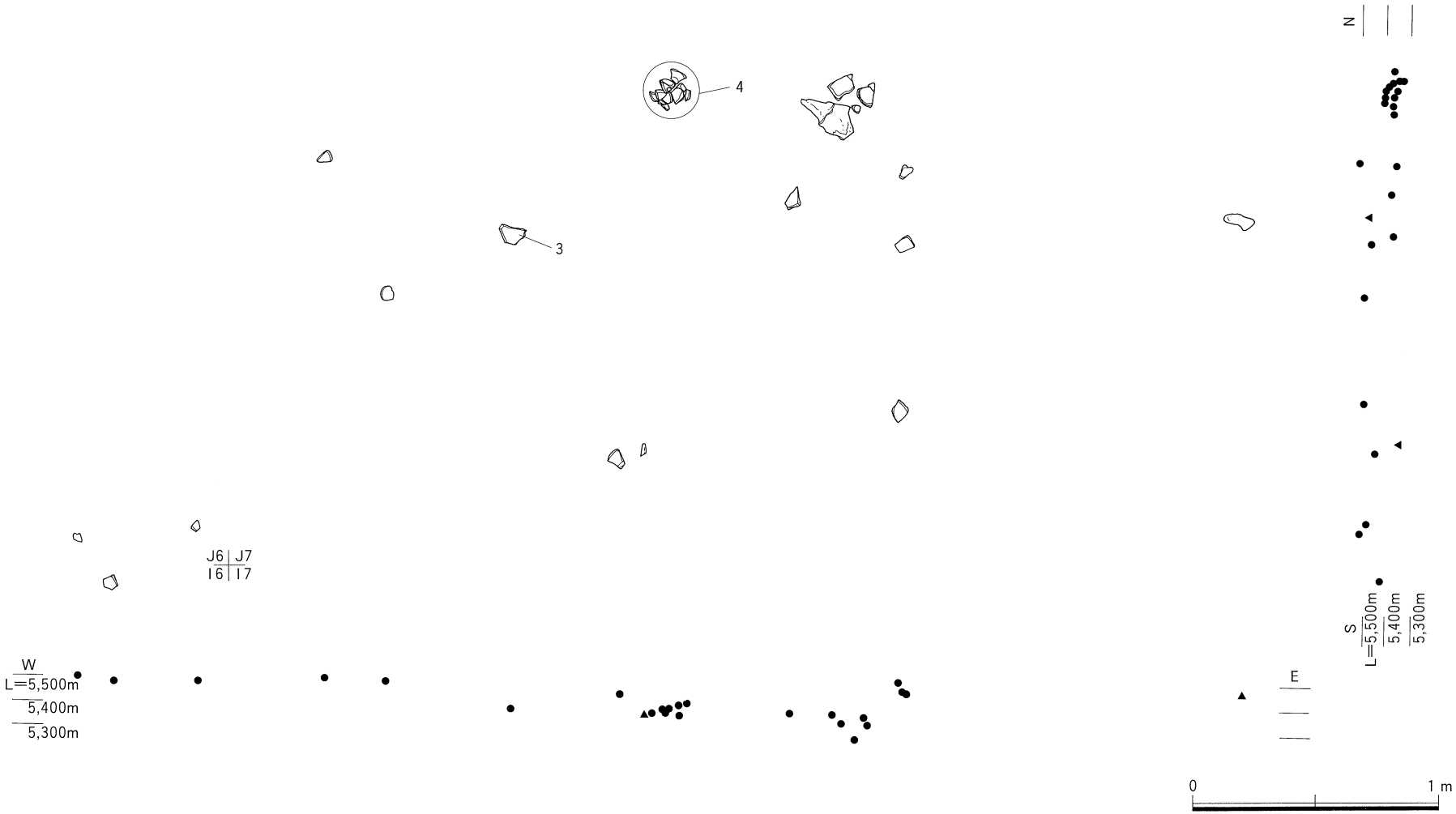
第951図　土器溜まりNo.6 出土遺物（1）



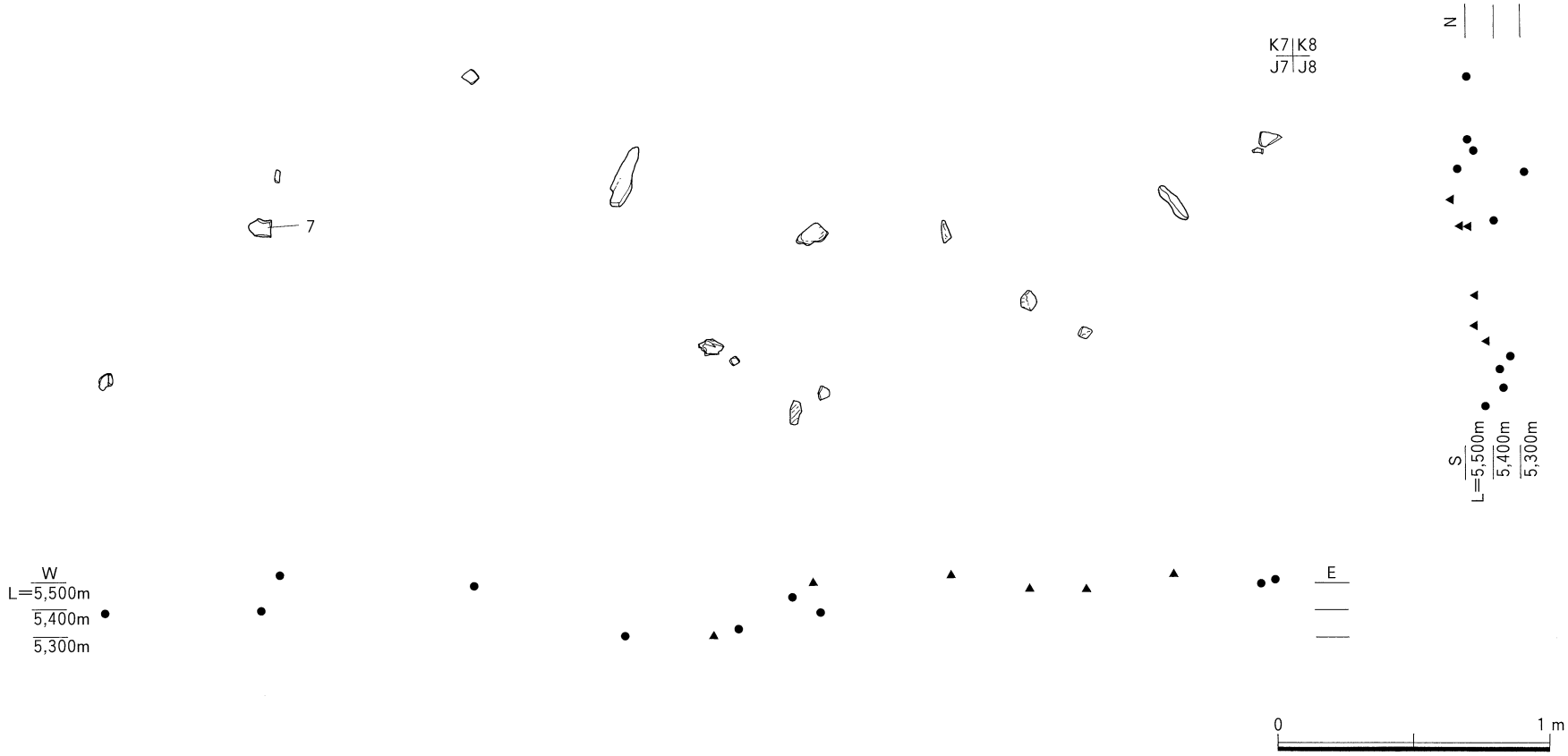
第952図　土器溜まりNo.6 出土遺物（2）



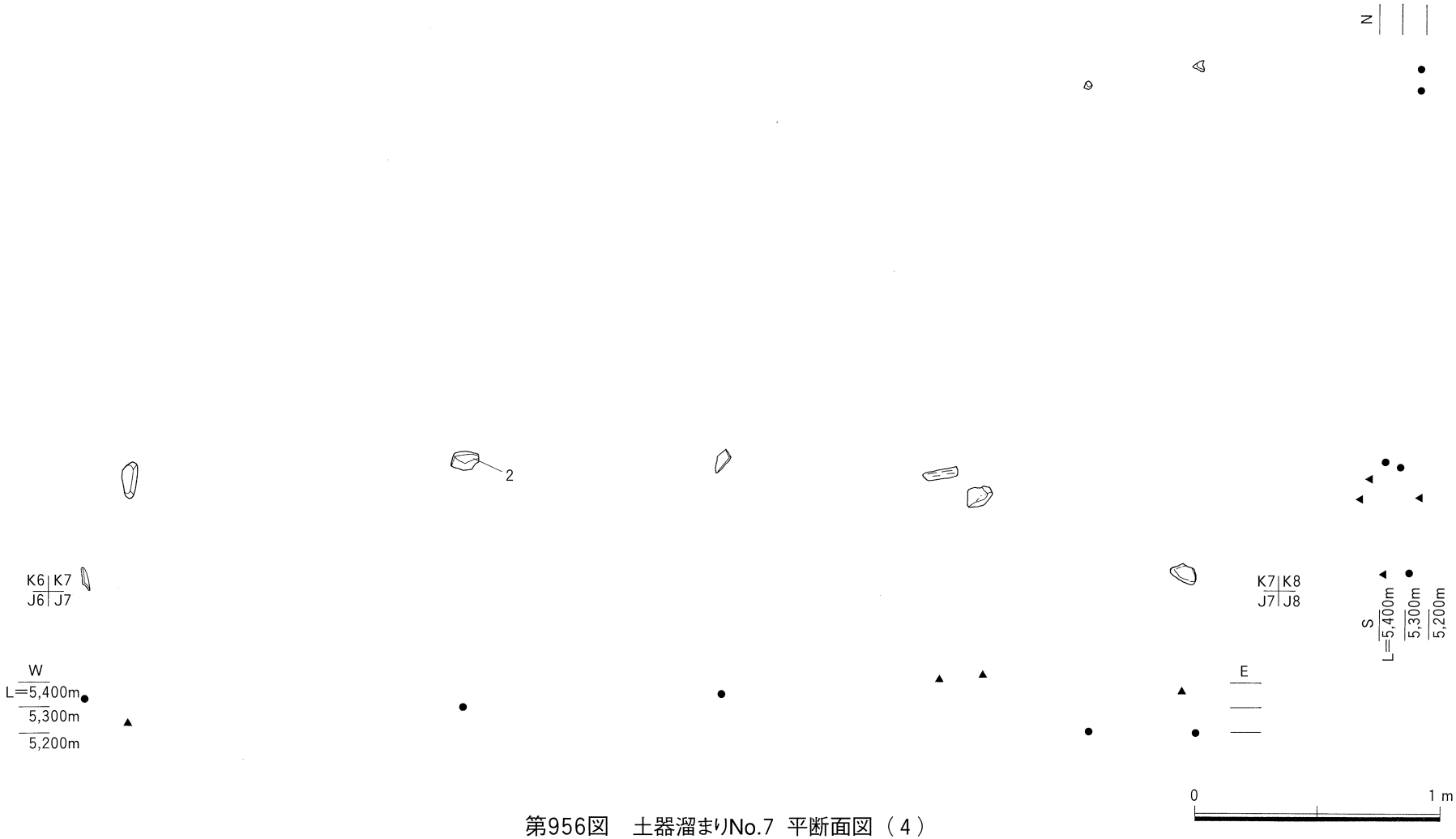
第953図　土器溜まりNo.7 平断面図（1）



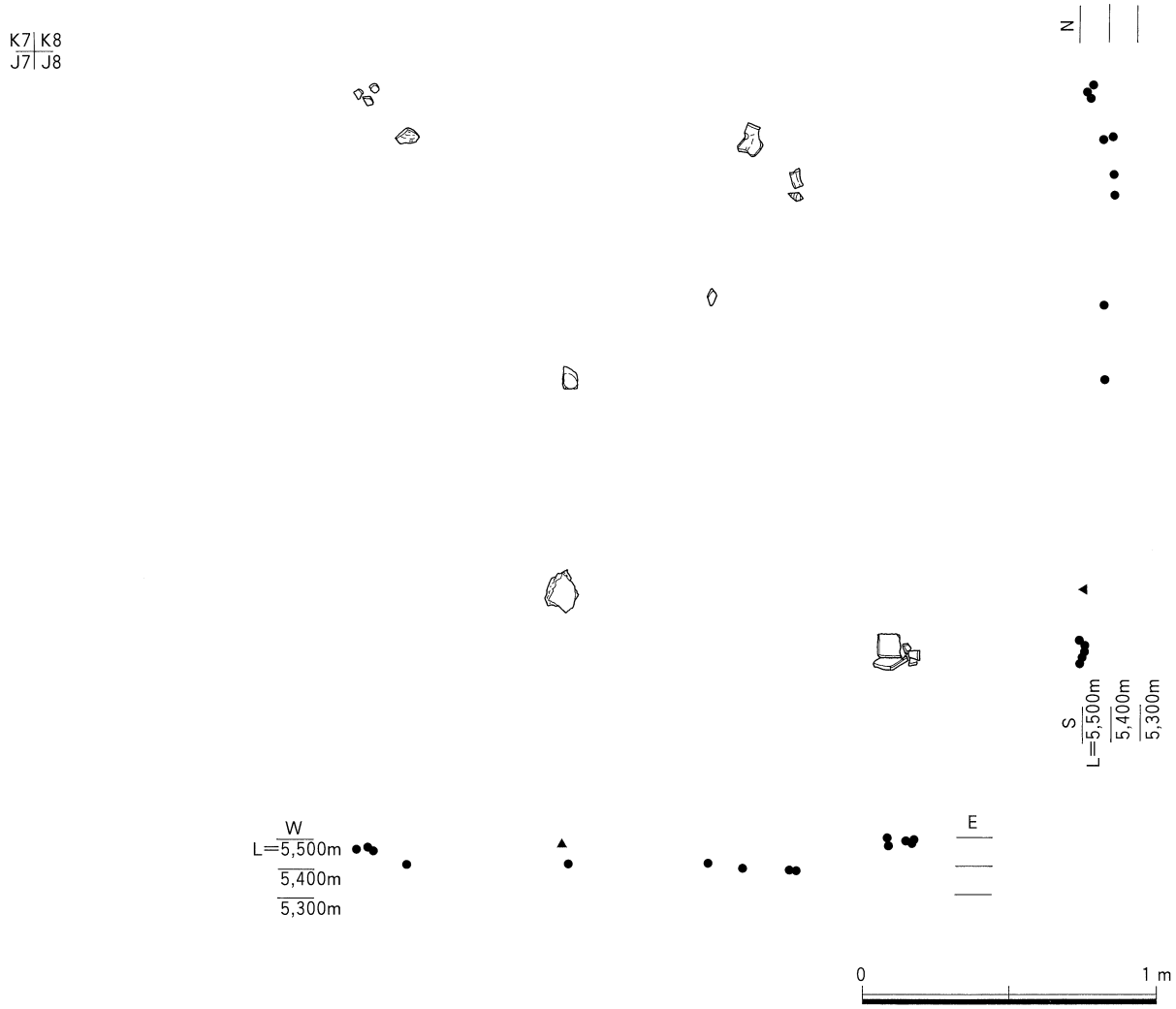
第954図　土器溜まりNo.7 平断面図（2）



第955図　土器溜まりNo.7 平断面図（3）



第956図　土器溜まりNo.7 平断面図（4）



第957図　土器溜まりNo.7 平断面図（5）

土器溜まり No. 7（第953～959図）

検出場所　1998年調査７区・Loc.G１・βⅢ・J６・７・８グリッド

規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約７mとやや散漫な拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１～３は須恵器の杯である。４は土師器の杯である。５～７は平瓦である。８は土錘である。

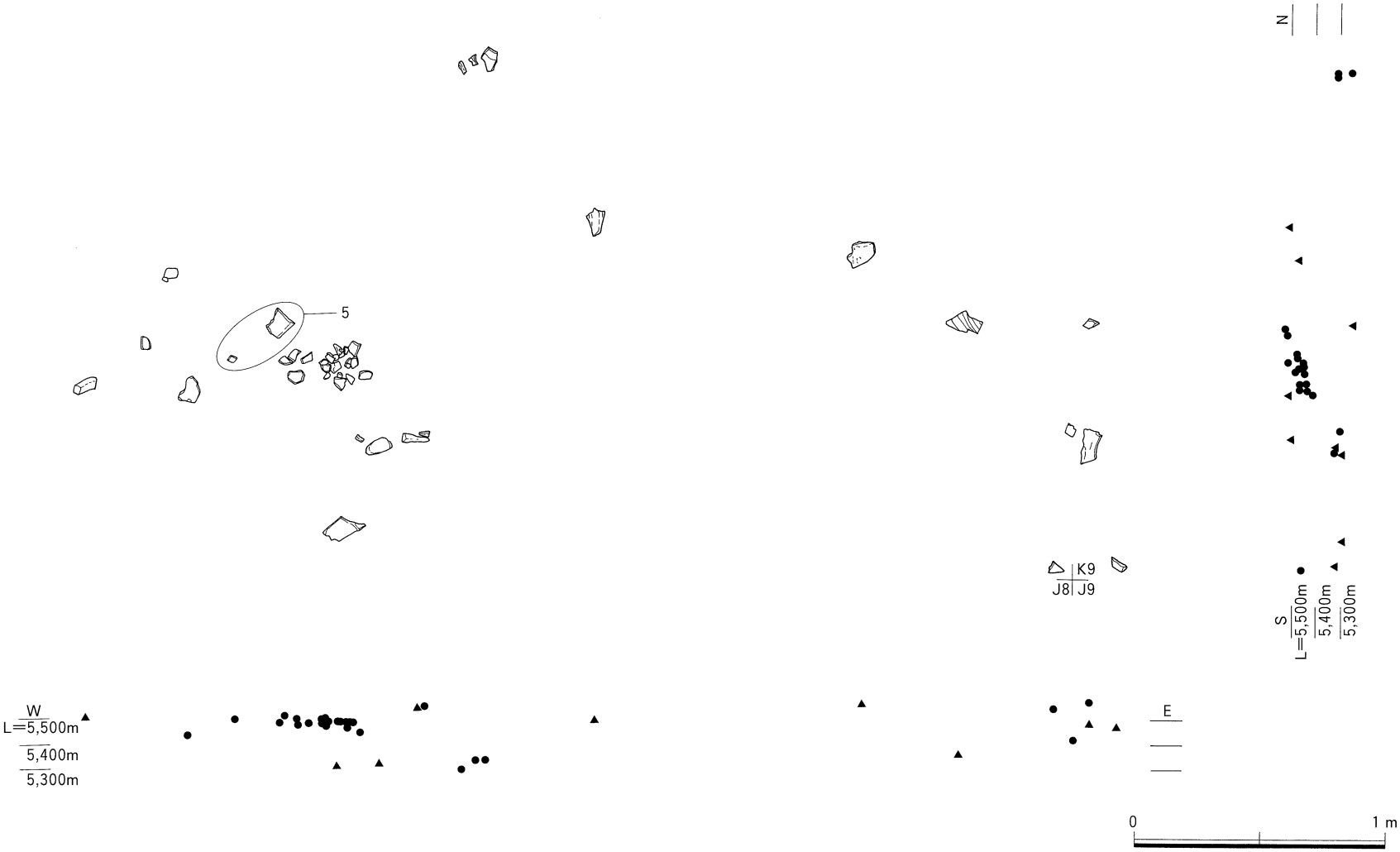
時期　出土した遺物から奈良時代と考えられる。

土器溜まり No. 8（第960～963図）

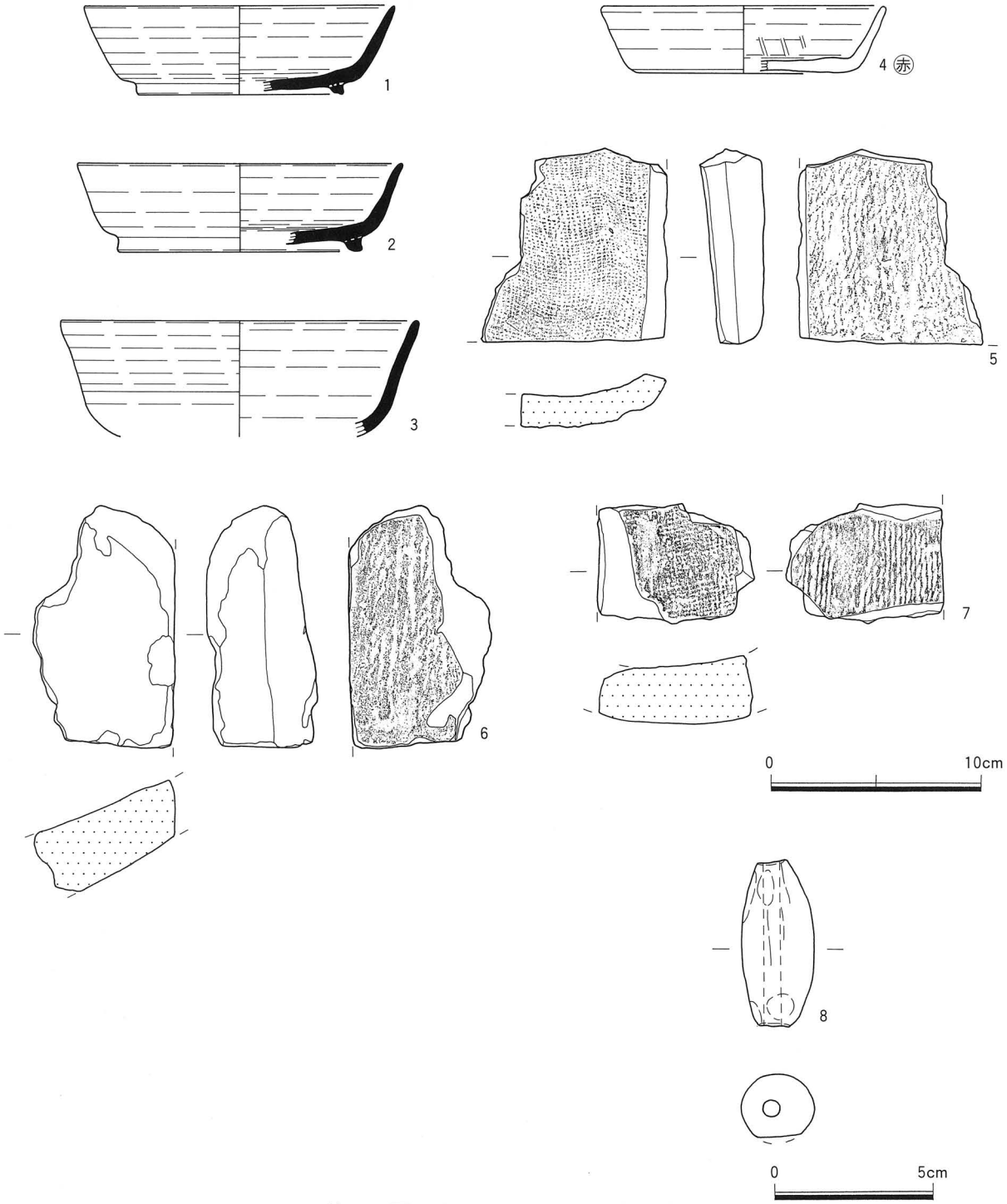
検出場所　1998年調査７区・Loc.G１・βⅢ・N８・９・O８グリッド

規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約５mの拡がりをみせる土器溜まりである。

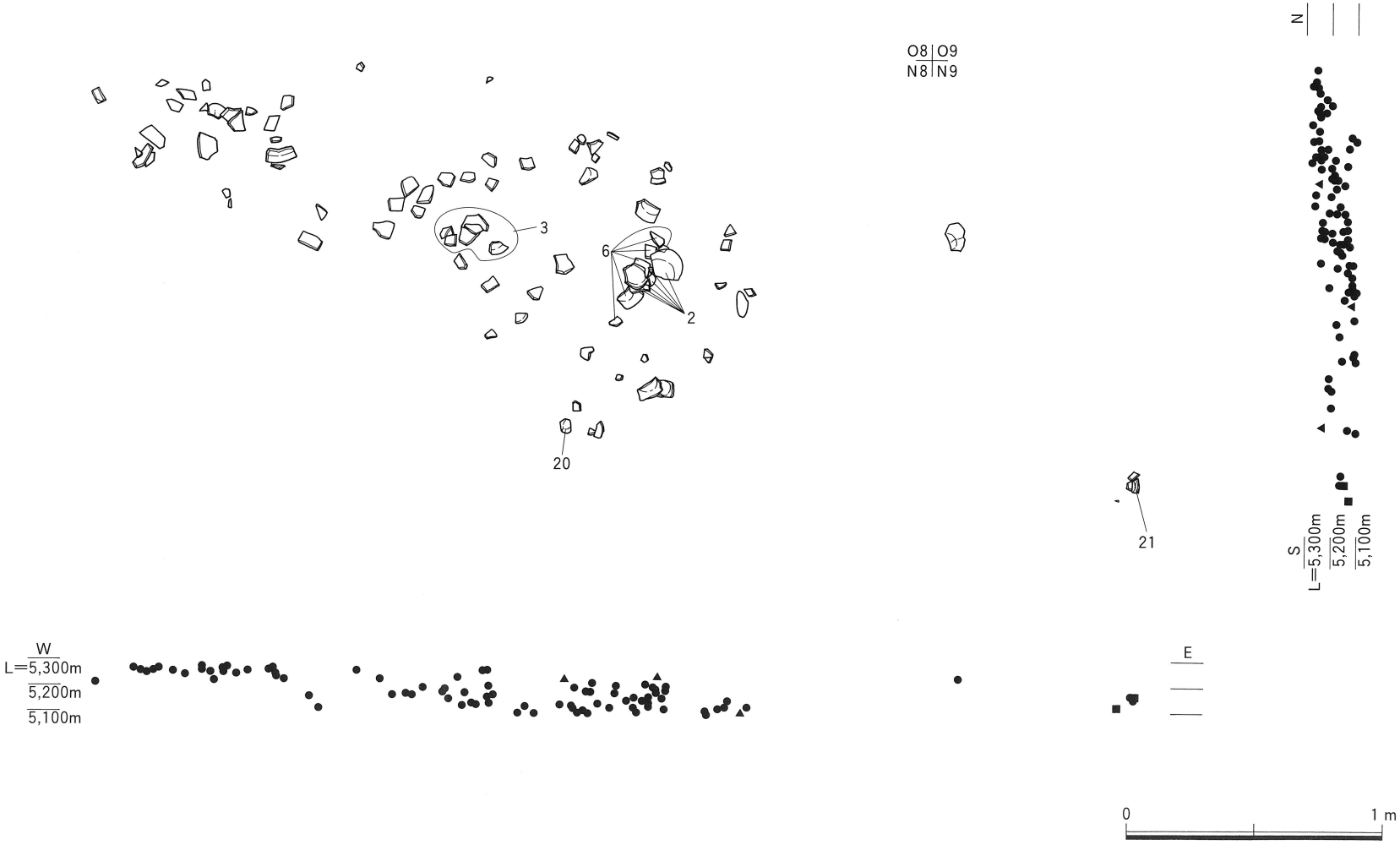
出土遺物　１～８は土師器の杯である。９は土師器の高杯である。10～15は土師器の皿である。16は土師器の甕である。17は丸瓦である。18・19は平瓦である。20はチャートの石核である。21は棒状の鉄器



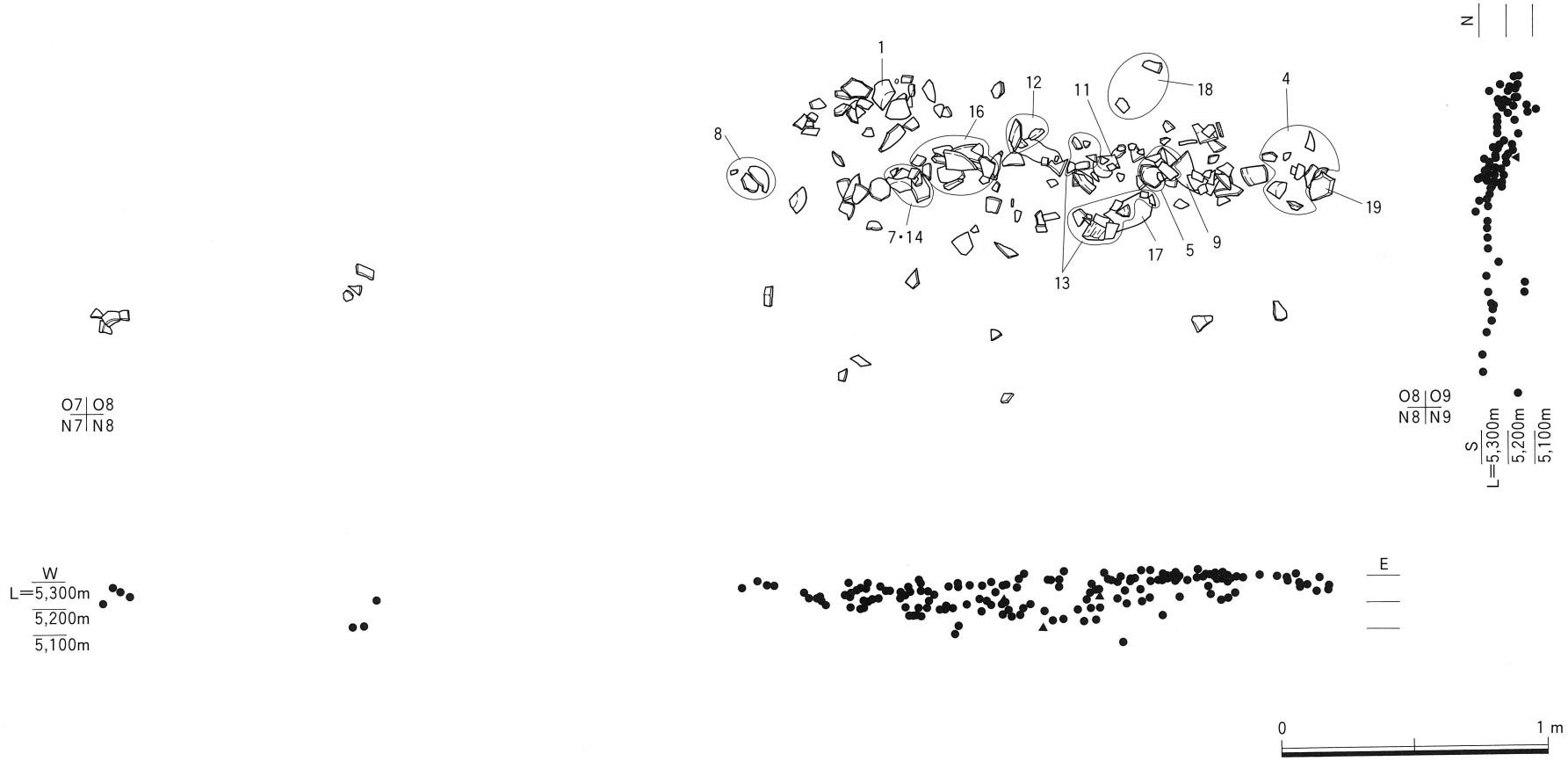
第958図　土器溜まりNo.7 平断面図（6）



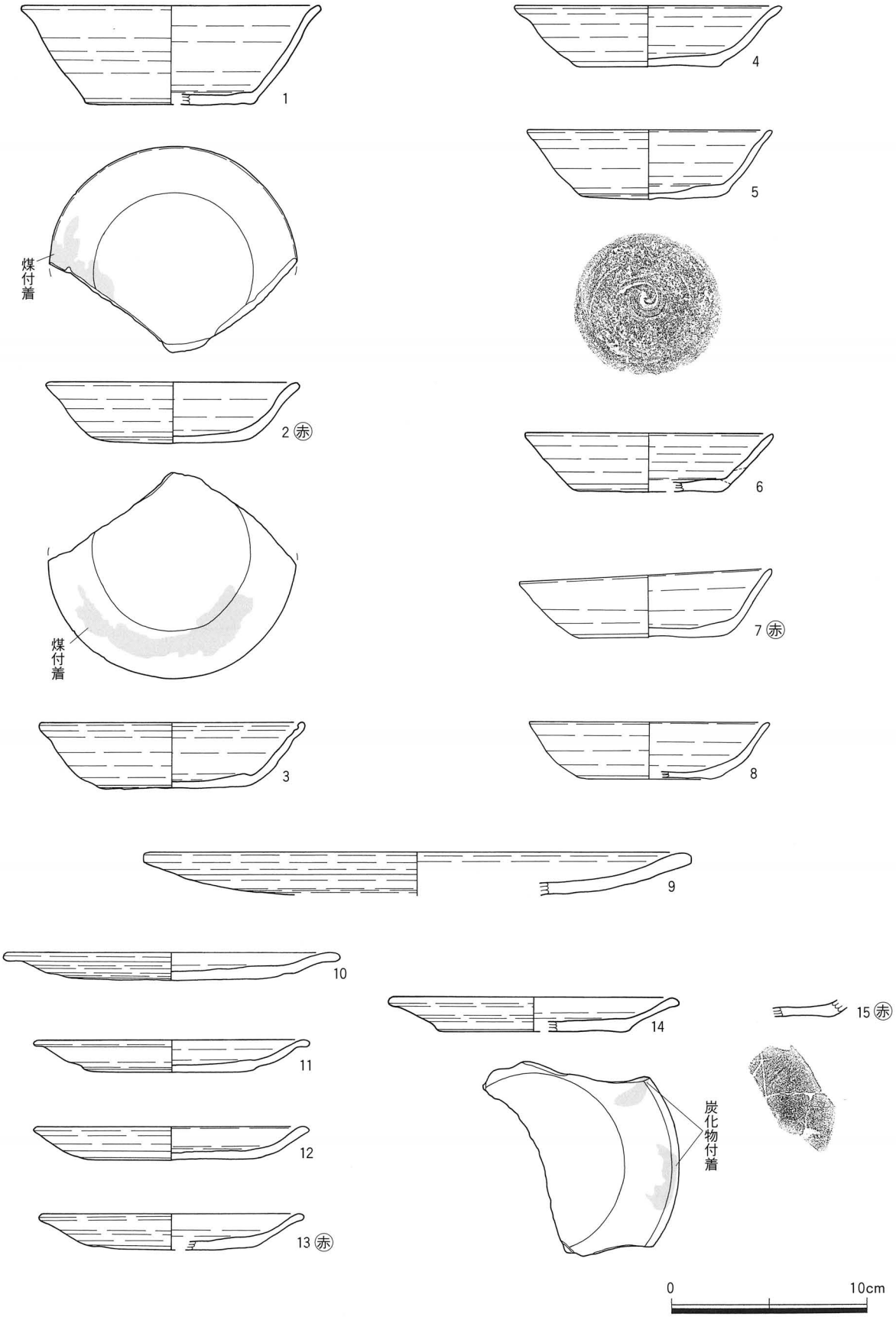
第959図　土器溜まりNo.7 出土遺物



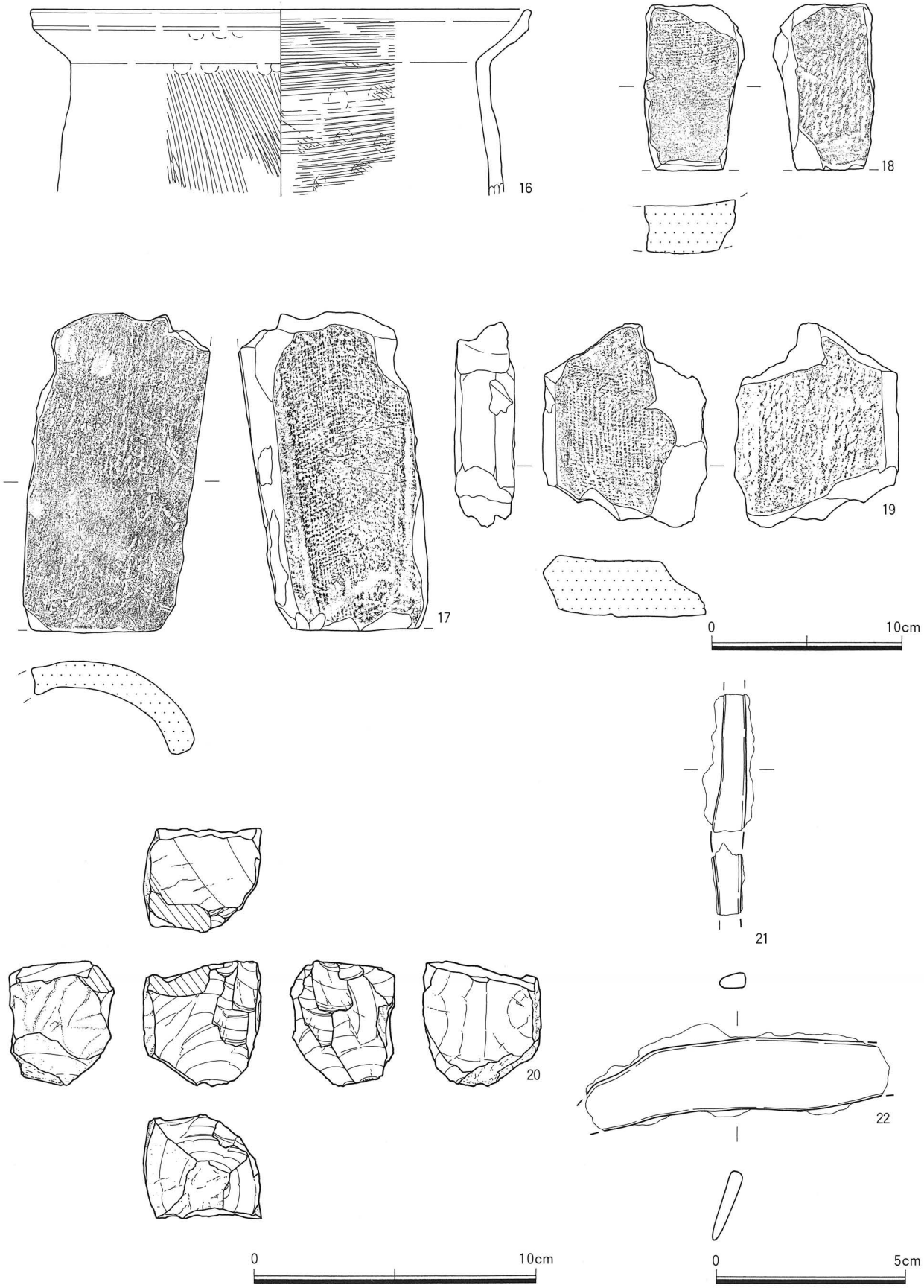
第960図　土器溜まりNo.8 平断面図（1）



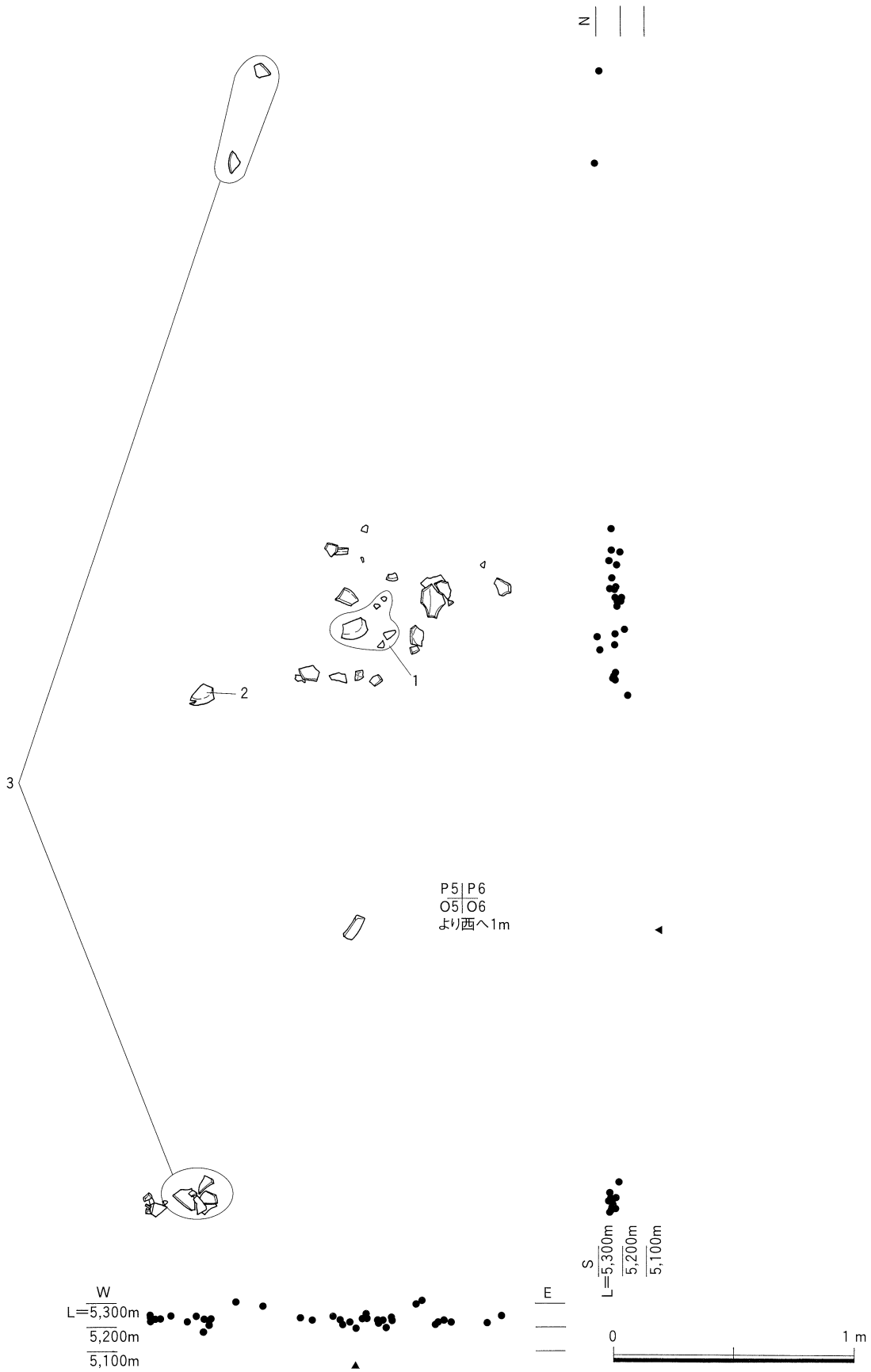
第961図　土器溜まりNo.8 平断面図（2）



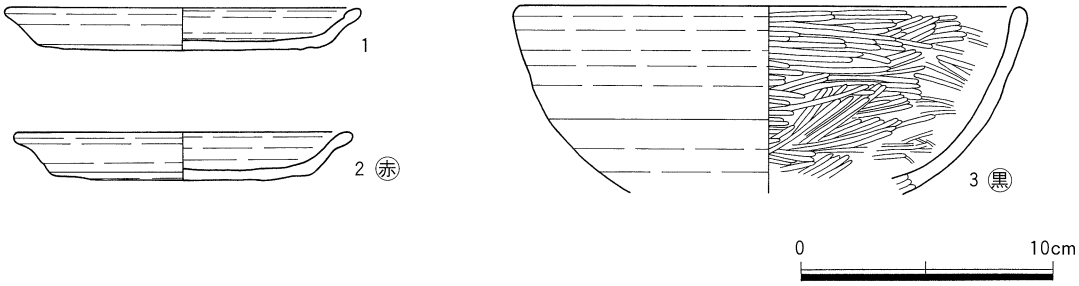
第962図　土器溜まりNo.8 出土遺物（1）



第963図　土器溜まりNo.8 出土遺物（2）



第964図　土器溜まりNo.9 平断面図



第965図　土器溜まりNo.9 出土遺物

である。22は鉄製の刀子である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 9（第964・965図）

検出場所　1998年調査８区・Loc.G１・βⅢ・O５・P５・６グリッド

規模・遺物出土状況　南北約2.5m、東西約1.5mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１・２は土師器の皿である。３は黒色土器の椀である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 10（第966・967図）

検出場所　1998年調査８区・Loc.G１・βⅢ・P６グリッド

規模・遺物出土状況　約１m四方に拡がる小規模な土器溜まりである。

出土遺物　１は黒色土器の椀である。２は甑の把手である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 11（第968～971図）

検出場所　1998年調査８区・Loc.G１・βⅢ・P８・９・Q８・９

規模・遺物出土状況　南北約6.5m、東西約2.5mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１は須恵器の杯である。２は須恵器の甕である。３は緑釉陶器の皿である。４～10は土師器の杯である。10は外面底部に刻書を持つ。11、12は土師器の皿である。13～15は黒色土器の椀である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

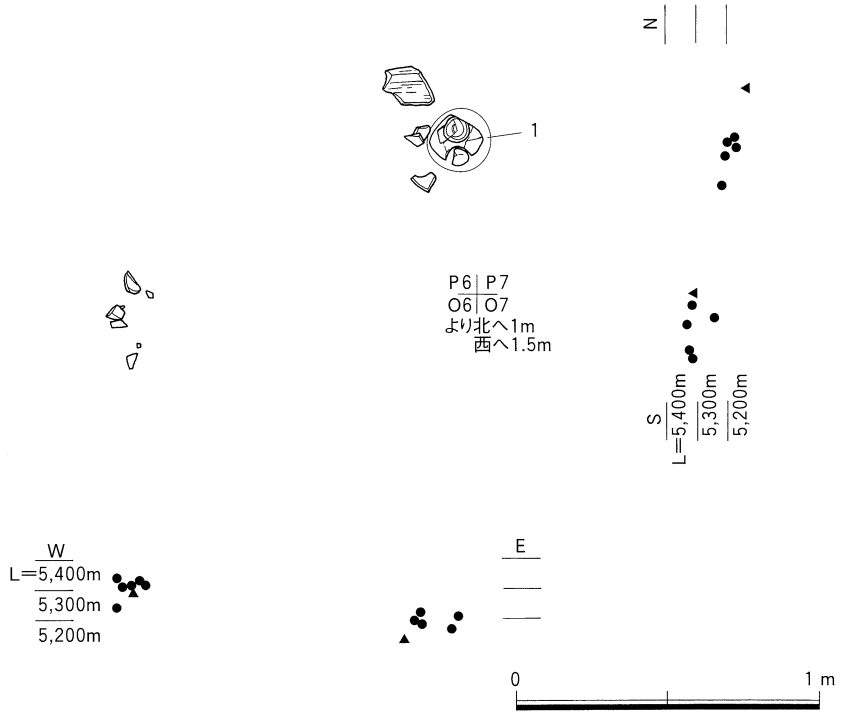
土器溜まり No. 12（第972・973図）

検出場所　1998年調査８区・Loc.G１・βⅢ・T８グリッド

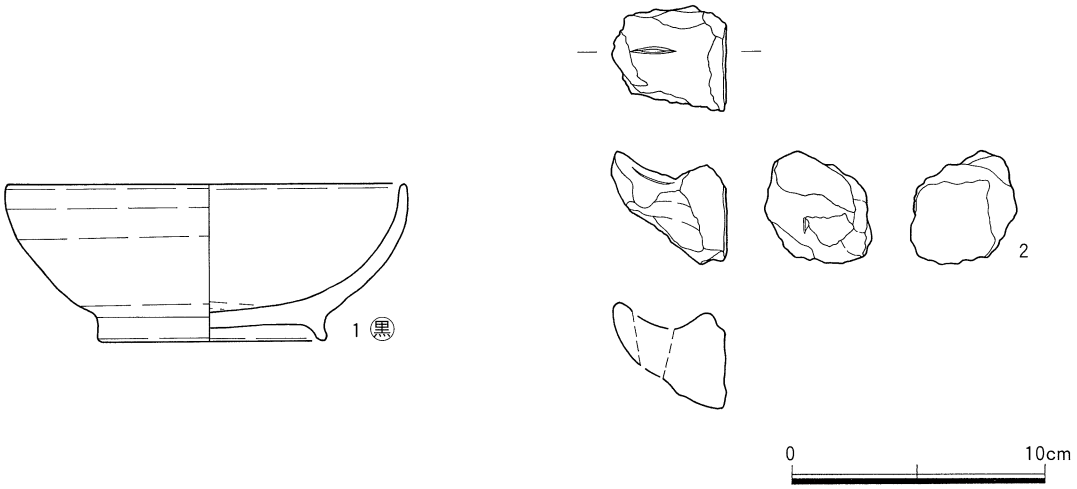
規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約４mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１は土師器の皿である。２は平瓦である。３は土錘である。

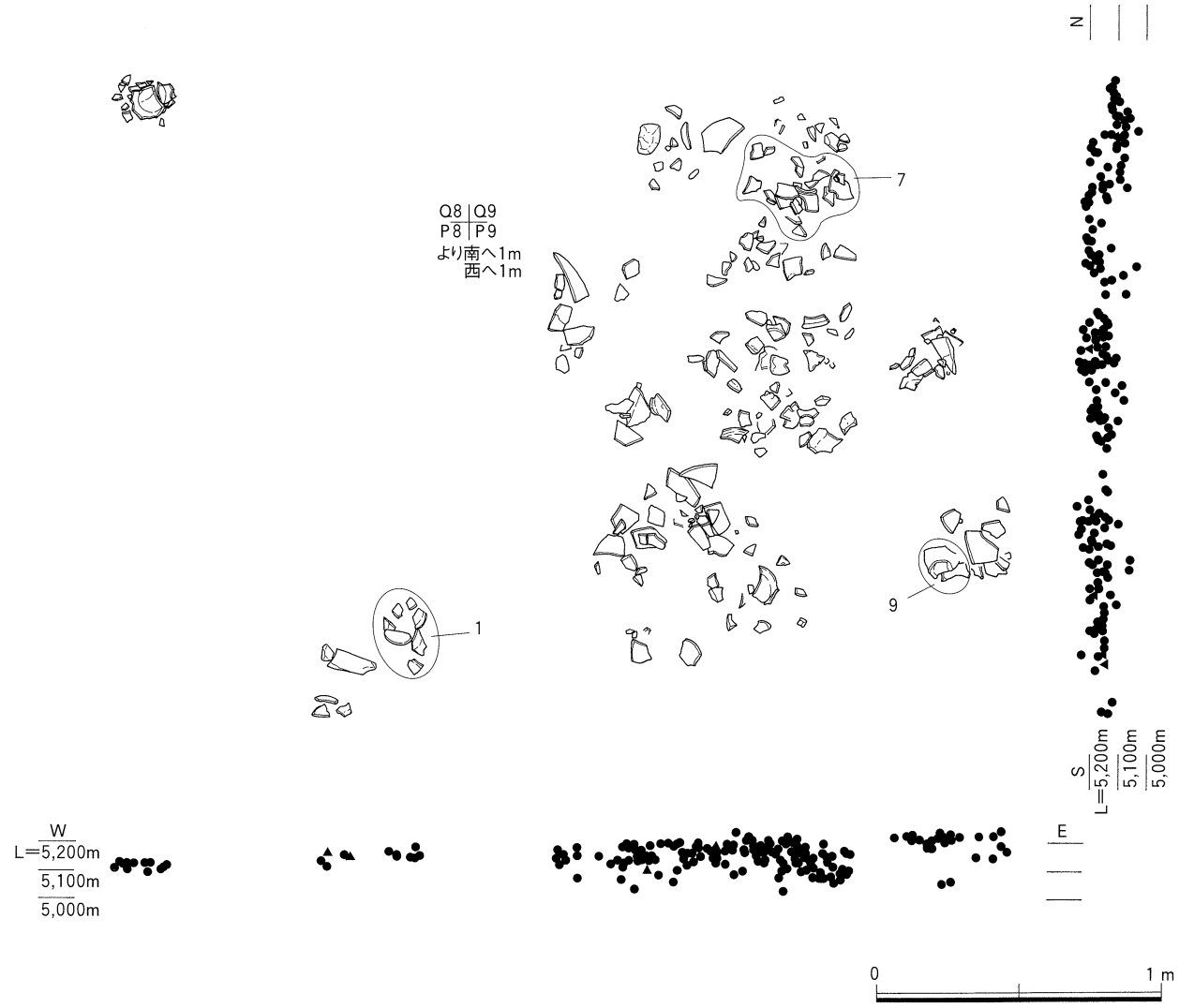
時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。



第966図　土器溜まりNo.10 平断面図



第967図　土器溜まりNo.10 出土遺物



第968図　土器溜まりNo.11 平断面図（1）

土器溜まり No. 13（第974～976図）

検出場所　1999年調査５区・Loc.G１・βⅢ・T７・８・γⅢ・A７・８グリッド

規模・遺物出土状況　南北約３m、東西約４mの拡がりをみせる土器溜まりである。

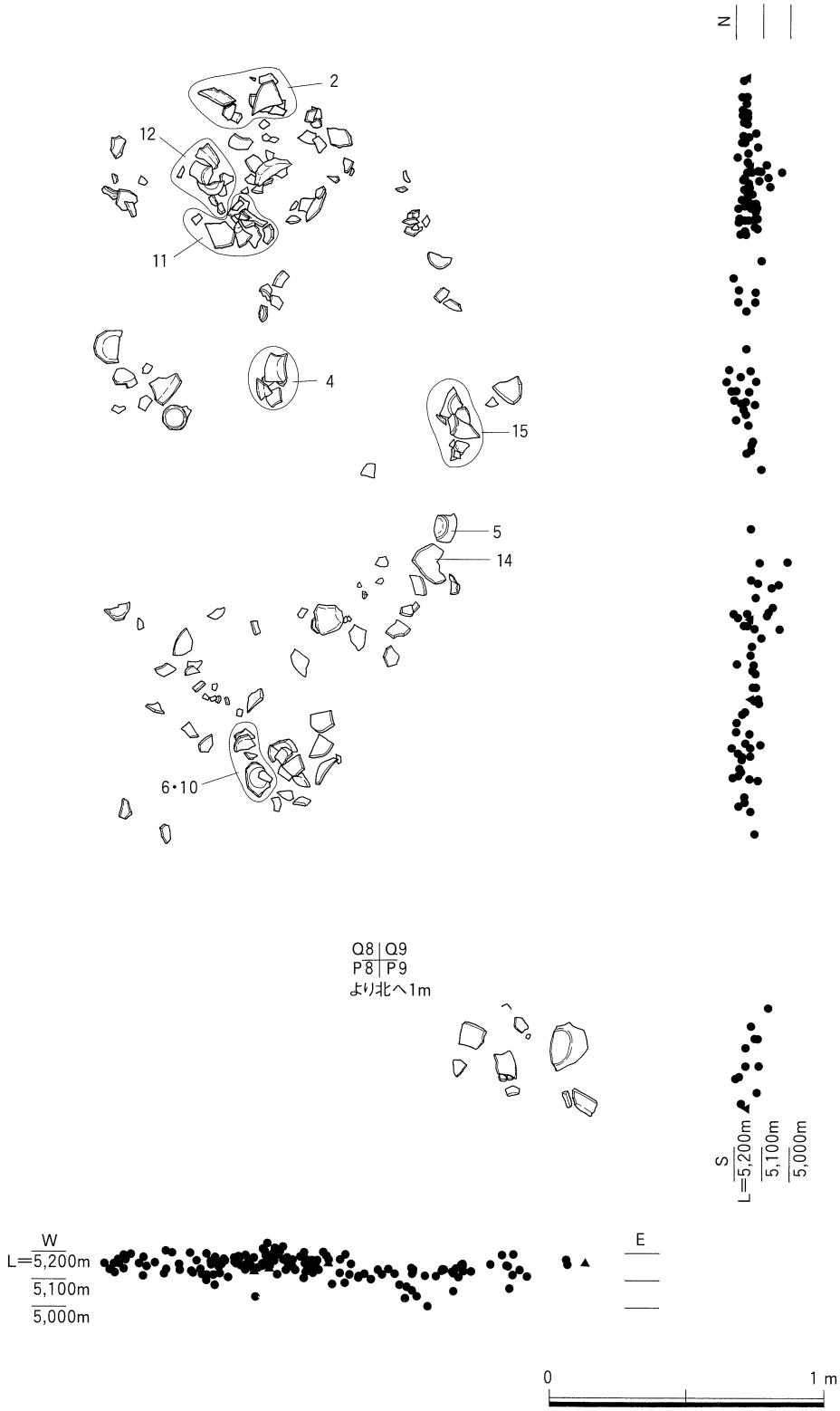
出土遺物　１～４は土師器の杯である。５～８は土師器の小皿である。９は平瓦である。10・11は砥石である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

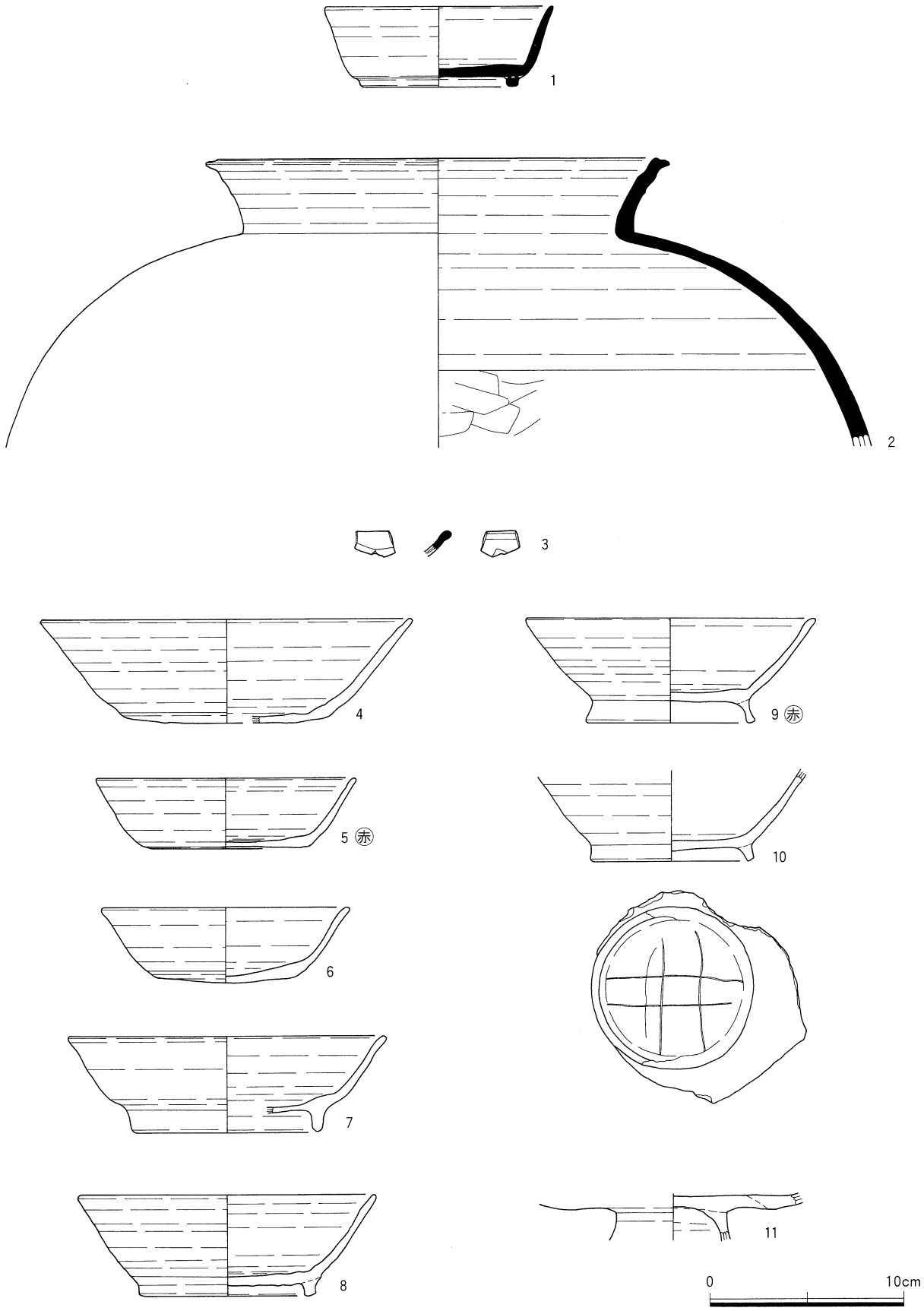
土器溜まり No. 14（第977～985図）

検出場所　1999年調査５区・Loc.G１・βⅢ・T８・９・γⅢ・A８・９グリッド

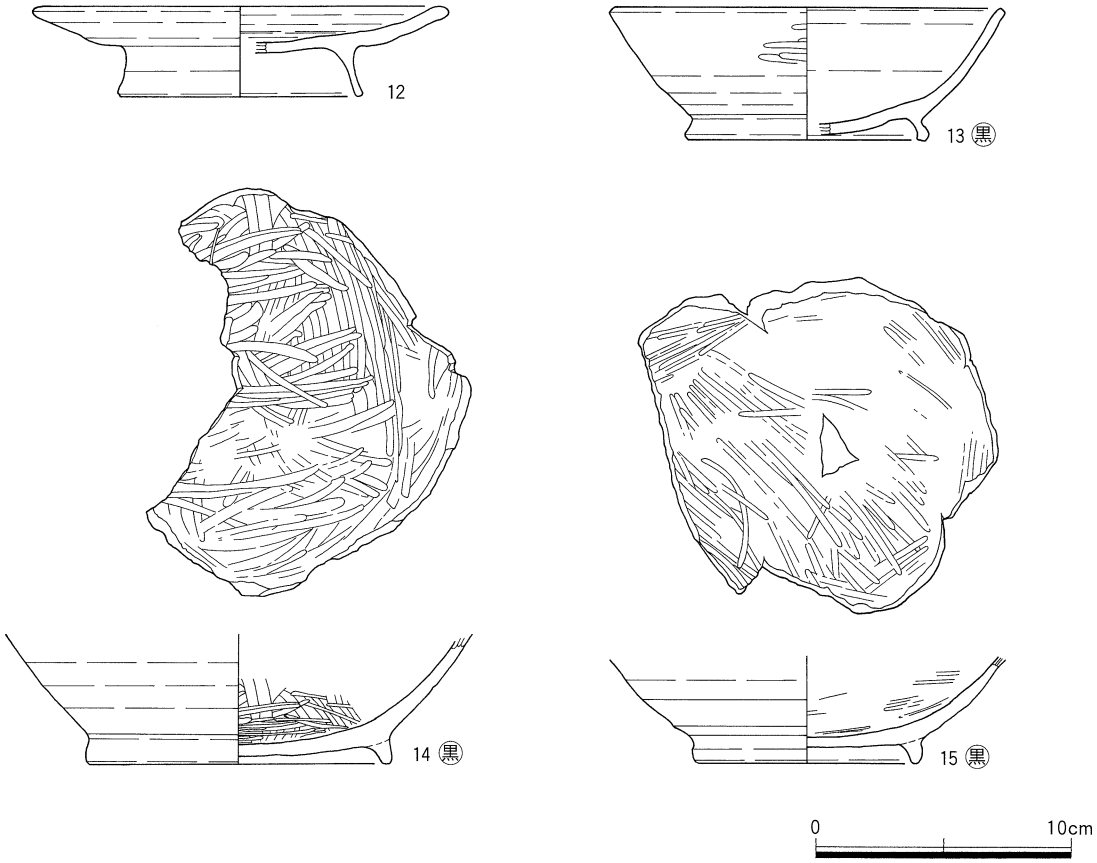
規模・遺物出土状況　南北4.5m、東西2.5mの拡がりをみせる土器溜まりである。杯、皿類を中心として完形率の高い遺物がまとまって出土している。



第969図　土器溜まりNo.11 平断面図（2）



第970図　土器溜まりNo.11 出土遺物（1）



第971図　土器溜まりNo.11 出土遺物（2）

出土遺物　1は須恵器の椀である。2～17は土師器の杯である。18～20は土師器の高杯である。21～44は土師器の小皿である。45～49は土師器の甕である。50は土師器の鉢である。51～58は黒色土器の椀である。59～62は平瓦である。63は砂質片岩の砥石である。64は砂質片岩の敲石である。65・66は釘である。67は鉄鏃である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 15（第986・987図）

検出場所　1999年調査5区・Loc.G1・γⅢ・A6・7

規模・遺物出土状況　南北約1m、東西約2mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　1・2は土師器の杯である。3は砂岩の台石である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

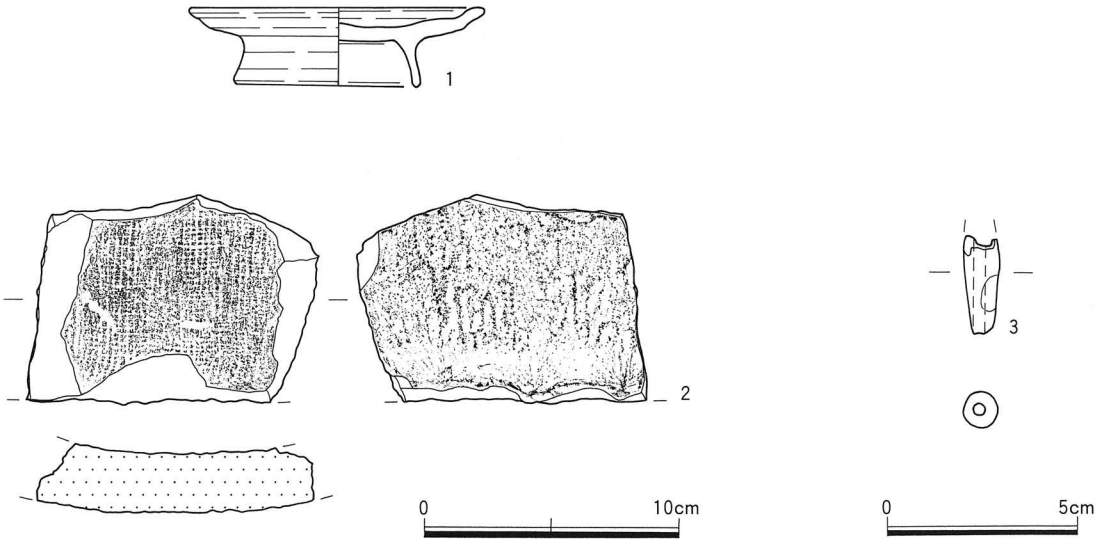
土器溜まり No. 16（第988・989図）

検出場所　1999年調査5区・Loc.G1・γⅢ・A7

規模・遺物出土状況　約1m四方に拡がる小規模な土器溜まりである。

出土遺物　1は須恵器の壺である。2は土師器の甕である。

第972図　土器溜まりNo.12 平断面図



第973図　土器溜まりNo.12 出土遺物

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 17（第990・991図）

検出場所　1999年調査５区・Loc.G１・γⅢ・A８

規模・遺物出土状況　南北約2.5m、東西約１mの拡がりをみせる土器溜まりである。

出土遺物　１～３は土師器の皿である。４は土師器の甕である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

土器溜まり No. 18（第992～998図）

検出場所　1999年調査５区・Loc.G１・γⅢ・A８・９・B８・９

規模・遺物出土状況　南北約２m、東西約7.5mの拡がりをもつ土器溜まりである。

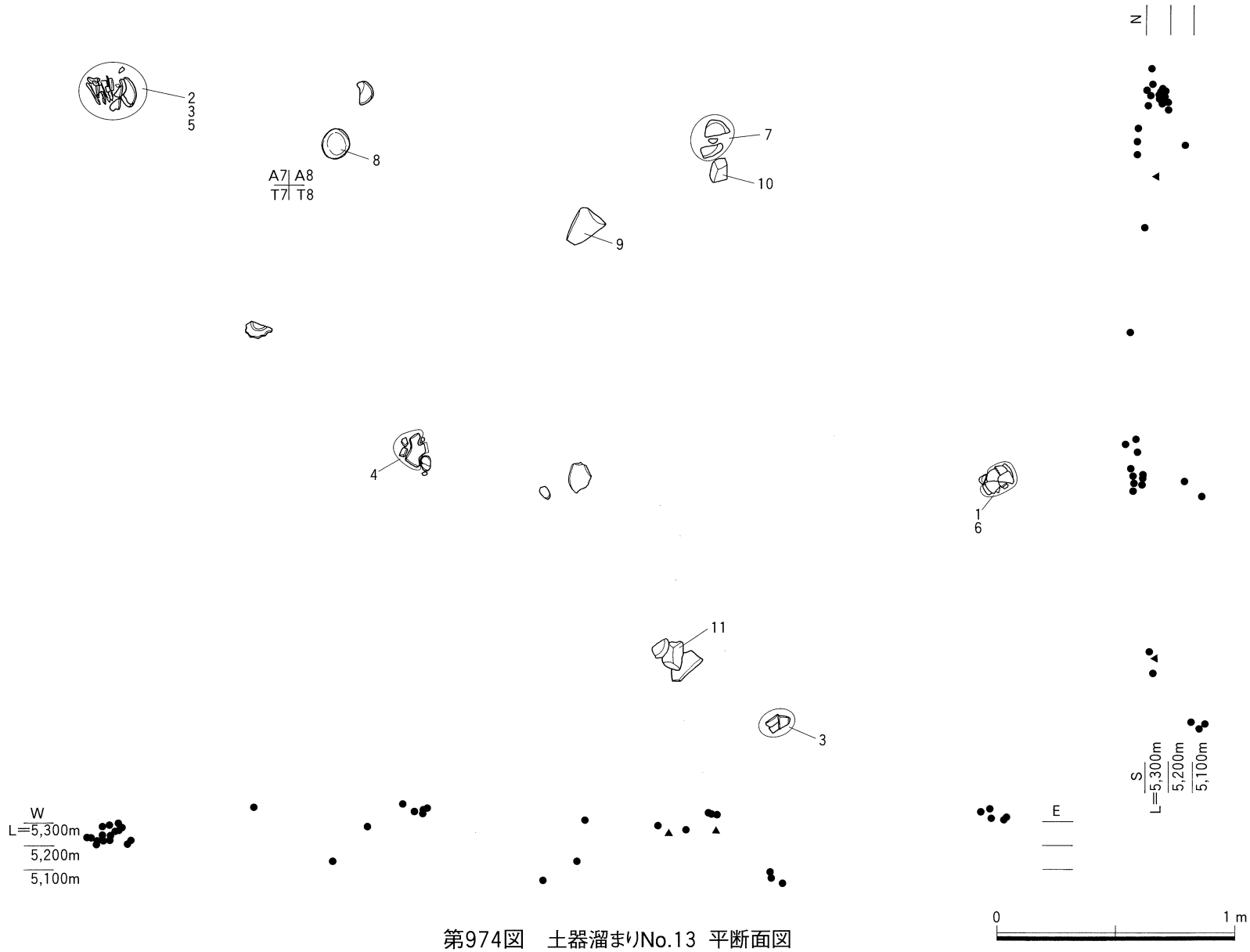
出土遺物　１～15は土師器の杯である。16～19は土師器の小皿である。20～25は土師器の甕である。26・27は土師器の羽釜である。28～35は黒色土器の椀である。36は黒色土器の鉢で把手がつく。37は緑釉陶器の椀である。38は土錘である。39は砂岩の砥石である。

時期　出土した遺物から平安時代と考えられる。

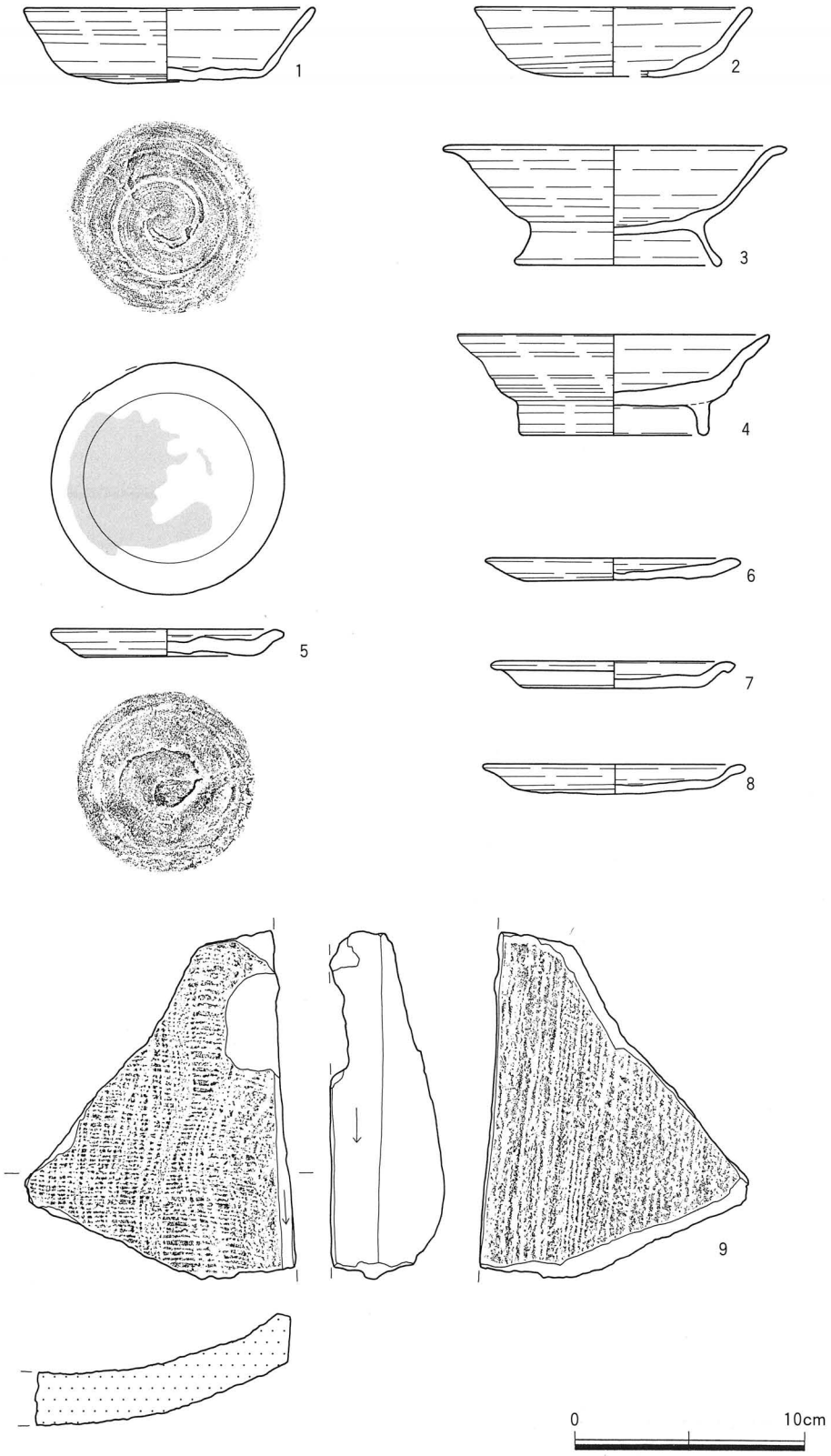
⑪　包含層出土遺物

1999年度２－１区（第999図）

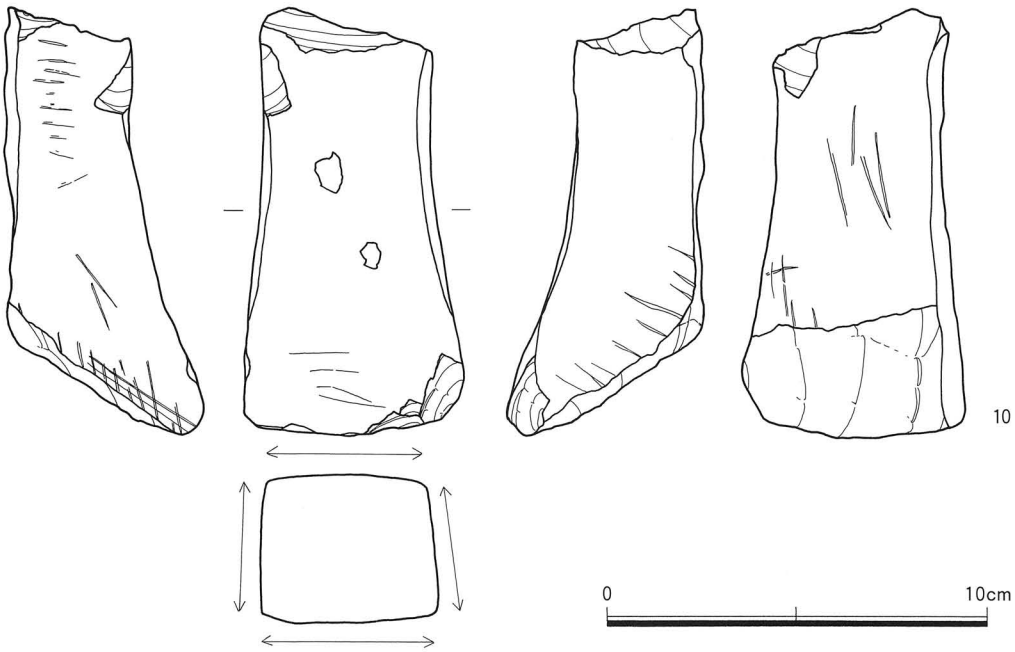
１・２は須恵器の杯である。３は土師器の皿である。４は土師器の甕である。５～７は土錘である。８～13は鉄釘である。

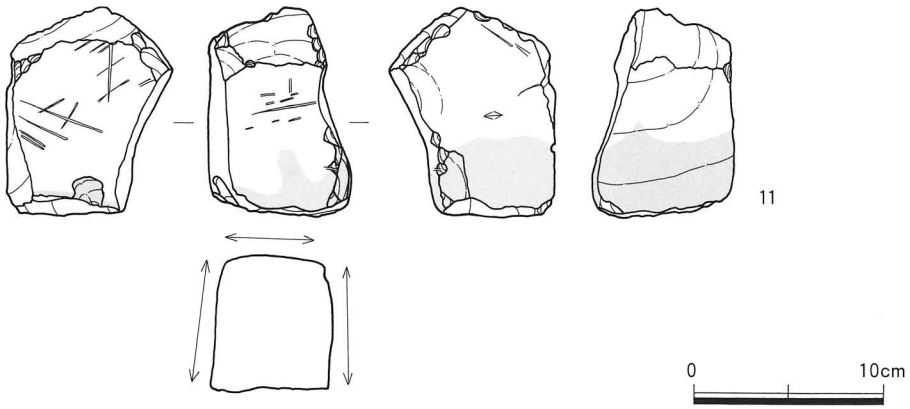


第974図　土器溜まりNo.13 平断面図



第975図　土器溜まりNo.13 出土遺物（1）





第976図　土器溜まりNo.13 出土遺物（２）

1999年度２－２区（第1000図）

１は磁器の碗である。２は陶器の小皿である。３は土錘である。

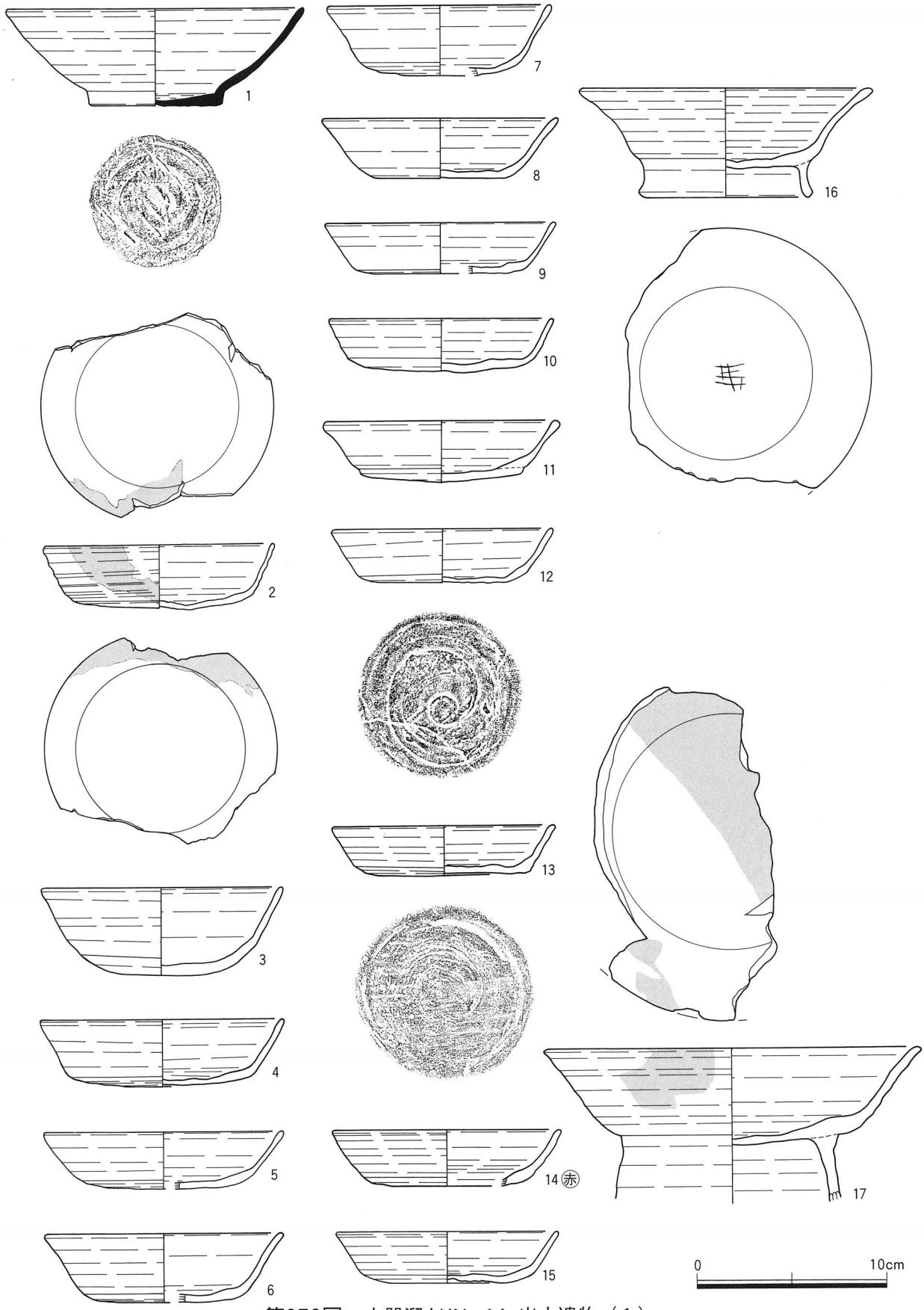
1999年度２－３区（第1001図）

１・２は須恵器の杯である。３は須恵器の壺である。４は陶器の擂鉢である。５は土師器の蓋である。６～８は土師器の杯である。９・10は土師器の皿である。11・12は土錘である。13・14は鉄釘である。15は鉄製の鎌である。

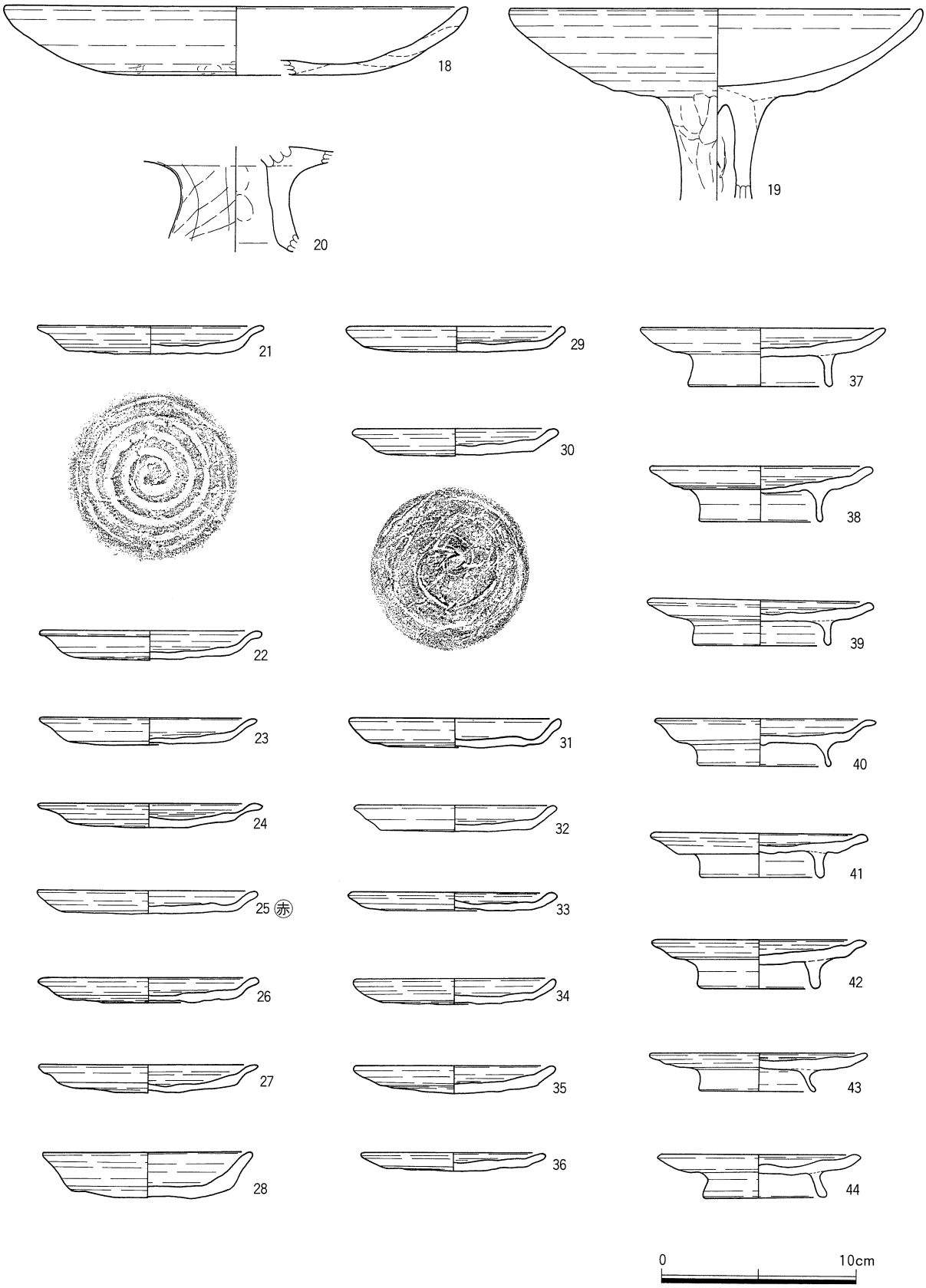
2003年度１区（第1002図）

１は須恵器の蓋である。２は須恵器の杯である。３は須恵器の壺である。４は土師器の蓋である。５

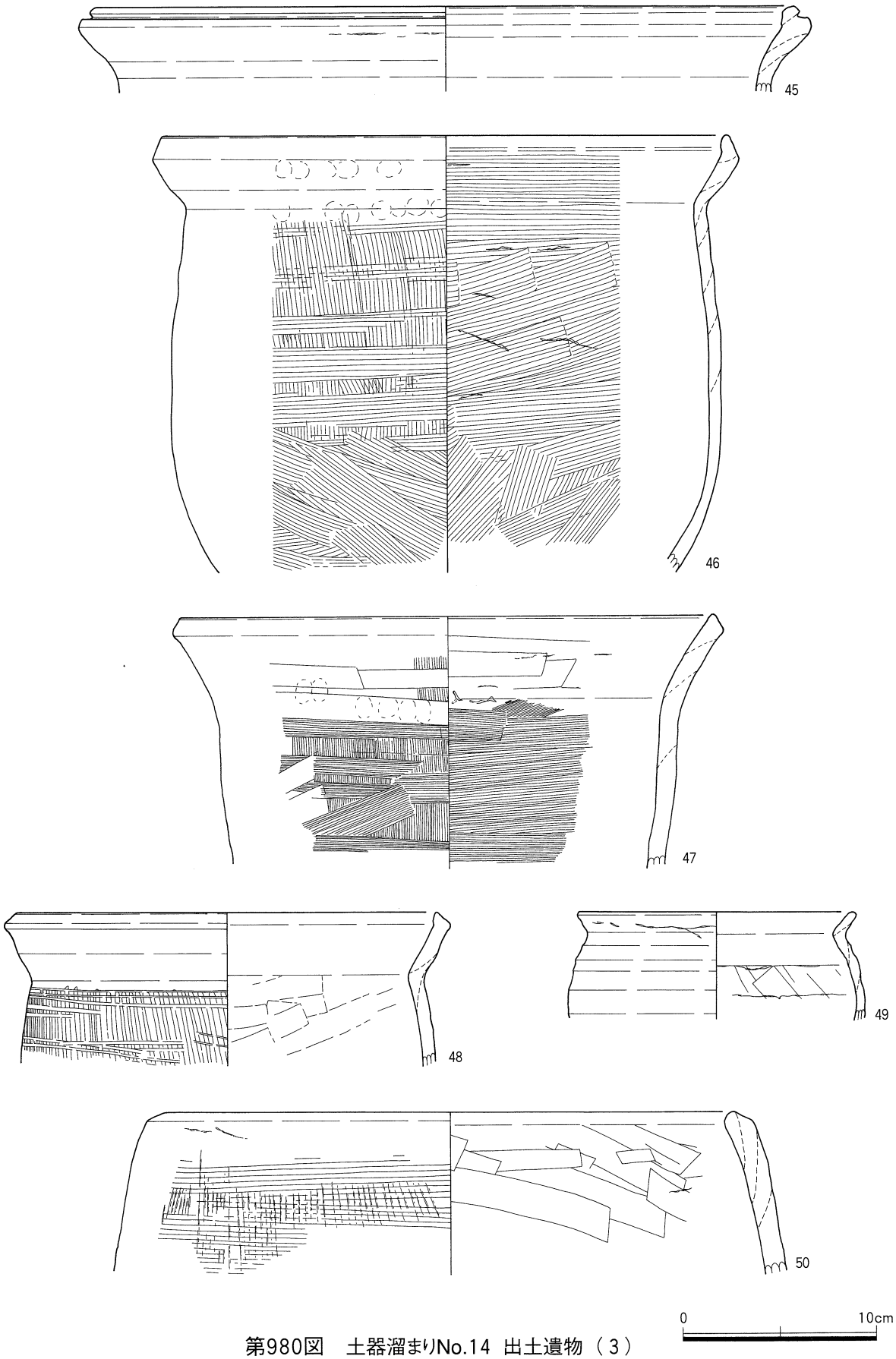
第977図　土器溜まりNo.14 平断面図



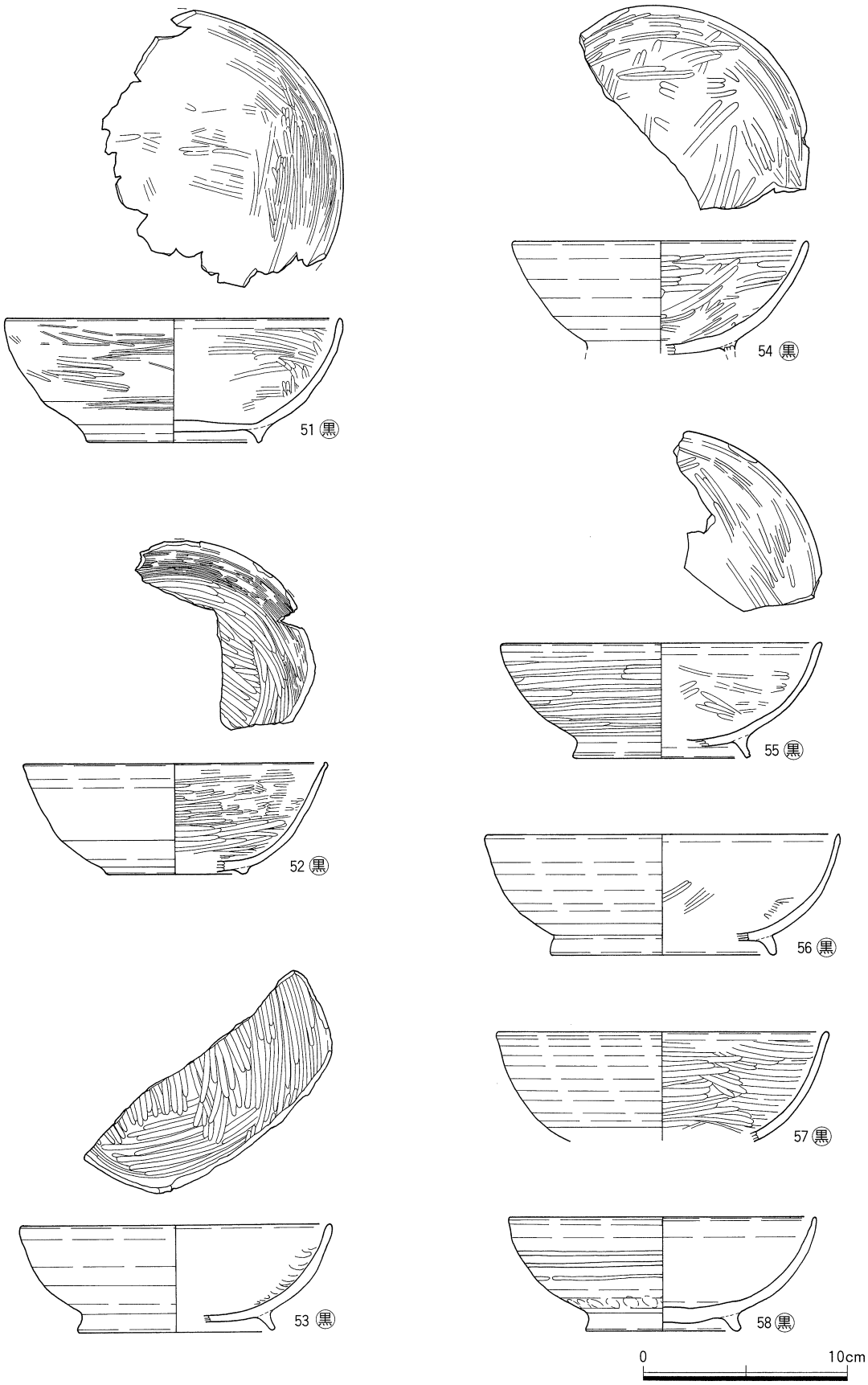
第978図　土器溜まりNo.14 出土遺物（1）



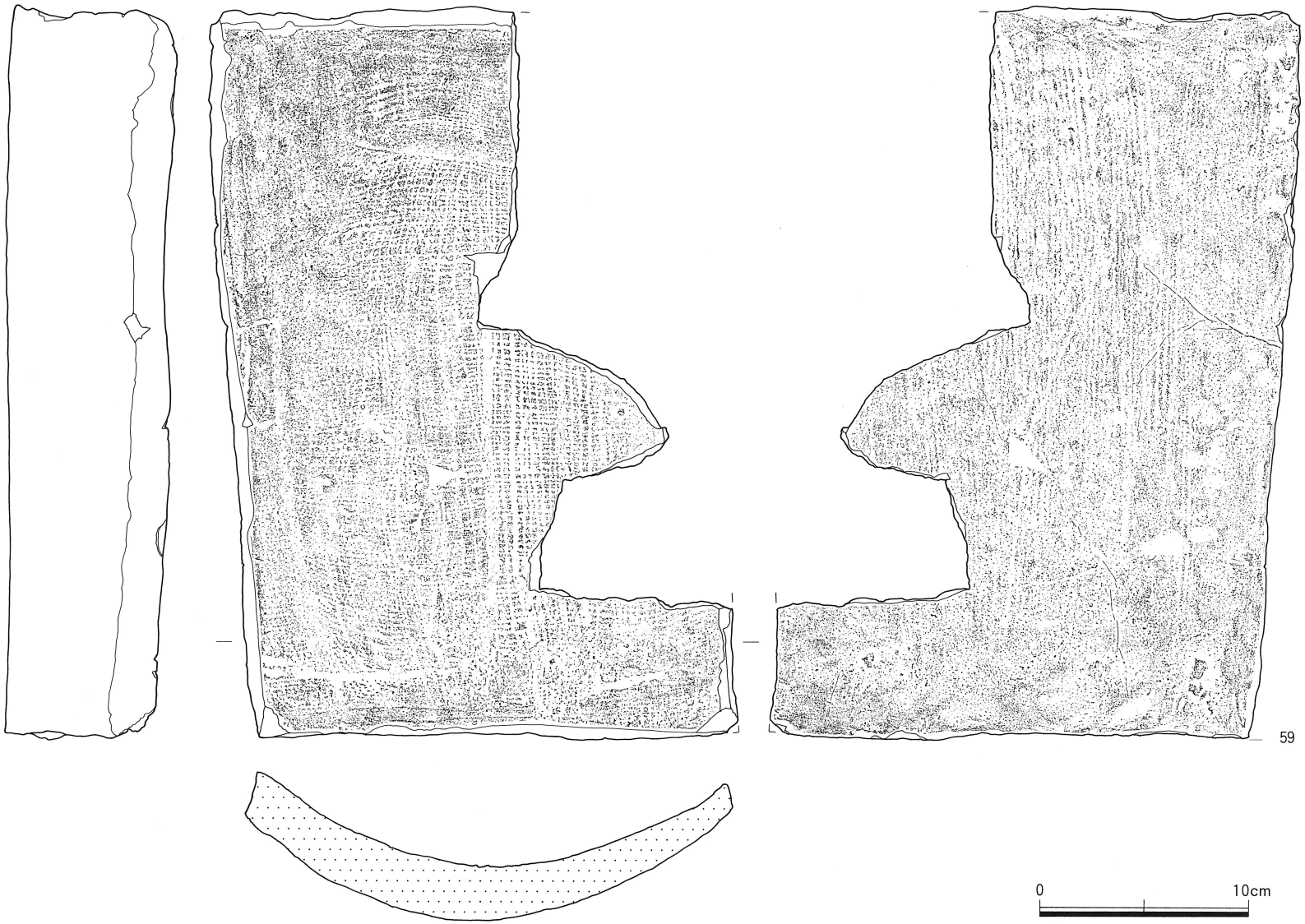
第979図　土器溜まりNo.14 出土遺物（2）



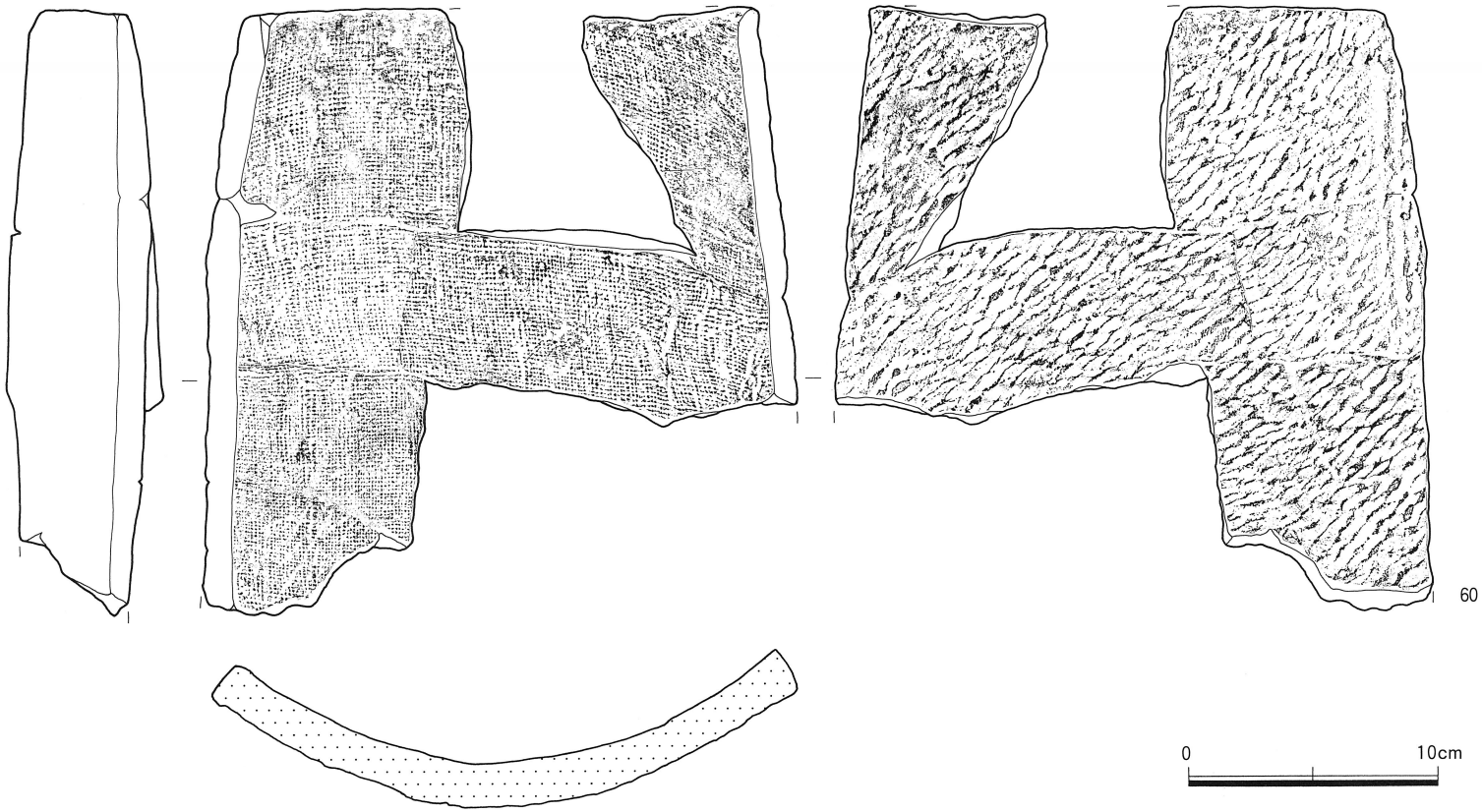
第980図　土器溜まりNo.14 出土遺物（3）



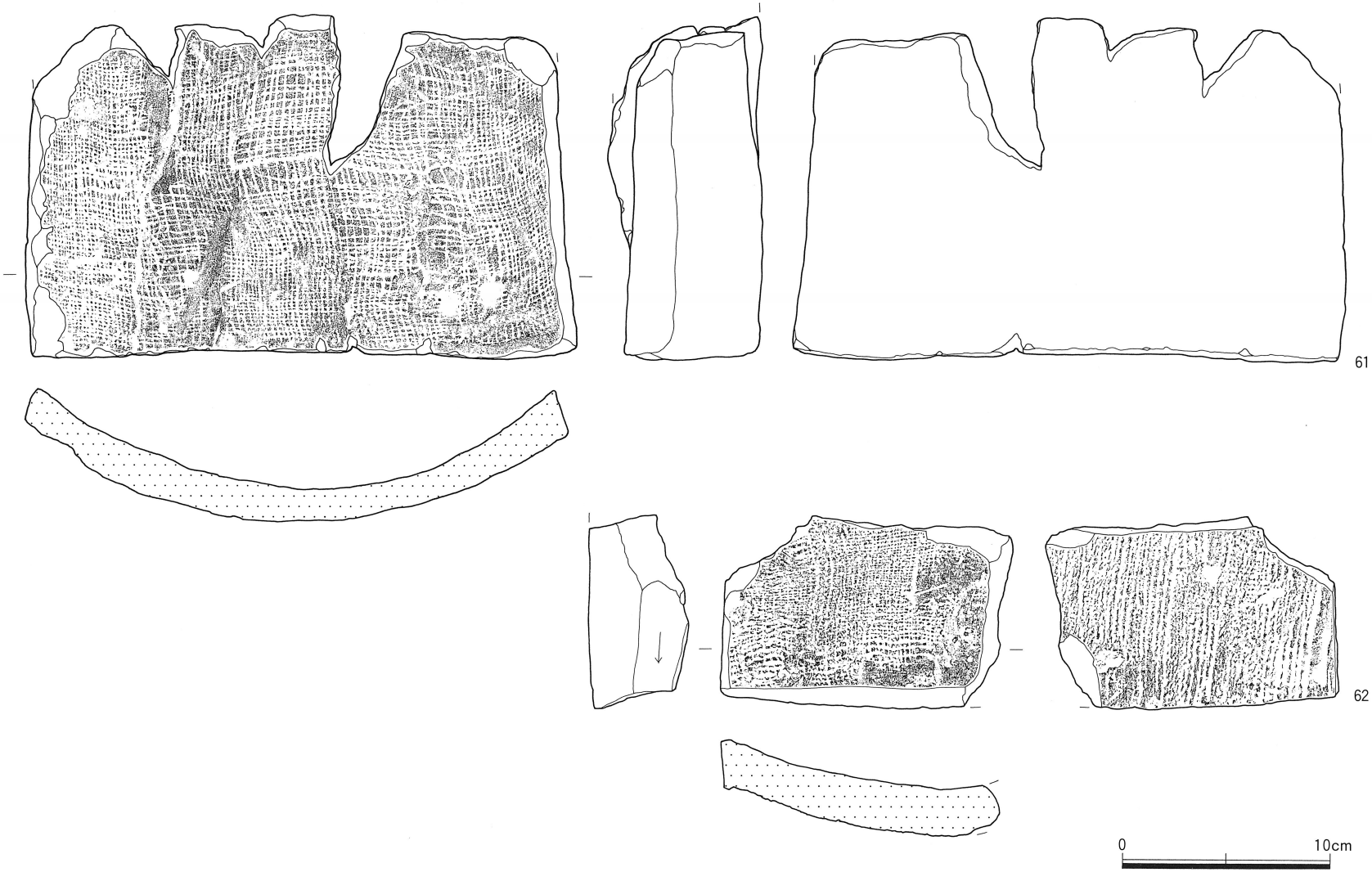
第981図　土器溜まりNo.14 出土遺物（4）



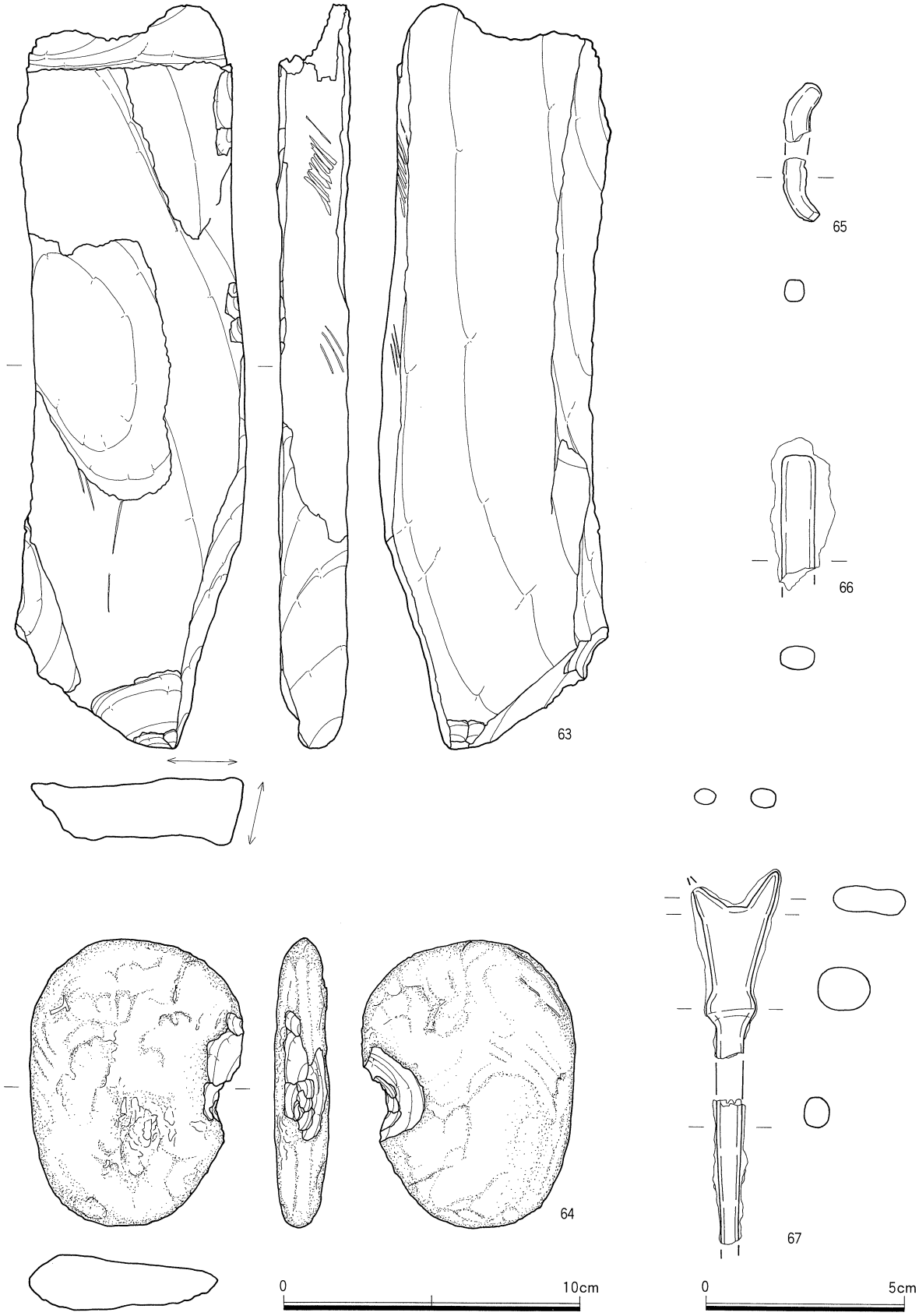
第982図　土器溜まりNo.14 出土遺物（5）



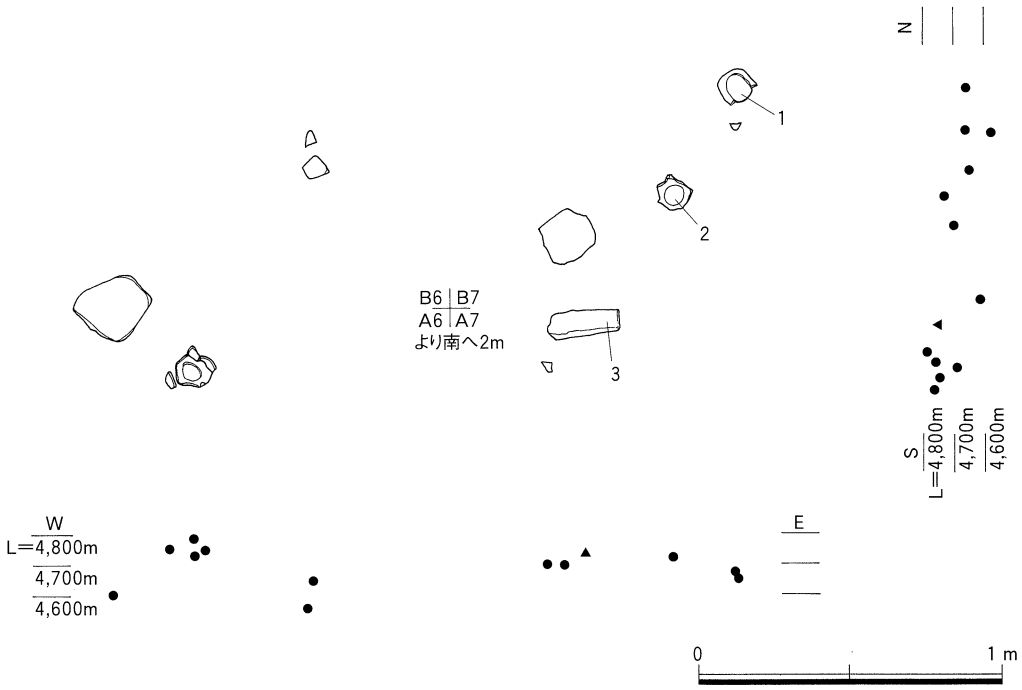
第983図　土器溜まりNo.14 出土遺物（6）



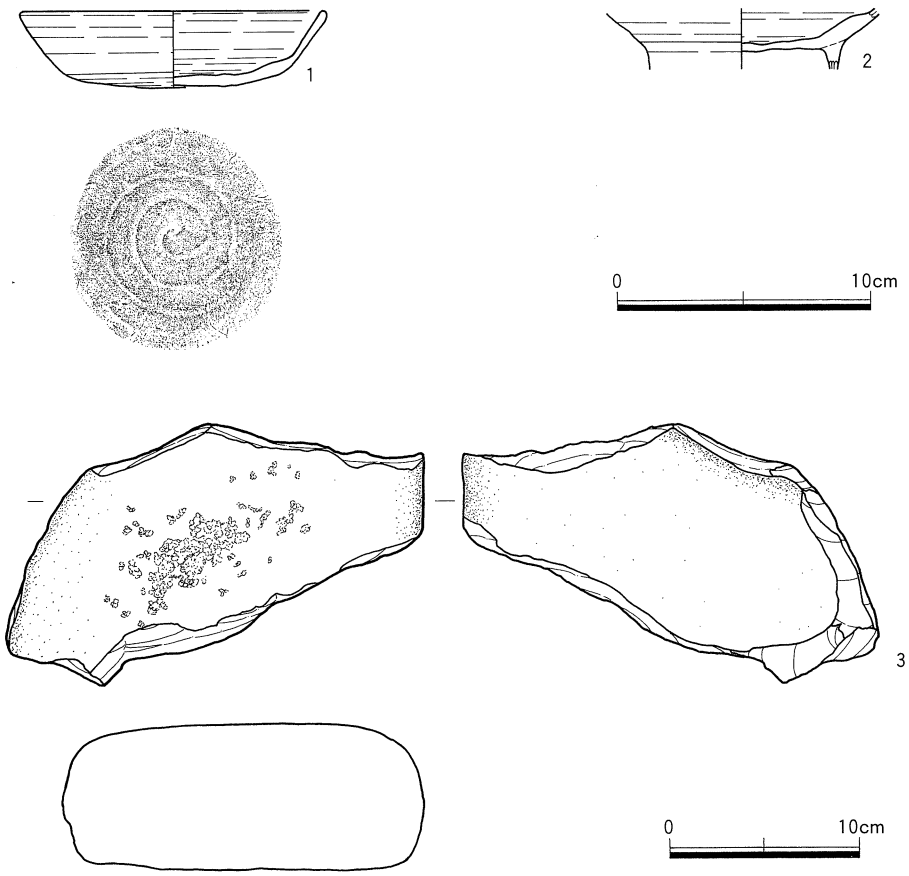
第984図　土器溜まりNo.14 出土遺物（7）



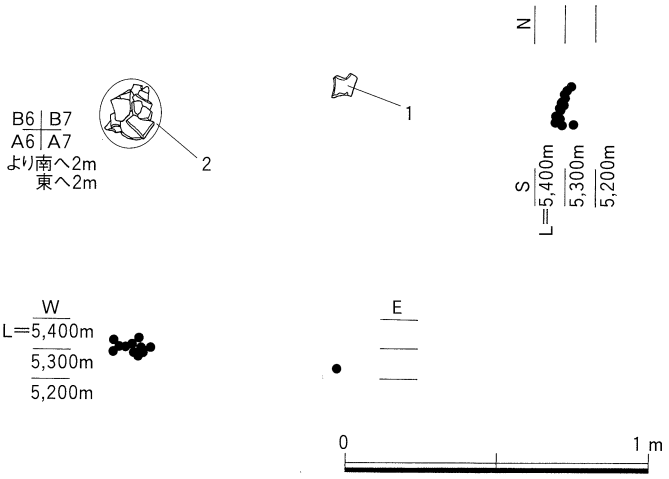
第985図　土器溜まりNo.14 出土遺物（8）



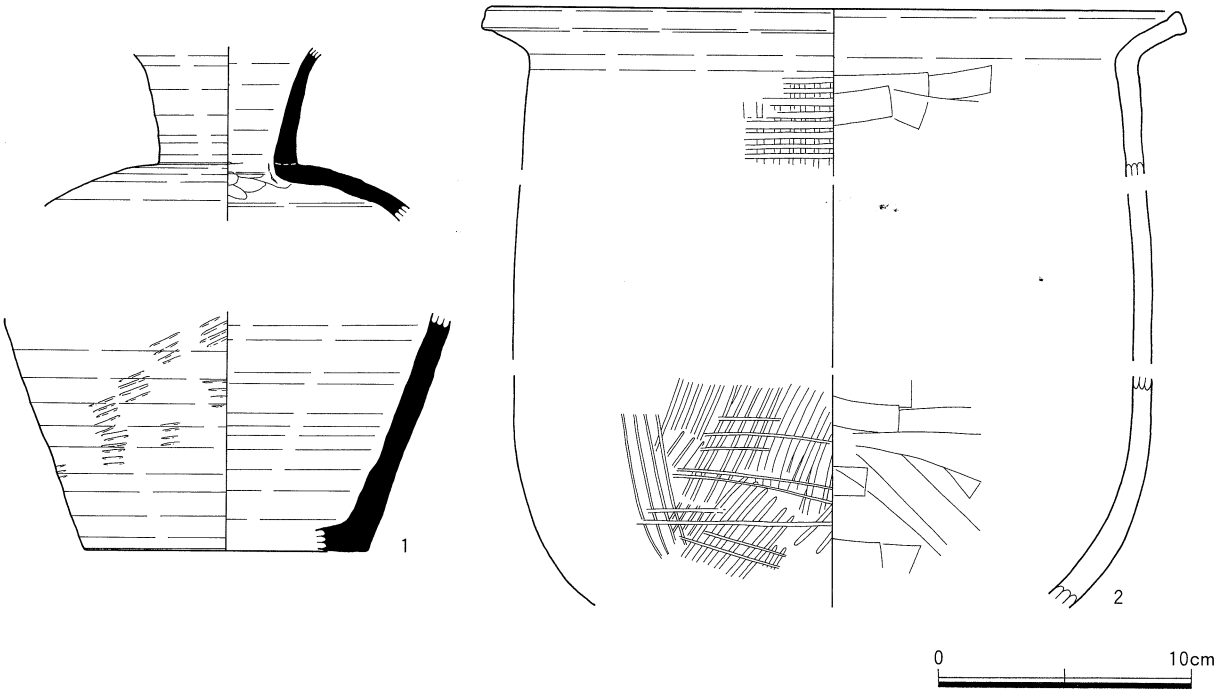
第986図　土器溜まりNo.15 平断面図



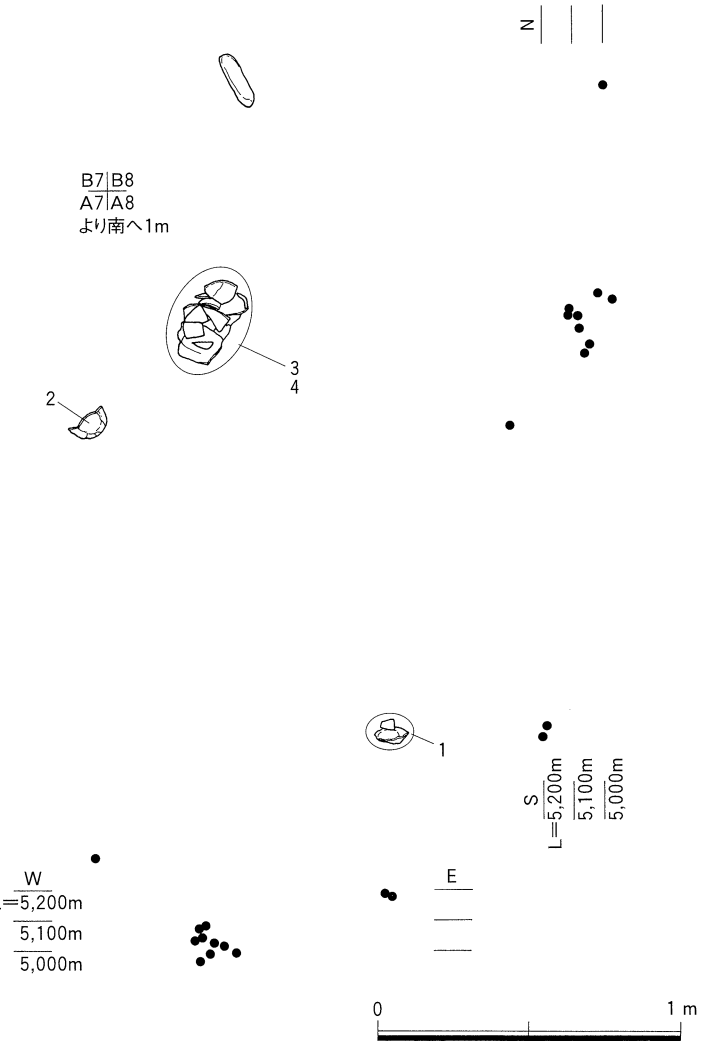
第987図　土器溜まりNo.15 出土遺物



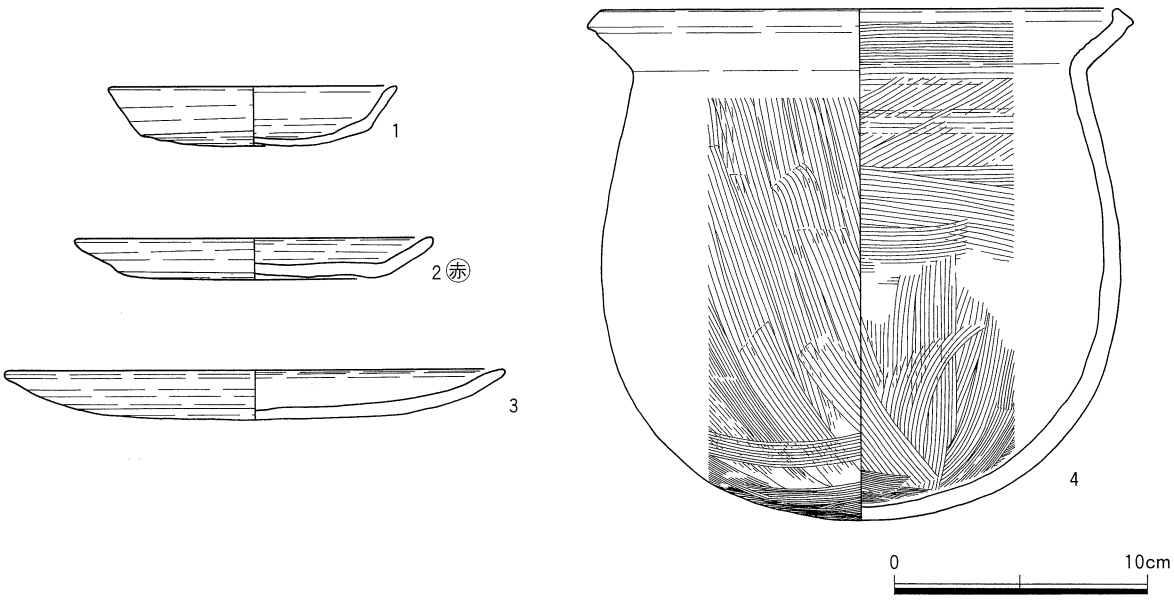
第988図　土器溜まりNo.16 平断面図



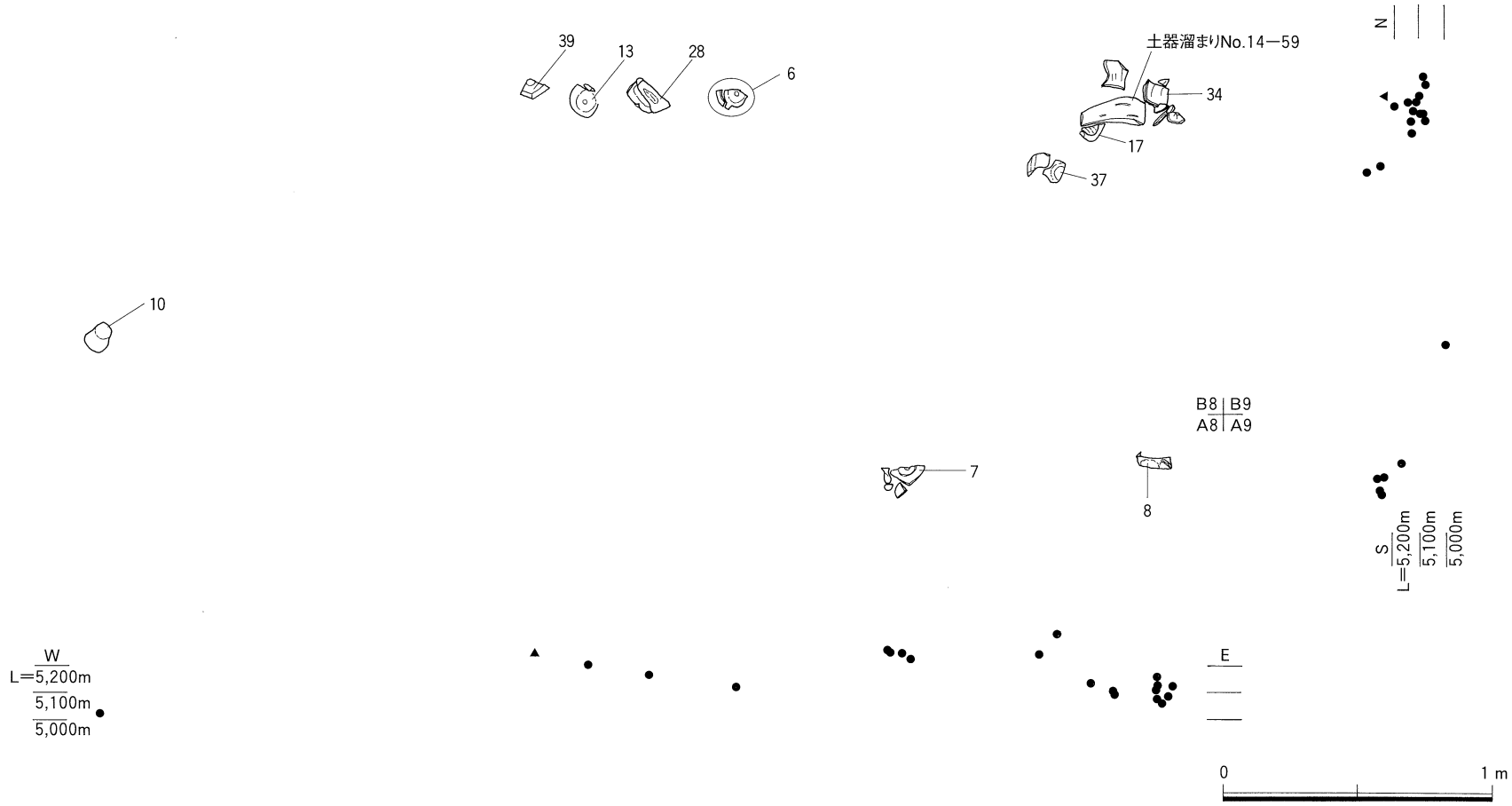
第989図　土器溜まりNo.16 出土遺物



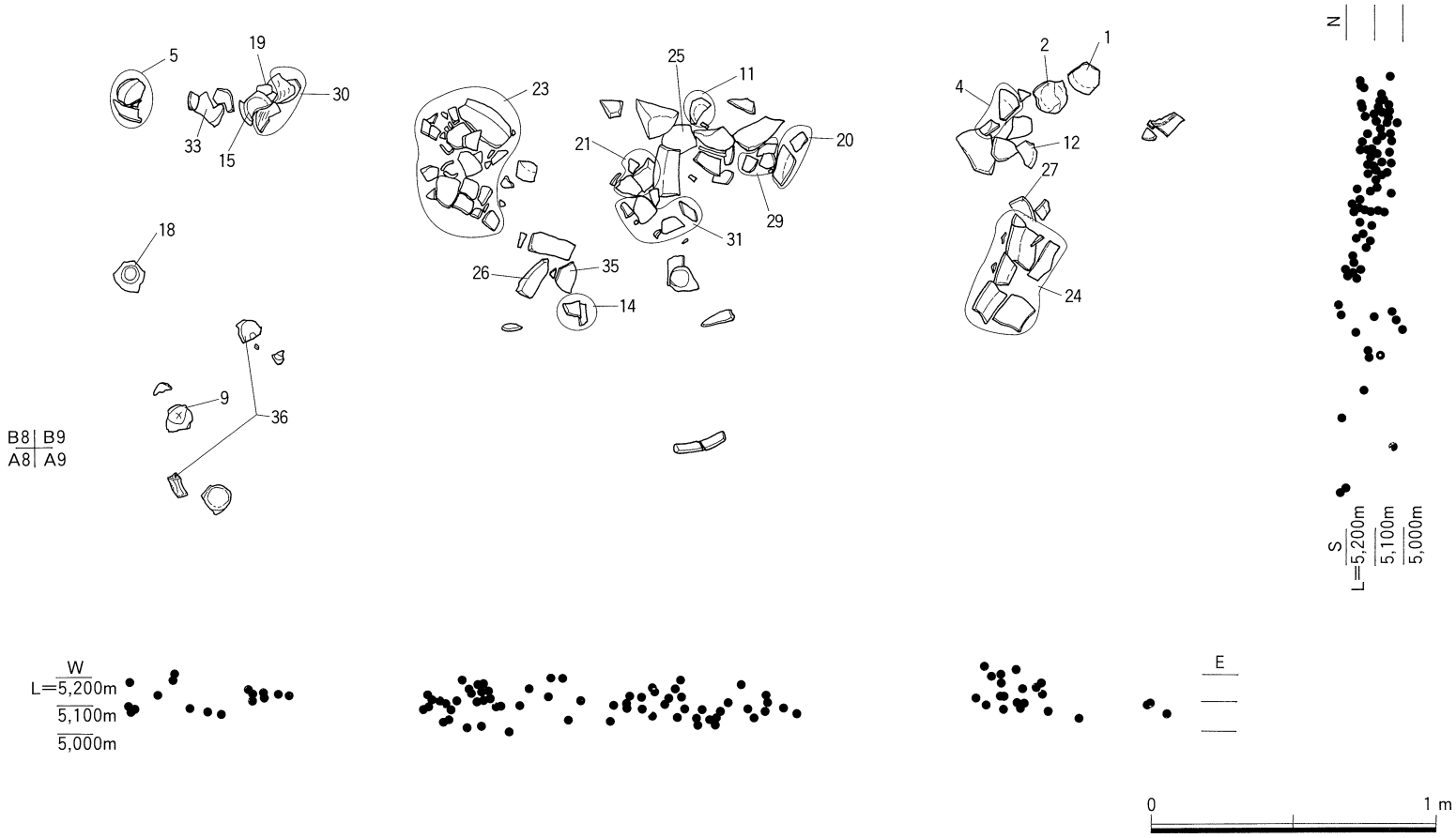
第990図　土器溜まりNo.17 平断面図



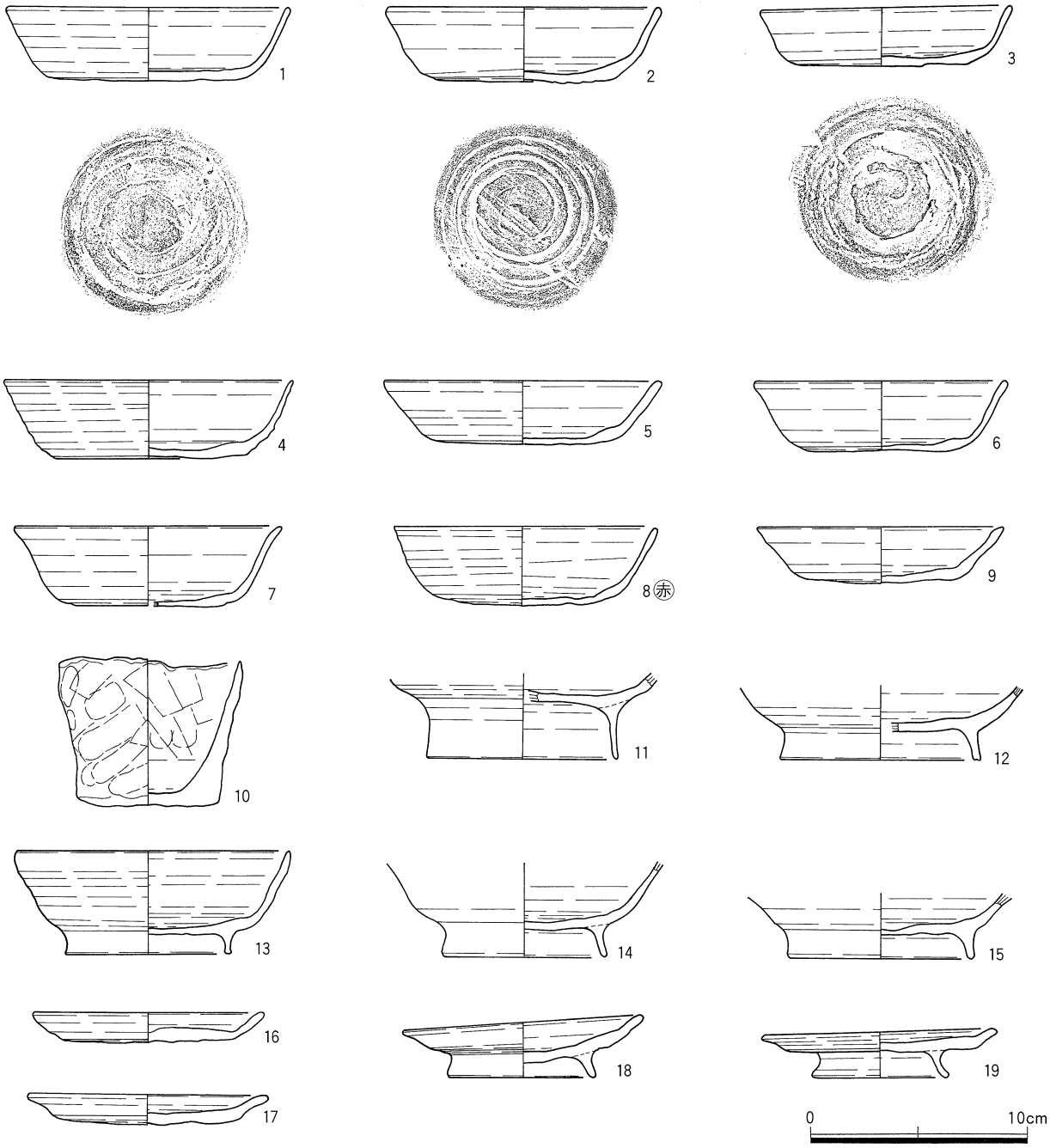
第991図　土器溜まりNo.17 出土遺物



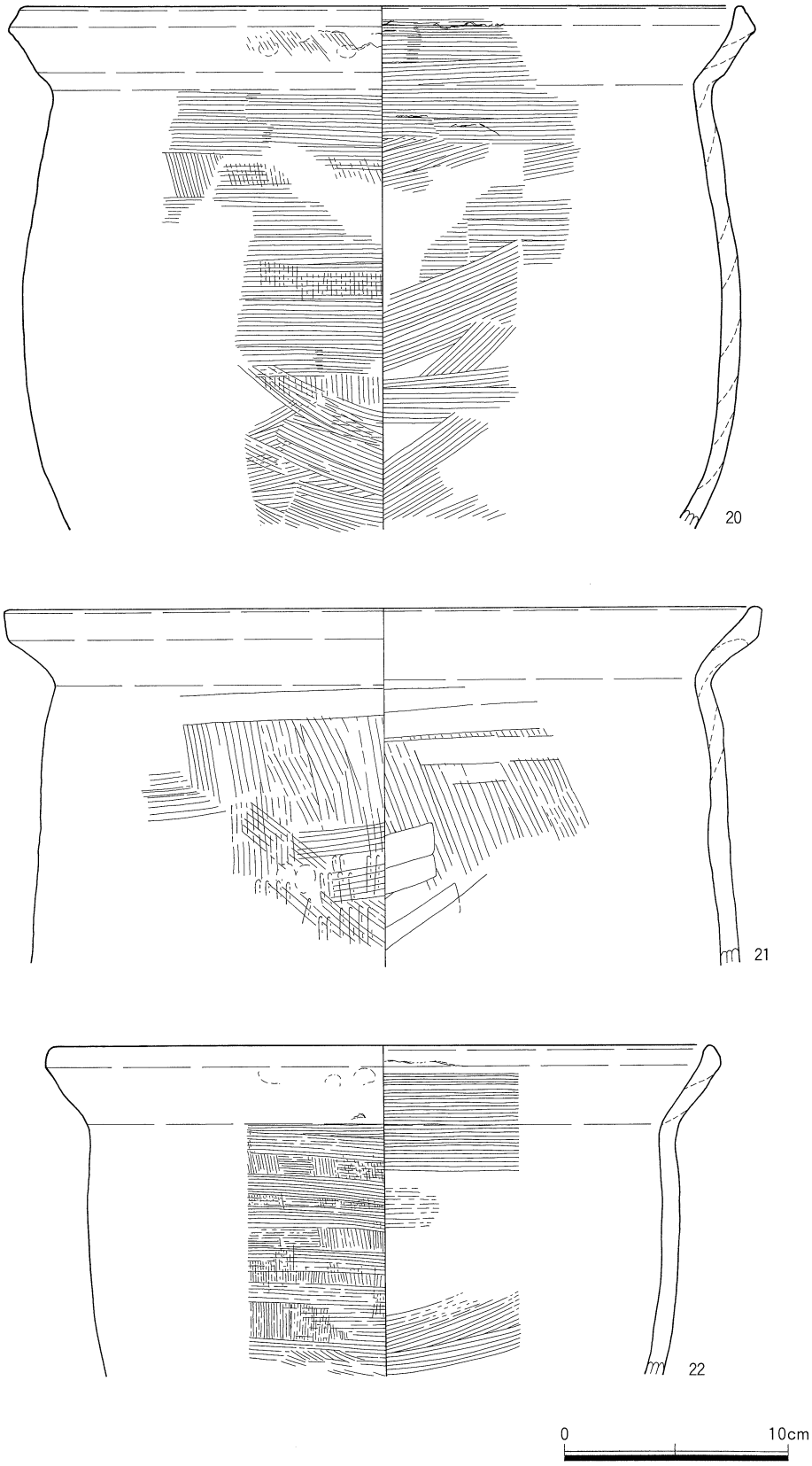
第992図　土器溜まりNo.18 平断面図（1）



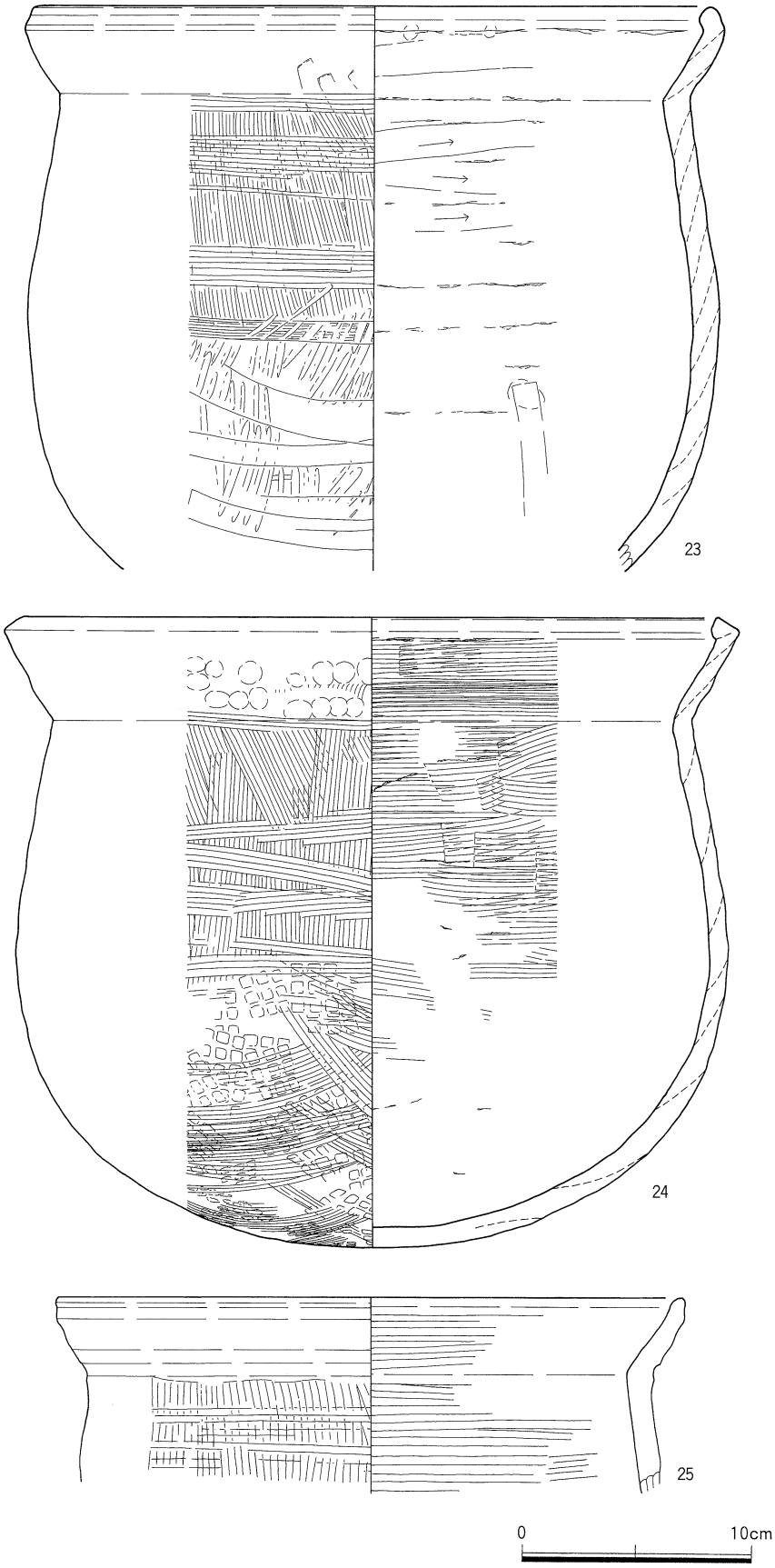
第993図　土器溜まりNo.18 平断面図（2）



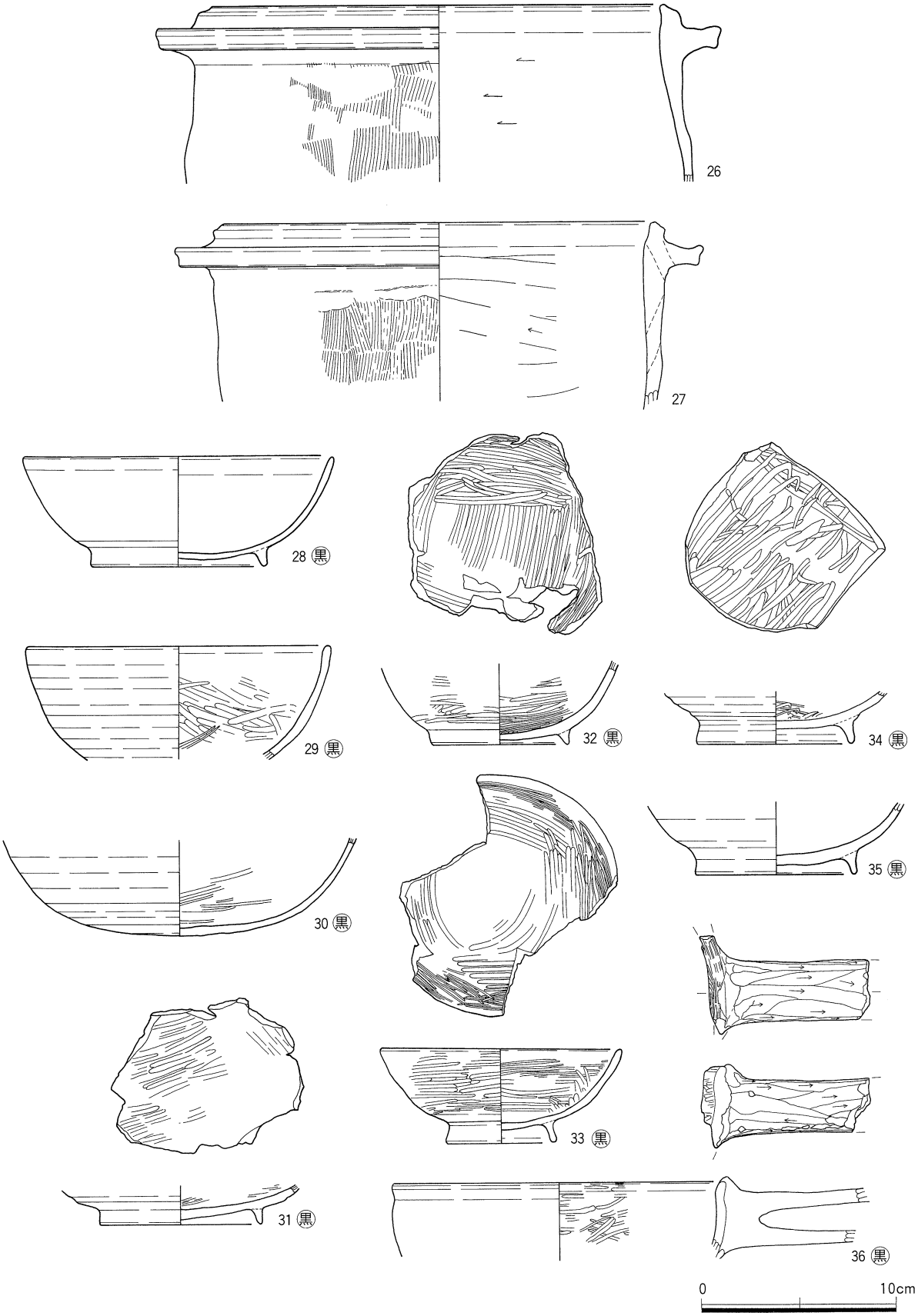
第994図　土器溜まりNo.18 出土遺物（1）



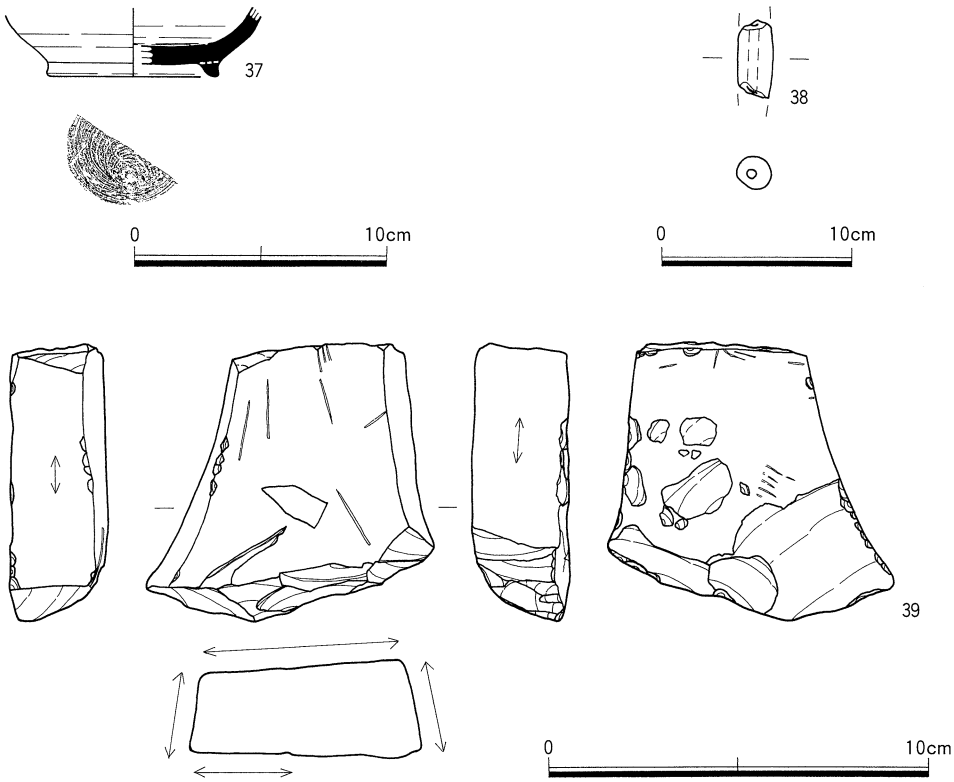
第995図　土器溜まりNo.18 出土遺物（2）



第996図　土器溜まりNo.18 出土遺物（3）



第997図　土器溜まりNo.18 出土遺物（4）



第998図　土器溜まりNo.18 出土遺物（5）

は土師器の杯である。

1999年度3区（第1003図）

1は須恵器の蓋である。2は須恵器の壺である。3は平瓦である。4は土錘である。5は銭貨である。6～11は鉄釘である。12は鉄製の刀子である。木質部分が残存している。13は鉄製の鎌である。

1998年度5－1区（第1004図）

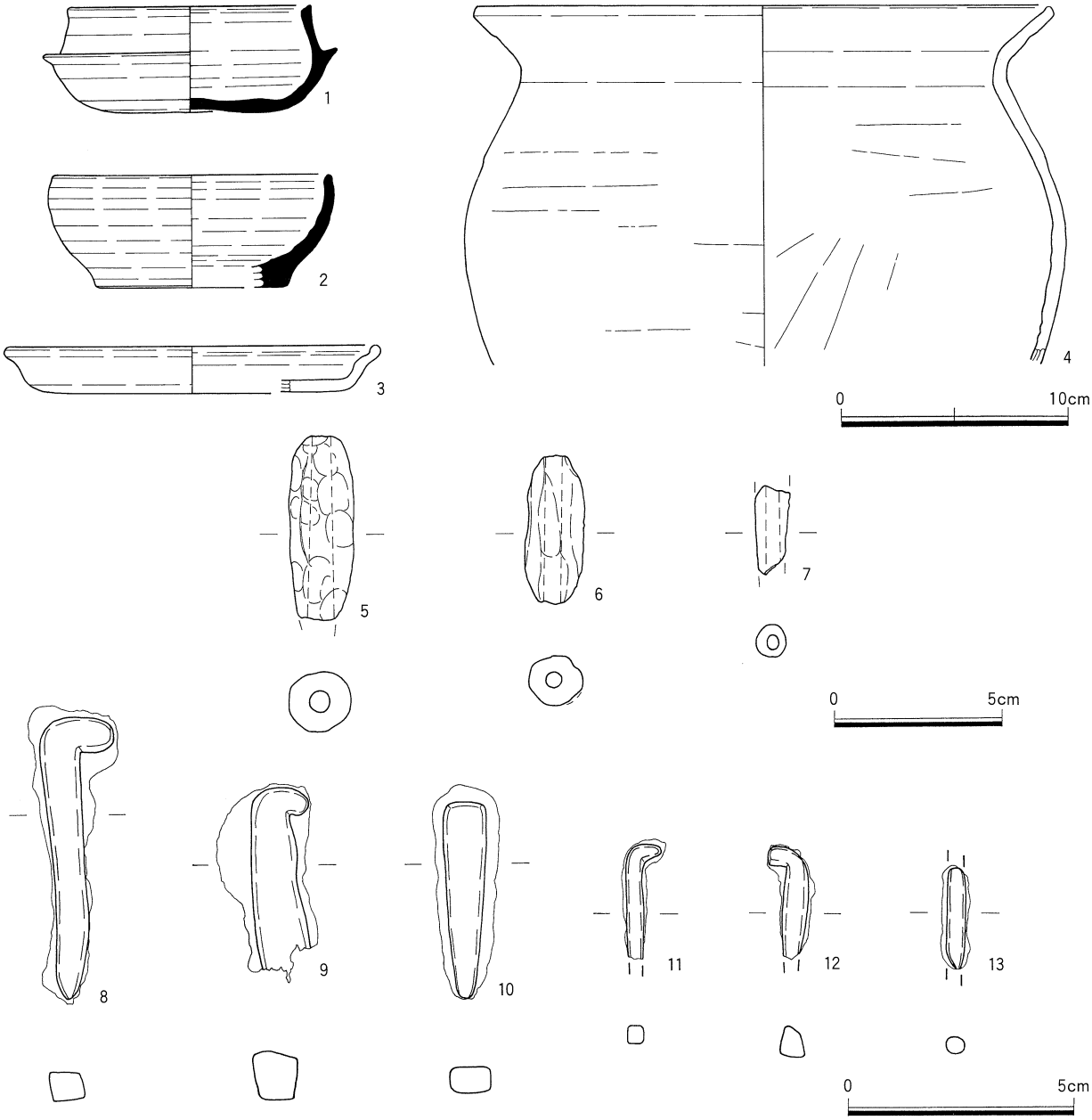
1は須恵器の壺である。

1998年度5－2区（第1005図）

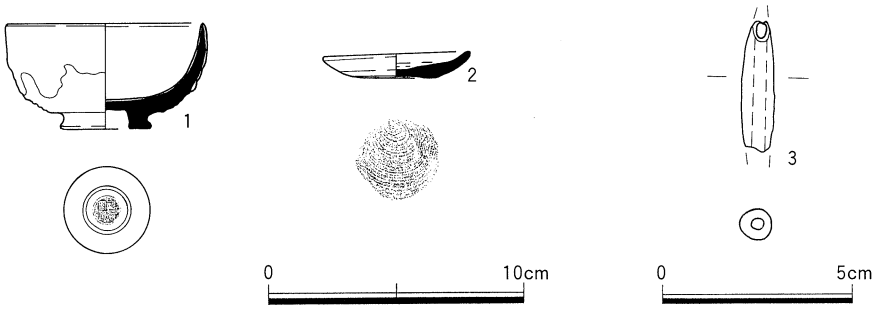
1は土師器の皿である。

1998年度6区（第1006・1007図）

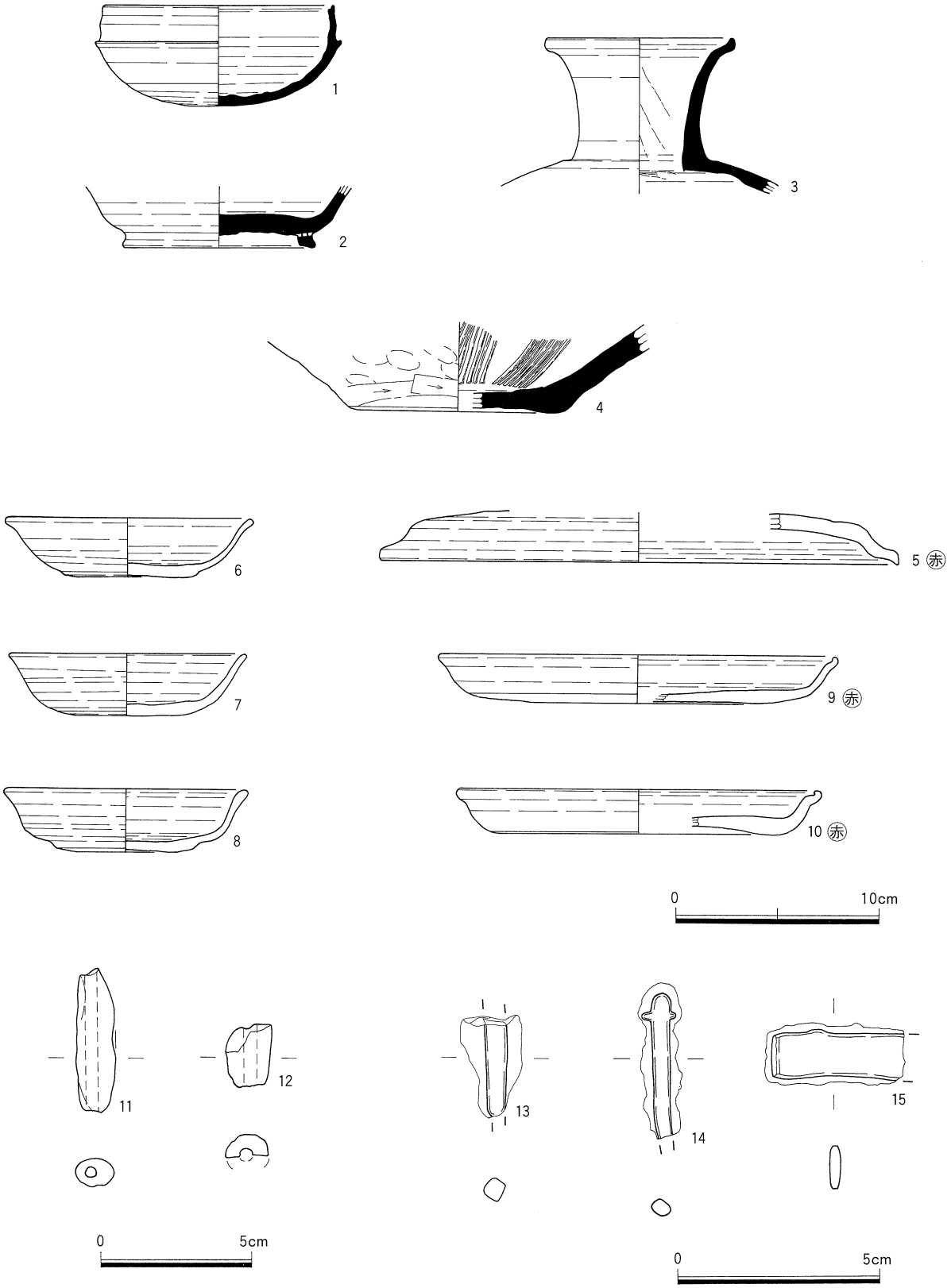
1は須恵器の蓋である。2～6は須恵器の杯である。7は須恵器の皿である。8は土師器の蓋である。9は土師器の杯である。10は土師器の皿である。11は獣脚形の土製品である。12・13は土錘である。14は平瓦である。15は丸瓦である。16は砥石である。17～21は鉄釘である。22～24は用途不明の鉄器である。



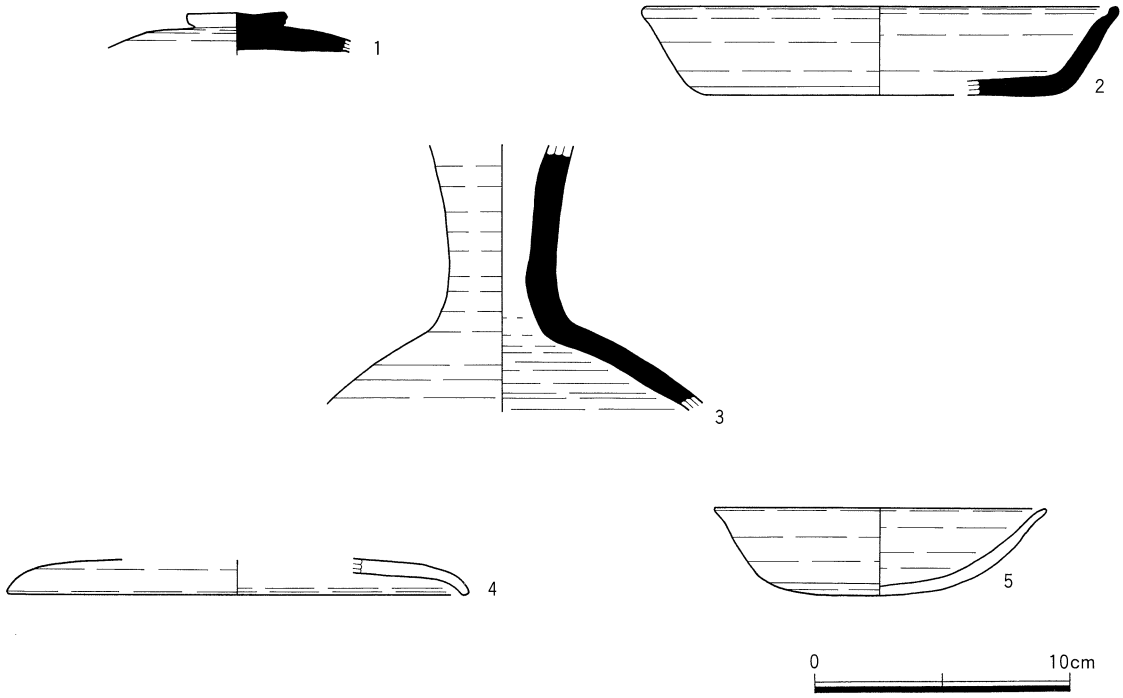
第999図　1999年度 2-1区包含層 出土遺物



第1000図　1999年度 2-2区包含層 出土遺物



第1001図　1999年度 2-3区包含層 出土遺物



第1002図　2003年度　1区包含層　出土遺物

1999年度4区（第1008・1009図）

1・2は須恵器の蓋である。3・4は須恵器の杯である。5・6は須恵器の高杯である。7は須恵器の壺である。8～12は土師器の杯である。13は土師器の皿である。14～18は底部に刻書を有する土器である。19は土師器の甕である。20は竈である。21～24は土錘である。25～30は鉄釘である。31は鉄製の刀子である。32は用途不明の鉄器である。

2003年度2－1区（第1010図）

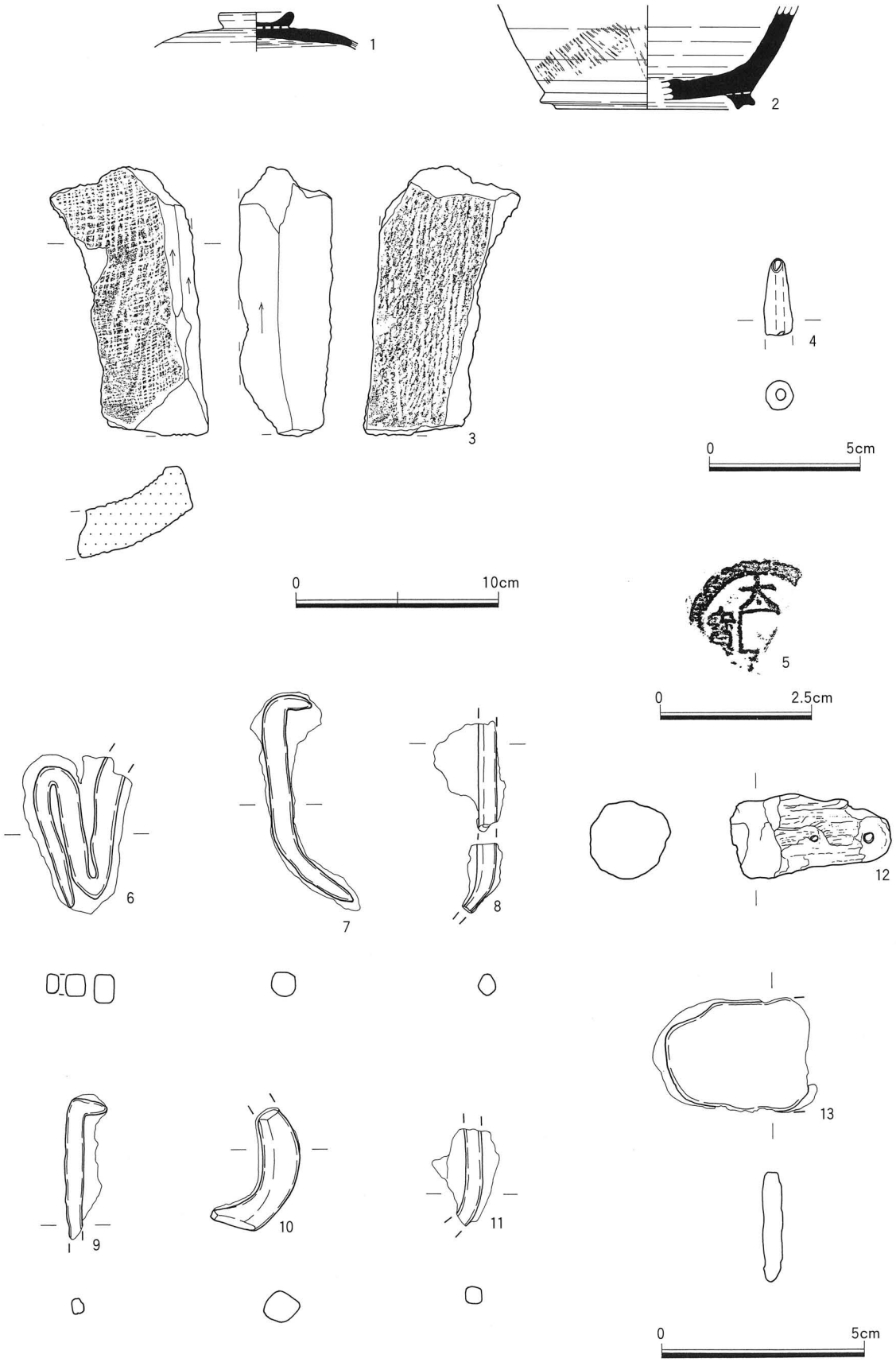
1・2は須恵器の杯である。3・4は土師器の杯である。5～7は土師器の皿である。8は製塩土器である。9は丸瓦である。10は土錘である。

1998年度7区（第1011図）

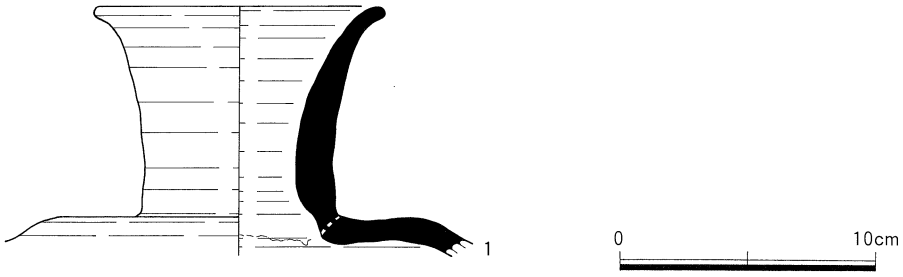
1は須恵器の蓋である。2は須恵器の杯である。3は須恵器の壺である。4は土師器の杯である。5は土師器の椀である。6・7は土師器の皿である。8は平瓦である。9は砂岩の砥石である。10は鉄製の鎌である。

2003年度2－2区（第1012～1015図）

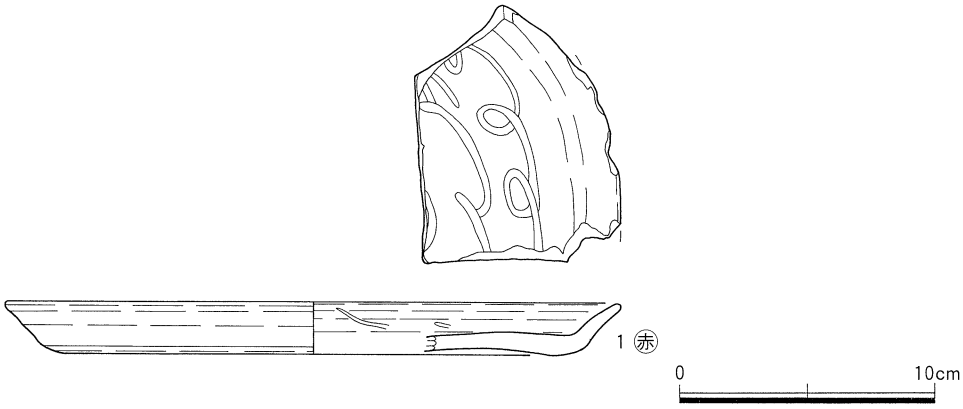
1～4は須恵器の蓋である。5～8は須恵器の杯である。9・10は須恵器の壺である。9は外面底部に「千」の刻書、10の外面底部には「×」の刻書がそれぞれみられる。11～13は須恵器の甕である。14は須恵器の器台である。15～18は土師器の杯である。19は土師器の皿である。20・21は土師器の甕である。22は陶器の皿である。23～25は備前焼の擂鉢である。26は竈である。27は平瓦である。28・29は土



第1003図　1999年度　3区包含層　出土遺物



第1004図　1998年度 5-1区包含層 出土遺物



第1005図　1998年度 5-2区包含層 出土遺物

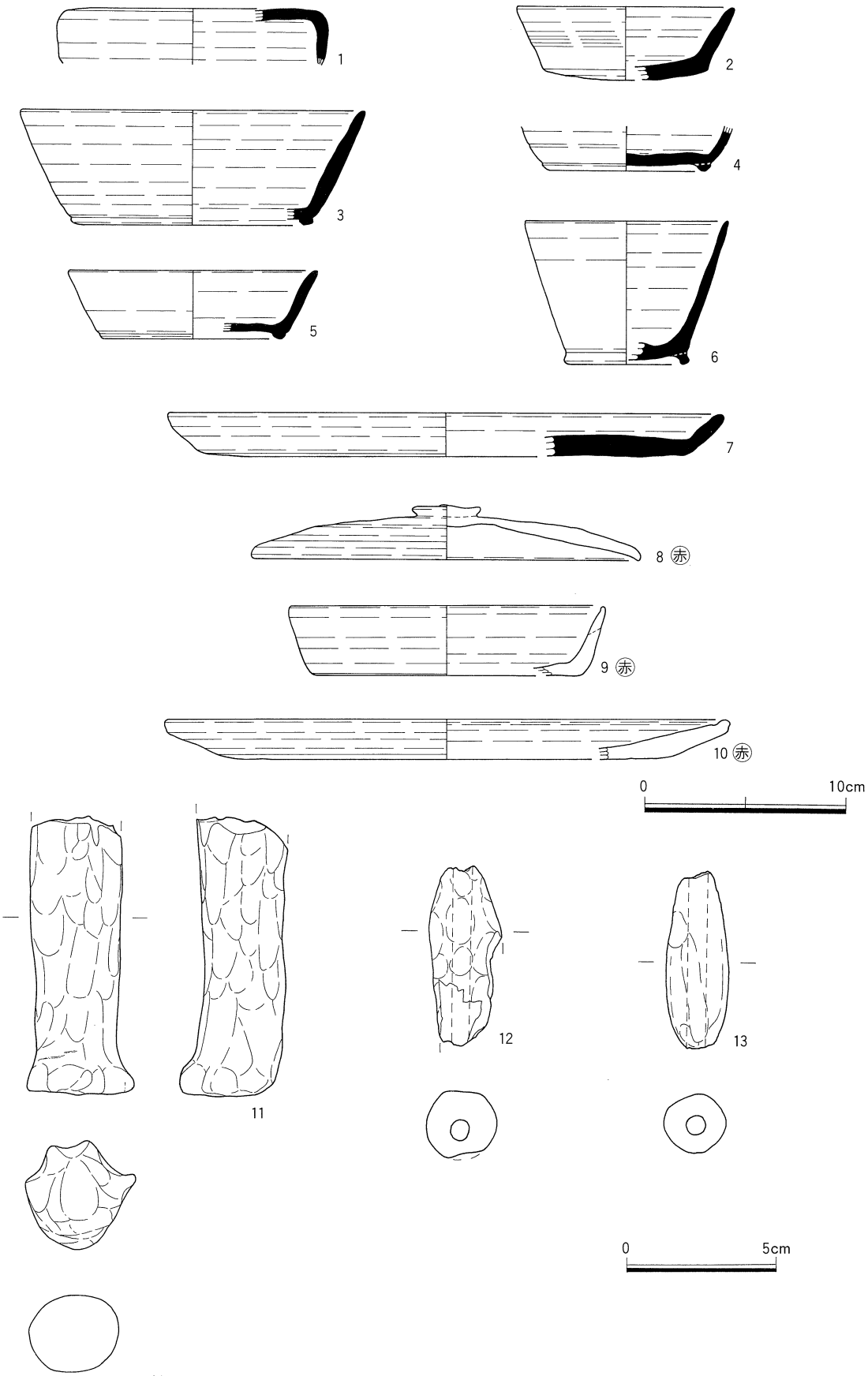
錘である。30は砂岩の砥石である。31～35は棒状の鉄器である。36～42は鉄釘である。

1998年度 8 区（第1016～1018図）

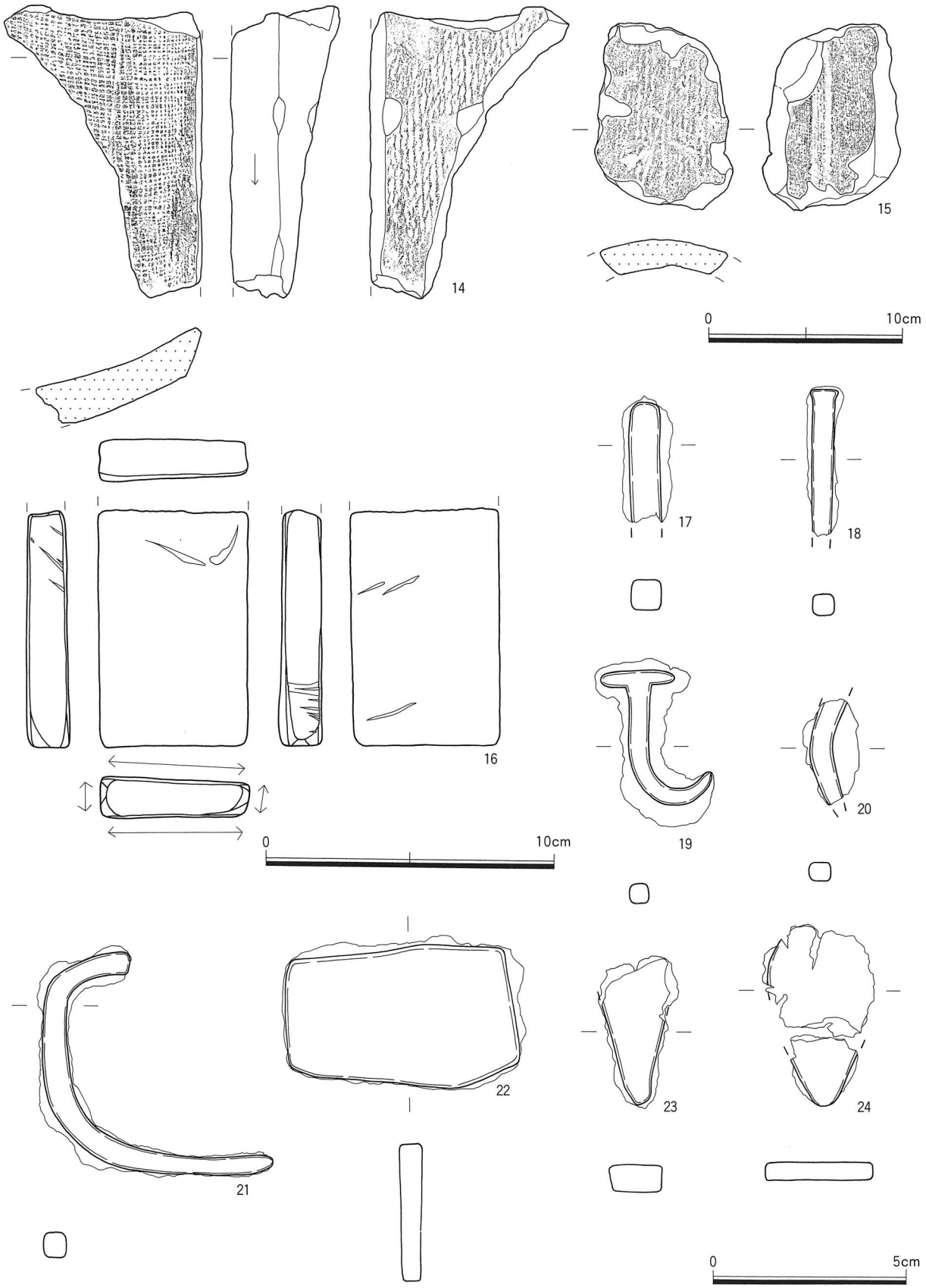
1・2は須恵器の杯である。3～7は土師器の杯である。8～18は土師器の皿である。19～22は底部に刻書を持つ土器である。23・24は土師器の甕である。25は土師器の羽釜である。26は緑釉陶器の杯である。27は緑釉陶器の皿である。28は平瓦である。29は重圏文軒平瓦である。30は羽口である。31～36は土錘である。37～40は鉄釘である。41は鉄製の刀子である。42は用途不明鉄器である。

1999年度 5 区（第1019～1032図）

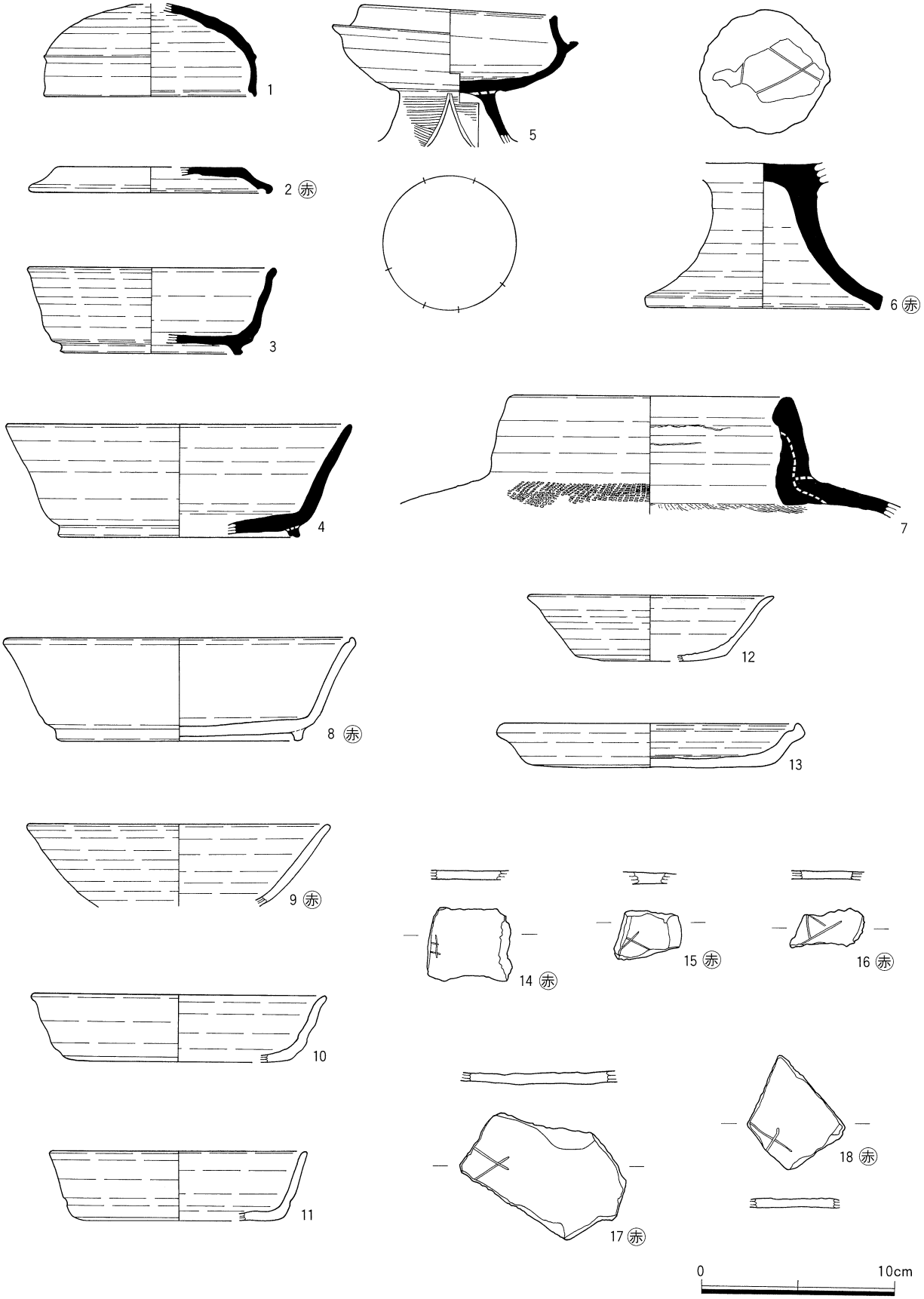
1は須恵器の蓋である。2～5は須恵器の杯ある。6は須恵器の椀である。7・8は須恵器の壺である。9～12は須恵器の甕である。13は土師器の蓋である。14～21は土師器の杯である。22～33は土師器の皿である。34は土師器の高杯である。35～42は土師器の甕である。43～46は土師器の羽釜である。47～49は黒色土器の椀である。50～52は緑釉陶器の椀である。53は緑釉陶器の杯である。54は灰釉薬陶器の椀である。55・56は青磁の碗である。57は陶器の皿である。58・59は平瓦である。60は羽口である。63～72は土錘である。73～76・78・79は敲石である。77は軽石製の有孔石製品である。80～87は砥石である。88～91は棒状の鉄製品である。92～104は鉄釘である。105・106は鉄製の刀子である。107～109は鉄製の鎌である。110・111は用途不明の鉄器である。



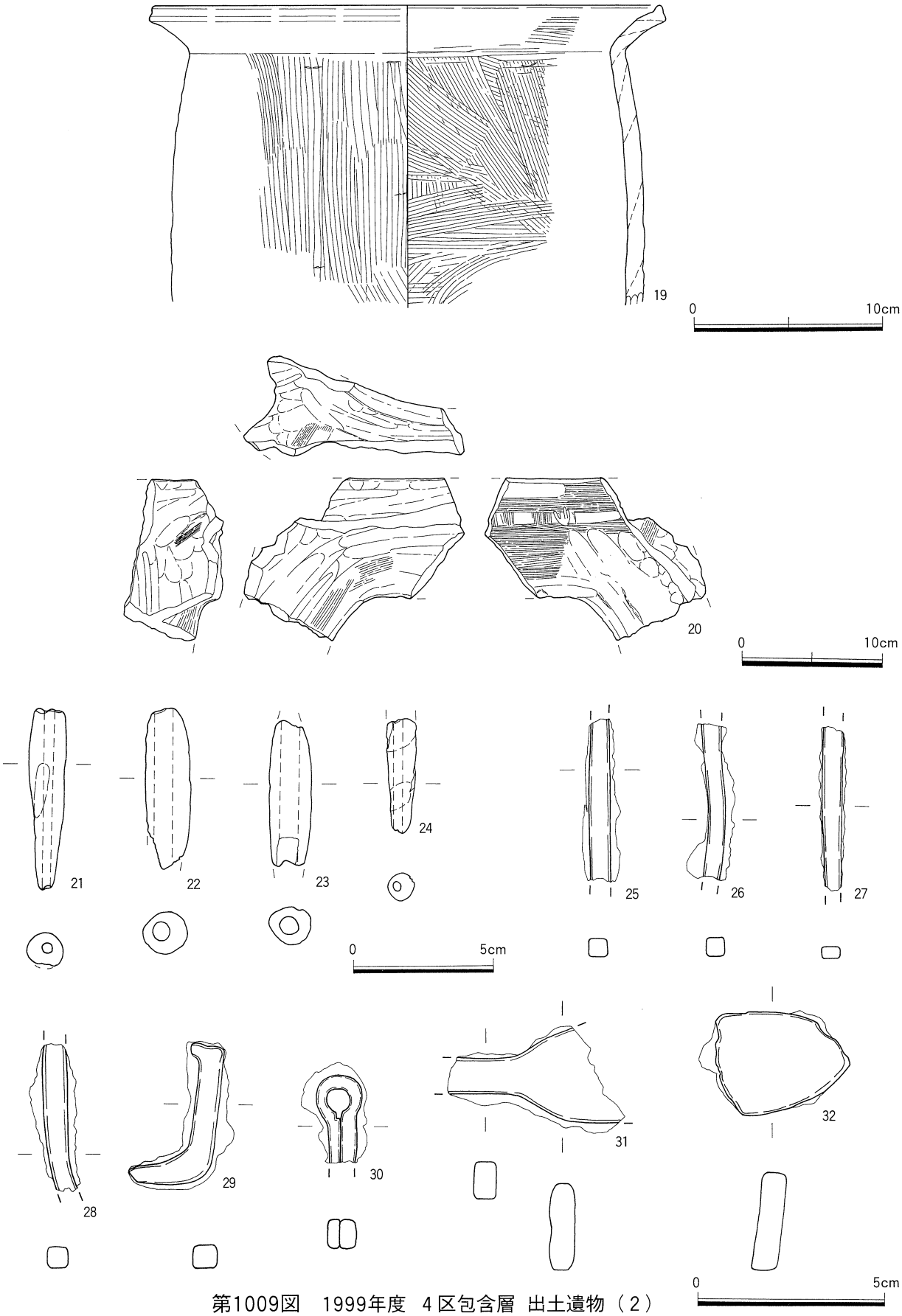
第1006図　1998年度　6区包含層　出土遺物（1）



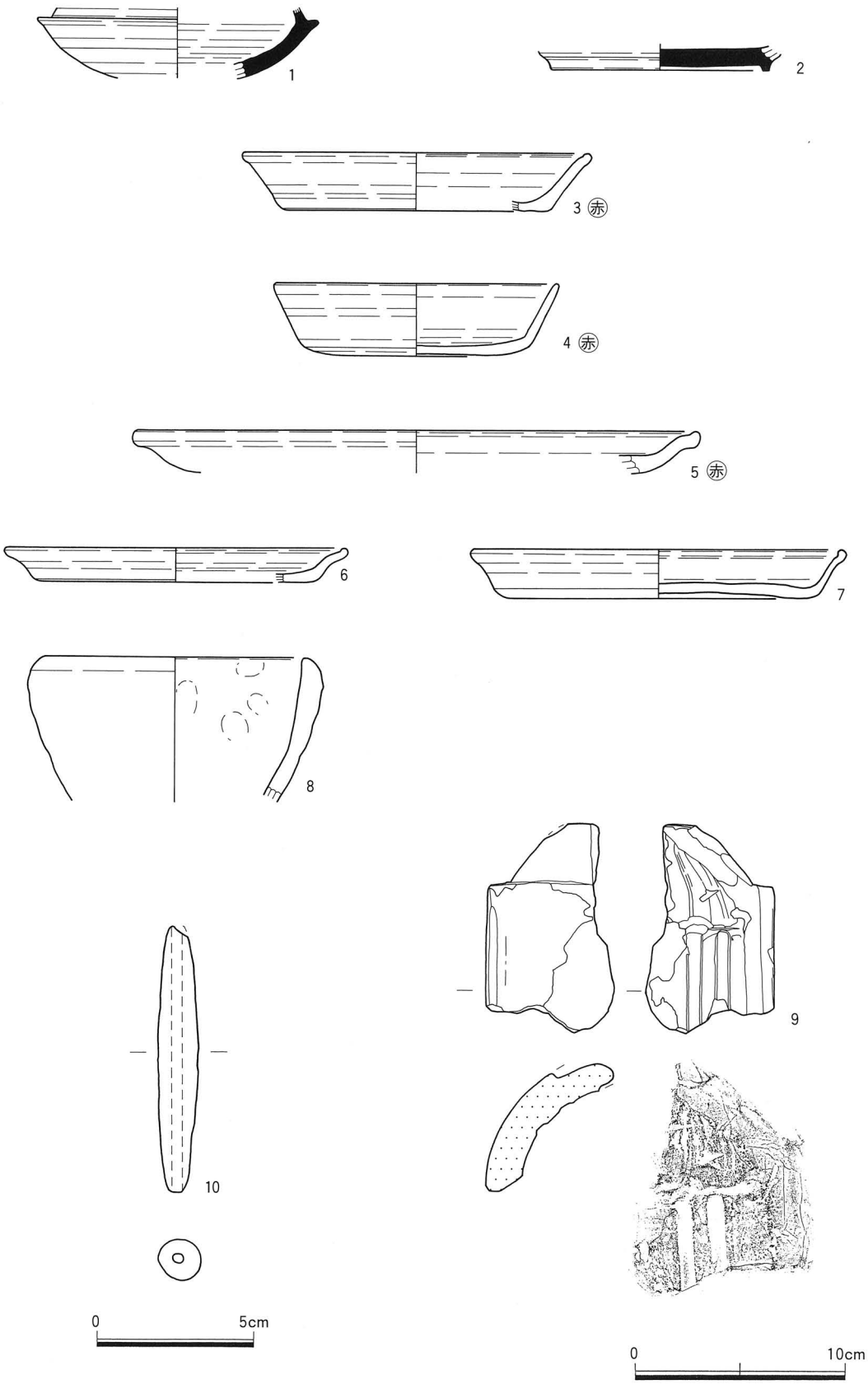
第1007図　1998年度　6区包含層　出土遺物（2）



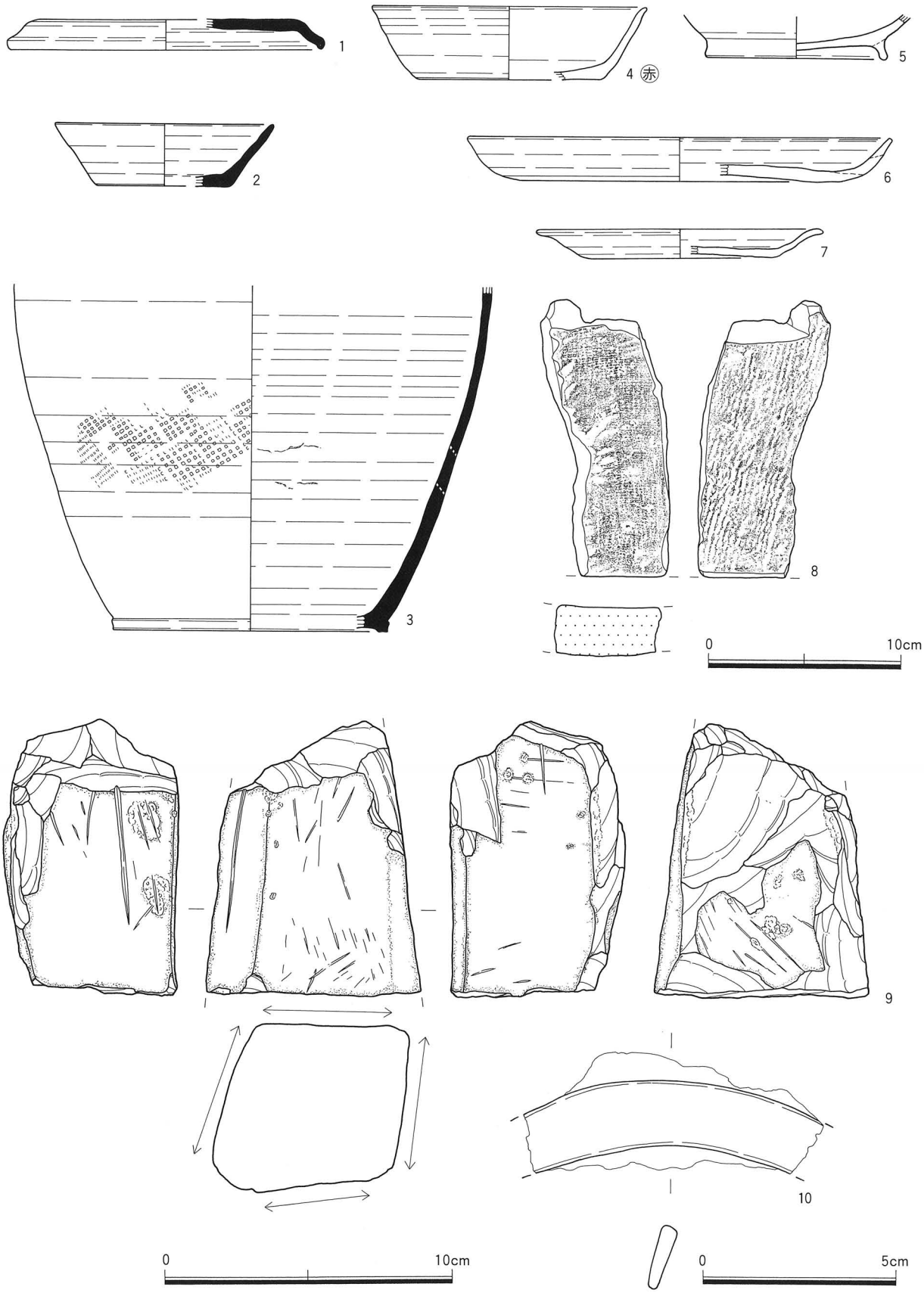
第1008図　1999年度　4区包含層　出土遺物（1）



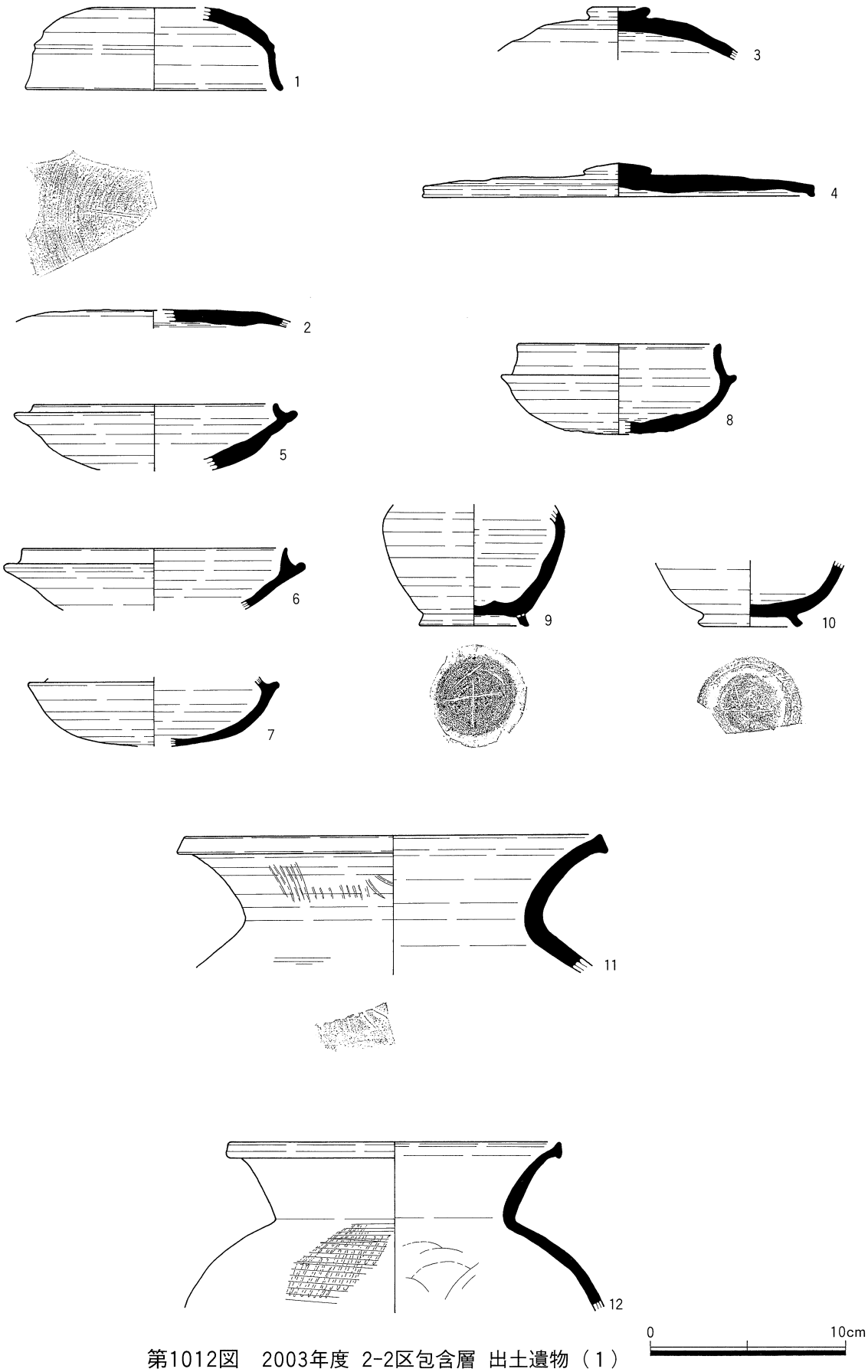
第1009図　1999年度　4区包含層　出土遺物（2）



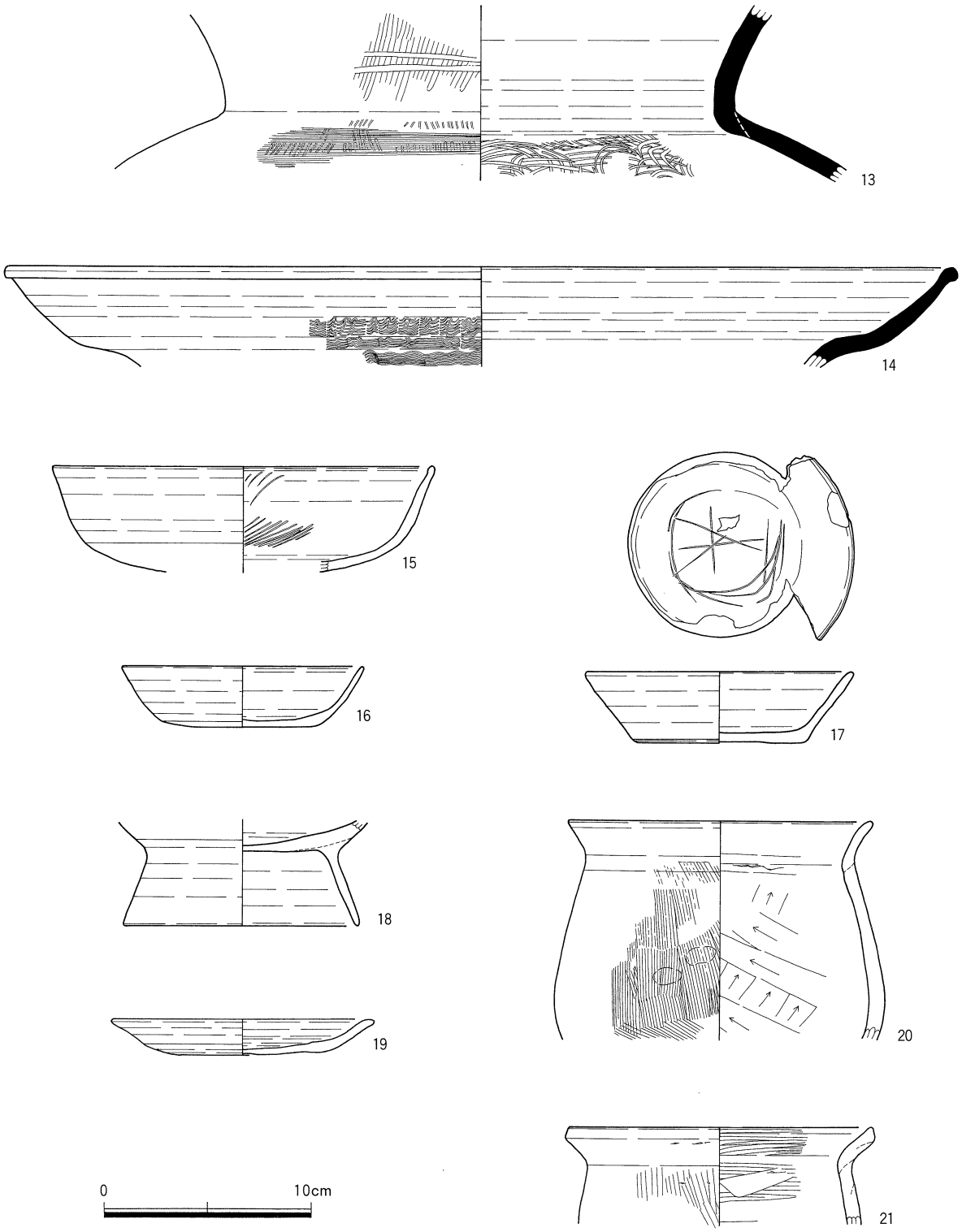
第1010図　2003年度 2-1区包含層 出土遺物



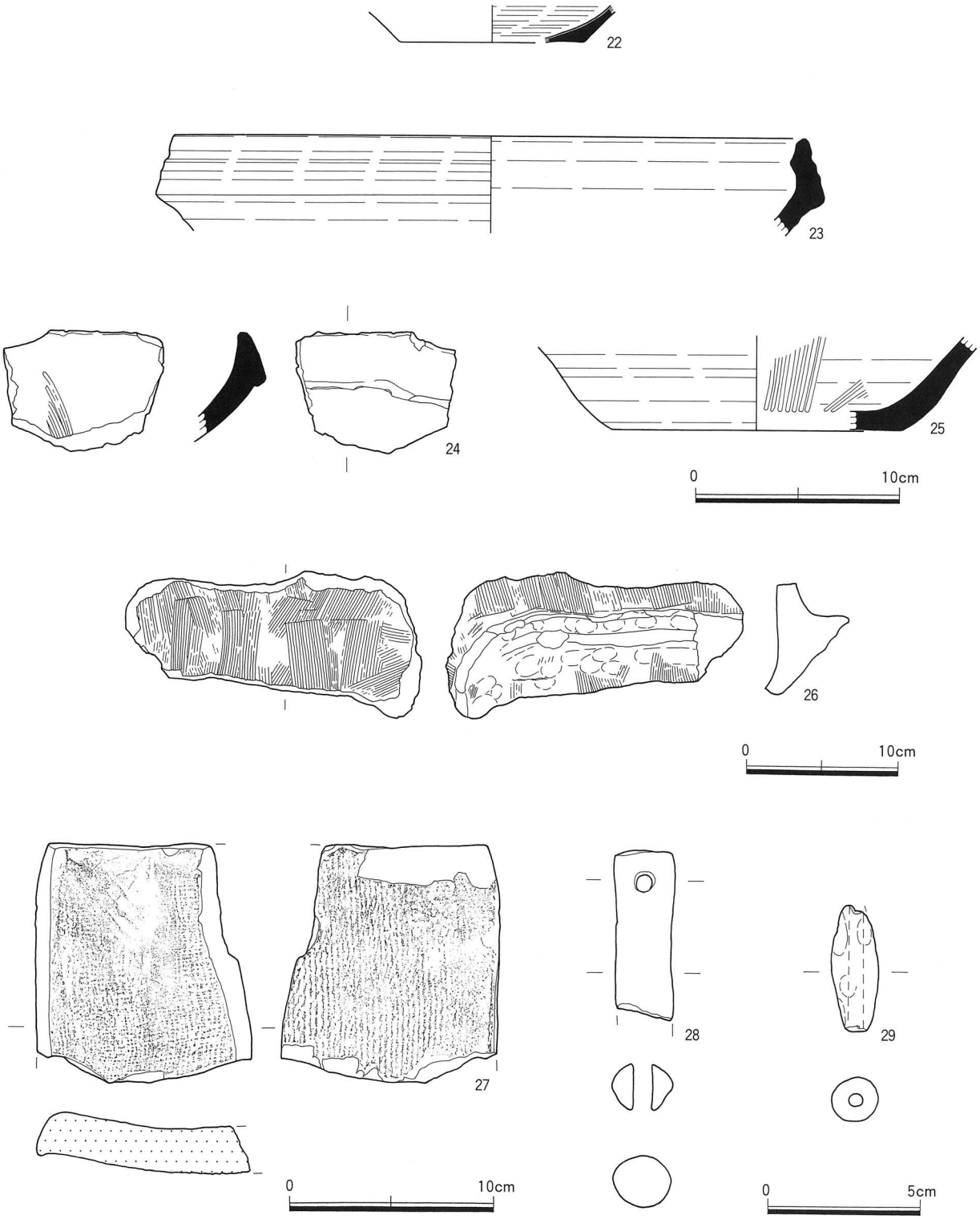
第1011図　1998年度　7区包含層　出土遺物



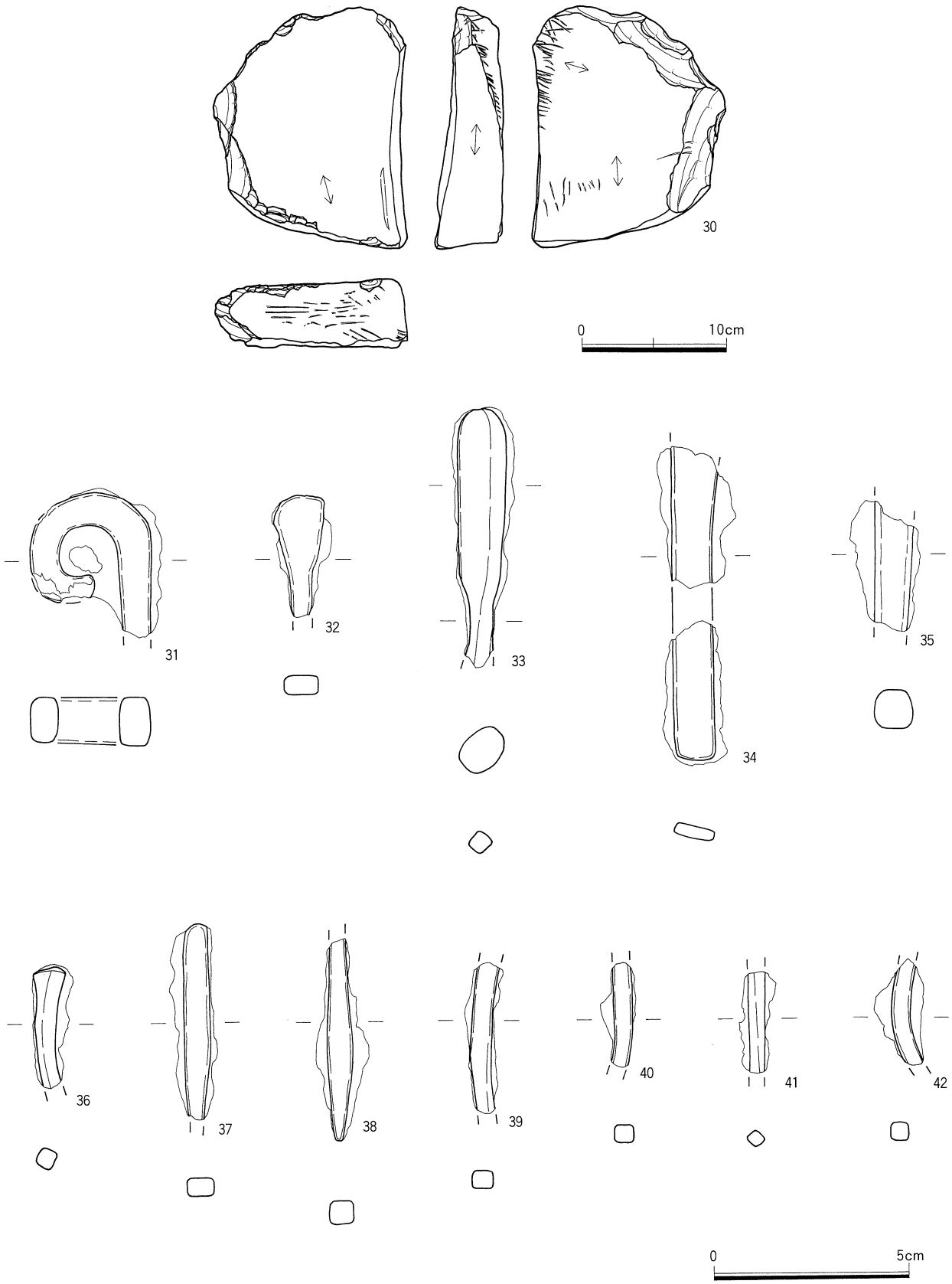
第1012図　2003年度 2-2区包含層 出土遺物（1）



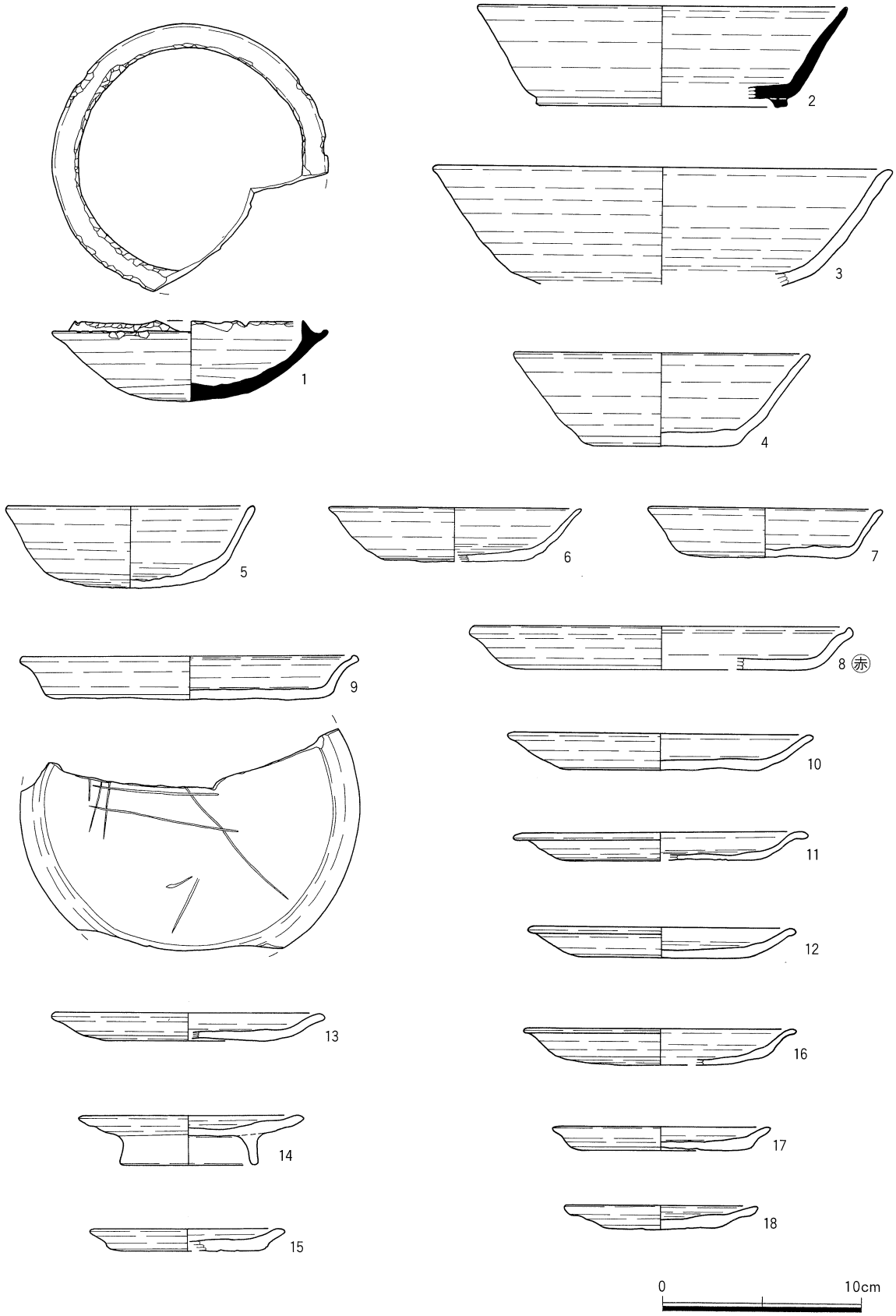
第1013図　2003年度 2-2区包含層 出土遺物（2）



第1014図　2003年度 2-2区包含層 出土遺物（3）



第1015図　2003年度 2-2区包含層 出土遺物（4）



第1016図　1998年度　8区包含層　出土遺物（1）